

子ども・子育て支援に関する
ニーズ調査報告書

令和6（2024）年3月
扶桑町

も く じ

調査の概要

1 調査の目的	1
2 調査方法、回収結果等	1
3 集計・分析にあたって	2

第 1 部 就学前児童保護者調査

1 子どもと家族の状況等	4
(1) 居住地区	4
(2) 子どもの年齢	4
(3) 調査の回答者	4
(4) 配偶関係	5
(5) 子育てを主に行っている人	5
2 子どもの育ちをめぐる環境	6
(1) 子どもを預かってもらえる人の有無	6
(2) 子育ての相談相手の有無	7
(3) 子育てに関する相談先	8
(4) 子育ての手助けをしてくれる人の有無	9
(5) 子育てを手助けしてくれる人	10
3 保護者の就労状況	11
(1) 母親の就労状況	11
(2) 父親の就労状況	14
(3) フルタイムへの転換希望	17
(4) 母親の就労意向	17
(5) 父親の就労意向	19
4 平日の定期的な教育・保育事業	20
(1) 定期的な教育・保育事業の利用の有無	20
(2) 利用している教育・保育事業	21
(3) 幼稚園の利用状況	22
(4) 保育園の利用状況	25
(5) 認定こども園の利用状況	28

(6)	事業所内保育施設の利用状況	30
(7)	定期的な教育・保育事業を利用している場所	32
(8)	定期的な教育・保育事業を利用していない理由	33
(9)	子どもが何歳になったら利用したいか	34
(10)	定期的に利用したい教育・保育事業	35
(11)	定期的な教育・保育事業を利用したい場所	36
(12)	幼稚園利用を強く希望するか	37
(13)	幼稚園や保育園の運営について	38
(14)	幼稚園や保育園を選ぶ際に重視すること	39
5	地域の子育て支援事業	40
(1)	地域子育て支援センターの利用状況	40
(2)	地域子育て支援センターの利用意向	42
(3)	子育て世代包括支援センターの利用	43
(4)	その他の子育て支援事業	44
(5)	扶桑町児童センターひまわりの利用意向	51
6	休日・長期休業期間中の定期的な教育・保育事業	52
(1)	土曜日の定期的な教育・保育事業	52
(2)	日曜日・祝日の定期的な教育・保育事業	54
(3)	休日に定期的な教育・保育事業をたまに利用したい理由	56
(4)	長期休業期間中の定期的な教育・保育事業（幼稚園利用者）	57
7	子どもが病気の際の対応	60
(1)	子どもが病気等で教育・保育事業を利用できなかったことの有無	60
(2)	利用できなかった時の対処法	61
(3)	病児・病後児保育施設等の利用意向	62
8	台風など災害時の対応	63
(1)	台風等で幼稚園・保育園が利用できなかったことがあったか	63
(2)	台風等で幼稚園・保育園が利用できなかった場合の対処法	64
(3)	台風等の休園時に幼稚園・保育園を利用したいか	65
9	不定期の教育・保育事業や一時保育等	66
(1)	不定期の教育・保育事業等の利用経験の有無	66
(2)	不定期の教育・保育事業等の利用意向	67
(3)	短期入所生活援助事業（ショートステイ）の利用意向	68
10	小学校就学後の放課後の過ごし方	69
(1)	低学年のうちの放課後の過ごし方（5歳）	69
(2)	低学年のうちは放課後児童クラブを何時まで利用したいか	70
(3)	高学年になった時の放課後の過ごし方（5歳）	71
(4)	高学年になったら放課後児童クラブを何時まで利用したいか	72

11	ファミリー・サポート・センター	73
(1)	ファミリー・サポート・センターの認知度	73
(2)	ファミリー・サポート・センターの利用状況	73
(3)	ファミリー・サポート・センターの利用意向	76
12	育児休業制度	77
(1)	育児休業の取得の有無	77
(2)	育児休業を取得していない理由	78
(3)	母親の育児休業	80
(4)	父親の育児休業	84
13	扶桑町の子育て支援	87
(1)	子育て環境や支援への満足度	87
(2)	子育てに対して感じていること	88
(3)	子育ての不安や悩み	90
(4)	子育てに関する情報の入手先	92
(5)	今後必要と思われる取組	93

第2部 小学生保護者調査

1	子どもと家族の状況等	96
(1)	居住地区	96
(2)	子どもの学年	96
(3)	調査の回答者	96
(4)	配偶関係	97
(5)	子育てを主に行っている人	97
2	子どもの育ちをめぐる環境	98
(1)	子どもを預かってもらえる人の有無	98
(2)	子育ての相談相手の有無	99
(3)	子育てに関する相談先	100
(4)	子育ての手助けをしてくれる人の有無	101
(5)	子育てを手助けしてくれる人	102
3	保護者の就労状況	103
(1)	母親の就労状況	103
(2)	父親の就労状況	106
(3)	フルタイムへの転換希望	108
(4)	母親の就労意向	109
(5)	父親の就労意向	111

4	放課後の過ごし方	112
(1)	放課後を過ごしている場所	112
(2)	放課後を過ごしている平均日数	113
(3)	放課後を過ごさせたい場所	116
(4)	放課後を過ごさせたい平均日数	117
(5)	扶桑町児童センターひまわりの利用意向	120
5	放課後児童クラブ	122
(1)	放課後児童クラブの利用状況	122
(2)	放課後児童クラブの利用意向	125
(3)	放課後児童クラブを利用しない理由	131
6	子どもが病気の際の対応	133
(1)	子どもが病気等で学校を休んだことの有無	133
(2)	子どもが学校を休んだ時の対処法	133
(3)	病児・病後児保育施設等の利用意向（１～４年生）	134
7	台風など災害時の対応	135
8	不定期の一時預かり等	136
(1)	不定期の一時預かり等の利用経験の有無	136
(2)	不定期の一時預かり等の利用意向	137
(3)	短期入所生活援助事業（ショートステイ）の利用意向	138
9	ファミリー・サポート・センター	139
(1)	ファミリー・サポート・センターの認知度	139
(2)	ファミリー・サポート・センターの利用状況	139
(3)	ファミリー・サポート・センターの利用意向	142
10	育児休業制度	143
(1)	育児休業の取得の有無	143
(2)	育児休業を取得していない理由	144
11	扶桑町の子育て支援	147
(1)	子育て環境や支援への満足度	147
(2)	子育てに対して感じていること	148
(3)	子育ての不安や悩み	150
(4)	子育てに関する情報の入手先	152
(5)	今後必要と思われる取組	153

調査の概要

1 調査の目的

この調査は、「すくすく子育て笑顔プランin Fuso（扶桑町子ども・子育て支援事業計画）」を見直し、次期子ども・子育て支援事業計画を策定するための基礎資料を得ることを目的に、小学校6年生以下の児童をもつ保護者を対象として実施しました。

<就学前児童保護者調査>

就学前児童の保護者に対しては、保育サービスの利用状況や利用意向、病気・病後や台風などの災害時の対応、子育て支援事業の利用状況や利用意向、小学校就学後の放課後の過ごし方、仕事と子育てなどについてたずねました。

<小学生保護者調査>

小学生の保護者に対しては、放課後児童クラブの利用状況や利用意向、病気・病後や台風などの災害時の対応、仕事と子育てなどについてたずねました。

2 調査方法、回収結果等

(1) 調査方法等

区 分	就学前児童保護者調査	小学生保護者調査
調査対象者	就学前児童の保護者から無作為抽出	小学生の保護者から無作為抽出
調査票の配布・回収	郵送配布・郵送回収	
調査基準日	令和5（2023）年12月1日	
調査期間	令和5（2023）年12月1日～12月22日	

(2) 回収結果

区 分	就学前児童保護者調査	小学生保護者調査
配布数	1,000	1,000
回収数	555（55.5%）	544（54.4%）
有効回答数	553（55.3%）	539（53.9%）

3 集計・分析にあたって

- ① 回答の比率は、その設問の回答数を基数（n）として算出しました。したがって、複数回答の設問については、すべての比率を合計すると 100%を超えます。
- ② 回答率（%）は、小数点第 2 位以下を四捨五入しました。したがって、単数回答の場合であっても比率の合計が 100%にならない場合があります。
- ③ 調査項目によっては、過去に行った調査と比較分析を行いました。「平成 30 年」とあるのは平成 30 年 11 月に実施した「子ども・子育て支援に関するニーズ調査」、「令和 5 年」とあるのは今回の調査です。
- ④ 各調査には、次表のとおり年齢、配偶関係、母親の就労状況等について不詳があります。

区 分	子どもの 年齢・学年	配偶関係	母親の 就労状況	居住地区
就 学 前	3	1	—	2
小 学 生	2	—	7	2

- ⑤ 就学前児童の年齢については次の区分で集計しました。

令和 4 年 4 月以降生まれ	0 歳
令和 3 年 4 月～令和 4 年 3 月生まれ	1 歳
令和 2 年 4 月～令和 3 年 3 月生まれ	2 歳
平成 31 年 4 月～令和 2 年 3 月生まれ	3 歳
平成 30 年 4 月～平成 31 年 3 月生まれ	4 歳
平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月生まれ	5 歳

第 1 部

就学前児童保護者調査

I 子どもと家族の状況等

(1) 居住地区

回答のあった子どもの居住地区は、「高雄」が45.0%と最も高く、次いで「柏森」が29.5%、「斎藤」が9.8%などの順となっています。

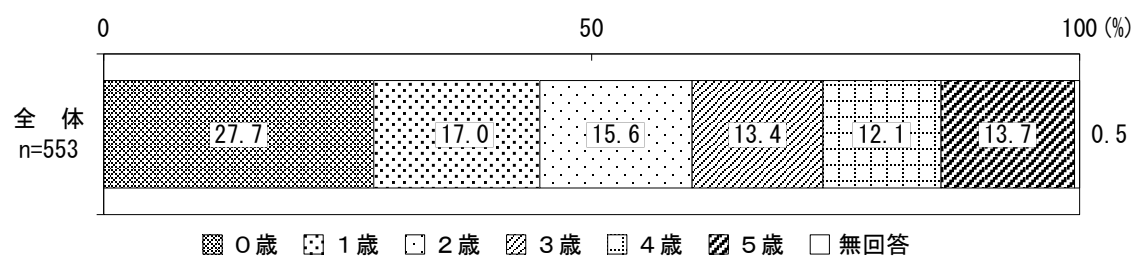
図表 1－1 居住地区

地区	高雄地区	山那地区	小淵地区	南山名地区	斎藤地区	高木地区	柏森地区	無回答	合計
人	249	7	4	39	54	35	163	2	553
%	45.0	1.3	0.7	7.1	9.8	6.3	29.5	0.4	100.0

(2) 子どもの年齢

回答のあった子どもの年齢は、図表 1－2 のとおりです。3歳未満が60.3%、3歳以上が39.2%を占めています。

図表 1－2 子どもの年齢

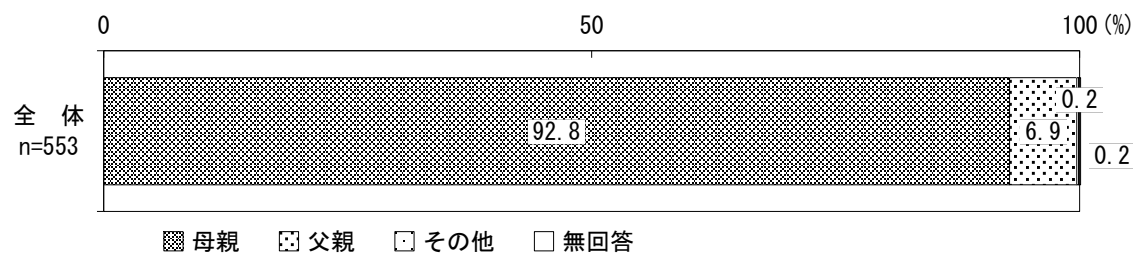


(3) 調査の回答者

本調査の回答者は、「母親」が92.8%と非常に高くなっています。

「その他」として、「姉」という記載がありました。

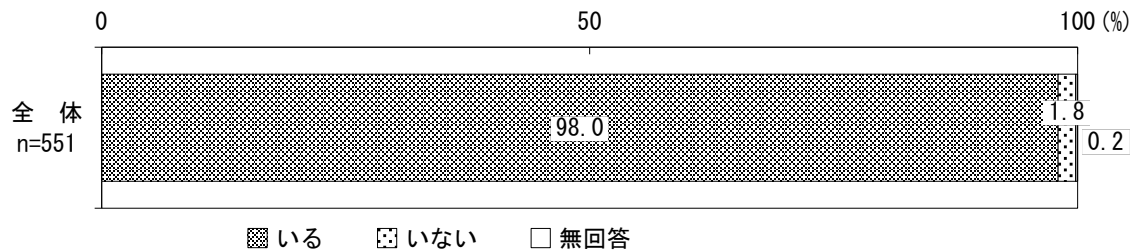
図表 1－3 調査の回答者



(4) 配偶関係

回答者の配偶関係をたずねたところ、配偶者が「いる」が98.0%、「いない」が1.8%となっています。

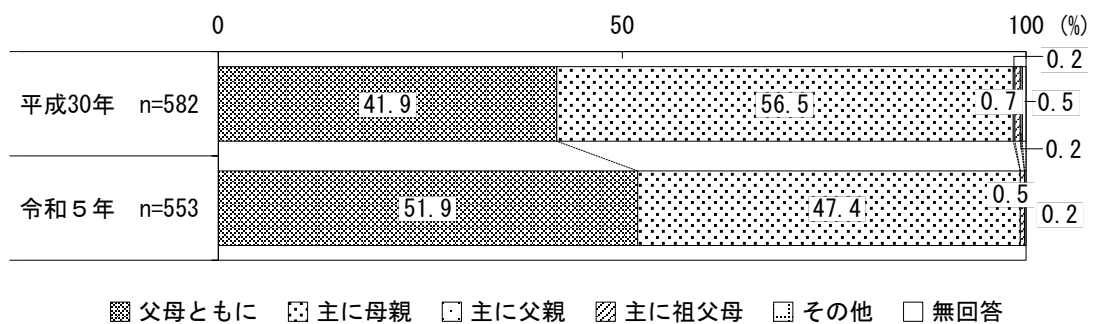
図表 1－4 配偶関係



(5) 子育てを主に行っている人

子育てを主に行っているのは、「父母ともに」が51.9%と最も高く、次いで「主に母親」が47.4%、「主に祖父母」が0.5%となっています。平成30年との比較では、「父母ともに」が10ポイント上昇しています。

図表 1－5 子育てを主に行っている人



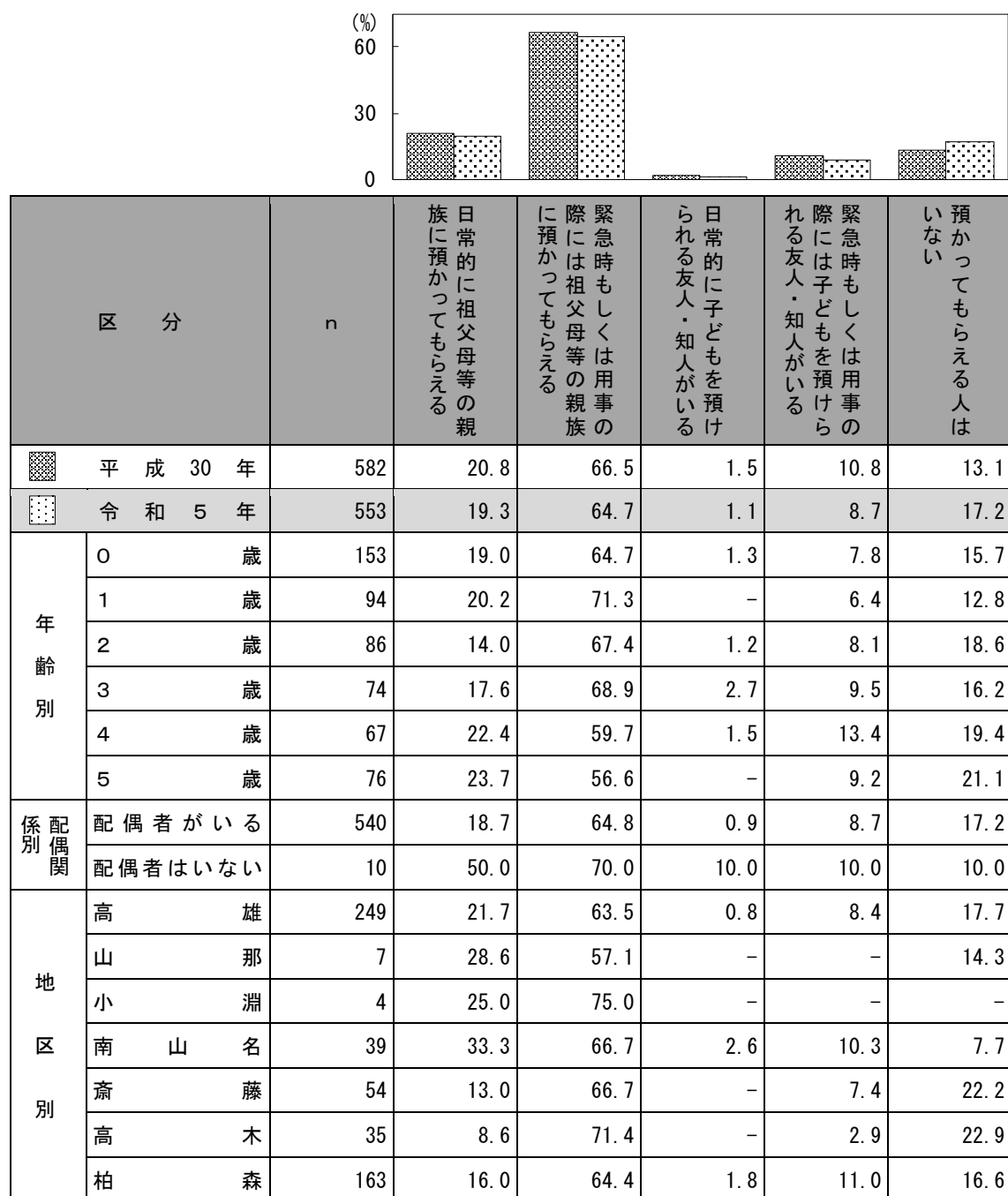
2 子どもの育ちをめぐる環境

(1) 子どもを預かってもらえる人の有無

子どもを預かってもらえる人の有無をたずねたところ、「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族に預かってもらえる」が64.7%と最も高く、次いで「日常的に祖父母等の親族に預かってもらえる」が19.3%などの順となっています。親族に比べると、友人・知人の率は低くなっています。平成30年との比較では、「預かってもらえる人はいない」が4.1ポイント高くなっています。

図表1-6 子どもを預かってもらえる人の有無（複数回答）

単位：nは人、他は%

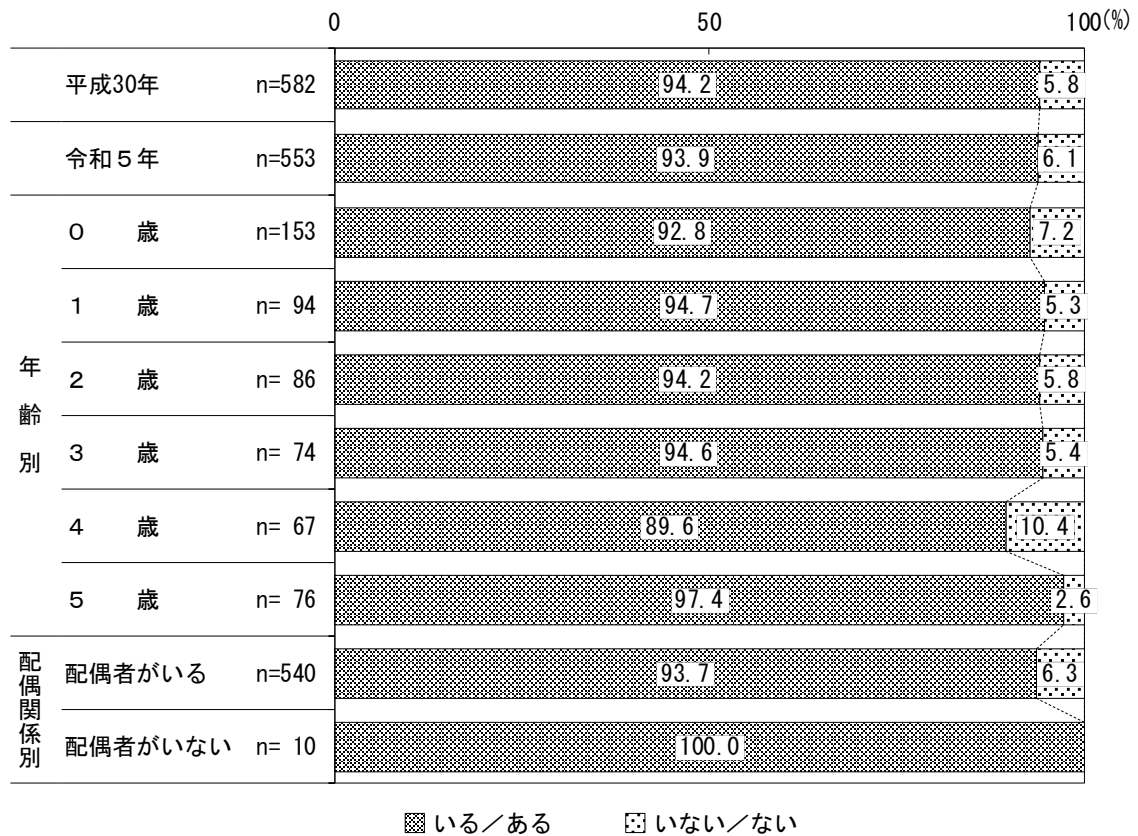


(2) 子育ての相談相手の有無

子育て（教育を含む）をする上で、気軽に相談できる人が「いる／ある」は93.9%を占めています。平成30年とほぼ同様の結果です。

年齢別にみると、「いない／ない」は4歳が比較的高くなっています。

図表 1－7 子育ての相談相手の有無



(3) 子育てに関する相談先

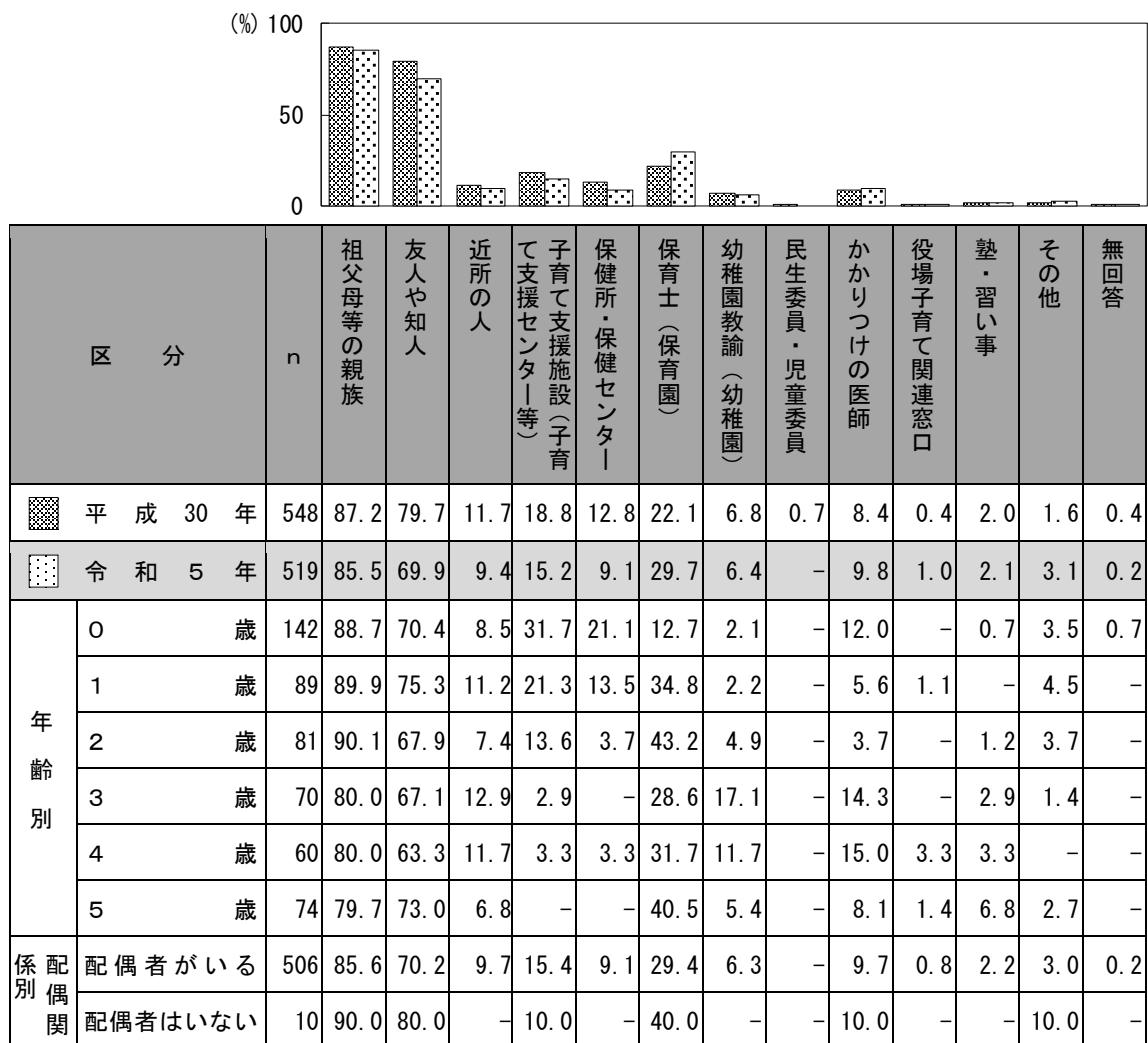
前項で、気軽に相談できる人が「いる／ある」と回答した人に相談先をたずねたところ、「祖父母等の親族」が85.5%と最も高く、次いで「友人や知人」が69.9%となっており、これら2項目が突出して高くなっています。平成30年との比較では、「保育士（保育園）」が7.6ポイント高くなっています。

年齢別にみると、「子育て支援施設（子育て支援センター等）」「保健所・保健センター」は年齢とともに低下傾向にあります。

「その他」として、図表1－9の内容が記載されていました。

図表1－8 子育てに関する相談先（複数回答）

単位：nは人、他は%



図表1－9 子育てに関する相談先（複数回答、その他）

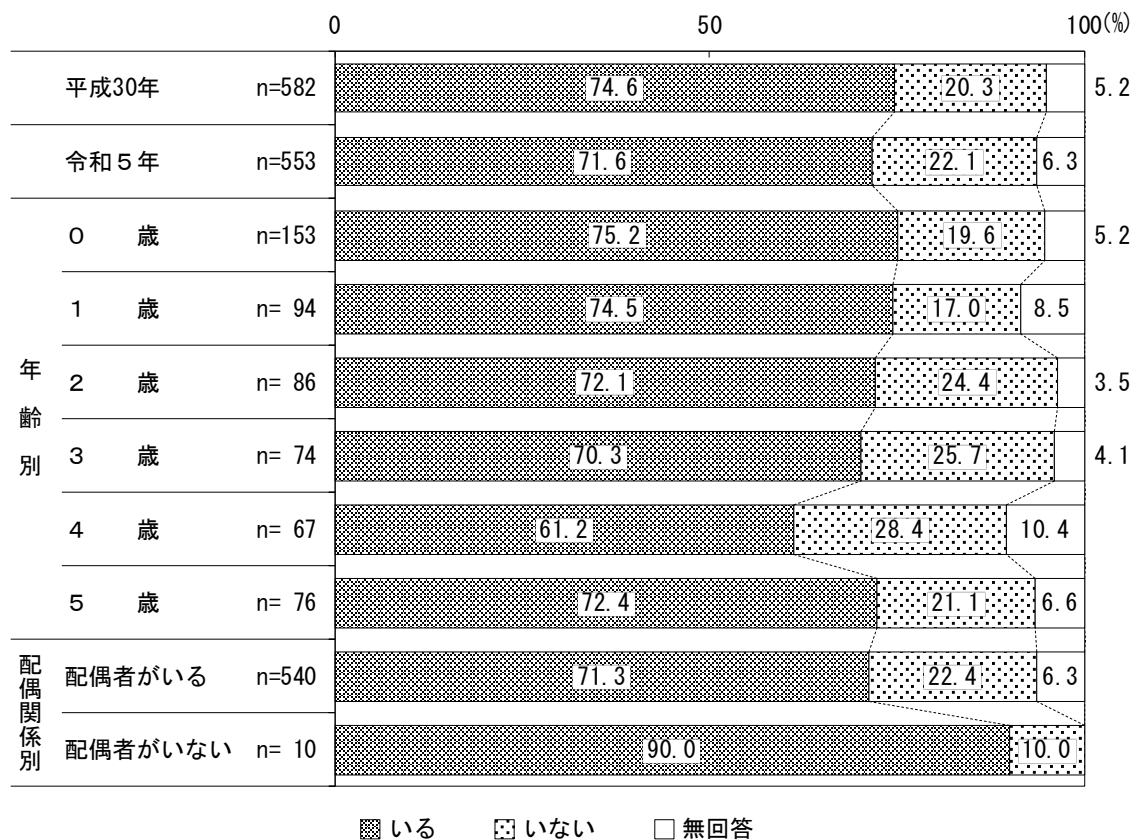
・職場の先輩など（4件）	・子育てサークル
・療育施設（4件）	・ネットのコミュニティ
・託児所（2件）	・SNS
・定期受診をしている医師	・きょうだい
・助産院の助産師	

(4) 子育ての手助けをしてくれる人の有無

子育てをする上で、身近に手助けしてくれる人がいるかたずねたところ、「いる」が71.6%と「いない」を大きく上回っていますが、平成30年との比較では「いる」が3ポイント低下しています。

年齢別にみると、「いる」は4歳が61.2%と最も低くなっています。配偶関係別にみると、「いる」は配偶者がいる人より、いない人が大幅に高くなっています。

図表1-10 子育ての手助けをしてくれる人の有無



(5) 子育てを手助けしてくれる人

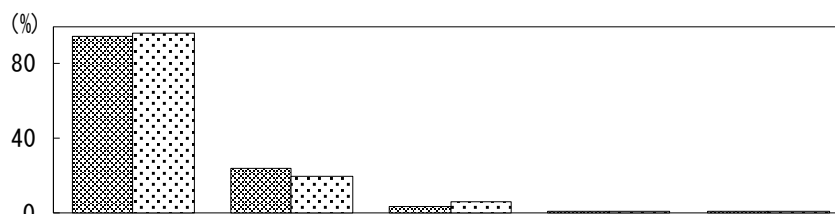
前項で、身近に子育ての手助けをしてくれる人が「いる」と回答した人にどのような人かたずねたところ、「祖父母等の親族」が96.5%と非常に高く、次いで「友人や知人」が19.4%、「近所の人」が5.8%となっています。平成30年との比較では、「祖父母等の親族」および「近所の人」が2ポイント程度上昇しています。

年齢別にみると、「祖父母等の親族」が最も高いのは1歳、「知人や友人」が最も高いのは3歳、「近所の人」が最も高いのは0歳です。

「その他」として、「夫」「きょうだい」（各2件）、「保育園」との記載がありました。

図表 1-11 子育てを手助けしてくれる人

単位：nは人、他は%



区 分		n	祖父母等の親族	友人や知人	近所の人	その他	無回答
平成30年		434	94.5	24.0	3.7	0.2	0.5
令和5年		396	96.5	19.4	5.8	1.5	0.5
年齢別	0歳	115	95.7	20.9	7.8	1.7	-
	1歳	70	100.0	17.1	7.1	-	-
	2歳	62	98.4	21.0	3.2	3.2	1.6
	3歳	52	92.3	26.9	5.8	1.9	1.9
	4歳	41	95.1	14.6	7.3	2.4	-
	5歳	55	96.4	14.5	1.8	-	-
係配偶別	配偶者がいる	385	96.4	19.5	6.0	1.6	0.5
	配偶者はいない	9	100.0	22.2	-	-	-

3 保護者の就労状況

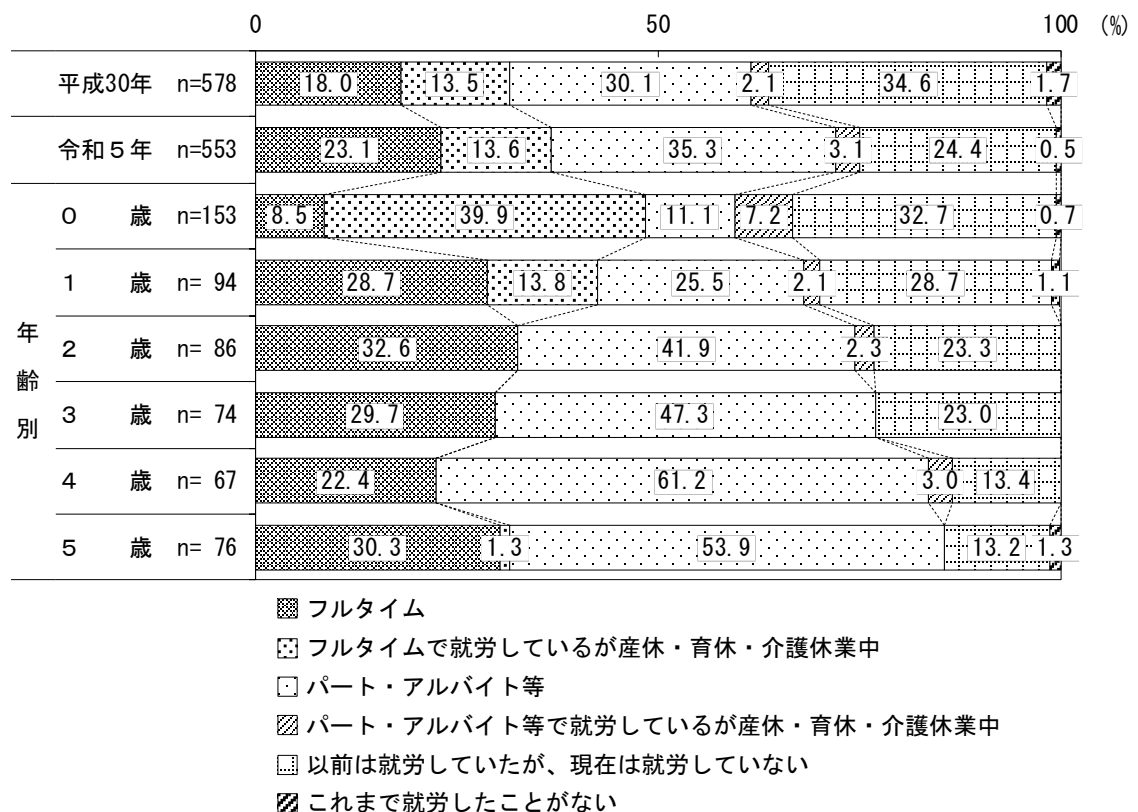
(1) 母親の就労状況

① 就労状況

母親の就労状況は、「パート・アルバイト等」が35.3%と最も高く、次いで「以前は就労していたが、現在は就労していない」が24.4%、「フルタイム」が23.1%などの順となっています。平成30年との比較では、「以前は就労していたが、現在は就労していない」が10.2ポイント、「これまで就労したことがない」が1.2ポイント低下し、就労している人の率が上昇しています。

年齢別にみると、「以前は就労していたが、現在は就労していない」は年齢とともに低下しています。「パート・アルバイト等」は年齢とともに上昇傾向にあり、4歳以上では50%を超えています。0歳では「フルタイムで就労しているが、産休・育休・介護休業中」が39.9%となっていますが、1歳になると13.8%まで低下し、2歳以上では2%未満と非常に低くなっています。

図表 1-12 母親の就労状況

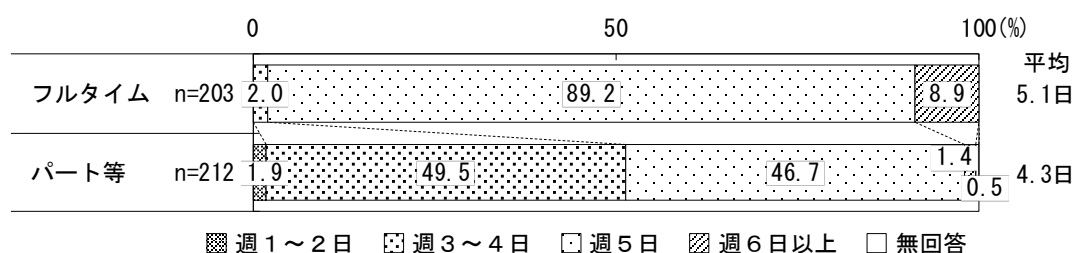


② 平均就労日数

フルタイムの母親の就労日数は、「週5日」が89.2%を占めており、次いで「週6日以上」が8.9%、「週3～4日」が2.0%となっています。1週当たりの就労日数の平均は5.1日です。

パート・アルバイト等の母親の就労日数は、「週3～4日」が49.5%と最も高く、次いで「週5日」が46.7%、「週1～2日」が1.9%などの順となっており、1週当たりの就労日数の平均は4.3日です。

図表 1-13 母親の平均就労日数

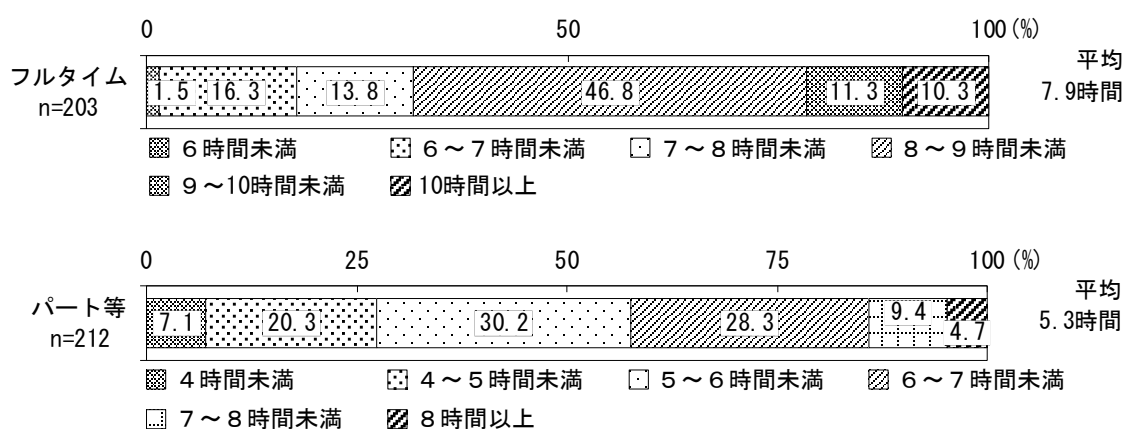


③ 平均就労時間

フルタイムの母親の1日当たりの平均就労時間は、「8～9時間未満」が46.8%を占めており、次いで「6～7時間未満」が16.3%、「7～8時間未満」が13.8%などの順となっています。1日当たりの平均就労時間は7.9時間です。

パート・アルバイト等の母親の平均就労時間は、「5～6時間未満」が30.2%と最も高く、次いで「6～7時間未満」が28.3%、「4～5時間未満」が20.3%などの順となっています。1日当たりの就労時間の平均は5.3時間です。

図表 1-14 母親の平均就労時間



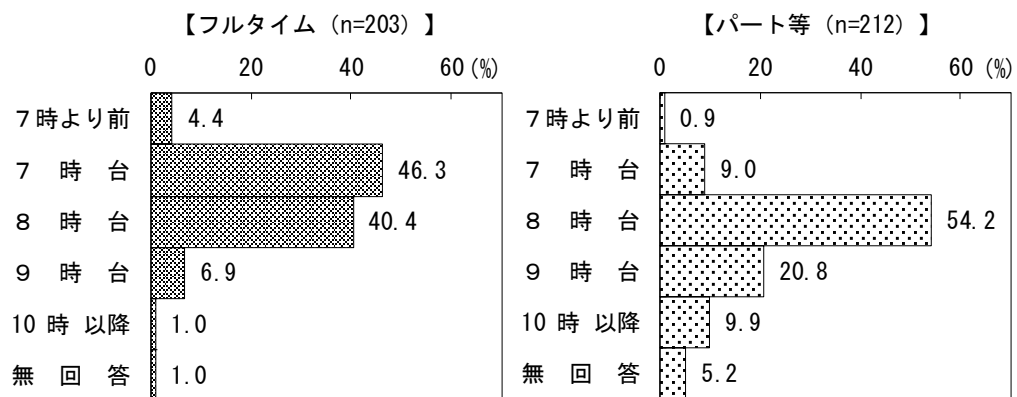
④ 家を出る時刻、帰宅時刻

母親が家を出る時刻をみると、フルタイムは、「7時台」および「8時台」が40%以上となっており、91.1%が9時までに家を出ていることになります。パート・アルバイト等は、「8時台」が50%以上を占め、9時以降に家を出る人が30.7%です。

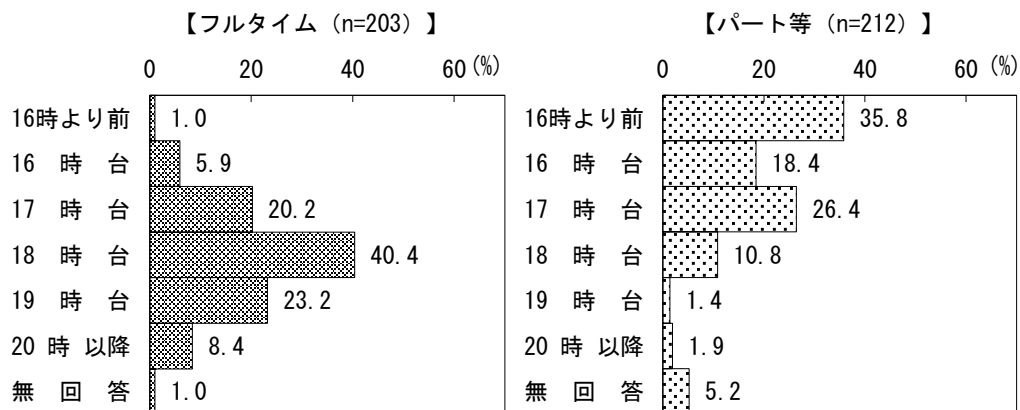
帰宅時刻をみると、フルタイムは「18時台」が40.4%と最も高く、18時以降に帰宅する人の合計は72.0%です。パート・アルバイト等は、「16時より前」が35.8%と最も高く、次いで「17時台」が26.4%などとなっています。18時より前に帰宅する人の合計が80.6%です。

図表 1-15 母親の家を出る時刻、帰宅時刻

■家を出る時刻



■帰宅時刻

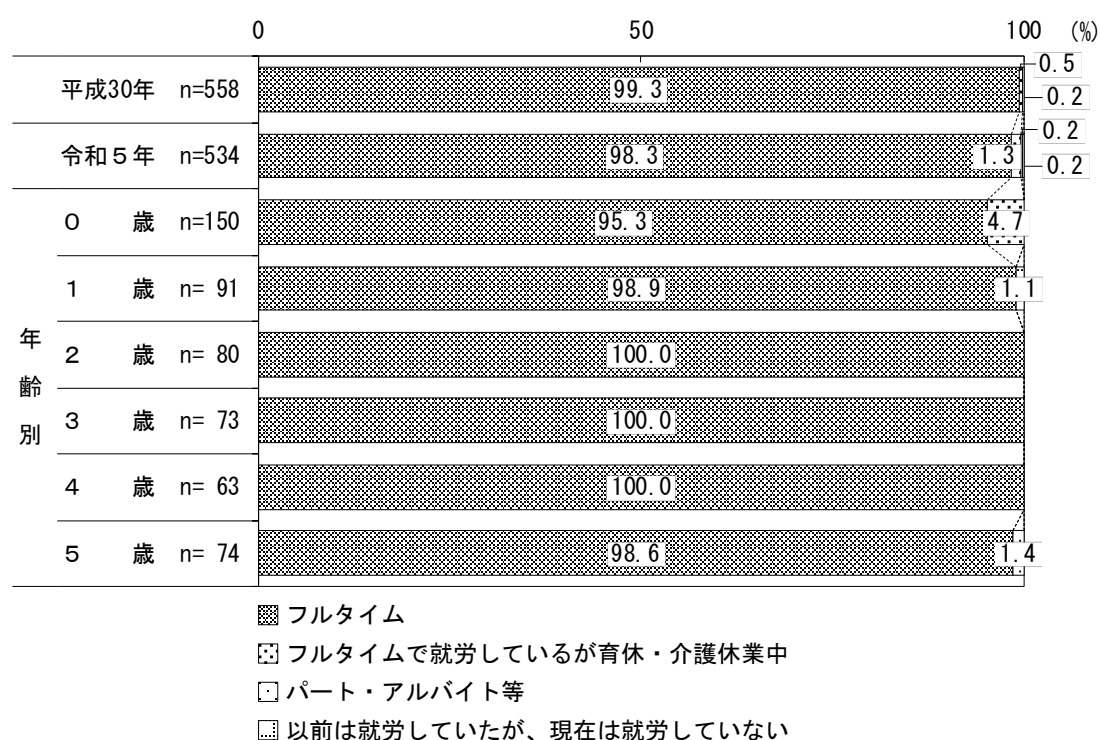


(2) 父親の就労状況

① 就労状況

父親の就労状況は、「フルタイム」が98.3%を占めています。「フルタイムで就労しているが育休・介護休業中」は1.3%（7人）、「パート・アルバイト等」および「以前は就労していたが、現在は就労していない」は0.2%（1人）です。平成30年との比較では、「フルタイムで就労しているが育休・介護休業中」がわずかに高くなっています。

図表 1-16 父親の就労状況



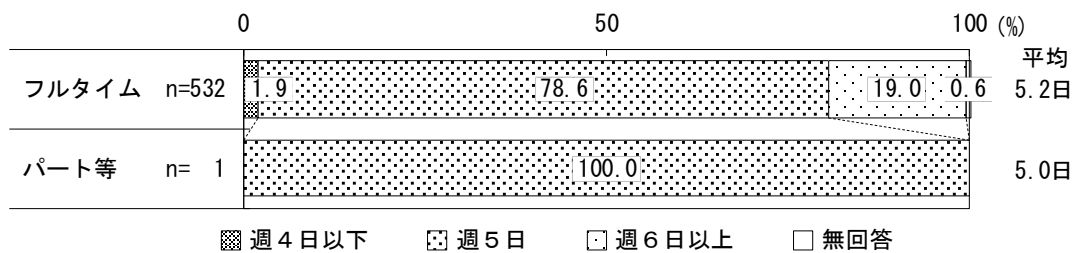
(注) 「パート・アルバイト等で就労しているが育休・介護休業中」「これまで就労したことがない」という選択肢が用意されていましたが、回答はありませんでした。

② 平均就労日数

フルタイムの父親の就労日数は、「週5日」が78.6%と最も高く、次いで「週6日以上」が19.0%、「週4日以下」が1.9%となっています。1週当たりの就労日数の平均は5.2日です。

パート・アルバイト等の父親（1人）の就労日数は「週5日」です。

図表 1-17 父親の平均就労日数

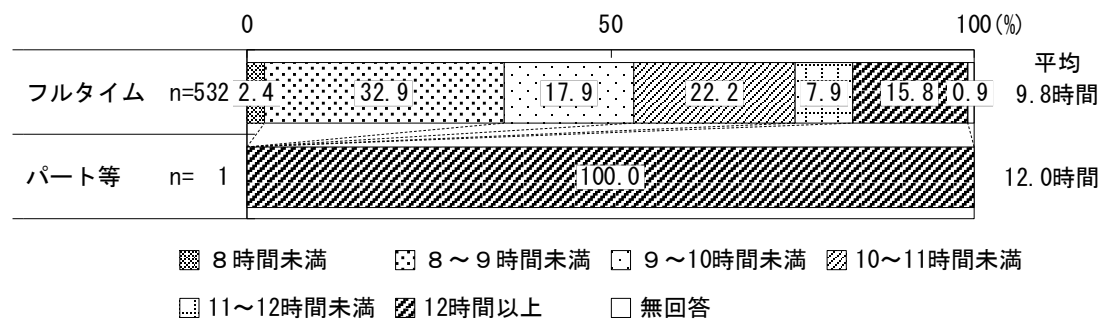


③ 平均就労時間

フルタイムの父親の1日当たりの平均就労時間は、「8～9時間未満」が32.9%と最も高く、次いで「10～11時間未満」が22.2%、「9～10時間未満」が17.9%などとなっています。1日当たりの平均就労時間は9.8時間です。

パート・アルバイト等の父親（1人）の就労日数は「12時間以上」です。

図表 1-18 父親の平均就労時間



④ 家を出る時刻、帰宅時刻

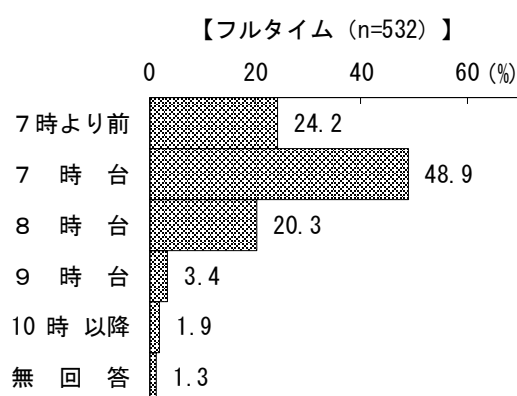
フルタイムの父親が家を出る時刻をみると、「7時台」が48.9%と最も高く、次いで「7時より前」が24.2%、「8時台」が20.3%などの順となっており、9時までに家を出ている率は93.4%です。

帰宅時刻は、「19時台」が24.1%と最も高く、次いで「20時台」が23.3%などの順となっており、19時以降に帰宅する人の合計は73.9%です。

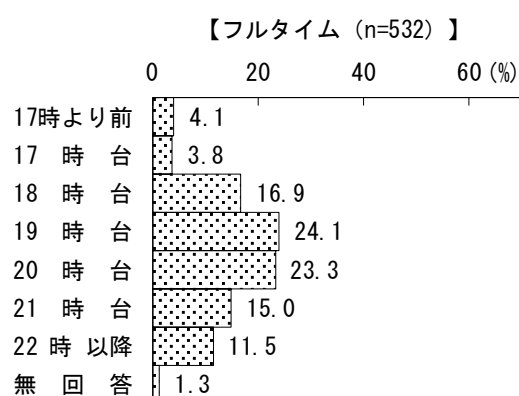
パート・アルバイト等の父親（1人）が家を出る時刻は「7時台」、帰宅時刻は「22時以降」です。

図表 1-19 父親の家を出る時刻、帰宅時刻

■家を出る時刻



■帰宅時刻

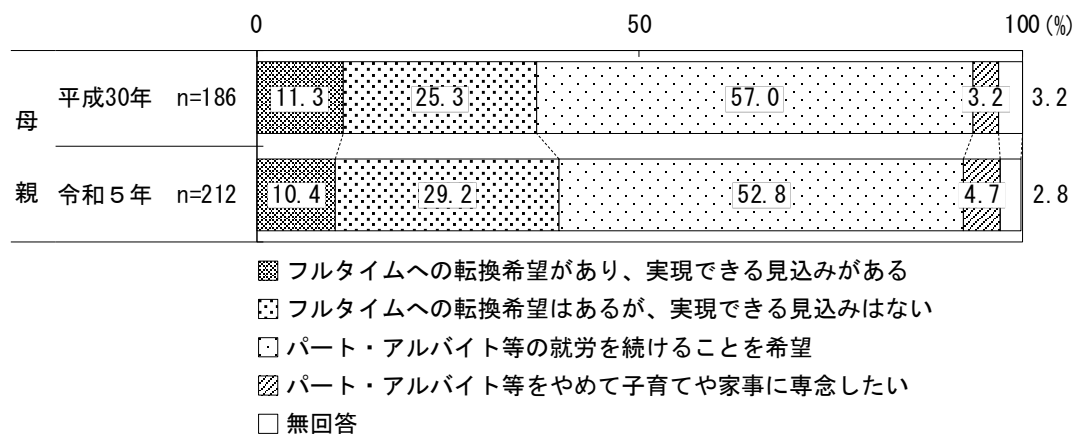


(3) フルタイムへの転換希望

パート・アルバイト等と回答した人にフルタイムへの転換希望をたずねたところ、母親は、「パート・アルバイト等の就労を続けることを希望」が52.8%と最も高く、次いで「フルタイムへの転換希望はあるが、実現できる見込みはない」が29.2%などとなっています。平成30年との比較では、「フルタイムへの転換希望はあるが、実現できる見込みはない」が3.9ポイント上昇しています。

パート・アルバイト等の父親（1人）については、無回答でした。

図表1-20 フルタイムへの転換希望（母親、父親）



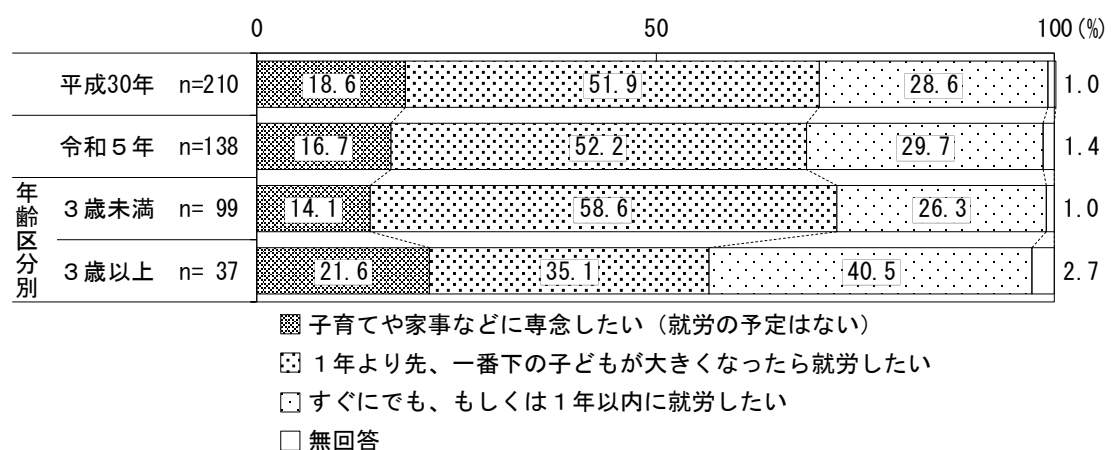
(4) 母親の就労意向

① 就労意向

現在、仕事をしていない母親の就労意向は、「1年より先、一番下の子どもが大きくなったら就労したい」が52.2%と最も高く、「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」（29.7%）と合計した《就労したい》は81.9%となります。平成30年と比べて、《就労したい》が1.4ポイント高くなっています。

子どもの年齢区分別にみると、《就労したい》は3歳以上が低くなっています。

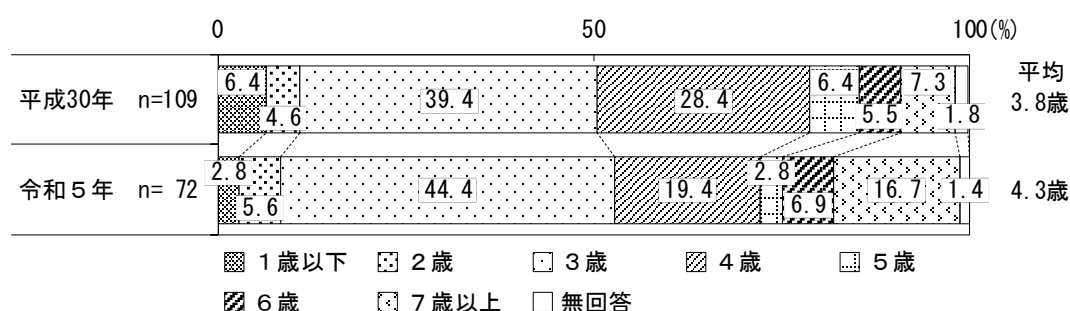
図表1-21 母親の就労意向



② 子どもが何歳になったら就労したいか

①で、「1年より先、一番下の子どもが大きくなったら就労したい」と回答した人に、子どもが何歳になったら就労したいかをたずねたところ、「3歳」が44.4%と最も高く、次いで「4歳」が19.4%などの順となっており、平均は4.3歳です。平成30年との比較では、「4歳」が低下している一方、「3歳」および「7歳以上」が上昇しています。

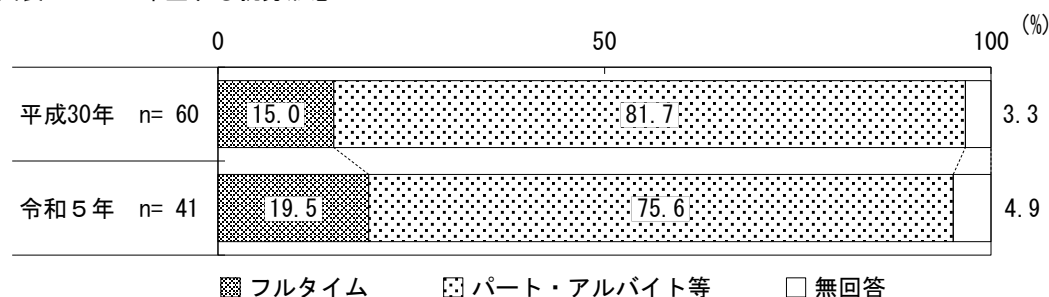
図表 1-22 子どもが何歳になったら就労したいか



③ 希望する就労形態

①で、「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」と回答した人に希望する就労形態をたずねたところ、「パート・アルバイト等」が75.6%を占めています。平成30年と比べて、「フルタイム」が4.5ポイント高くなっています。

図表 1-23 希望する就労形態

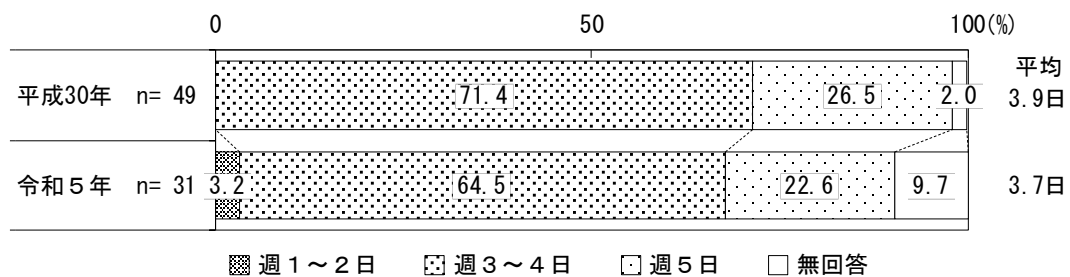


④ 希望する就労日数、就労時間

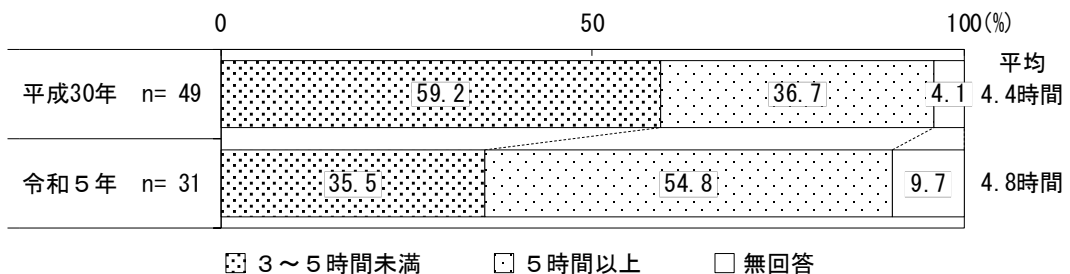
③で、「パート・アルバイト等」と回答した人に、希望する就労日数をたずねたところ、「週3～4日」が64.5%と最も高く、次いで「週5日」が22.6%などとなっており、1週当たりの希望就労日数の平均は3.7日です。平成30年との比較では、「週3～4日」および「週5日」が低下し、平均も0.2日減少しています（図表1-24）。

希望する1日当たりの就労時間は、「5時間以上」が54.8%と最も高く、次いで「3～5時間未満」が35.5%となっており、平均は4.8時間です。平成30年との比較では、「5時間以上」が18.1ポイント上昇し、平均も0.4時間増加しています（図表1-25）。

図表1-24 希望する就労日数



図表1-25 希望する就労時間



(5) 父親の就労移行

現在、仕事をしていない父親（1人）の就労意向は、「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」で、希望する就労形態は「フルタイム」です。

4 平日の定期的な教育・保育事業

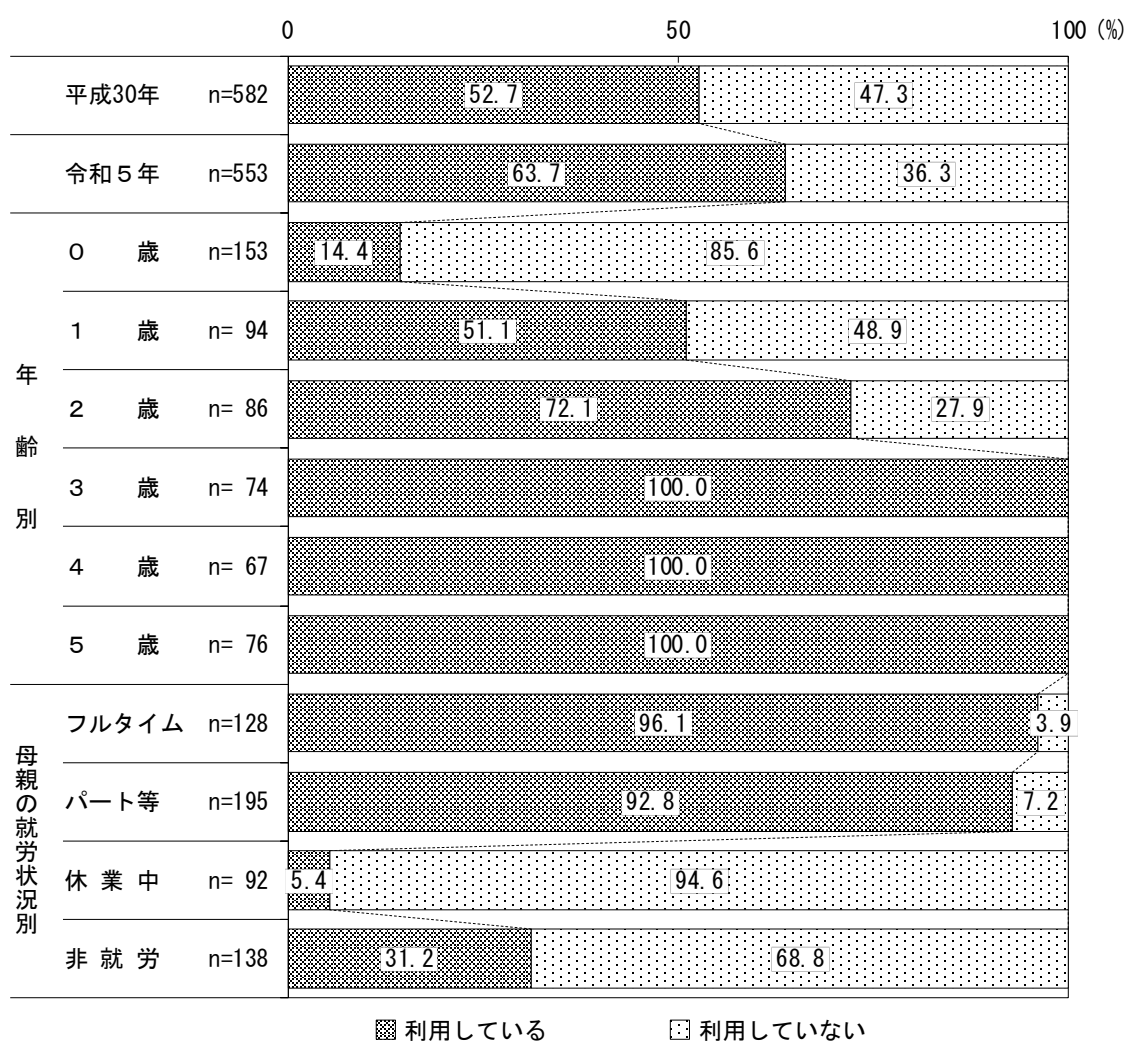
(1) 定期的な教育・保育事業の利用の有無

定期的な教育・保育事業は、調査回答者の63.7%が利用しています。平成30年との比較では、「利用している」が11ポイント高くなっています。

子どもの年齢別にみると、3歳以上は回答のあった子ども全員が利用していますが、2歳以下は年齢が下がるにしたがい低下しており、0歳では14.4%が利用しています。

母親の就労状況別にみると、「利用している」は当然のことながらフルタイムおよびパート等が高く、90%以上を占めています。

図表1-26 定期的な教育・保育事業の利用の有無



(注) 本調査における「定期的な教育・保育事業」とは、幼稚園、幼稚園の預かり保育（通常の就園時間を延長して預かる事業のうち定期的な利用のみ）、保育園（都道府県等の認可を受けた施設）、認定こども園、事業所内保育施設（企業が主に従業員用に運営する施設）、その他の認可外保育施設、ファミリー・サポート・センター（地域住民同士による育児の相互援助を会員制で行う事業）を指します。

(2) 利用している教育・保育事業

定期的に利用している教育・保育事業の種類は、「保育園」が68.5%と最も高く、次いで「幼稚園」が24.4%などの順となっています。平成30年との比較では、「幼稚園の預かり保育」が2.4ポイント上昇しています。

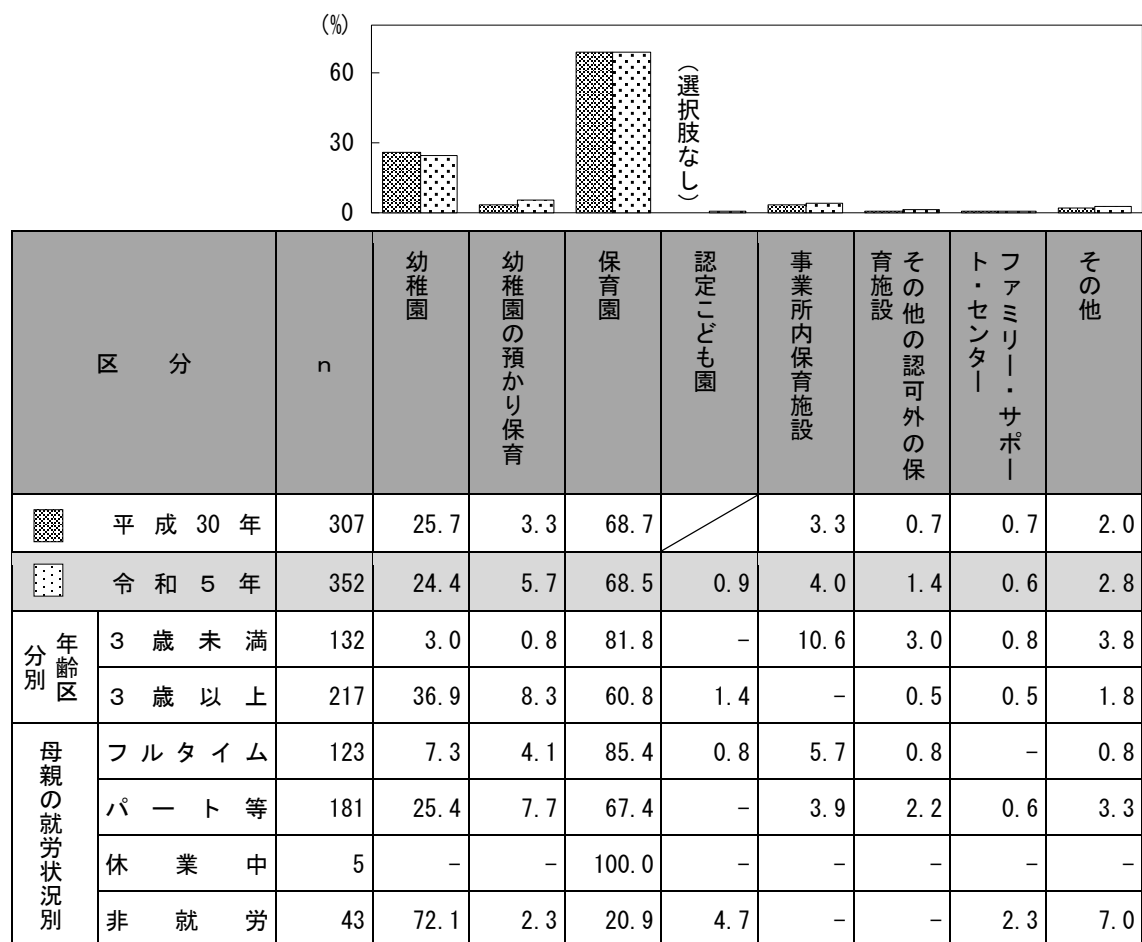
子どもの年齢区分別にみると、どちらも「保育園」が最も高くなっています。「幼稚園」は当然のことながら3歳以上が高く、「事業所内保育施設」は3歳未満のみ、「認定こども園」は3歳以上のみとなっています。

母親の就労状況別にみると、「保育園」が高いのはフルタイム、パート等および休業中、「幼稚園」が高いのは非就労です。

「その他」として、図表1-28の内容が記載されていました。

図表1-27 利用している教育・保育事業（複数回答）

単位：nは人、他は%



図表1-28 利用している教育・保育事業（複数回答、その他）

・療育施設（4件）	・一時預かり
・児童発達支援事業所（2件）	・プリスクール
・重度心身障害者施設	・幼稚園のプリスクール（週1回程度）

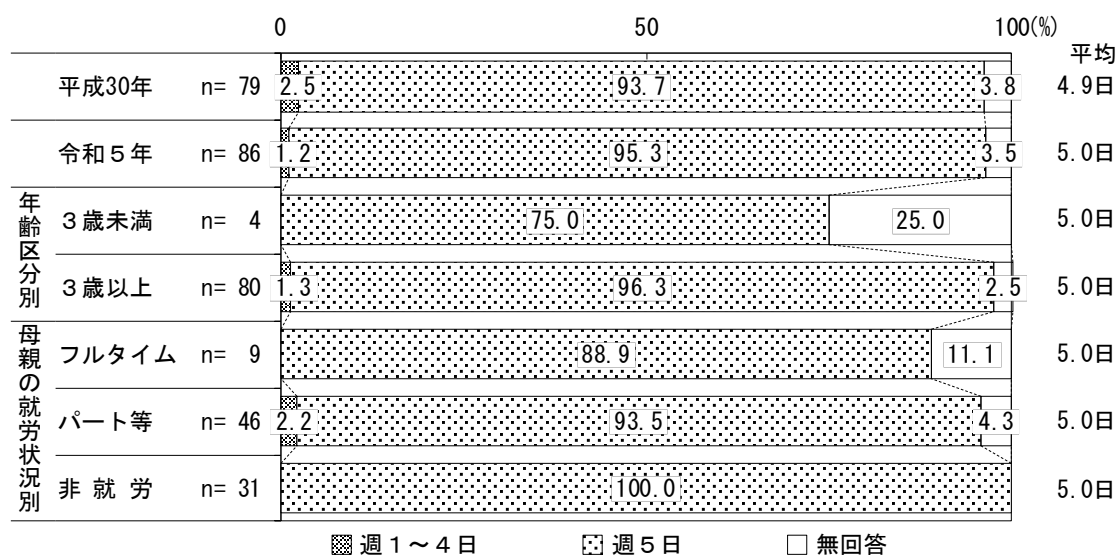
(3) 幼稚園の利用状況

① 利用日数（現在・希望）

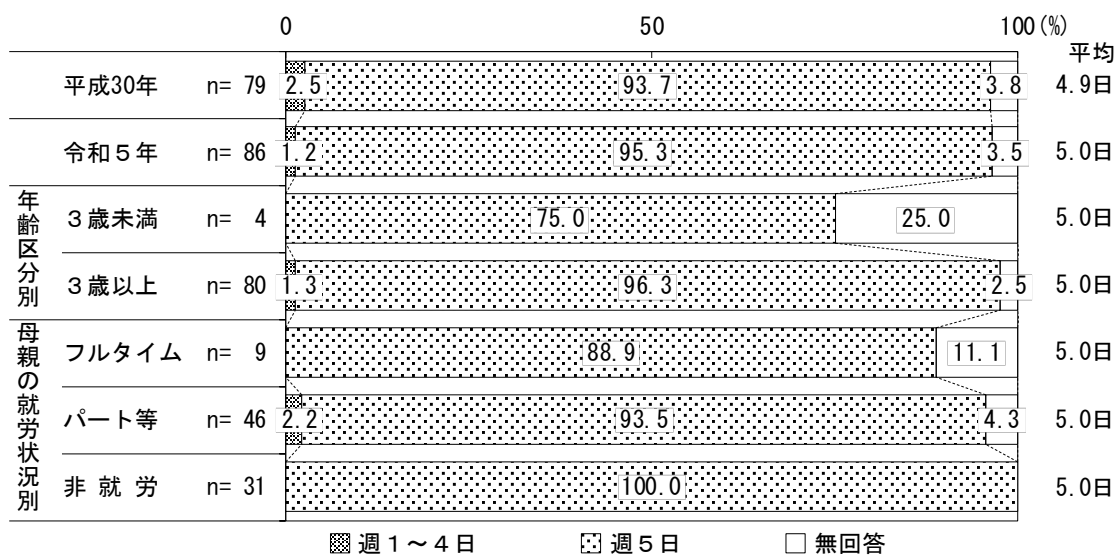
幼稚園の現在の利用日数は、「週5日」が95.3%を占めており、「週1～4日」が1.2%となっています。

希望する利用日数は、現在と同じです。

図表 1－29 現在の利用日数



図表 1－30 利用希望日数

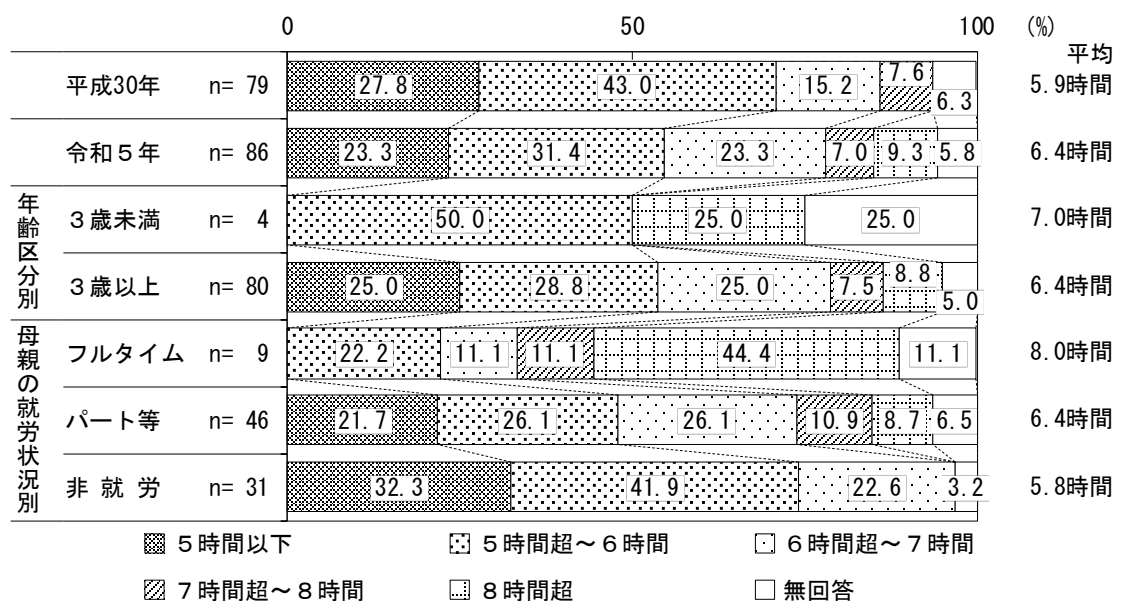


② 利用時間（現在・希望）

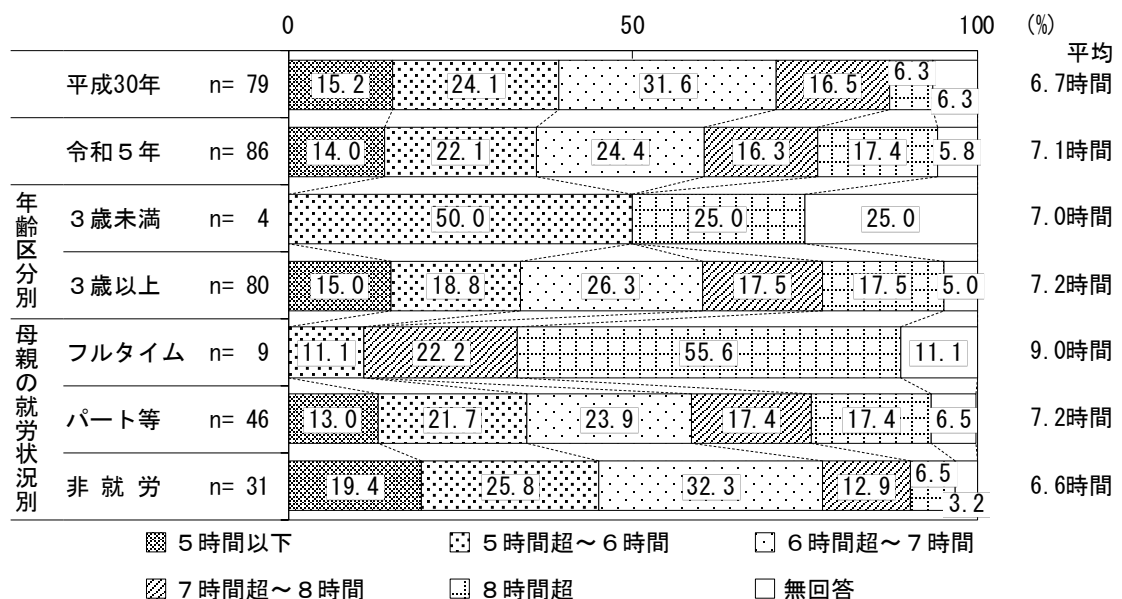
幼稚園の現在の利用時間は「5時間超～6時間」が31.4%と最も高く、次いで「5時間以下」および「6時間超～7時間」が23.3%などの順となっており、平均は6.4時間です。平成30年との比較では、「6時間超～7時間」および「8時間超」が高くなっており、平均も0.5時間増加しています。

希望する利用時間は、「6時間超～7時間」が最も高くなっています。現在の利用時間から「6時間超～7時間」が1.1ポイント、「7時間超～8時間」が9.3ポイント、「8時間超」が8.1ポイント上昇しており、平均は7.1時間に増加しています。

図表 1-31 現在の利用時間



図表 1-32 利用希望時間

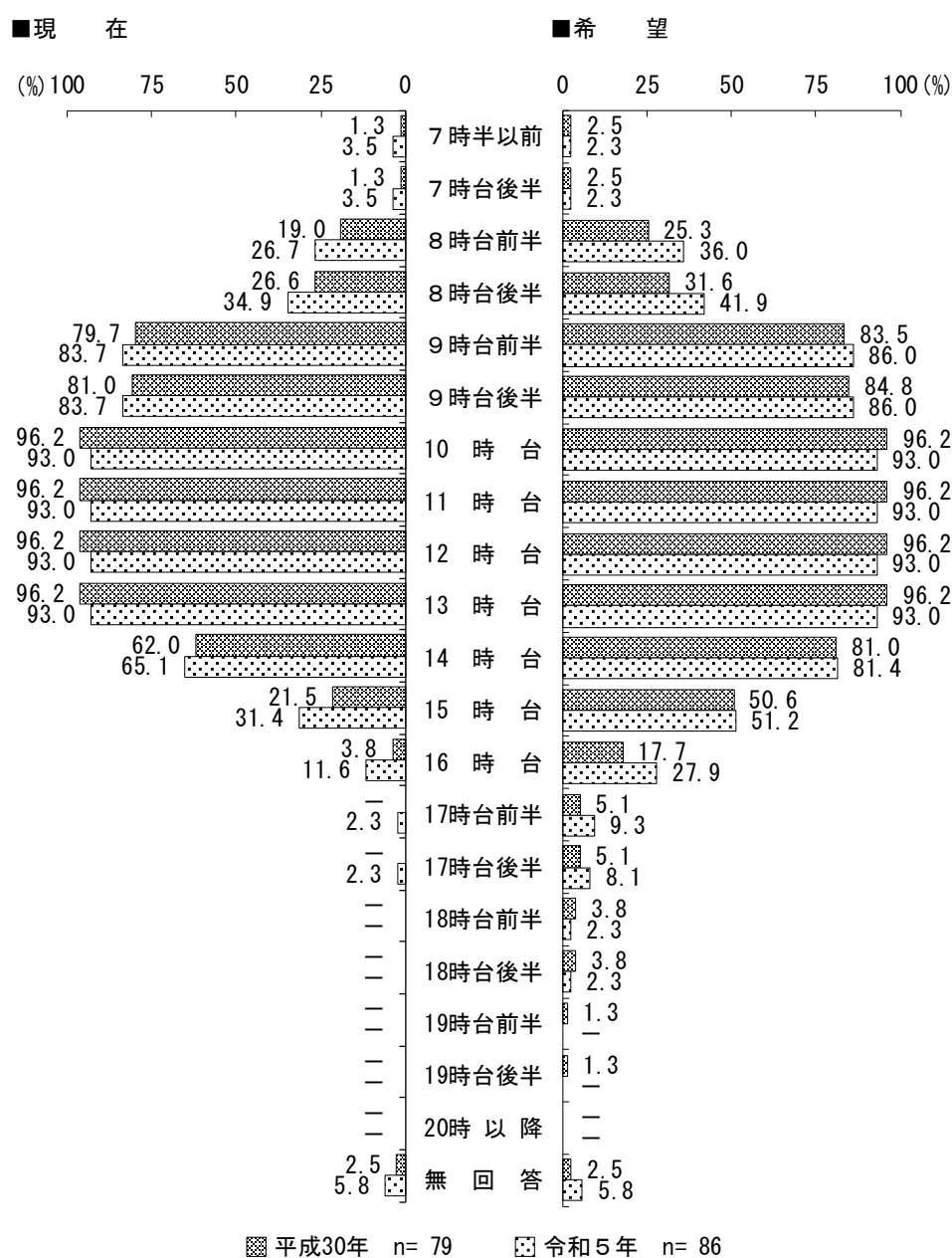


③ 利用時間帯（現在・希望）

現在の利用時間帯は、9時台には80%以上、10時台から13時台は90%以上となっています。平成30年との比較では、9時台以前および14時台から17時台が高くなっています。

希望する利用時間帯は、9時台から13時台までは現在と概ね同様ですが、8時台および14時台以降が上昇しています。

図表 1－33 利用時間帯（現在・希望）



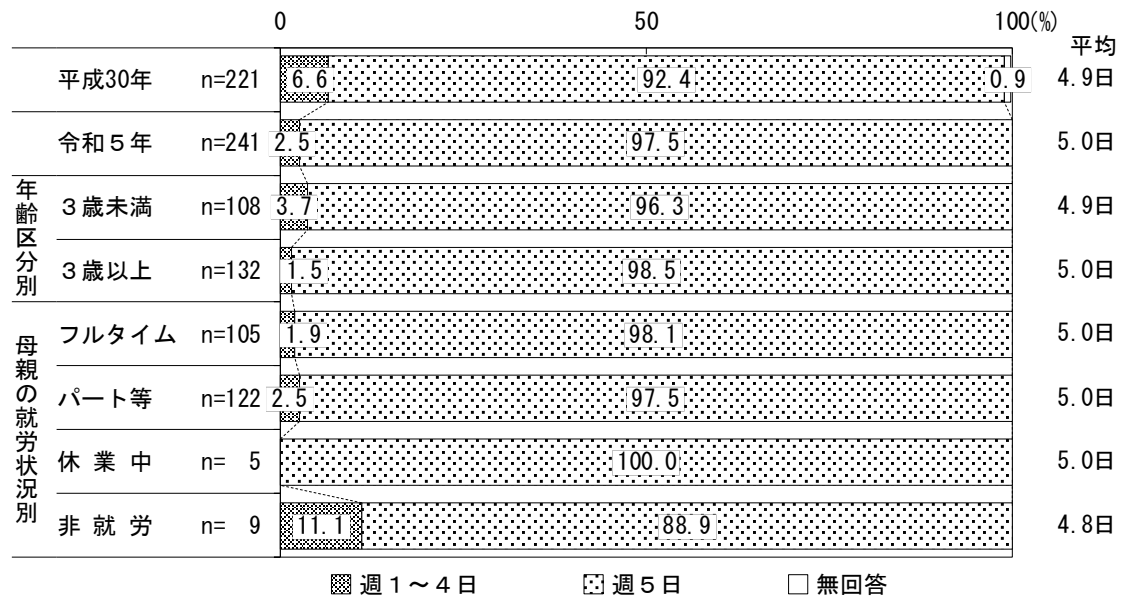
(4) 保育園の利用状況

① 利用日数（現在・希望）

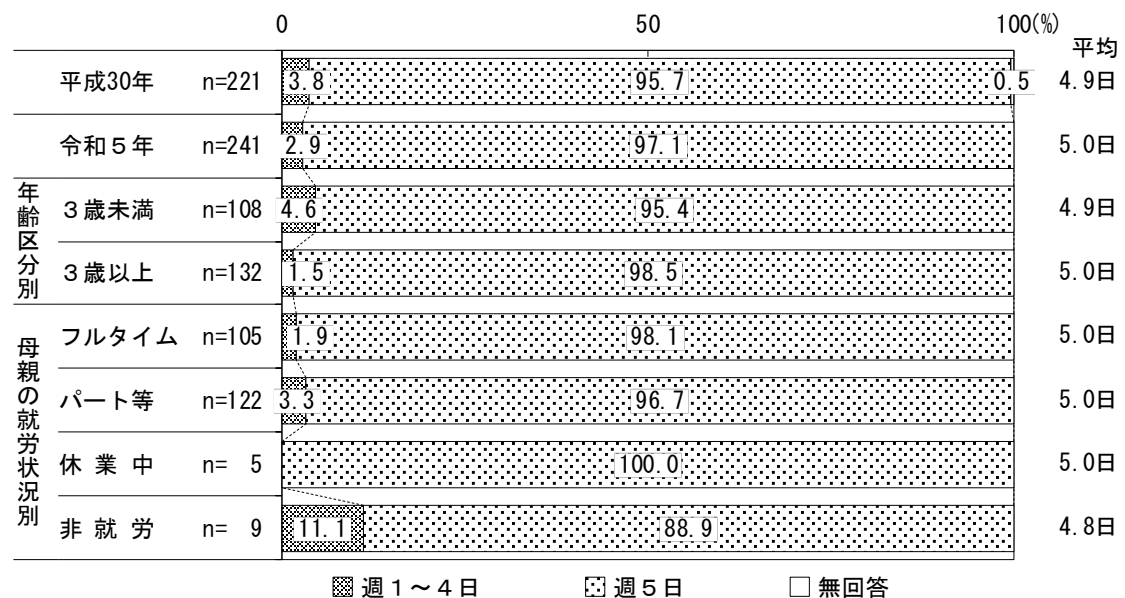
保育園の現在の利用日数は、「週5日」が97.5%を占めており、「週1～4日」が2.5%、平均は5.0日です。

希望する利用日数は、「週5日」が97.1%を占めています。

図表 1－34 現在の利用日数



図表 1－35 利用希望日数

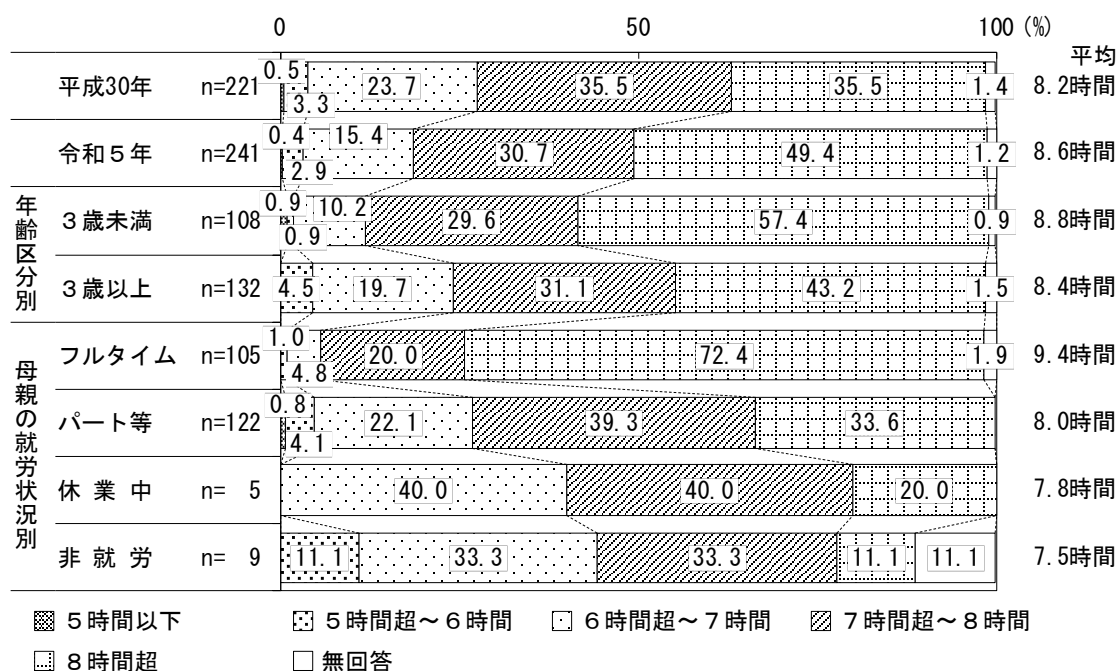


② 利用時間（現在・希望）

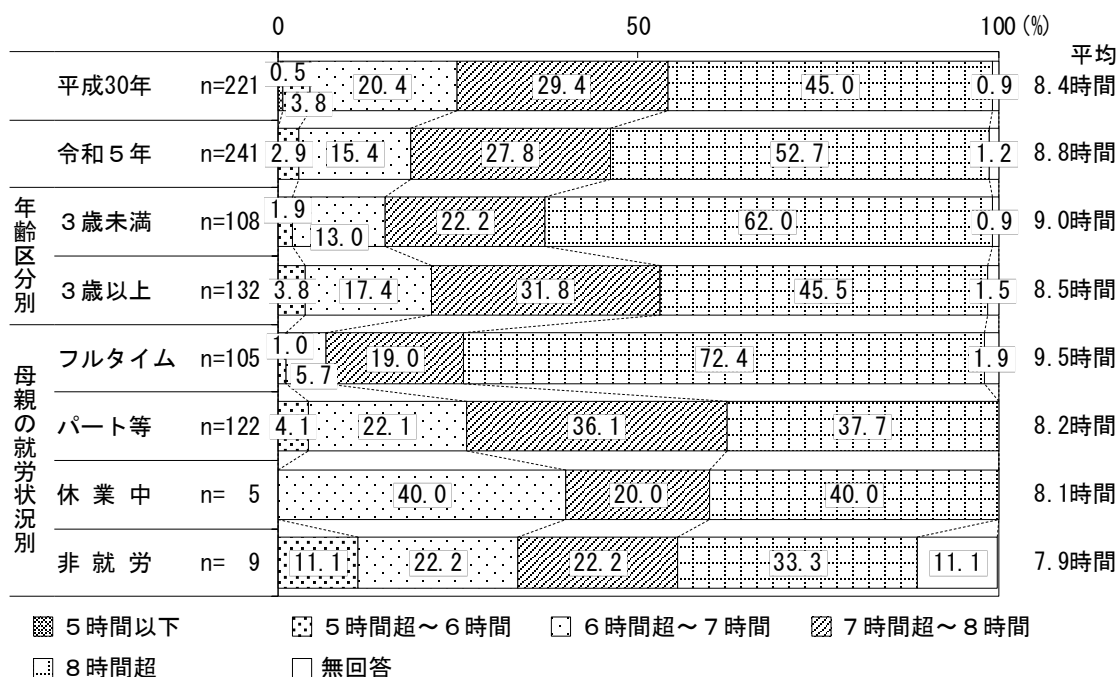
現在の利用時間は「8時間超」が49.4%と最も高く、次いで「7時間超～8時間」が30.7%、「6時間超～7時間」が15.4%などとなっており、平均は8.6時間です。

希望する利用時間は、「8時間超」が現在の利用時間から3.3ポイント上昇しており、平均は8.8時間です。

図表 1-36 現在の利用時間



図表 1-37 利用希望時間

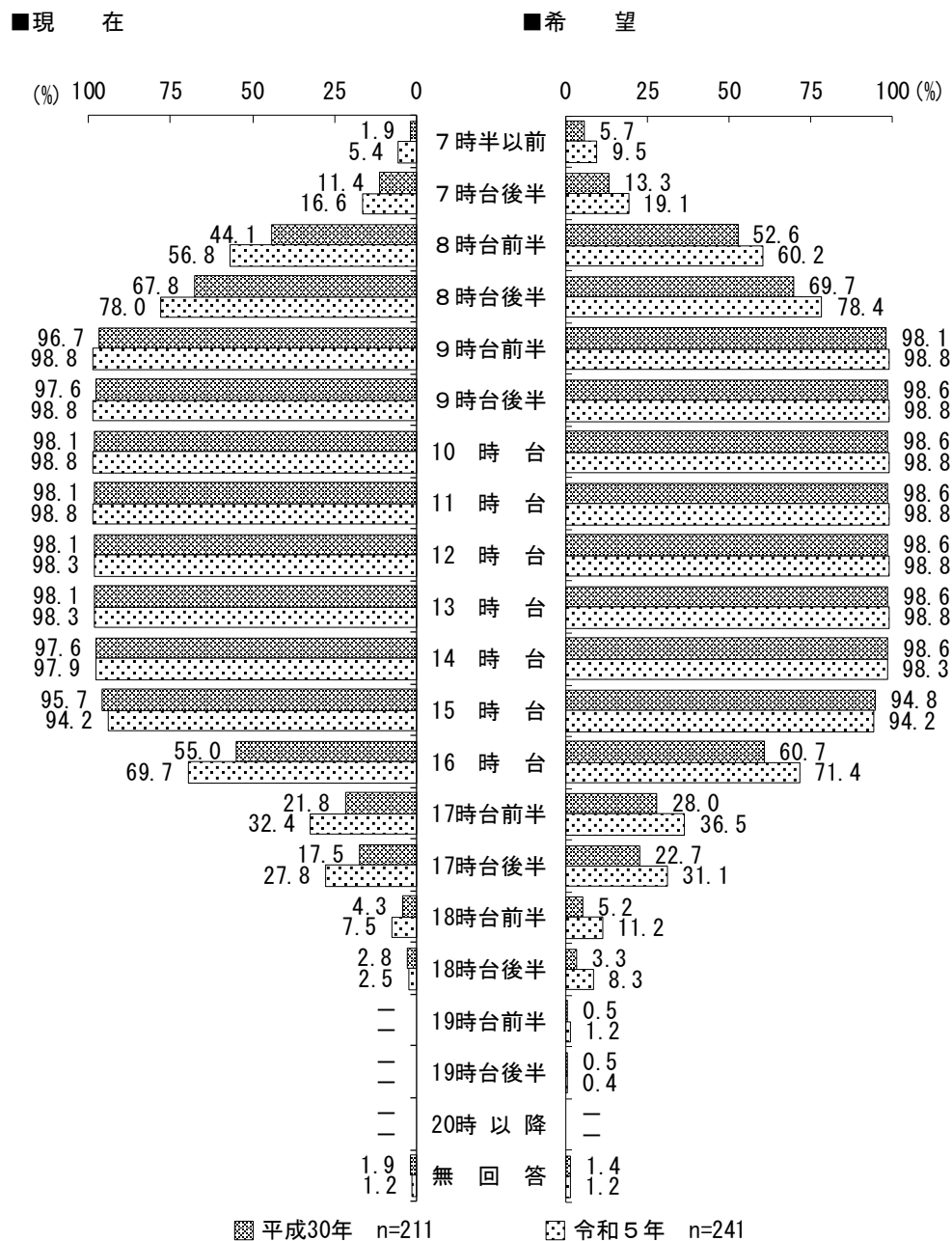


③ 利用時間帯（現在・希望）

現在の利用時間帯は、7時半以前から徐々に高くなり、9時台前半から15時台は90%以上となっています。16時台になると69.7%にまで低下し、以降、徐々に低くなっています。最も遅い時間帯は18時台後半で2.5%となっています。平成30年との比較では、15時台および18時台後半を除く時間帯で高くなっています。

希望する利用時間帯は、概ね現在と同様ですが、現在より5ポイント以上高いのは、18時台後半です。

図表1-38 利用時間帯（現在・希望）



(5) 認定こども園の利用状況

① 利用日数・利用時間（現在・希望）

認定こども園の現在の利用日数は、3人の利用者全員が「週5日」と答えています。
希望する利用日数も同様です。

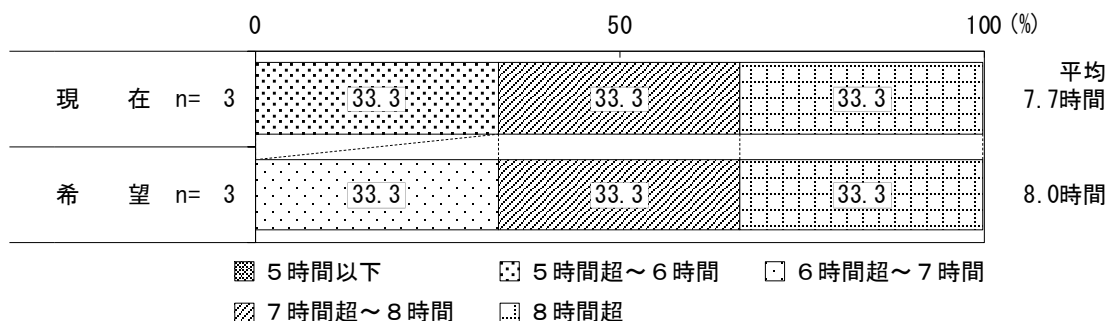
図表1-40で現在の利用時間および希望する利用時間をみると、現在の利用時間は「5時間超～6時間」、「7時間超～8時間」および「8時間超」がそれぞれ33.3%（1人）で、平均が7.7時間です。希望する利用時間は「6時間超～7時間」、「7時間超～8時間」および「8時間超」がそれぞれ33.3%（1人）で、平均が8.0時間となっています。

図表1-39 利用日数（現在・希望）

単位：人

区 分	n	週1～4日	週5日
現 在	3	－	3
希 望	3	－	3

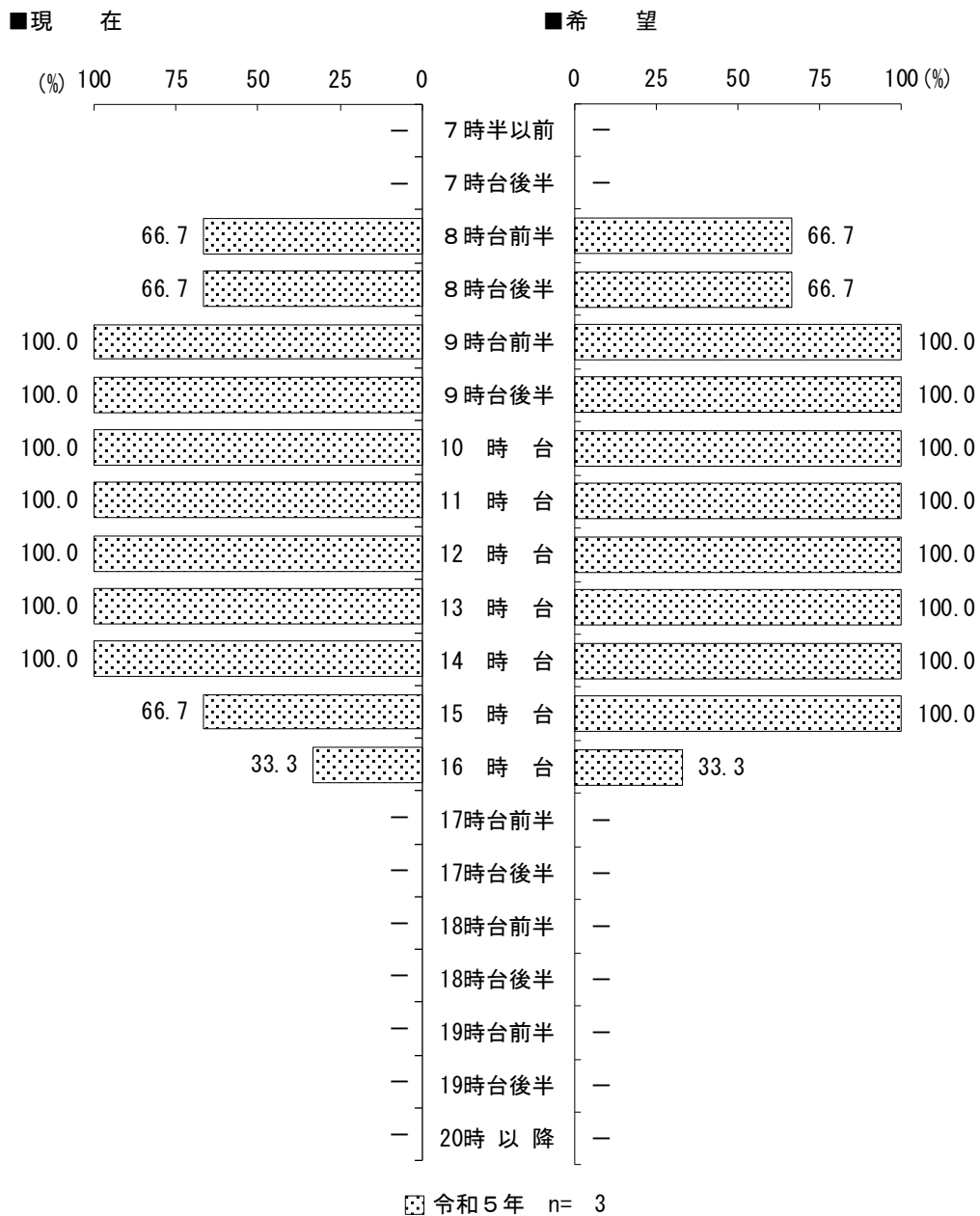
図表1-40 利用時間（現在・希望）



② 利用時間帶（現在・希望）

現在の利用時間帯は、8時台前半から16時台までとなっています。希望の利用時間帯も同様です。

図表 1-41 利用時間帯（現在・希望）



(6) 事業所内保育施設の利用状況

① 利用日数・利用時間（現在・希望）

事業所内保育施設の現在の利用日数は、13人の利用者のうち2人が「週1～4日」、11人が「週5日」と答えています。希望する利用日数は、13人の利用者全員が「週5日」と答えています。

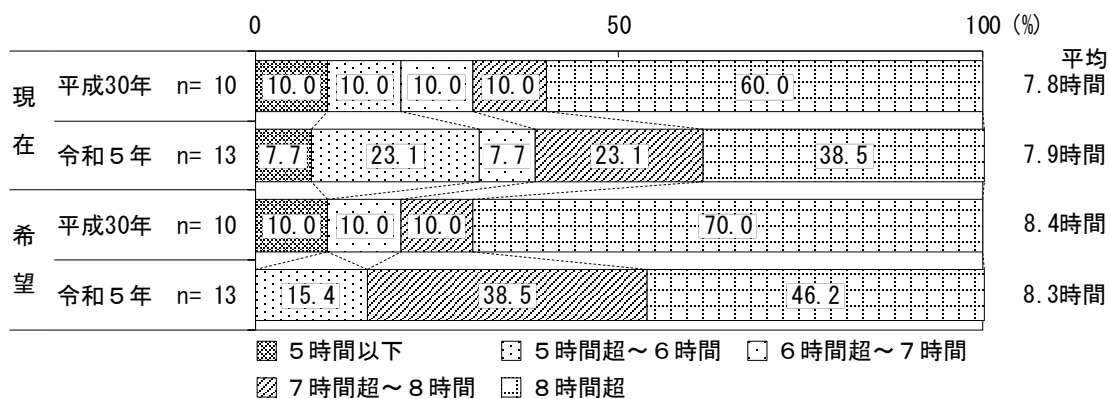
図表1－43で現在の利用時間および希望する利用時間をみると、現在の利用時間は「8時間超」が38.5%（5人）と最も多く、平均が7.9時間です。平成30年との比較では、平均は0.1時間増加しています。希望する利用時間は「8時間超」が46.2%（6人）と最も高く、平均が8.3時間となっています。

図表1－42 利用日数（現在・希望）

単位：人

区 分	n	週1～4日	週5日
現 在	13	2	11
希 望	13	－	13

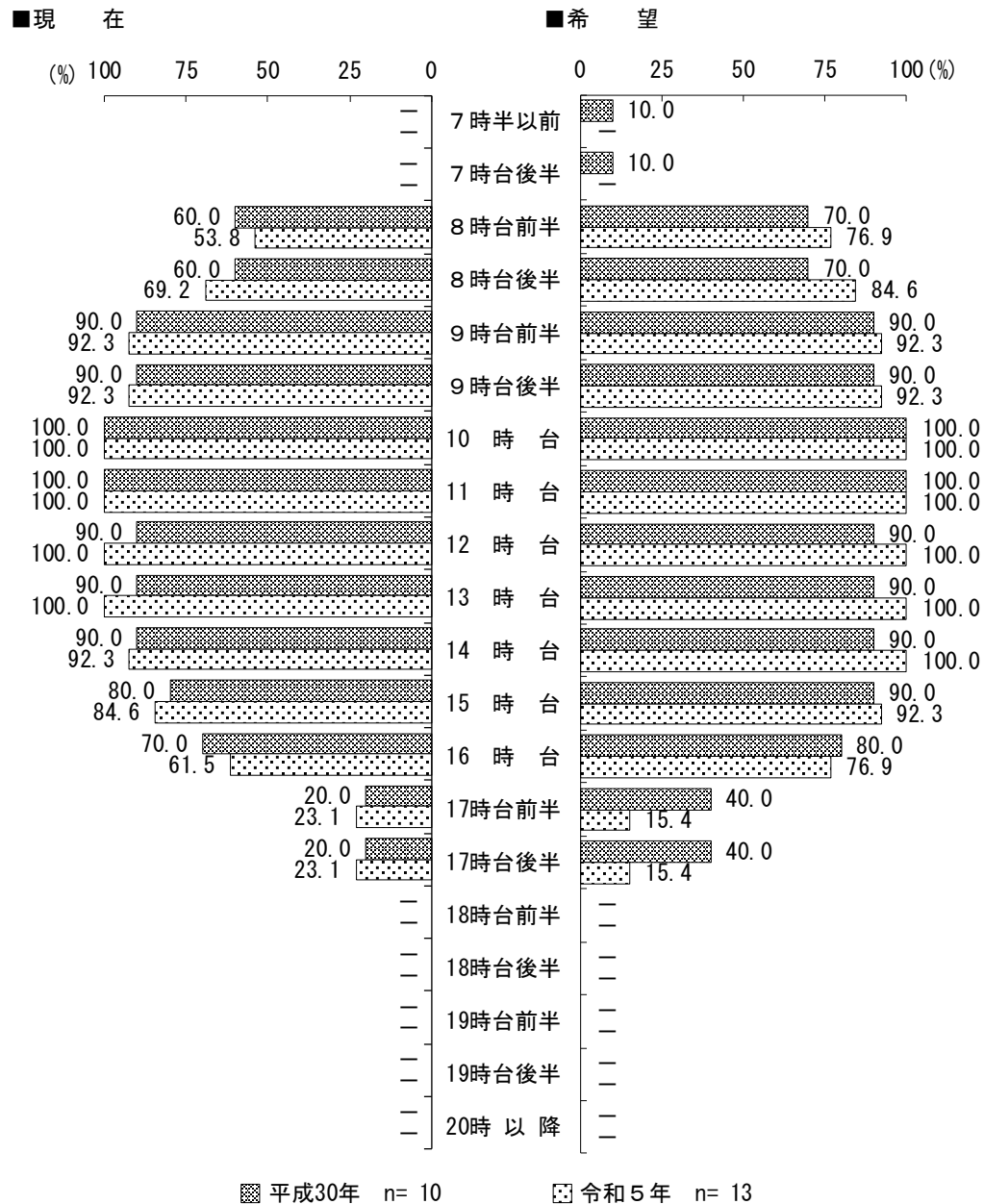
図表1－43 利用時間（現在・希望）



② 利用時間帯（現在・希望）

現在の利用時間帯は、8時台前半から17時台後半までとなっています。平成30年と比べて、8時台前半および16時台を除く時間帯で高くなっています。希望の利用時間帯は9時台前半から13時台までは同じ割合となっており、8時台および14時台から16時台までが高くなっています。

図表1-44 利用時間帯（現在・希望）

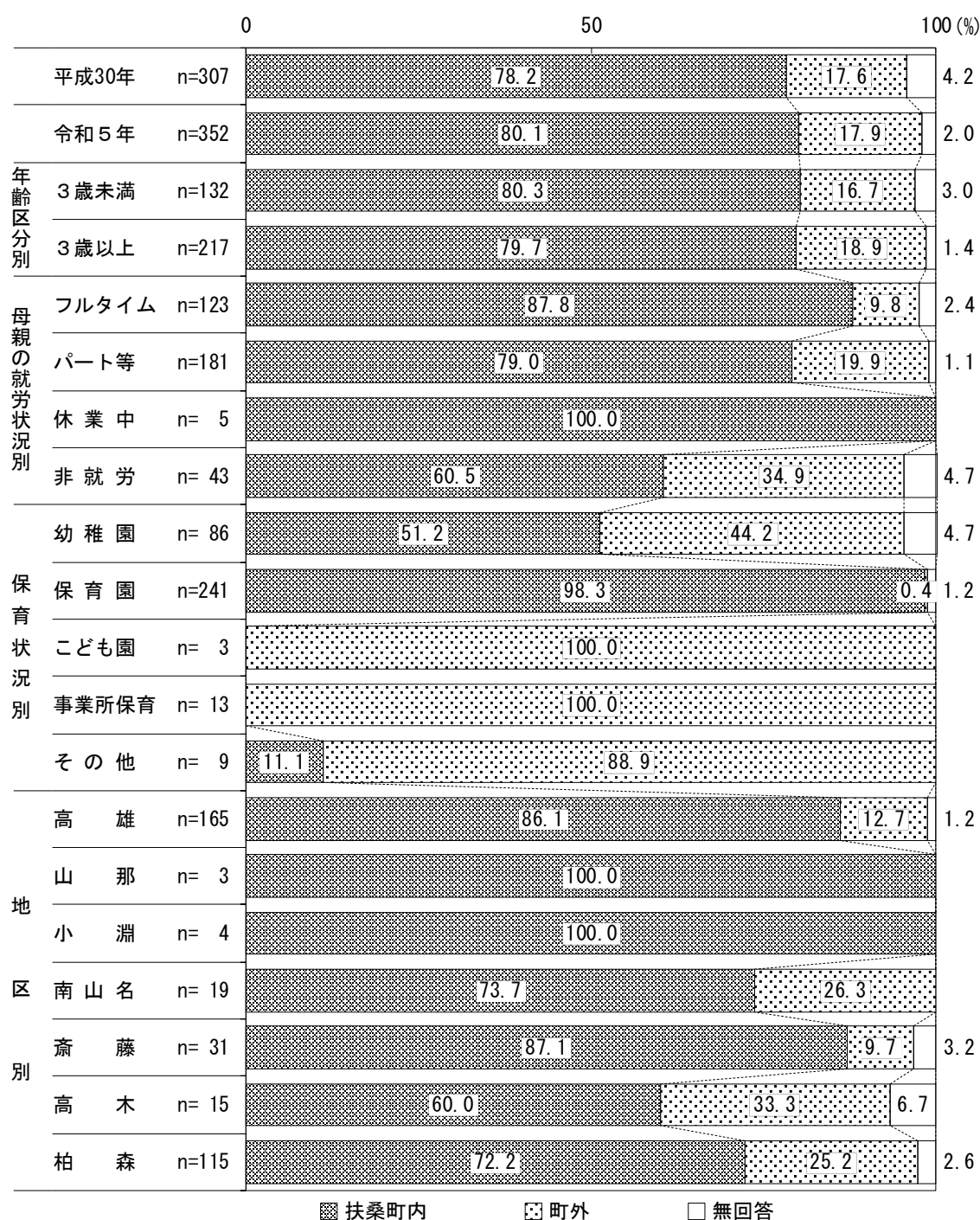


(7) 定期的な教育・保育事業を利用している場所

現在、利用している教育・保育事業の実施場所は、「扶桑町内」が80.1%、「町外」が17.9%です。平成30年との比較では、「扶桑町内」が1.9ポイント上昇しています。

「町外」として、「大口町」（21件）、「江南市」（20件）、「犬山市」（10件）、「一宮市」（3件）、「名古屋市北区」、「小牧市」、「各務原市」、「岐阜県」などの記載がありました。

図表 1－45 定期的な教育・保育事業を利用している場所



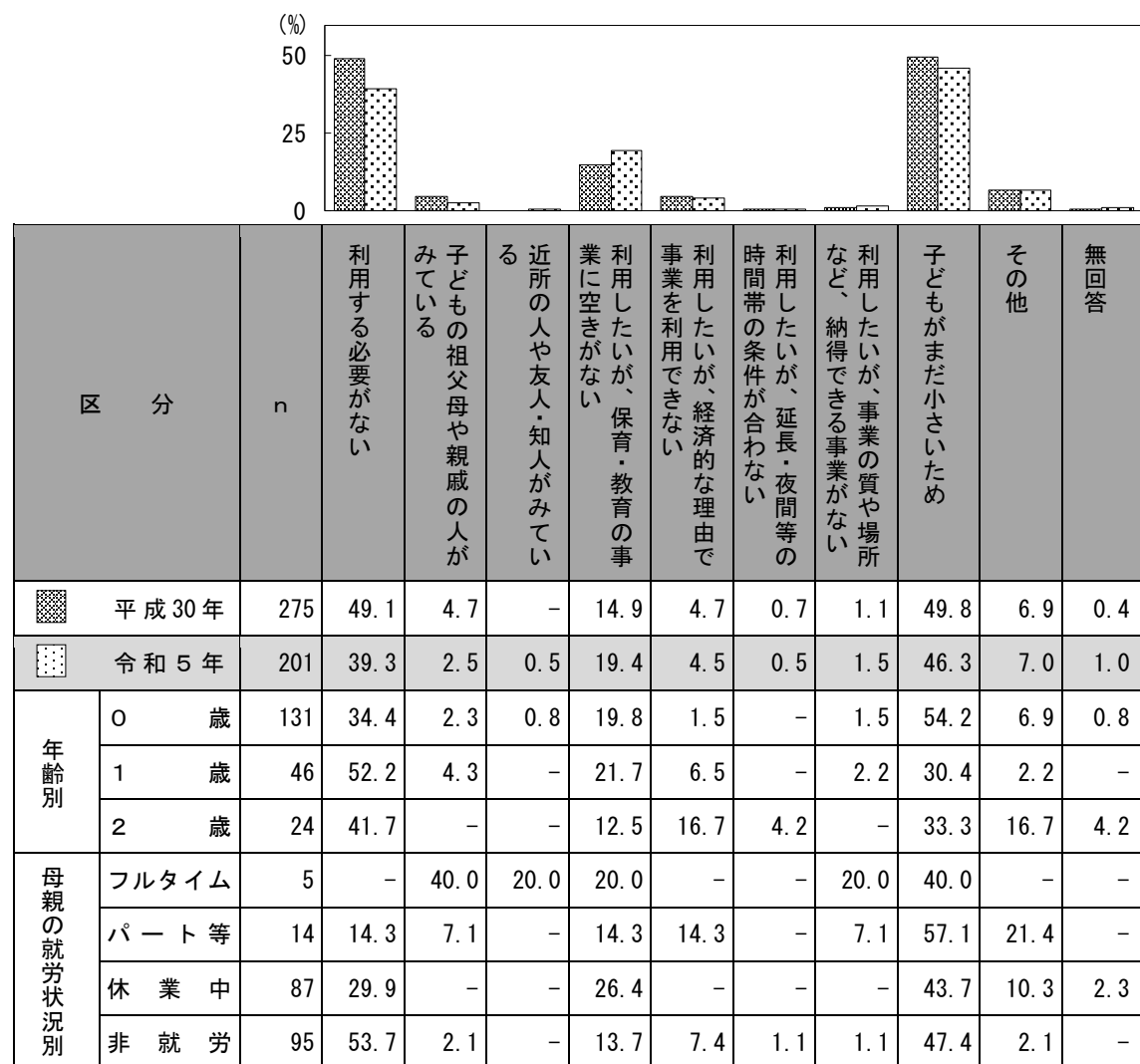
(8) 定期的な教育・保育事業を利用していない理由

定期的な教育・保育事業を「利用していない」と回答した人の理由は、「子どもがまだ小さいため」が46.3%と最も高く、次いで「利用する必要がない」が39.3%などの順となっています。「事業に空きがない」「経済的な理由で」「条件があわない」「納得できる事業がない」を合計した《利用したいが、できない》は25.9%です。平成30年との比較では、「利用する必要がない」は9.8ポイント低下し、《利用したいが、できない》は4.5ポイント高くなっています。

「その他」として、図表1-47の内容が記載されていました。

図表1-46 定期的な教育・保育事業を利用していない理由（複数回答）

単位：nは人、他は%



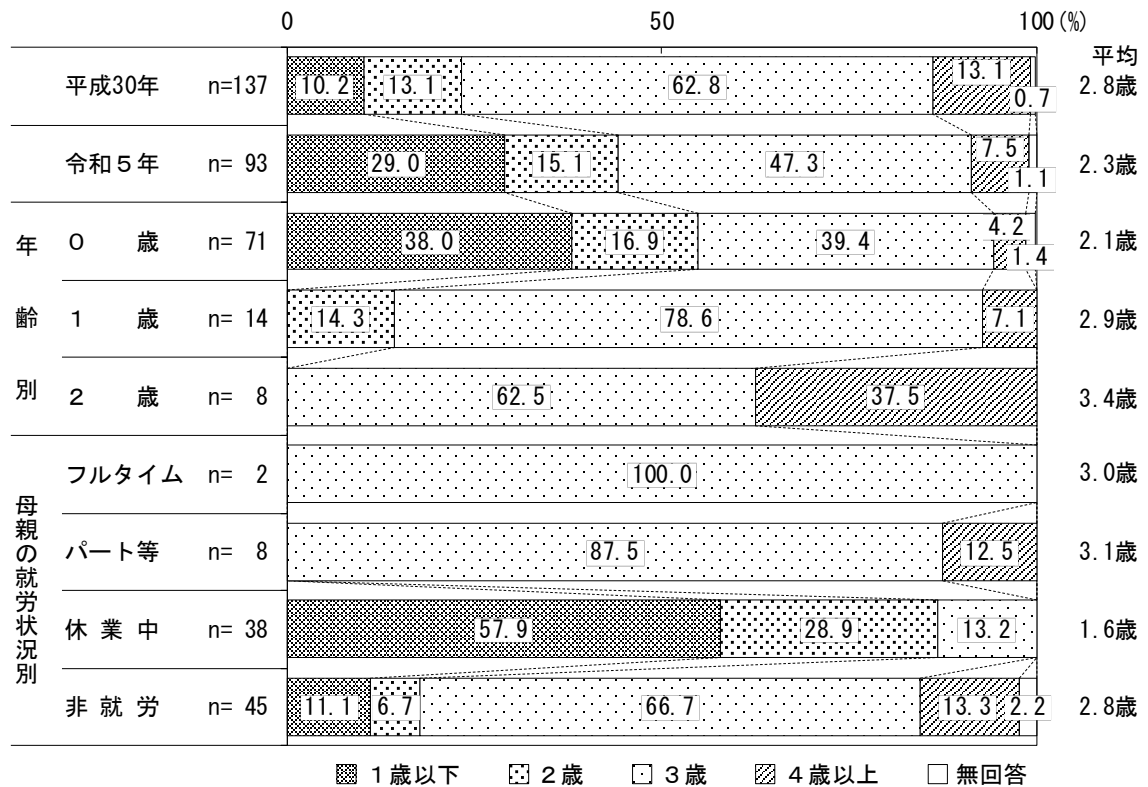
図表1-47 定期的な教育・保育事業を利用していない理由（複数回答、その他）

・育休中のため（4件）	・利用したいが、保育標準時間（8：30～16：30）が合わない、お金がかかる
・令和6年4月で幼稚園に入園予定（4件）	・母親の就労先で子どもをみながら、なんとか仕事ができる
・願書を提出したところ	・働いていないから、保育園に預けられない
・現在、保育園の入園を申し込み中です	
・第2子妊娠のため	

(9) 子どもが何歳になったら利用したいか

前項で、「子どもがまだ小さいため」と回答した人に、子どもが何歳になったら利用したいかをたずねたところ、「3歳」が47.3%と最も高く、次いで「1歳以下」が29.0%などの順となっており、平均は2.3歳です。平成30年との比較では、「3歳」が15.5ポイント低くなっており、平均も0.5歳低くなっています。

図表1-48 子どもが何歳になったら利用したいか



(10) 定期的に利用したい教育・保育事業

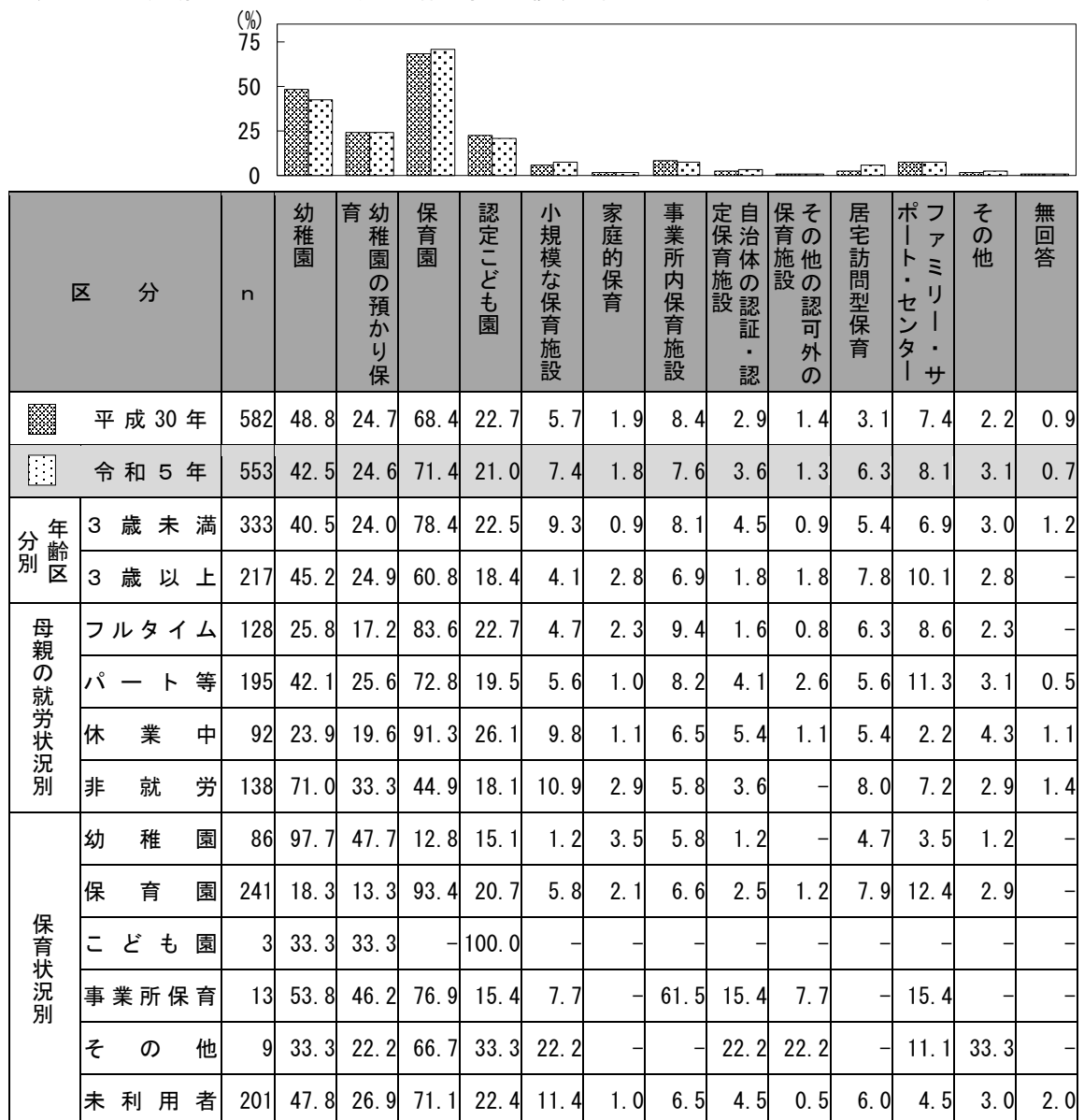
現在、利用している、利用していないにかかわらず、定期的に利用したい教育・保育事業は、「保育園」が71.4%と最も高く、次いで「幼稚園」が42.5%、「幼稚園の預かり保育」が24.6%などの順となっています。平成30年との比較では、「保育園」、「小規模な保育施設」、「自治体の認証・認定保育施設」、「居宅訪問型保育」および「ファミリー・サポート・センター」が高くなっています。

母親の就労状況別にみると、フルタイム、パート等および休業中は「保育園」が高く、非就労は「幼稚園」が高くなっています。保育状況別にみると、未利用者の71.1%が「保育園」を、47.8%が「幼稚園」を利用したいと考えています。

「その他」として、図表1-50の内容が記載されていました。

図表1-49 定期的に利用したい教育・保育事業（複数回答）

単位：nは人、他は%



図表 1-50 定期的に利用したい教育・保育事業（複数回答、その他）

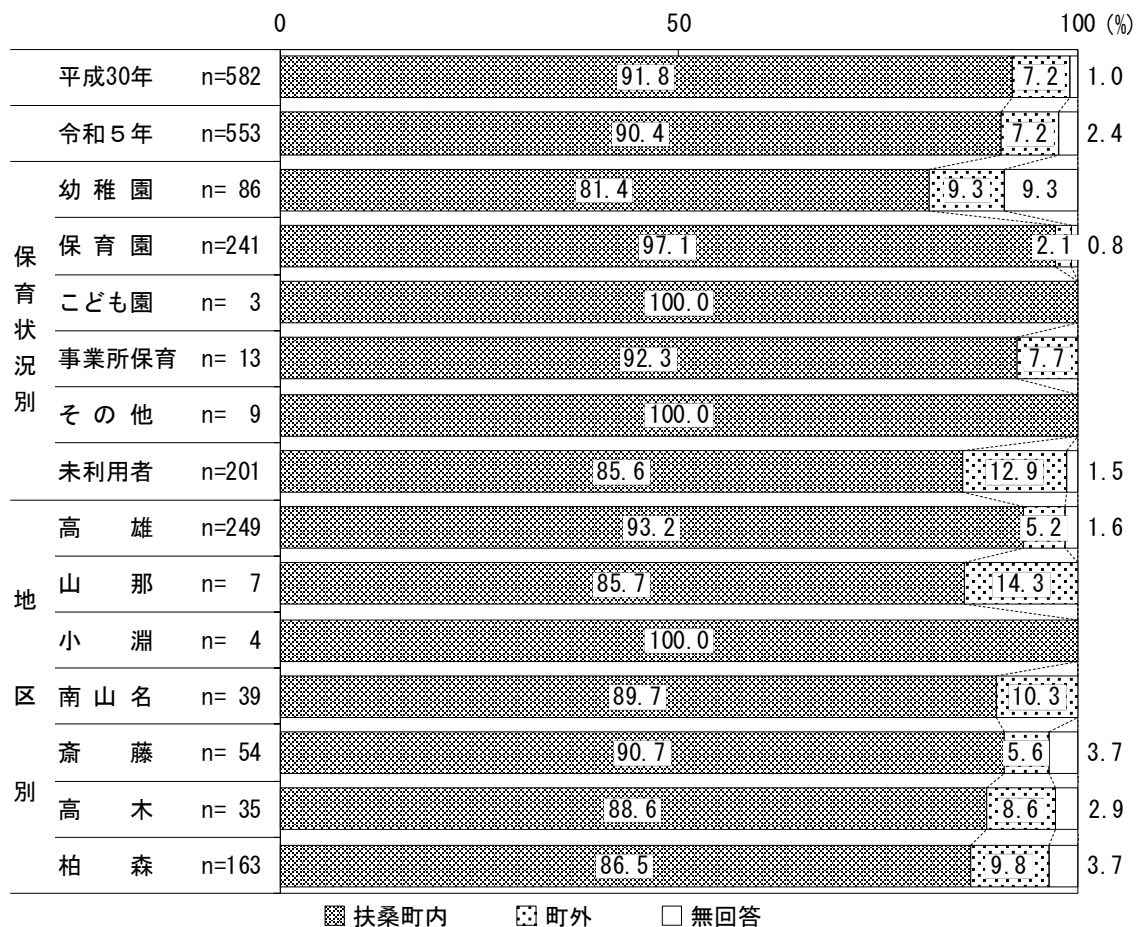
・病児保育（４件）	・宿泊型保育園（児相預かりではない）
・一時保育（２件）	・インターナショナル幼稚園
・週末などで一時預かりをしてもらえる施設	・療育
・児童センターひまわりのこどもプラザに預かりをつくってほしい。	・子育て支援センター
・急な用事が入ったときに利用できる、預かり保育ができる施設があれば助かります	・児童館
・宿泊体験を伴うような事業	・町が運営する幼児の習い事
	・現在利用しているところ

(11) 定期的な教育・保育事業を利用したい場所

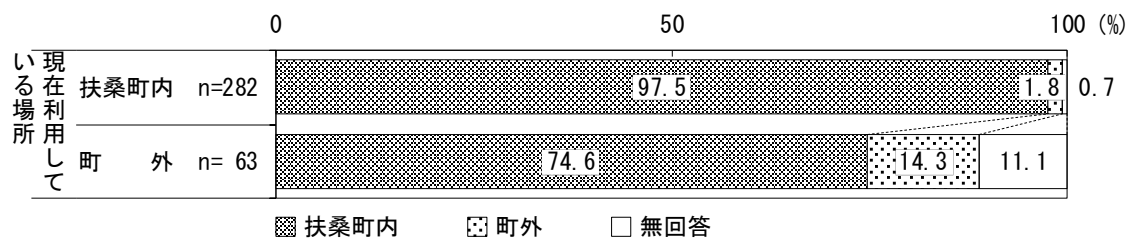
教育・保育事業を利用したい場所は、「扶桑町内」が90.4%を占めています。平成30年との比較では、「扶桑町内」がわずかに低くなっています。「町外」として、「大口町」（11件）、「江南市」（8件）、「名古屋市」「小牧市」（各2件）、「犬山市」、「各務原市」の記載がありました（図表 1-51）。

図表 1-52で、現在定期的な教育・保育事業を利用している場所別にみると、町外で利用している人の74.6%が「扶桑町内」と回答しています。

図表 1-51 定期的な教育・保育事業を利用したい場所



図表 1-52 現在利用している場所別の定期的な教育・保育事業を利用したい場所

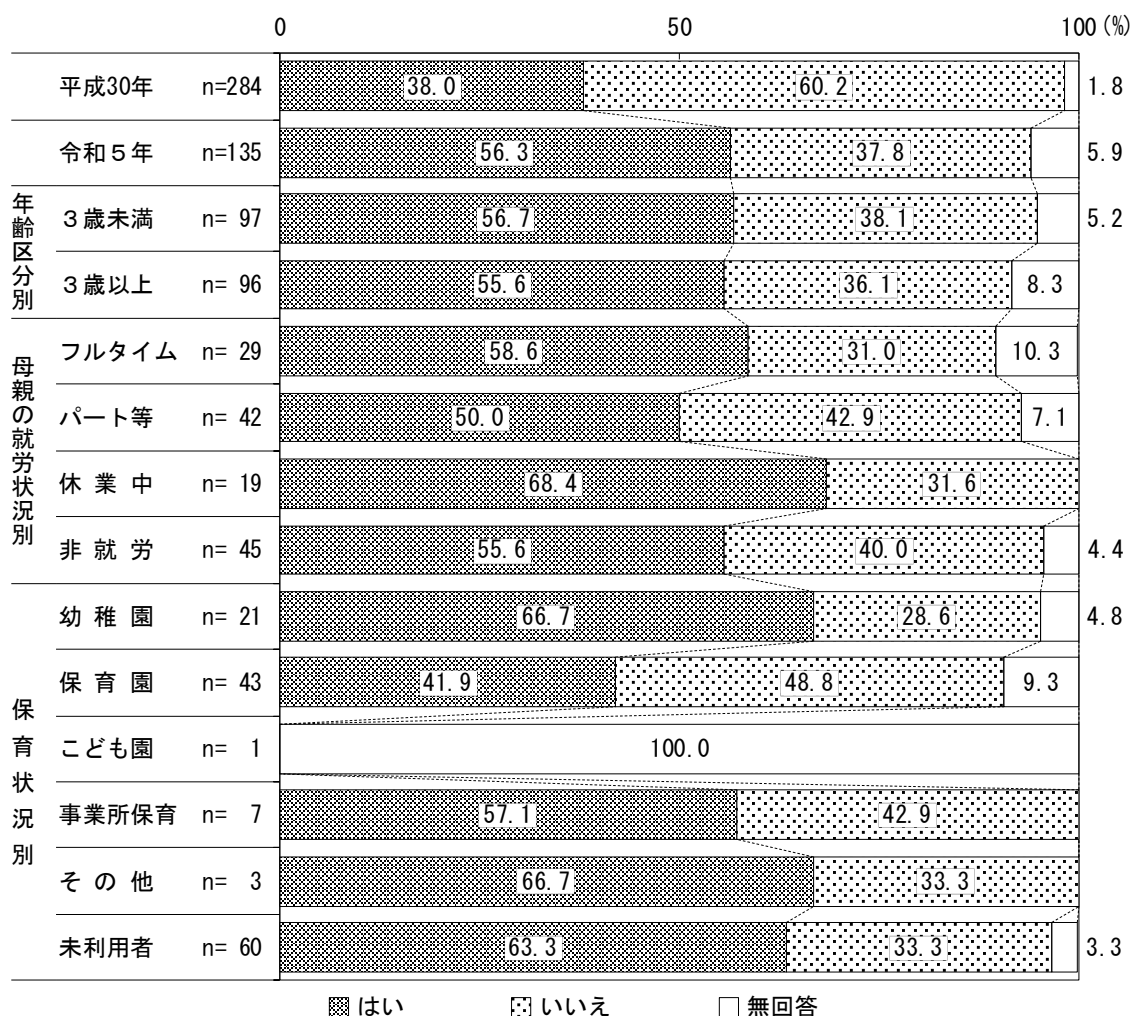


(12) 幼稚園利用を強く希望するか

(10)で「幼稚園」または「幼稚園の預かり保育」と回答した人に、幼稚園利用を強く希望するかをたずねたところ、「はい」（幼稚園を強く希望する）が56.3%と「いいえ」（幼稚園にこだわりはない）を上回っています。平成30年との比較では、「はい」が18.3ポイント上昇しています。

「はい」が高いのは、年齢区分別では3歳未満、母親の就労状況別では休業中、保育状況別では幼稚園およびその他となっています。

図表 1-53 幼稚園利用を強く希望するか

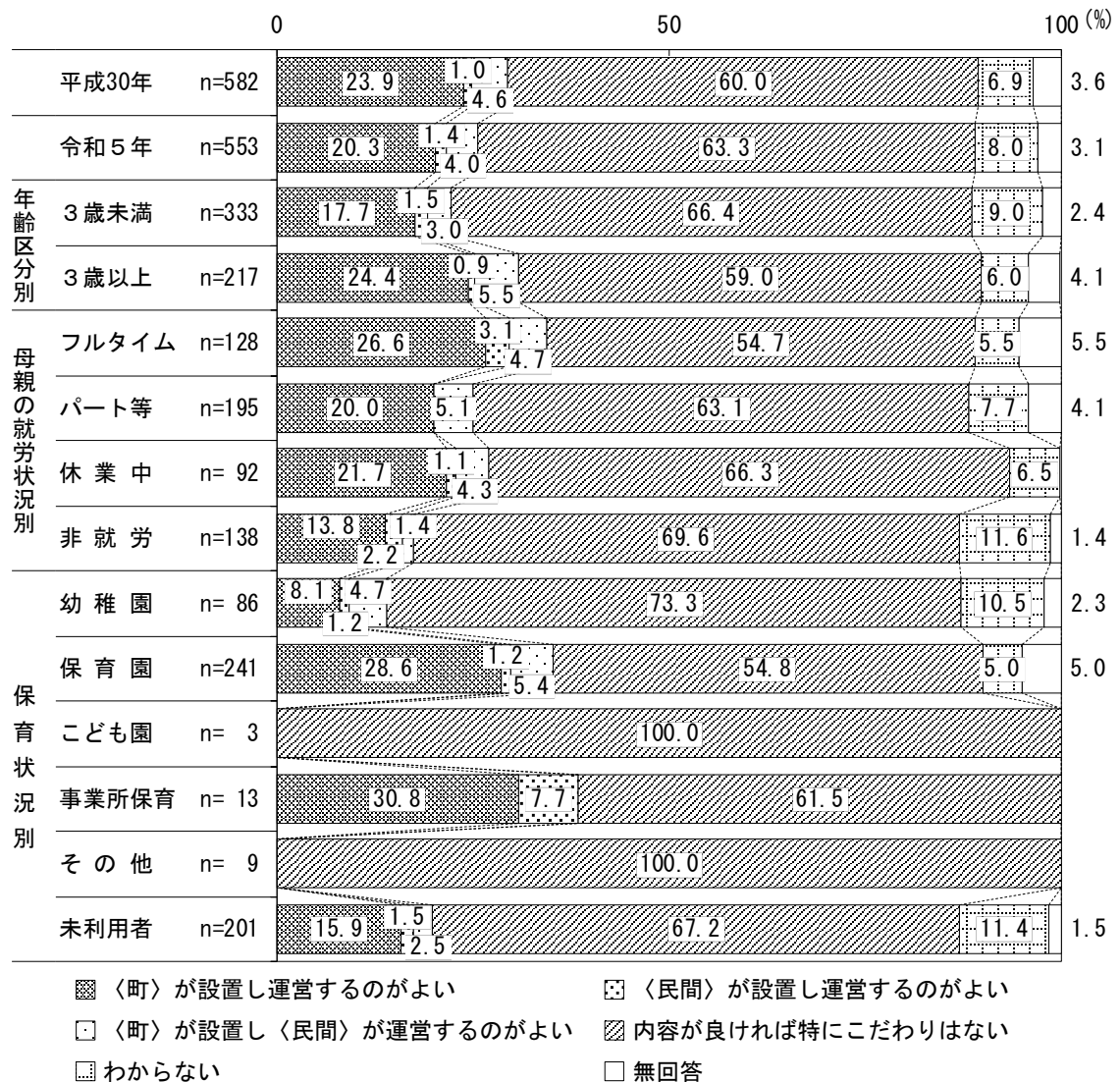


(13) 幼稚園や保育園の運営について

幼稚園や保育園などの設置や運営についてたずねたところ、「内容が良ければ特にこだわりのない」が63.3%を占め、次いで「〈町〉が設置し運営するのがよい」が20.3%などの順となっています。平成30年との比較では、「内容が良ければ特にこだわりのない」が3.3ポイント上昇しています。

「〈町〉が設置し運営するのがよい」が高いのは、年齢区分別では3歳以上、母親の就労状況別ではフルタイム、保育状況別では保育園および事業所保育となっています。

図表 1－54 幼稚園や保育園の運営について



(14) 幼稚園や保育園を選ぶ際に重視すること

幼稚園や保育園を選ぶ際に重視することは、「通いやすい場所にあること」が75.9%と最も高く、次いで「保育者等の人員体制や専門性・人柄」が48.6%、「安全や衛生面が優れていること」が47.4%などの順となっています。平成30年との比較では、「保育料・月謝などの費用負担額」が9.1ポイント低下し、「安全や衛生面が優れていること」および「保育者等の人員体制や専門性・人柄」が5ポイント以上上昇しています。

母親の就労状況別にみると、フルタイムは「通いやすい場所にあること」に次いで「利用できる曜日や時間」が45.2%と2番目に高くなっています。

「その他」として、「延長保育の有無」「小学校の校区が近いか」という記載がありました。

図表 1－55 幼稚園や保育園を選ぶ際に重視すること（3つまで）

単位：nは人、他は%

区 分		n	あること 通いやすい場所 にあること	安全や衛生面が優 れていること	保育者等の人員体 制や専門性・人柄	教育・保育の方針や 内容	設や設備 園舎・園庭などの施 設	費用負担額 保育料・月謝などの 費用	給食（昼食・おやつ など）があること	幼児教育を受けら れること	が通っていること	きょうだいや友人 が通っていること	通園バスなどによ る送迎があること	行っていること 0歳児から保育を 行っていること	立・私立	設置運営主体（公 立・私立）	時間 利用できる曜日や 時間	その他	無回答
平成30年		582	75.1	41.2	43.5	24.7	11.2	27.0	29.0	8.1	10.7	8.9	5.5	0.9	20.6	1.0	1.5		
令和5年		553	75.9	47.4	48.6	21.5	8.3	17.9	29.3	7.2	7.8	5.2	6.5	1.1	24.1	0.4	1.6		
年齢区 別	3歳未満	333	74.8	51.7	52.3	21.0	9.6	21.6	27.9	4.2	10.5	2.7	7.2	0.9	24.3	0.6	0.9		
	3歳以上	217	78.3	40.6	42.4	22.1	6.5	12.0	31.3	12.0	3.7	9.2	5.5	1.4	24.0	—	2.8		
母親の 就労状 況別	フルタイム	128	82.8	43.8	35.9	13.3	7.0	18.0	30.5	4.7	4.7	2.3	11.7	3.1	44.5	—	4.7		
	パート等	195	82.1	38.5	43.6	18.5	6.7	20.5	31.8	9.7	7.7	5.1	4.6	1.0	20.5	0.5	1.0		
	休業中	92	77.2	56.5	54.3	16.3	6.5	12.0	27.2	3.3	13.0	2.2	8.7	—	21.7	1.1	—		
	非就労	138	60.1	57.2	63.8	37.0	13.0	18.1	26.1	8.7	7.2	10.1	2.9	—	11.6	—	0.7		
保育状 況別	幼稚園	86	67.4	46.5	47.7	39.5	9.3	14.0	30.2	18.6	2.3	23.3	—	1.2	10.5	—	—		
	保育園	241	84.2	41.1	39.0	10.8	5.0	20.3	33.2	5.8	6.6	0.8	8.7	2.1	33.2	0.4	2.9		
	こども園	3	33.3	33.3	66.7	33.3	—	—	66.7	33.3	—	—	—	—	33.3	—	—		
	事業所保育	13	92.3	38.5	30.8	15.4	7.7	—	15.4	—	15.4	—	23.1	—	61.5	—	—		
	その他	9	66.7	22.2	55.6	55.6	33.3	22.2	33.3	—	11.1	—	11.1	—	44.4	—	—		
	未利用者	201	69.7	57.2	61.2	25.4	10.9	17.9	24.4	4.5	10.9	3.5	5.5	—	15.4	0.5	1.0		

5 地域の子育て支援事業

(1) 地域子育て支援センターの利用状況

① 利用状況

親子が集まって過ごしたり、相談をしたり、情報提供を受けたりする地域子育て支援センターの利用状況は、「すくすくらんど（斎藤保育園内）」が24.1%、「にこにこらんど（高雄保育園内）」が13.2%となっています。なお、「利用していない」（66.5%）と無回答（3.3%）を除いた30.2%が、いずれかまたは複数の事業を利用していることになります。

図表 1-56 地域子育て支援センターの利用状況

単位：nは人、他は%

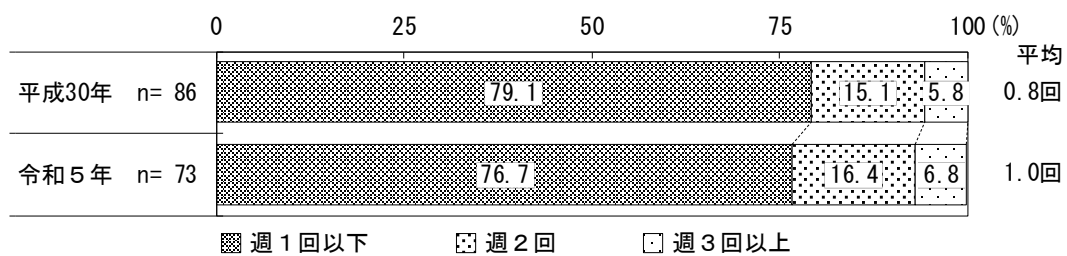
区 分		n	にこにこらんど （高雄保育園内）	すくすくらんど （斎藤保育園内）	利用していない	無回答
▶ 平成 30 年		582	14.8	11.5	73.5	1.4
▶ 令和 5 年		553	13.2	24.1	66.5	3.3
年齢区 別	3 歳 未 満	333	21.9	35.1	51.7	3.0
	3 歳 以 上	217	－	7.4	88.9	3.7
母親の就労状況 別	フルタイム	128	－	12.5	82.0	5.5
	パート等	195	4.6	11.8	82.1	3.1
	休業中	92	30.4	48.9	33.7	3.3
	非就労	138	26.1	35.5	52.2	1.4
保育状況別	幼稚園	86	－	8.1	88.4	3.5
	保育園	241	0.8	11.2	83.4	4.6
	認定こども園	3	－	－	100.0	－
	事業所内保育施設	13	7.7	30.8	61.5	7.7
	その他	9	－	11.1	88.9	－
	未利用者	201	34.8	46.8	35.8	1.5
地区別	高雄	249	17.3	18.5	67.5	2.8
	山那	7	14.3	28.6	71.4	－
	小淵	4	－	－	100.0	－
	南山名	39	10.3	28.2	64.1	5.1
	斎藤	54	13.0	27.8	68.5	1.9
	高木	35	8.6	45.7	51.4	－
	柏森	163	9.2	26.4	67.5	4.3

② 利用回数

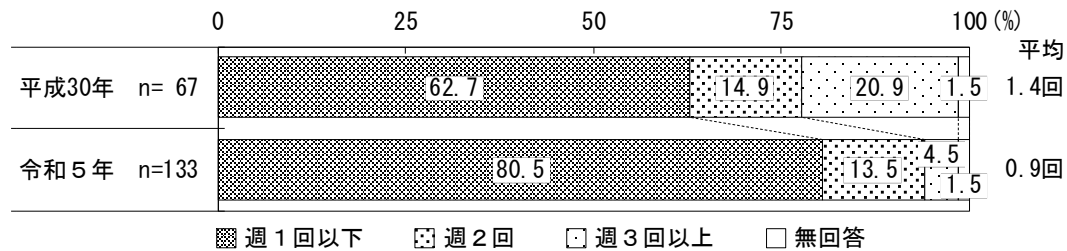
①の「にこにこらんど」「すくすくらんど」の利用者に、その利用頻度をたずねたところ、いずれも「週1回以下」が70%以上を占めています。1週当たりの平均利用回数は、にこにこらんどが1.0回、すくすくらんどが0.9回です。平成30年との比較では、にこにこらんどは、「週2回」「週3回以上」が高くなり、1週当たりの平均利用回数が0.2回増加しています。すくすくらんどは「週1回以下」が17.8ポイント高くなり、1週当たりの平均利用回数が0.5回減少しています。

図表1-57 利用回数（回／週）

■にこにこらんど（高雄保育園内）



■すくすくらんど（斎藤保育園内）

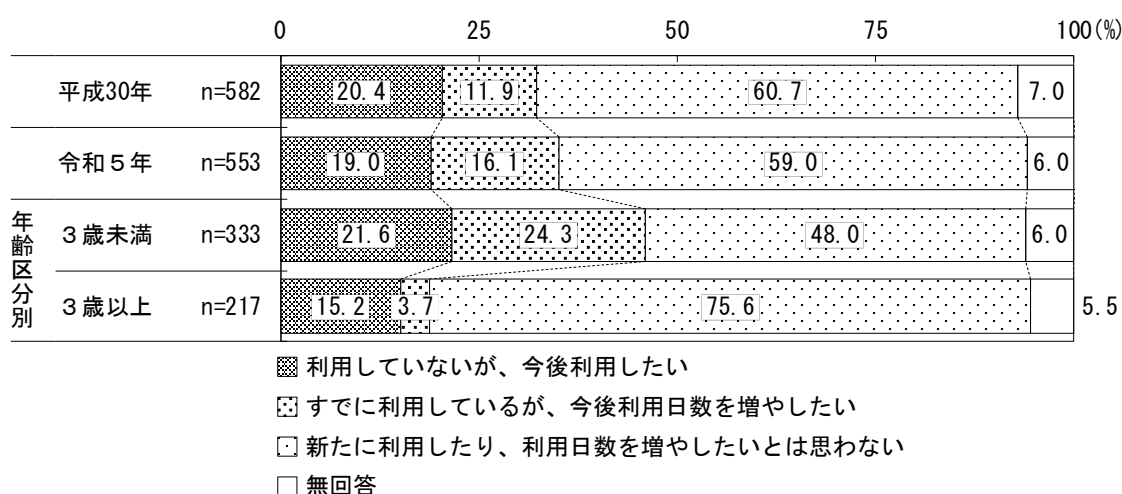


(2) 地域子育て支援センターの利用意向

① 利用意向

地域子育て支援センターの利用意向をたずねたところ、「利用していないが、今後利用したい」は19.0%、「すでに利用しているが、今後利用日数を増やしたい」は16.1%です。平成30年との比較では、「すでに利用しているが、今後利用日数を増やしたい」が4.2ポイント高くなっています。

図表 1-58 地域子育て支援センターの利用意向

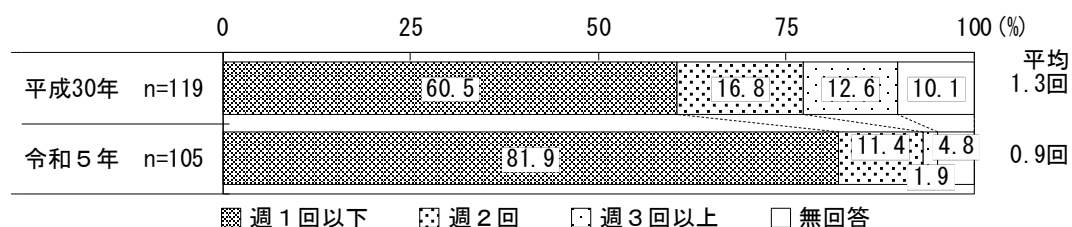


② 利用したい回数

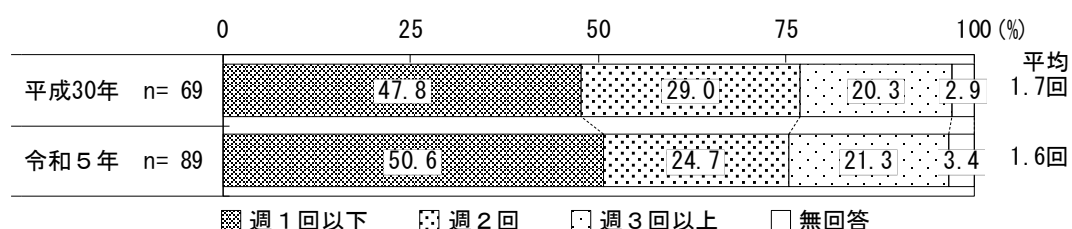
①で、利用意向のあった回答者に利用したい回数をたずねたところ、未利用者が今後利用したい回数は平均0.9回、すでに利用している人が今後増やしたい回数は平均1.6回です。

図表 1-59 利用したい回数

■利用していない人（利用したい回数）



■すでに利用している人（増やしたい回数）



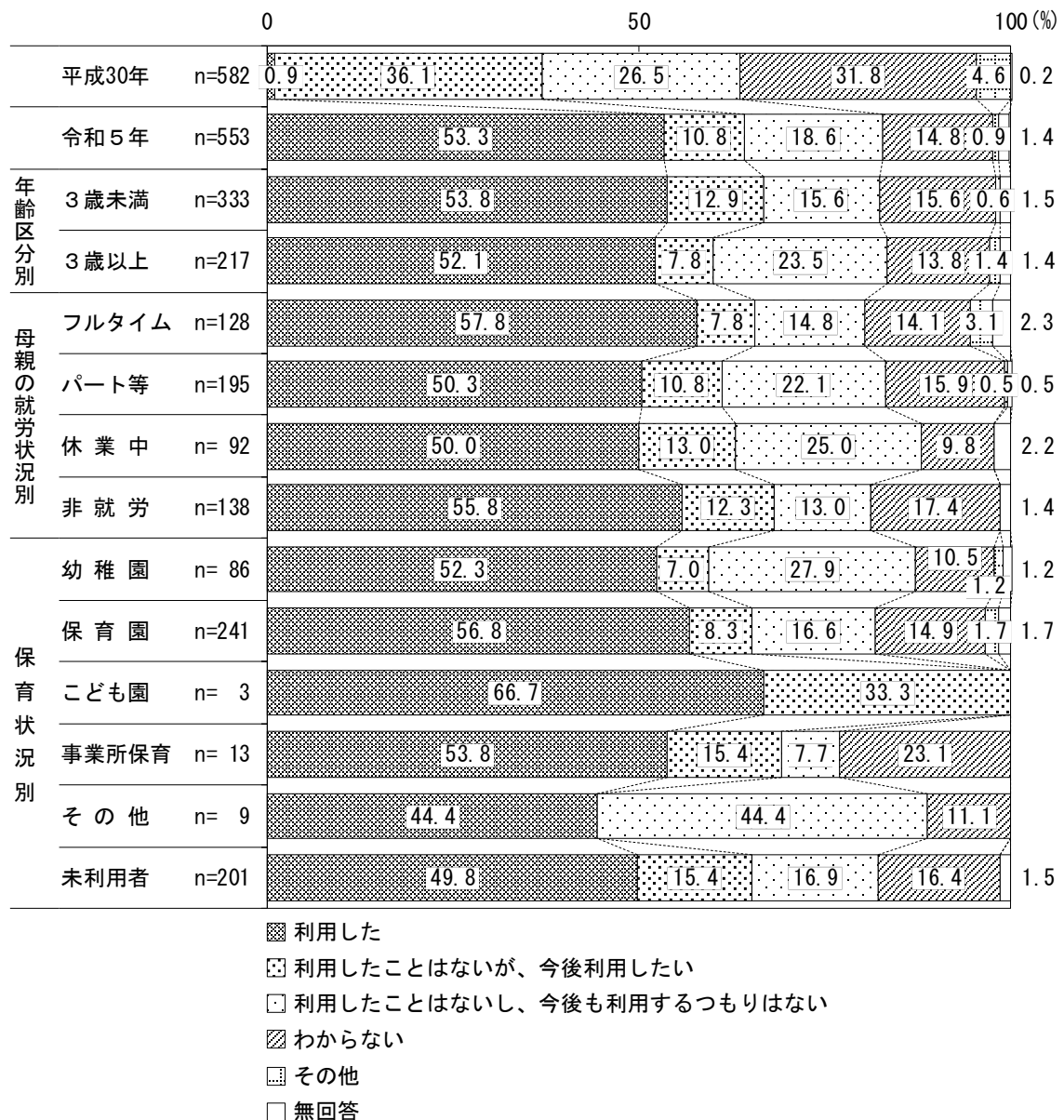
(3) 子育て世代包括支援センターの利用

平成30年4月にオープンした、妊娠期から出産、子育て期までの総合相談窓口となる子育て世代包括支援センターを利用したことがあるかたずねたところ、「利用した」が53.3%と最も高く、次いで「利用したことはないし、今後も利用するつもりはない」が18.6%などの順となっています。オープンして間もない時期であった平成30年と比較して、「利用した」が急激に上昇しています。

「利用した」は、年齢区分別では3歳未満、母親の就労状況別ではフルタイム、保育状況別では基数の少ないこども園を除くと保育園が高くなっています。

「その他」として、「町外から転入したので、扶桑町ではない」（5件）という記載がありました。

図表1-60 子育て世代包括支援センターの利用



(4) その他の子育て支援事業

① 保育園の園庭開放

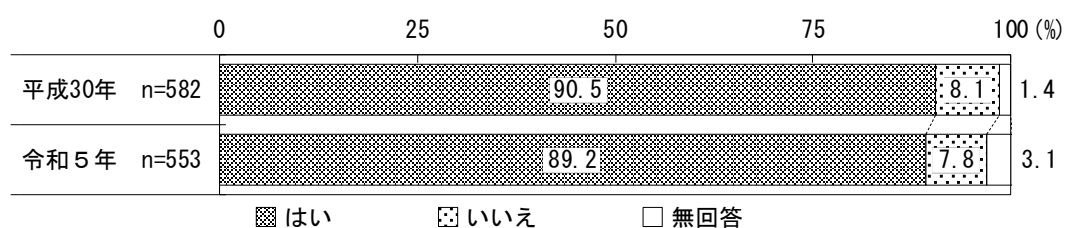
保育園の園庭開放の認知度は89.2%と非常に高くなっています。平成30年との比較では、1.3ポイント低下しています。

利用経験では、32.7%が利用したことがあると回答しており、平成30年との比較では、7.2ポイント低下しています。

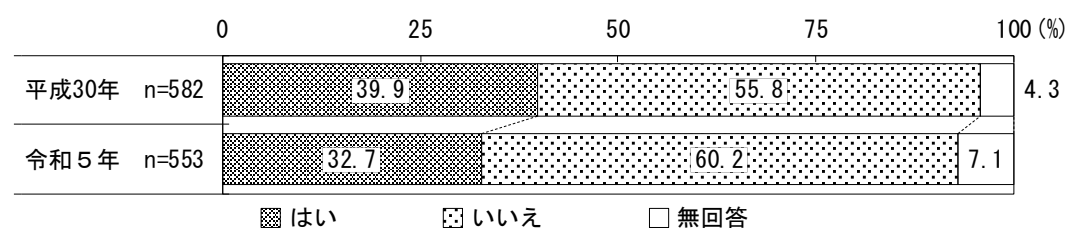
利用意向では、「はい（ある）」が37.3%となっています。平成30年との比較では、11.3ポイント低下しています。

図表 1-61 保育園の園庭開放の認知度、利用経験、利用意向

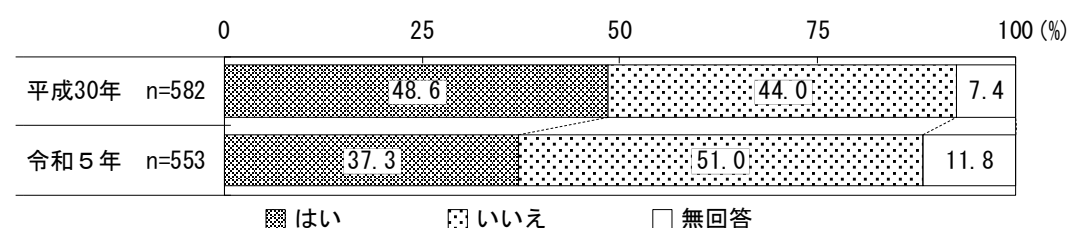
■認知度



■利用経験



■利用意向



② 育児サークル

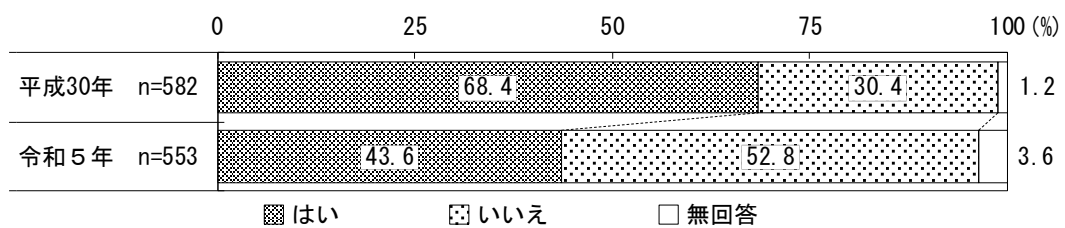
育児サークルの認知度は43.6%となっており、平成30年との比較では、24.8ポイント低下しています。

利用経験では、12.1%が利用したことがあると回答しており、平成30年との比較では、5.1ポイント低下しています。

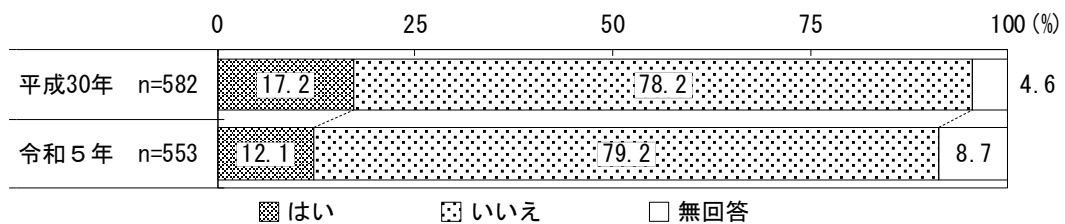
利用意向では、「はい（ある）」が22.8%となっています。平成30年との比較では、3.3ポイント低下しています。

図表 1-62 育児サークルの認知度、利用経験、利用意向

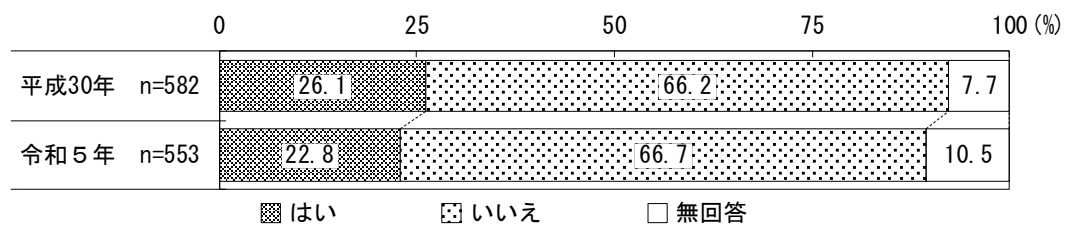
■認知度



■利用経験



■利用意向



③ 児童相談

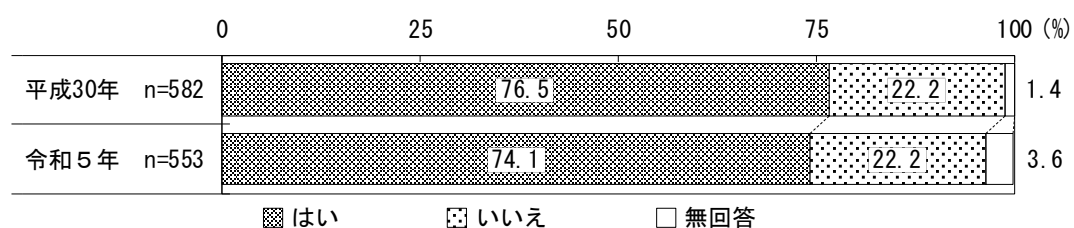
児童相談の認知度は74.1%となっており、平成30年との比較では、2.4ポイント低下しています。

利用経験では、20.4%が利用したことがあると回答しており、平成30年との比較では、3.7ポイント上昇しています。

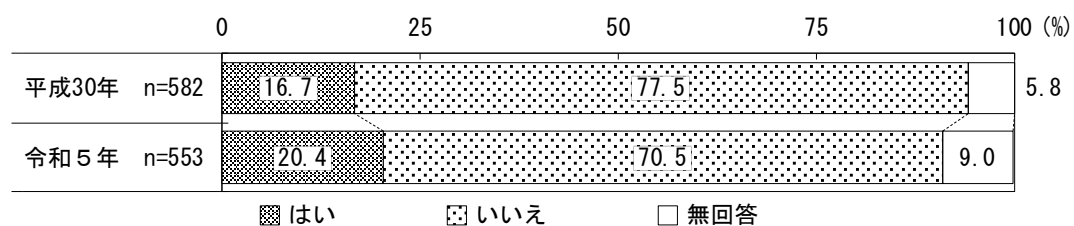
利用意向では、「はい（ある）」が42.5%となっています。平成30年との比較では、1.6ポイント上昇しています。

図表 1－63 児童相談の認知度、利用経験、利用意向

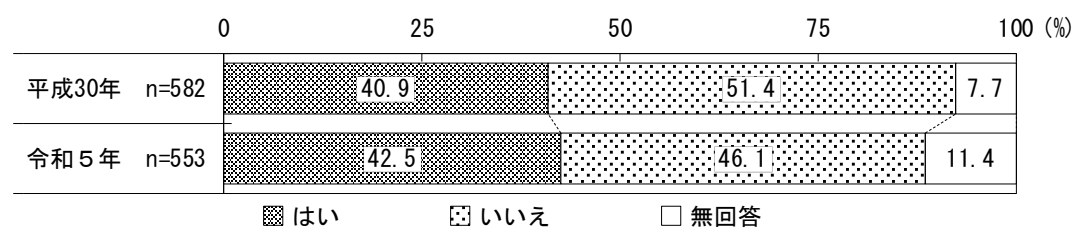
■認知度



■利用経験



■利用意向



④ 保健センターの情報・相談

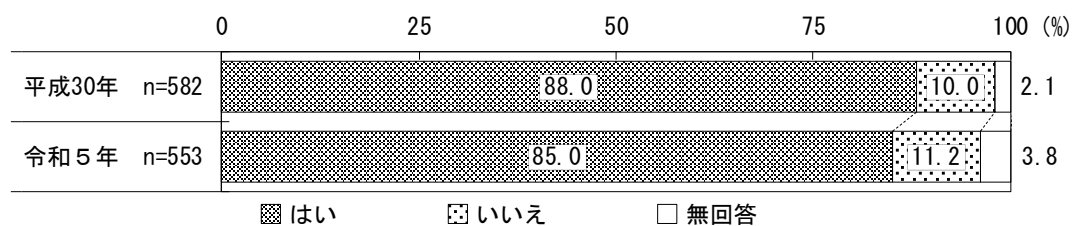
保健センターの情報・相談の認知度は85.0%と非常に高くなっているものの、平成30年との比較では3ポイント低下しています。

利用経験では、利用したことがある人は48.1%となっており、平成30年から大きな変化はありません。

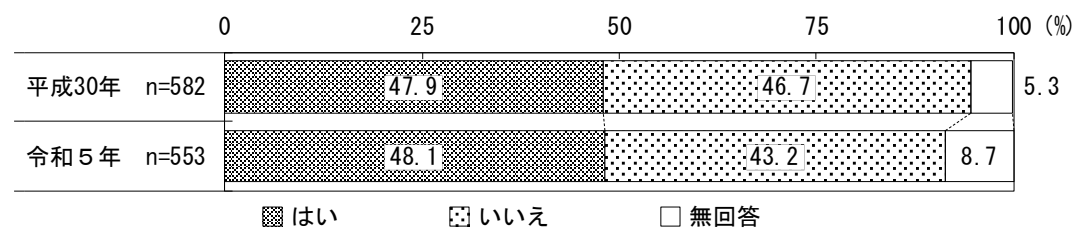
利用意向では、「はい（ある）」が51.0%となっています。平成30年との比較では、3.8ポイント低下しています。

図表 1-64 保健センターの情報・相談の認知度、利用経験、利用意向

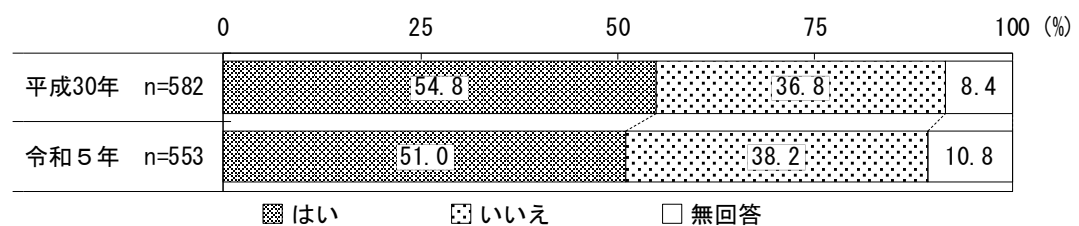
■認知度



■利用経験



■利用意向



⑤ 児童遊園

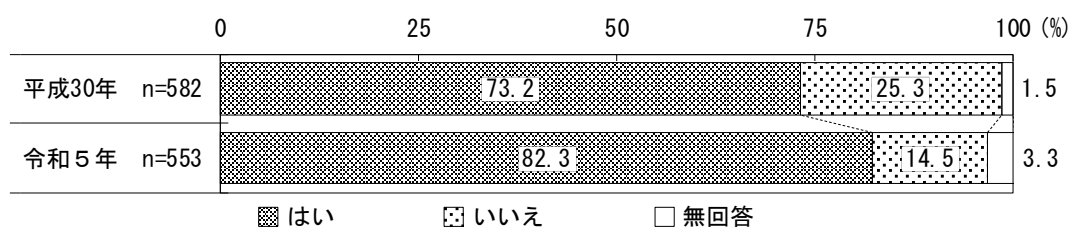
児童遊園の認知度は82.3%と、平成30年から9.1ポイント高くなっています。

利用経験では、70.2%が利用したことがあると回答しており、平成30年との比較では、7.8ポイント高くなっています。

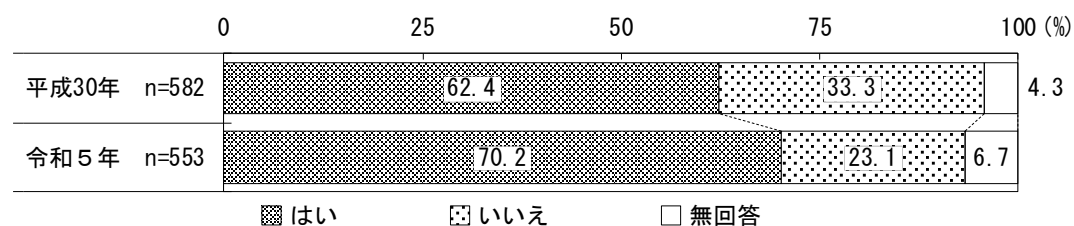
利用意向では、「はい（ある）」が78.3%となっています。平成30年との比較では、4.7ポイント低下しています。

図表 1－65 児童遊園の認知度、利用経験、利用意向

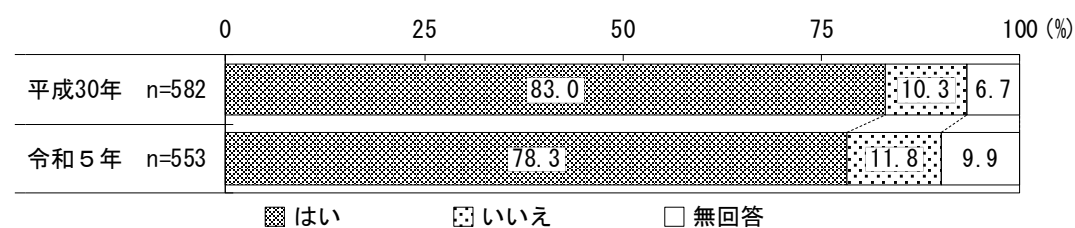
■認知度



■利用経験



■利用意向



⑥ シルバー人材センターのベビーシッター

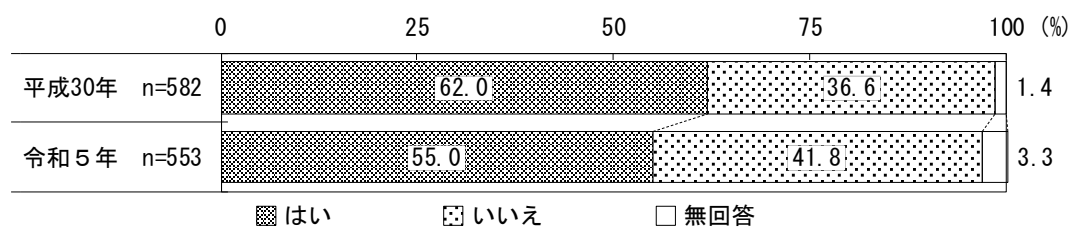
シルバー人材センターのベビーシッターの認知度は55.0%となっており、平成30年から7ポイント低下しています。

利用経験では、「はい（ある）」が2.2%と非常に低くなっているものの、平成30年との比較では1.7ポイント高くなっています。

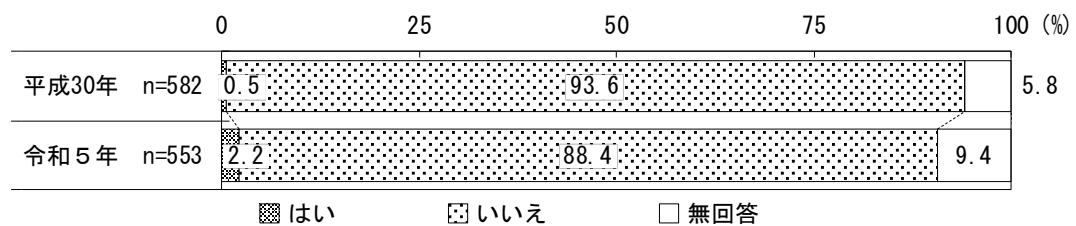
利用意向では、「はい（ある）」が17.7%となっており、平成30年から大きな変化はありません。

図表 1-66 シルバー人材センターのベビーシッターの認知度、利用経験、利用意向

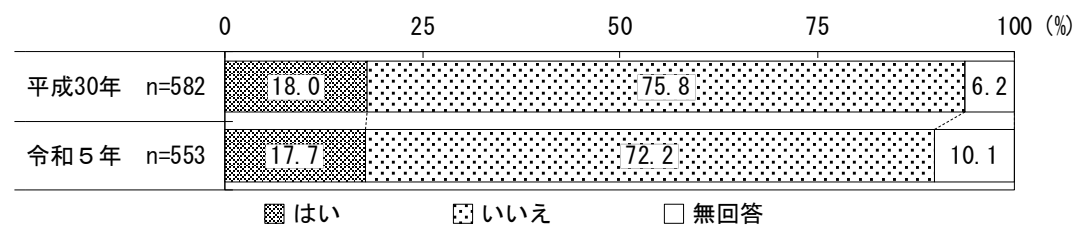
■認知度



■利用経験



■利用意向



⑦ こころろルーム

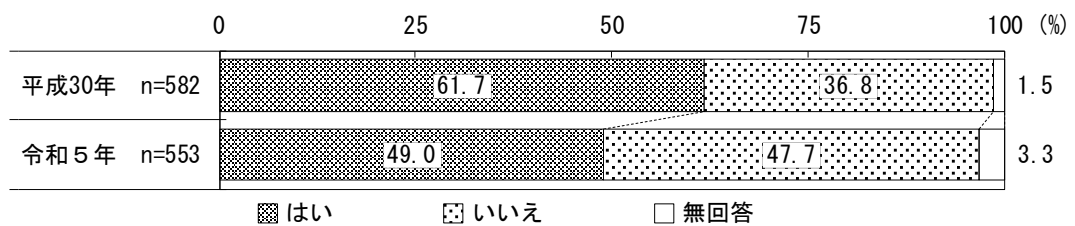
こころろルームの認知度は49.0%となっており、平成30年から12.7ポイント低下しています。

利用経験では、「はい（ある）」が5.6%にとどまっています。平成30年との比較では2.8ポイント低くなっています。

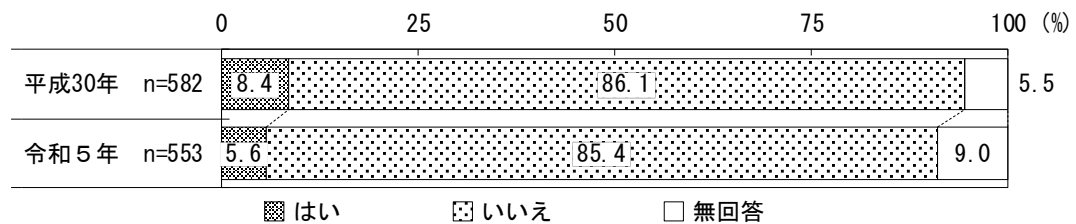
利用意向では、「はい（ある）」が20.4%となっており、平成30年との比較では6.4ポイント低くなっています。

図表1-67 こころろルームの認知度、利用経験、利用意向

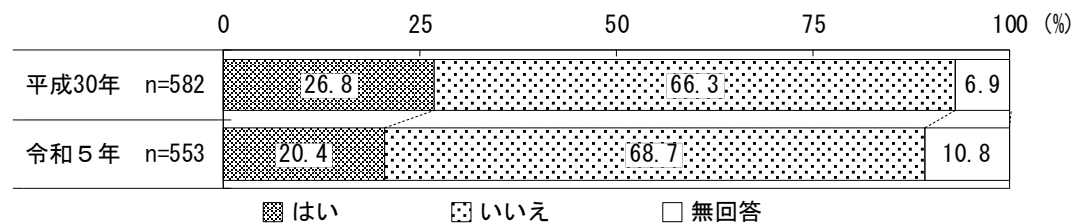
■認知度



■利用経験



■利用意向



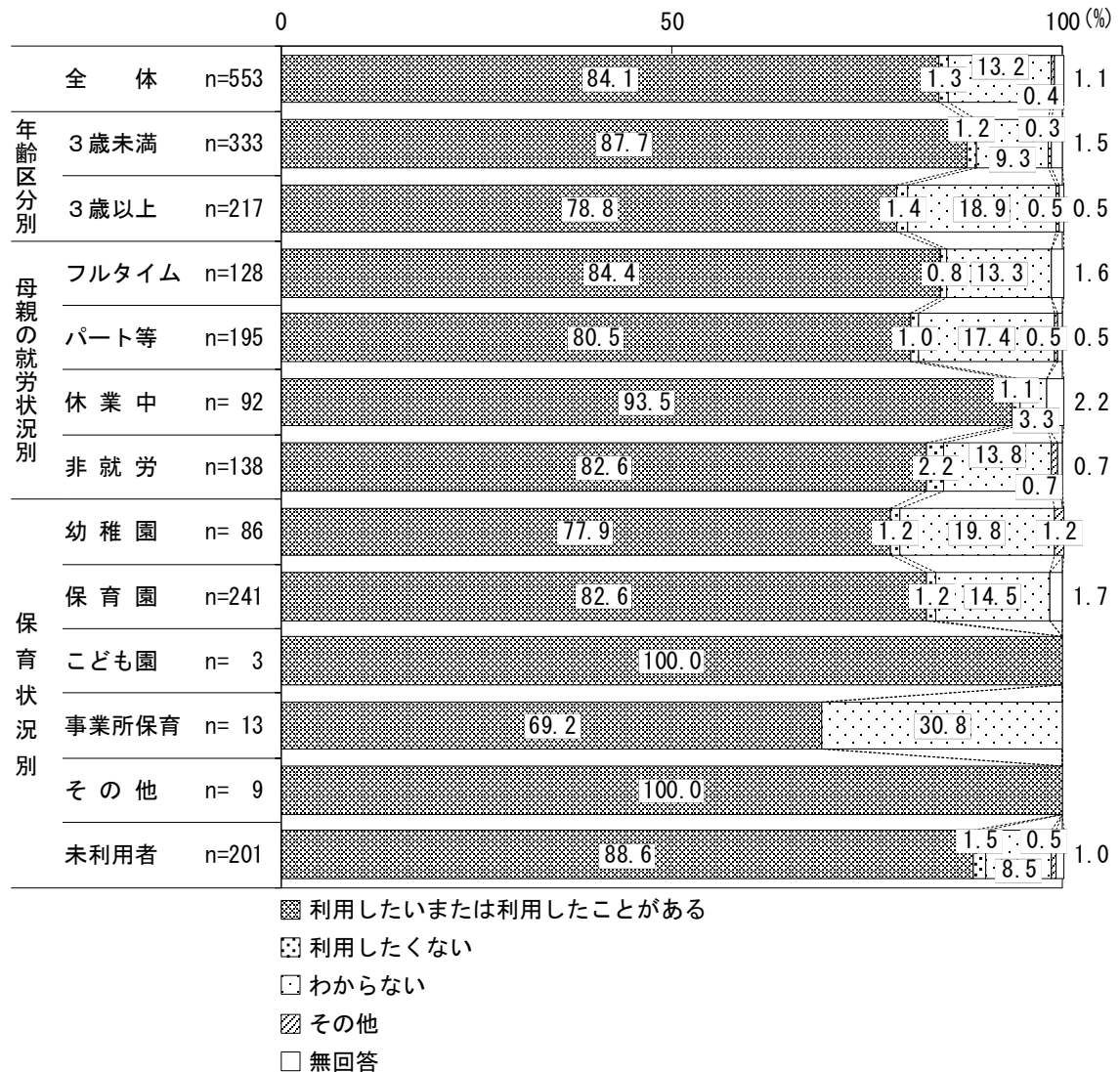
(5) 扶桑町児童センターひまわりの利用意向

令和5年4月に扶桑中学校の隣接地に開館した、遊び・学習の場と遊びの提供をして、児童が心身ともに健やかに成長するための施設である「扶桑町児童センターひまわり」の利用意向をたずねたところ、「利用したいまたは利用したことがある」が84.1%を占めています。

「利用したいまたは利用したことがある」は、年齢区分別では3歳未満、母親の就労状況別では休業中、保育状況別では基数の少ないこども園およびその他を除くと未利用者が高くなっています。

「その他」として、「利用するメリットを感じない。きょうだいで活用できない」、「ひまわりよりも自宅から近い子育て支援センターを利用する」という記載がありました。

図表1-68 扶桑町児童センターひまわりの利用意向



6 休日・長期休業期間中の定期的な教育・保育事業

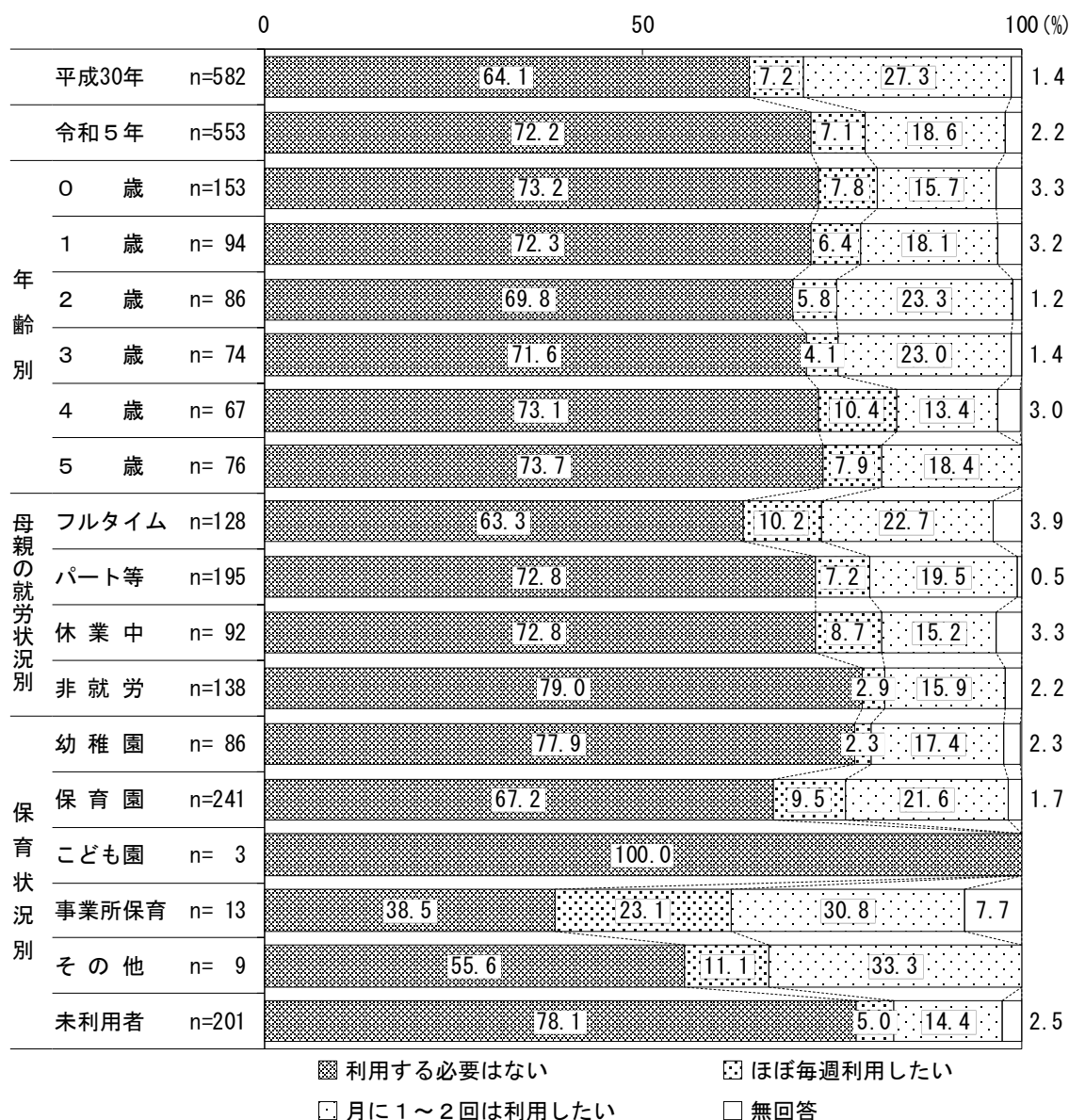
(1) 土曜日の定期的な教育・保育事業

① 利用意向

土曜日の定期的な教育・保育事業については、「利用する必要はない」が72.2%となっています。「ほぼ毎週利用したい」（7.1%）と「月に1～2回は利用したい」（18.6%）を合計した利用意向は25.7%です。平成30年との比較では、「利用する必要はない」が8.1ポイント上昇しています。

利用意向は、年齢別では2歳、母親の就労状況別ではフルタイム、保育状況別では事業所内保育が高くなっています。

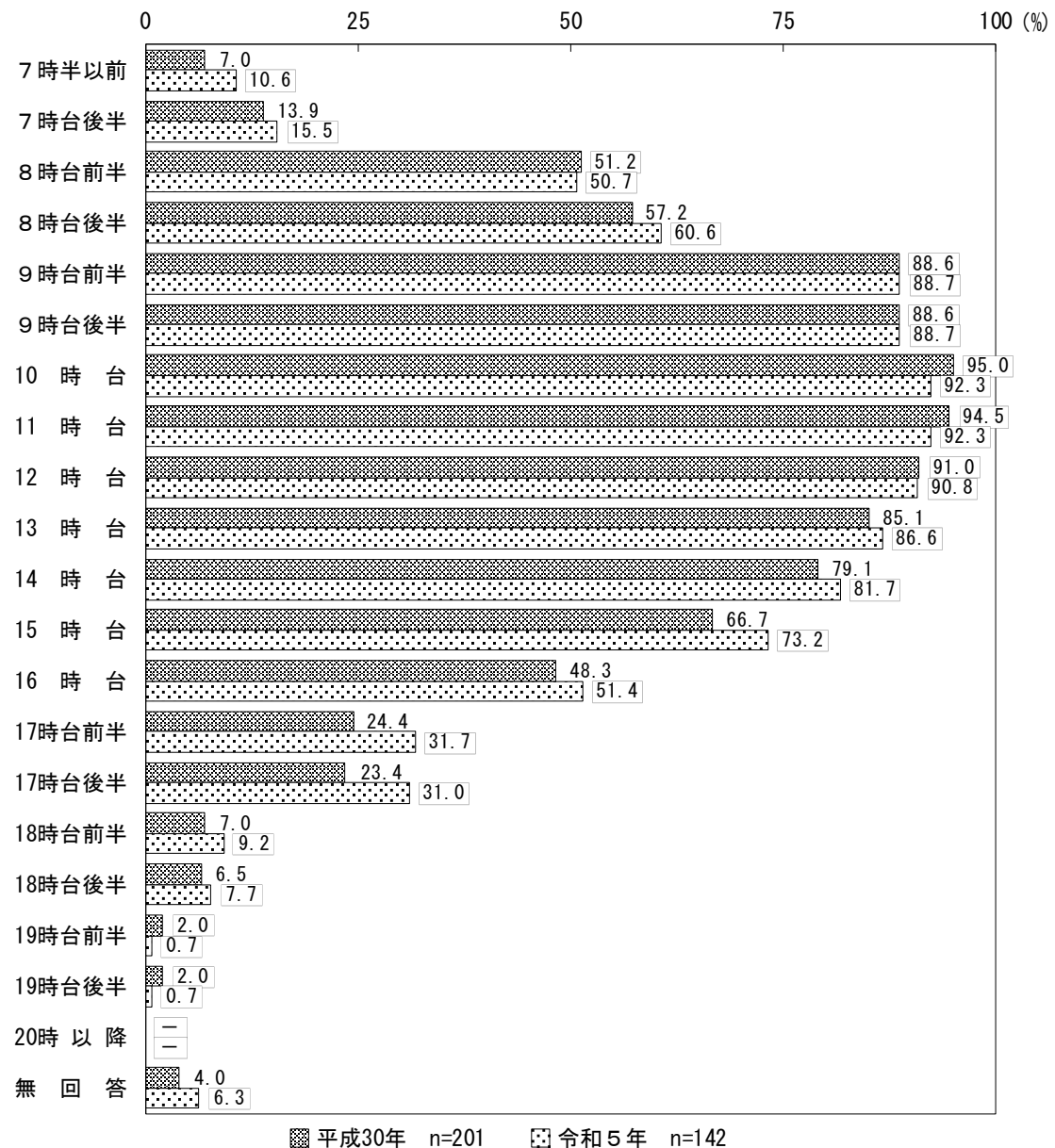
図表 1-69 土曜日の定期的な教育・保育事業の利用意向



② 利用希望時間帯

土曜日の定期的な教育・保育事業の利用希望時間帯は、8時台前半から50%以上となり、9時台前半～14時台までは80%以上となっています。その後徐々に低下し、最も遅い時間帯は19時後半となっています。平成30年との比較では、7時台以前、8時台後半および13時台から18時台後半で高くなっています。

図表 1－70 利用希望時間帯（土曜日）



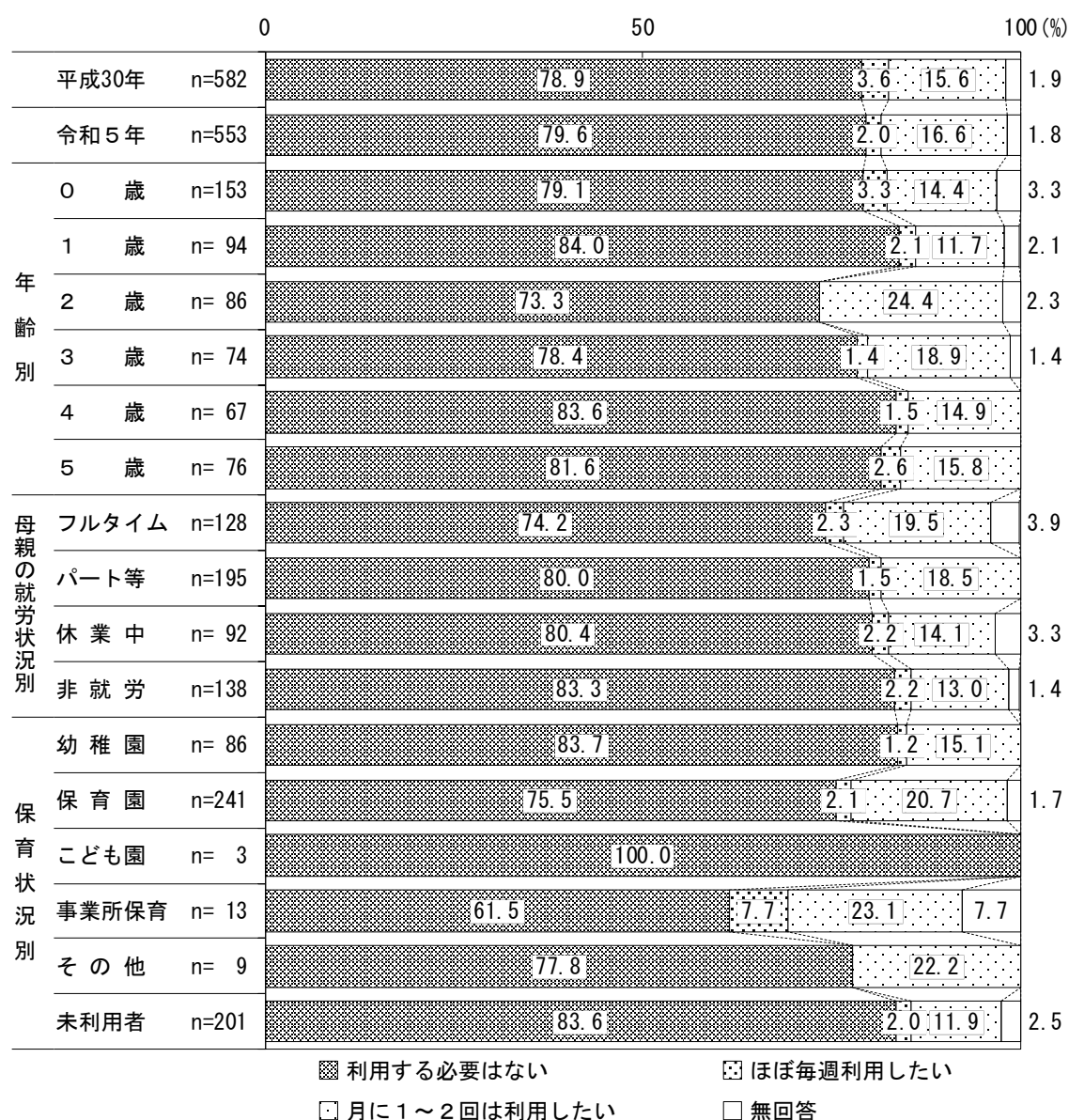
(2) 日曜日・祝日の定期的な教育・保育事業

① 利用意向

日曜日・祝日の定期的な教育・保育事業については、「利用する必要はない」が79.6%を占めています。「ほぼ毎週利用したい」（2.0%）と「月に1～2回は利用したい」（16.6%）を合計した利用意向は18.6%です。平成30年から大きな変化はありません。

利用意向は、年齢別では2歳、母親の就労状況別ではフルタイムおよびパート等、保育状況別では事業所内保育が高くなっています。

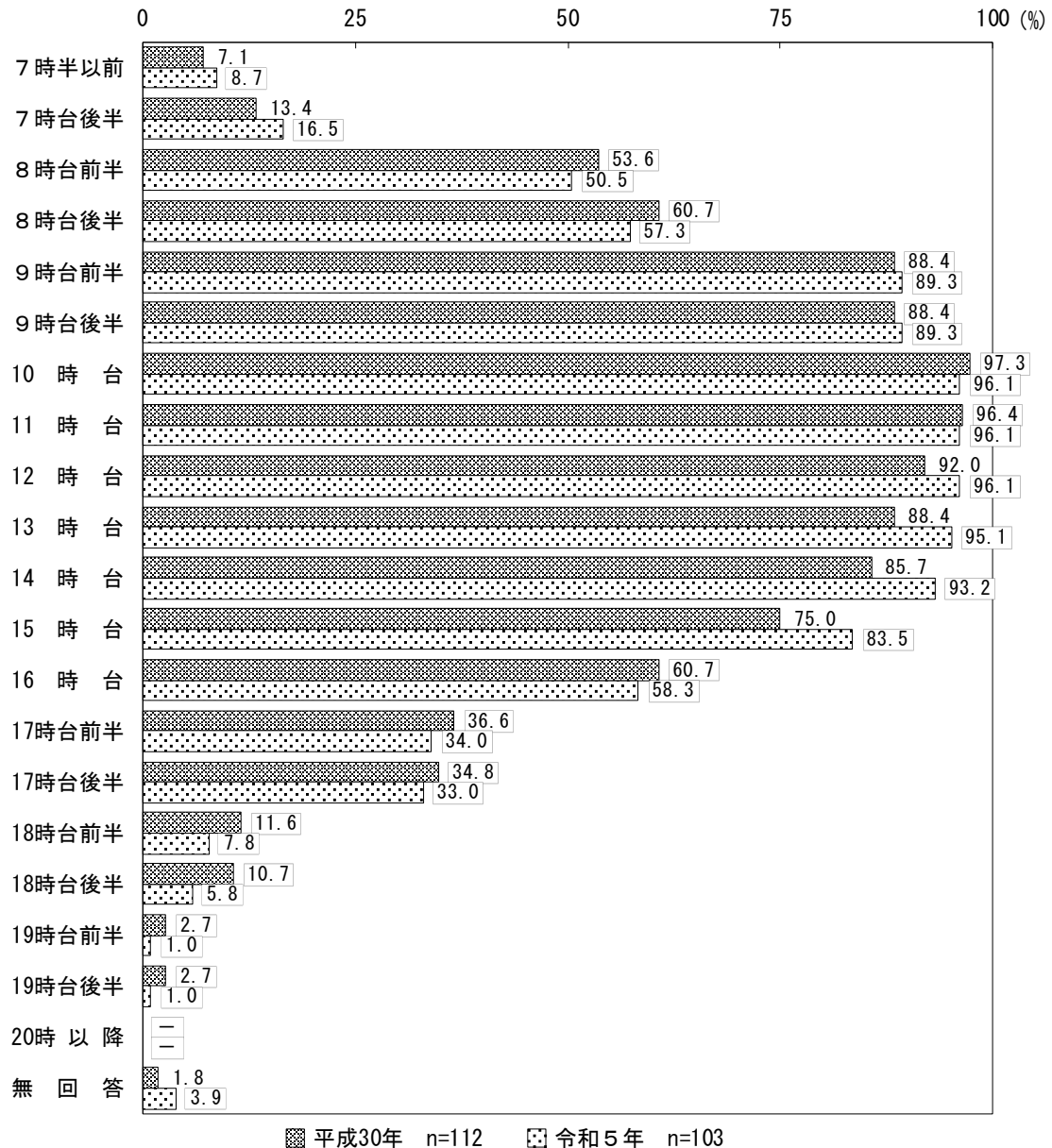
図表 1-71 日曜日・祝日の定期的な教育・保育事業の利用意向



② 利用希望時間帯

日曜日・祝日の定期的な教育・保育事業の利用希望時間帯は、8時台前半から50%を超え、10時台から14時台は90%以上となっています。15時台から徐々に低下し、17時台後半には33.0%となっています。平成30年との比較では、7時台以前、9時台および12時台から15時台で高くなっています。

図表1-72 利用希望時間帯（日曜日・祝日）

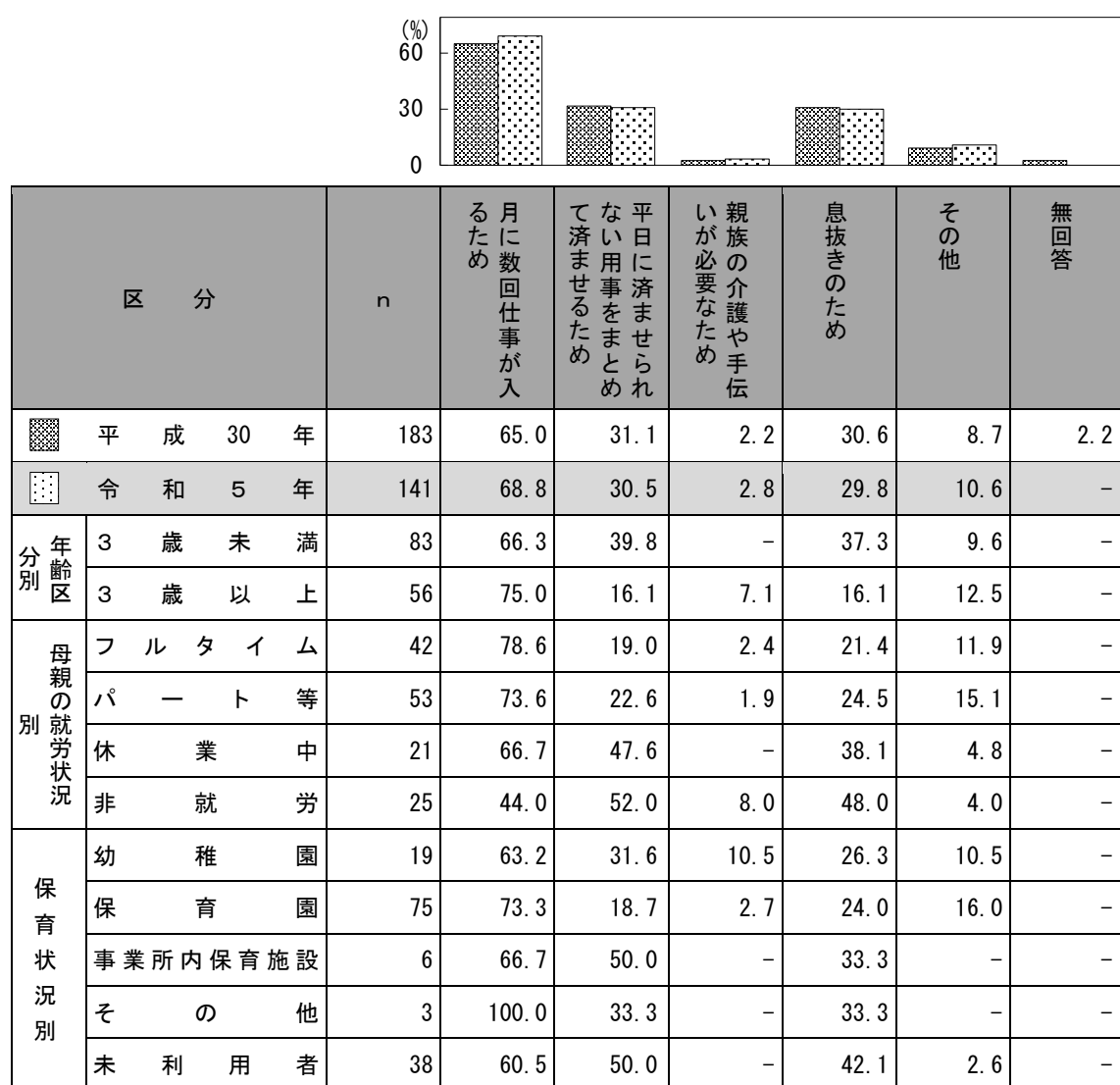


(3) 休日に定期的な教育・保育事業をたまに利用したい理由

休日に定期的な教育・保育事業を「月に1～2回は利用したい」と答えた人に、毎週ではなくたまに利用したい理由をたずねたところ、「月に数回仕事が入るため」が68.8%と最も高く、次いで「平日に済ませられない用事をまとめて済ませるため」が30.5%、「息抜きのため」が29.8%などの順となっています。平成30年と比べ、「月に数回仕事が入るため」が3.8ポイント上昇しています。

「その他」として、図表1-74の内容が記載されていました。

図表1-73 休日に定期的な教育・保育事業をたまに利用したい理由（複数回答） 単位：nは人、他は%



（注）保育状況別において、休日に定期的な教育・保育事業を「月に1～2回は利用したい」と回答した認定こども園の利用者はいませんでした。

図表1-74 休日に定期的な教育・保育事業をたまに利用したい理由（複数回答、その他）

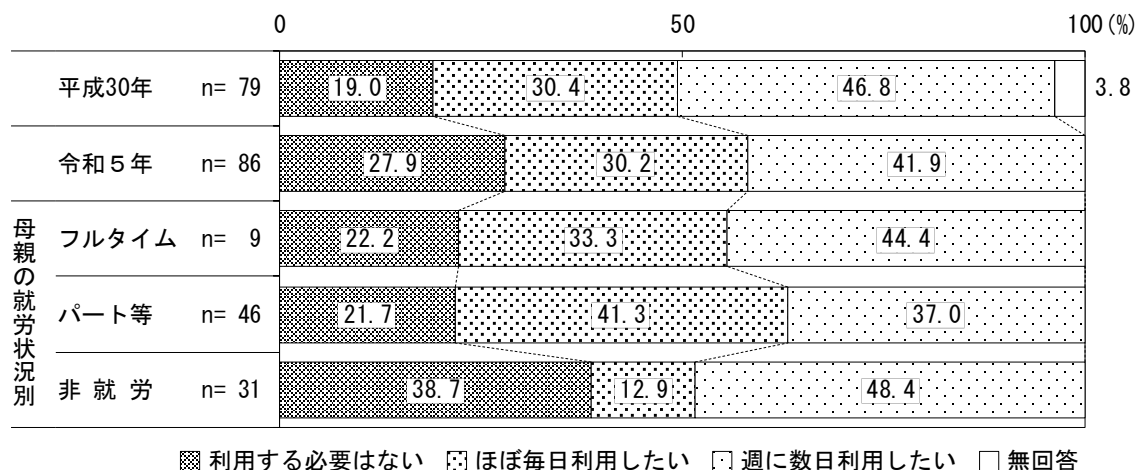
・祝日が休みでないため（7件）	・長期連休時に仕事に行けないため
・祝日も父親は仕事に行くため	・事業のため
・土曜は原則勤務のため	・畑仕事
・土曜出勤があった時だけ利用したい	・病気のとき
・平日にできない仕事を片付けるため	・子どもと家にいるより楽しそうだから

(4) 長期休業期間中の定期的な教育・保育事業（幼稚園利用者）

① 利用意向

幼稚園の利用者に、夏休み・冬休みなど長期の休業期間中における教育・保育事業についてたずねたところ、「週に数日利用したい」が41.9%と最も高く、「ほぼ毎日利用したい」（30.2%）と合計した利用意向は72.1%です。平成30年との比較では、「利用する必要はない」が8.9ポイント高くなっています。

図表 1－75 長期休業期間中の定期的な教育・保育事業の利用意向（幼稚園利用者）

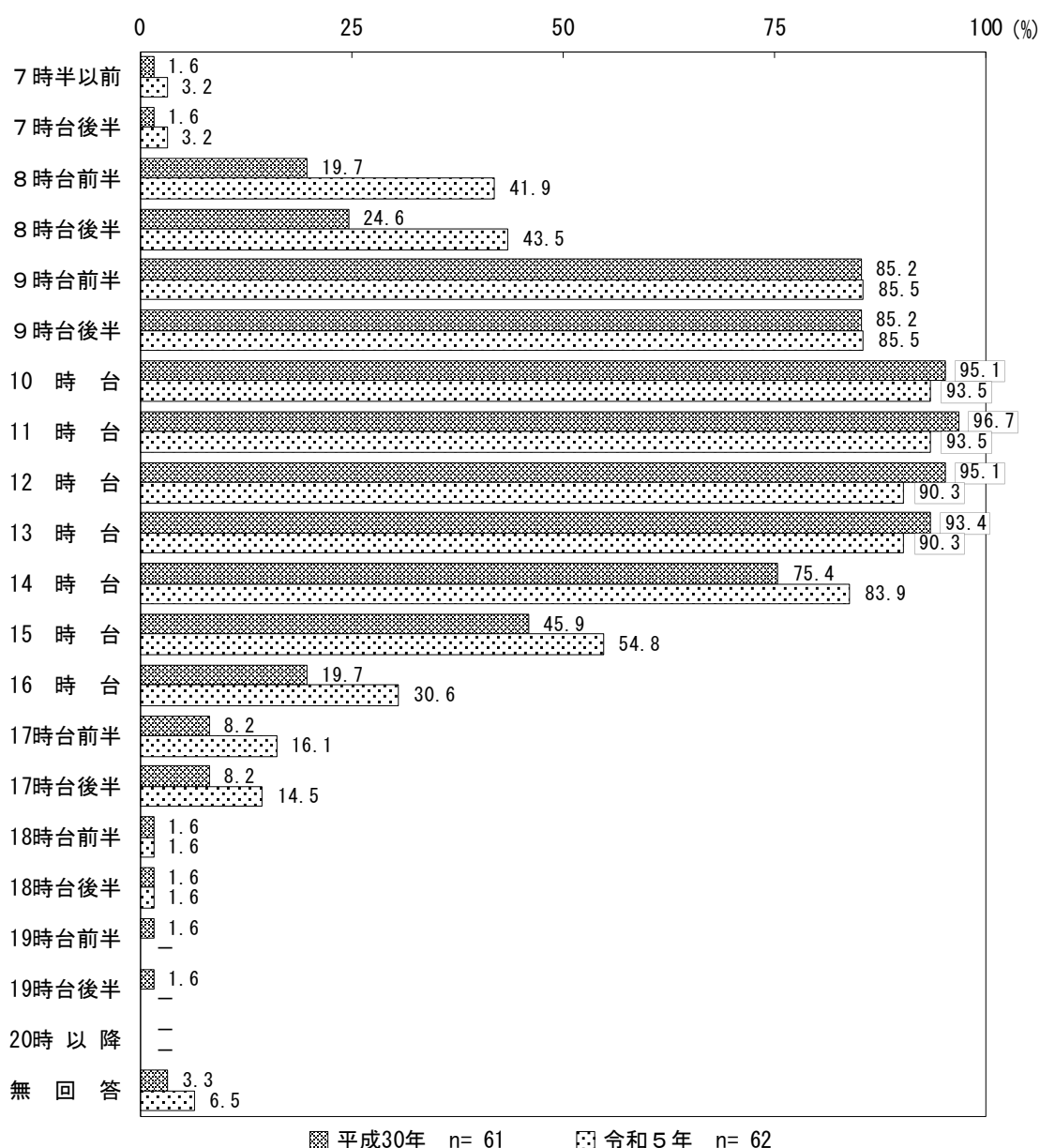


（注）母親の就労状況別において、幼稚園を利用している休業中の人はいませんでした。

② 利用希望時間帯

長期休業期間中における教育・保育事業の利用希望時間帯は、8時台に40%以上になり、9時台には85%を超えています。10時台から13時台までは90%以上となり、14時台以降は徐々に低下しています。平成30年との比較では、8時台以前および14時台から17時台後半まで高くなっており、特に8時台は20ポイント程度高くなっています。

図表1-76 利用希望時間帯（幼稚園利用者、長期休業期間中）

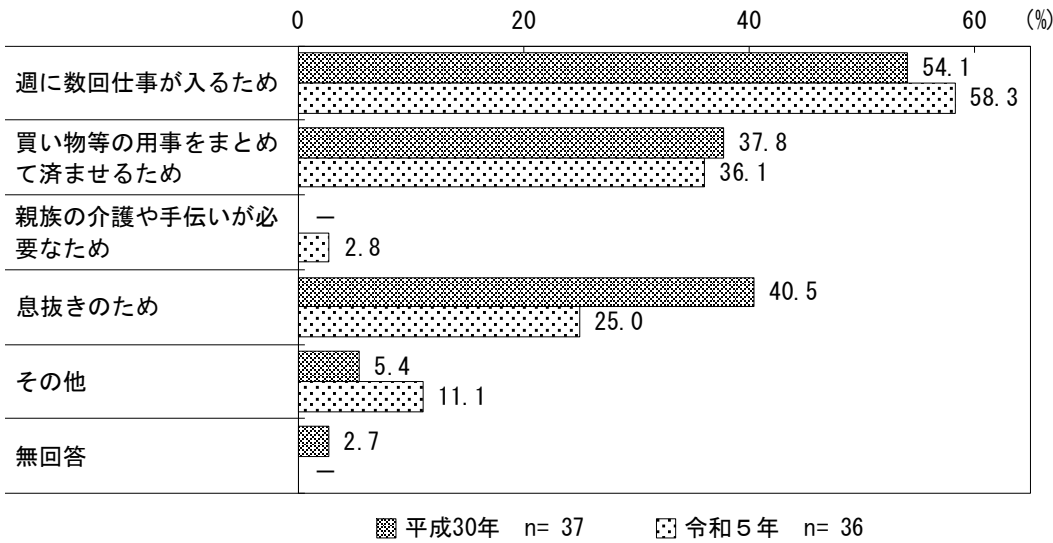


③ たまに利用したい理由

①で、「週に数日利用したい」と答えた人にその理由をたずねたところ、「週に数回仕事が入るため」が58.3%と最も高く、次いで「買い物等の用事をまとめて済ませるため」が36.1%、「息抜きのため」が25.0%などとなっています。平成30年との比較では、「息抜きのため」が15.5ポイント低下しています。

「その他」として、図表1-78の内容が記載されていました。

図表1-77 長期休業期間中に教育・保育事業を「週に数日利用したい」理由（複数回答）



図表1-78 長期休業期間中に教育・保育事業を「週に数日利用したい」理由（複数回答、その他）

- ・費用がかかるため（2件）
- ・祖父母に頼めないときに利用したい
- ・子どもを連れて行けない用事のため
- ・子どもの発達のため、子ども同士の関わりを持たせたいから
- ・今後パートを始めるときに利用したい

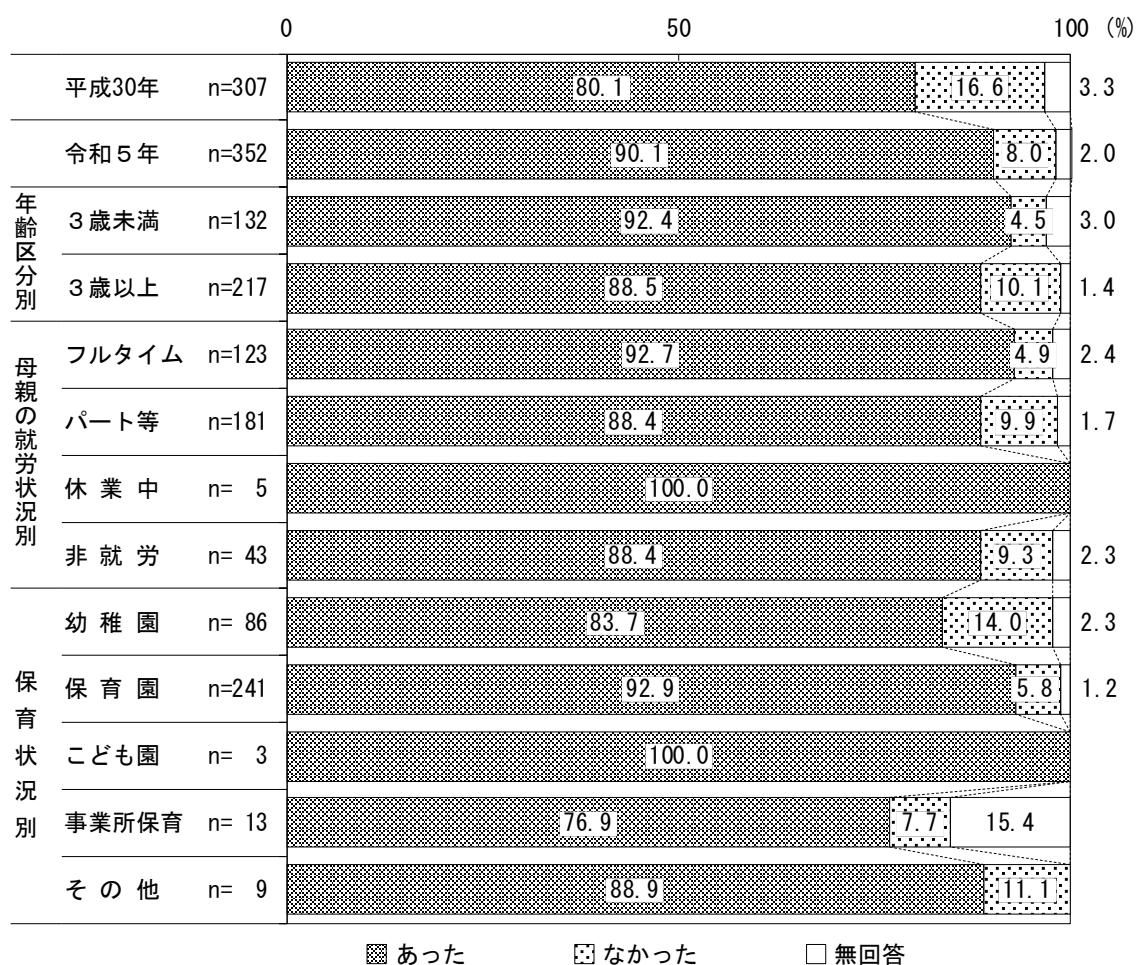
7 子どもが病気の際の対応

(1) 子どもが病気等で教育・保育事業を利用できなかったことの有無

平日の教育・保育事業を利用している人に、「この1年間に、あて名のお子さんが病気やケガで普段利用している幼稚園や保育園が利用できなかったこと」があるかをたずねたところ、「あった」が90.1%、「なかった」が8.0%となっています。平成30年との比較では「あった」が10ポイント高くなっていますが、これは新型コロナウイルス感染症の影響が考えられます。

年齢区分別にみると、「あった」は3歳未満が3歳以上に比べ高くなっています。

図表1-79 子どもが病気等で教育・保育事業を利用できなかったことの有無



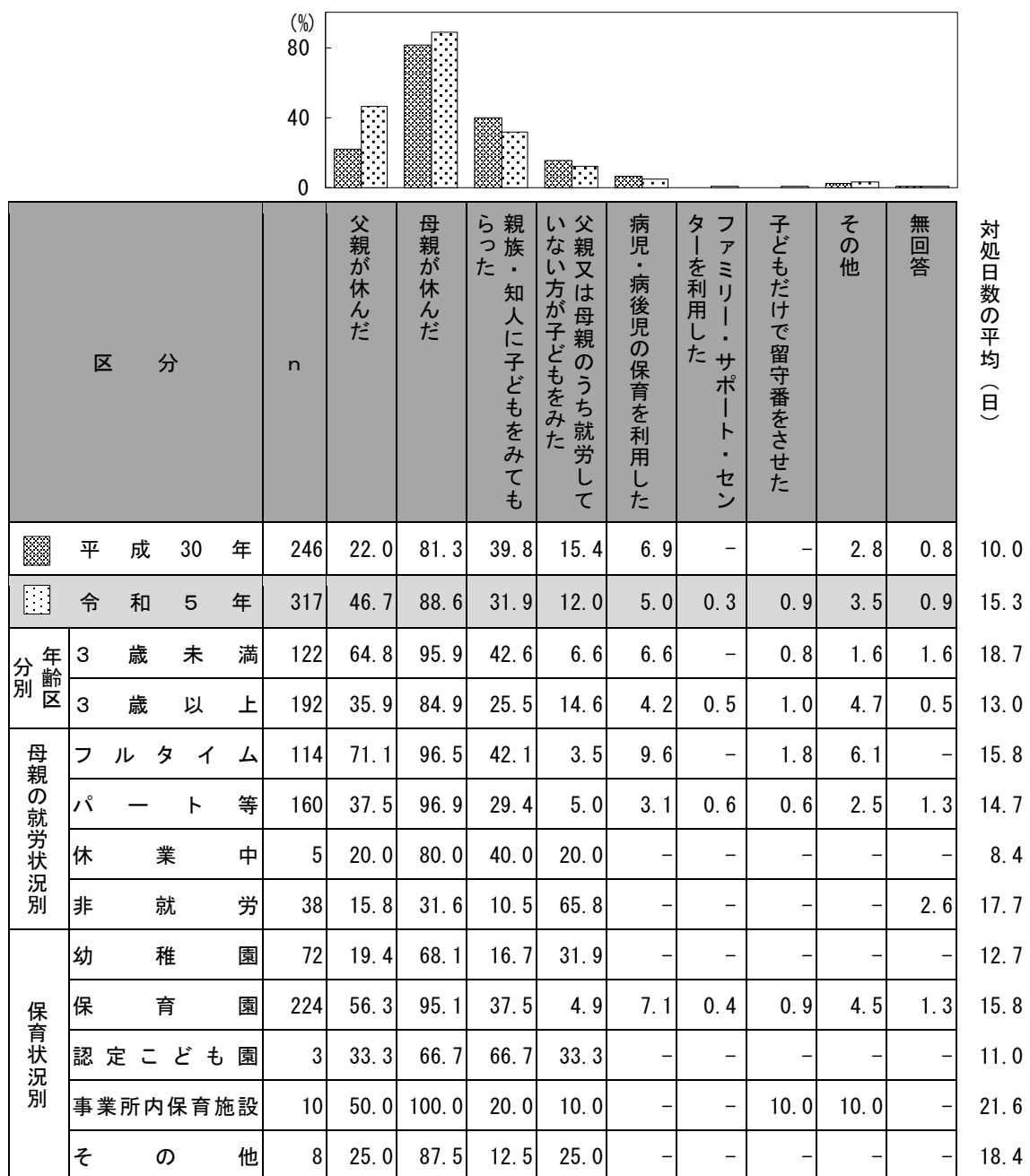
(2) 利用できなかった時の対処法

子どもが病気等で教育・保育事業を利用できなかった時の対処法については、「母親が休んだ」が88.6%と突出して高く、次いで「父親が休んだ」が46.7%、「親族・知人に子どもをみてもらった」が31.9%などの順となっています。対処が必要だった日数の平均は15.3日です。平成30年との比較では、「父親が休んだ」が24.7ポイントと大幅に上昇しています。

「その他」として、「母親か父親がリモートワーク・在宅勤務で対応」（7件）、「療育」という記載がありました。

図表1-80 利用できなかった時の対処法（複数回答）

単位：nは人、他は%



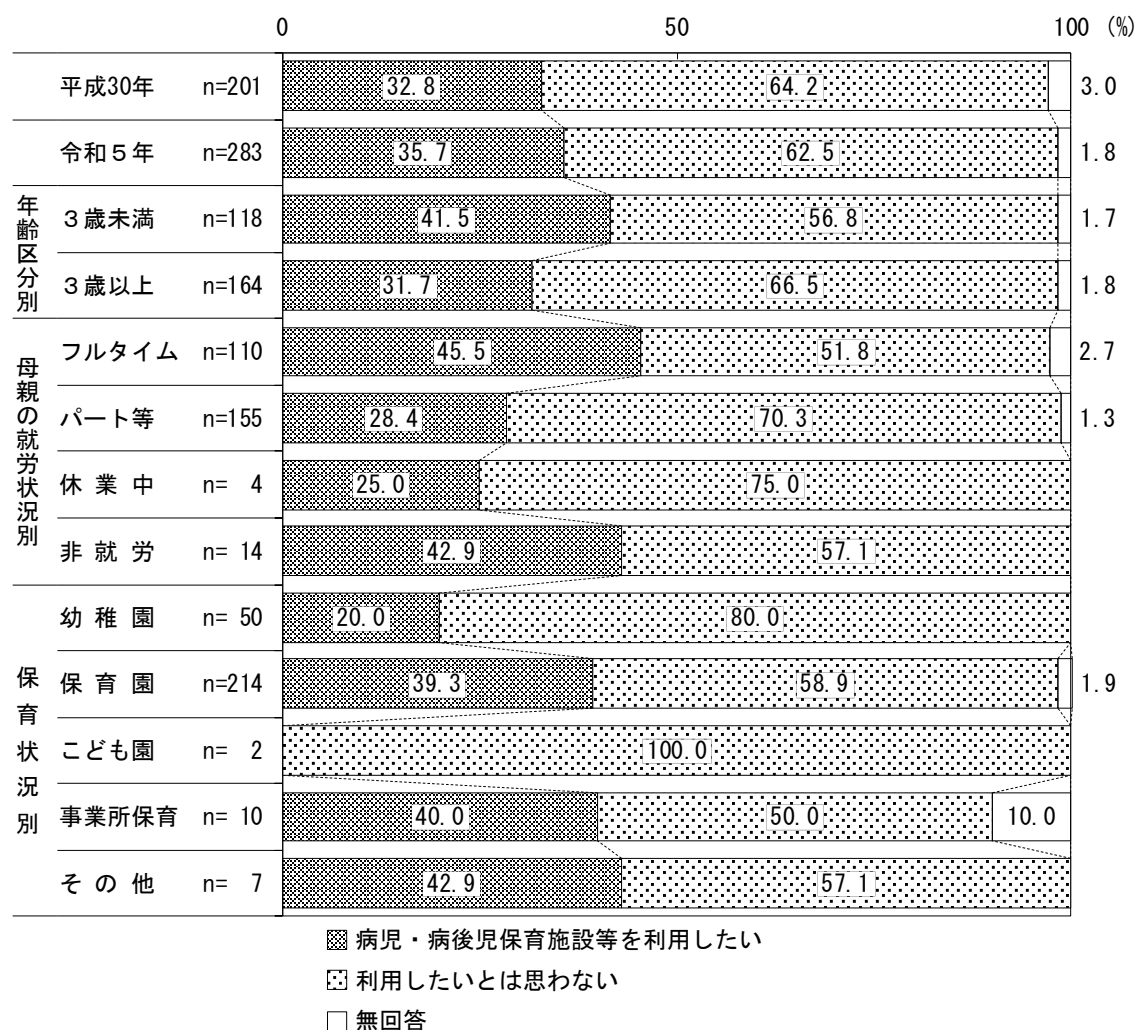
（注）「ベビーシッターを利用した」という選択肢が用意されていましたが、回答はありませんでした。

(3) 病児・病後児保育施設等の利用意向

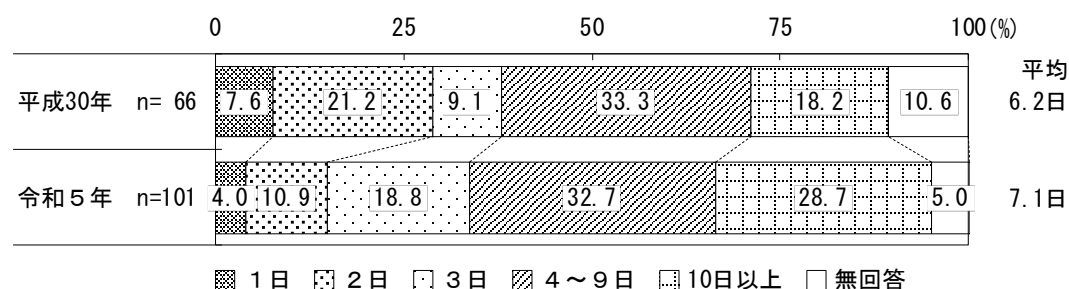
前項で、「父親が休んだ」または「母親が休んだ」と回答した人の病児・病後児保育施設等の利用意向は35.7%です。平成30年との比較では、利用意向は2.9ポイント上昇しています。

病児・病後児保育施設等の年間の利用希望日数は、「4～9日」が32.7%と最も高く、次いで「10日以上」が28.7%などの順となっており、平均は7.1日です。平成30年との比較では、平均は0.9日増加しています。

図表 1－81 病児・病後児保育施設等の利用意向



図表 1－82 病児・病後児保育施設等の年間の利用希望日数

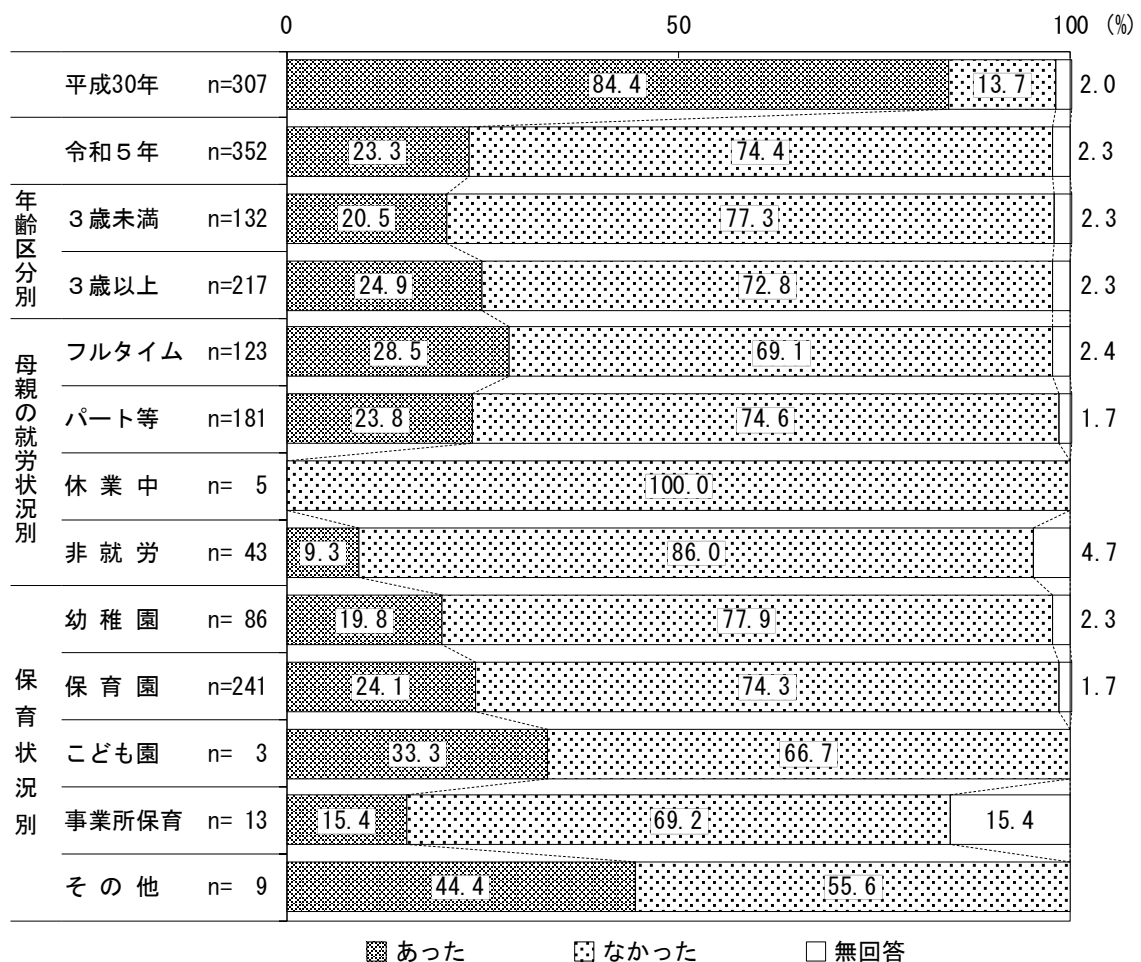


8 台風など災害時の対応

(1) 台風等で幼稚園・保育園が利用できなかったことがあったか

平日の教育・保育事業を利用している人に、「これまでに、あて名のお子さんが台風接近に伴う休園などで普段利用している幼稚園や保育園が利用できなかったこと」があるかをたずねたところ、「あった」が23.3%、「なかった」が74.4%となっています。平成30年との比較では、「あった」が大幅に低下しています。

図表 1－83 台風等で幼稚園・保育園が利用できなかったことがあったか



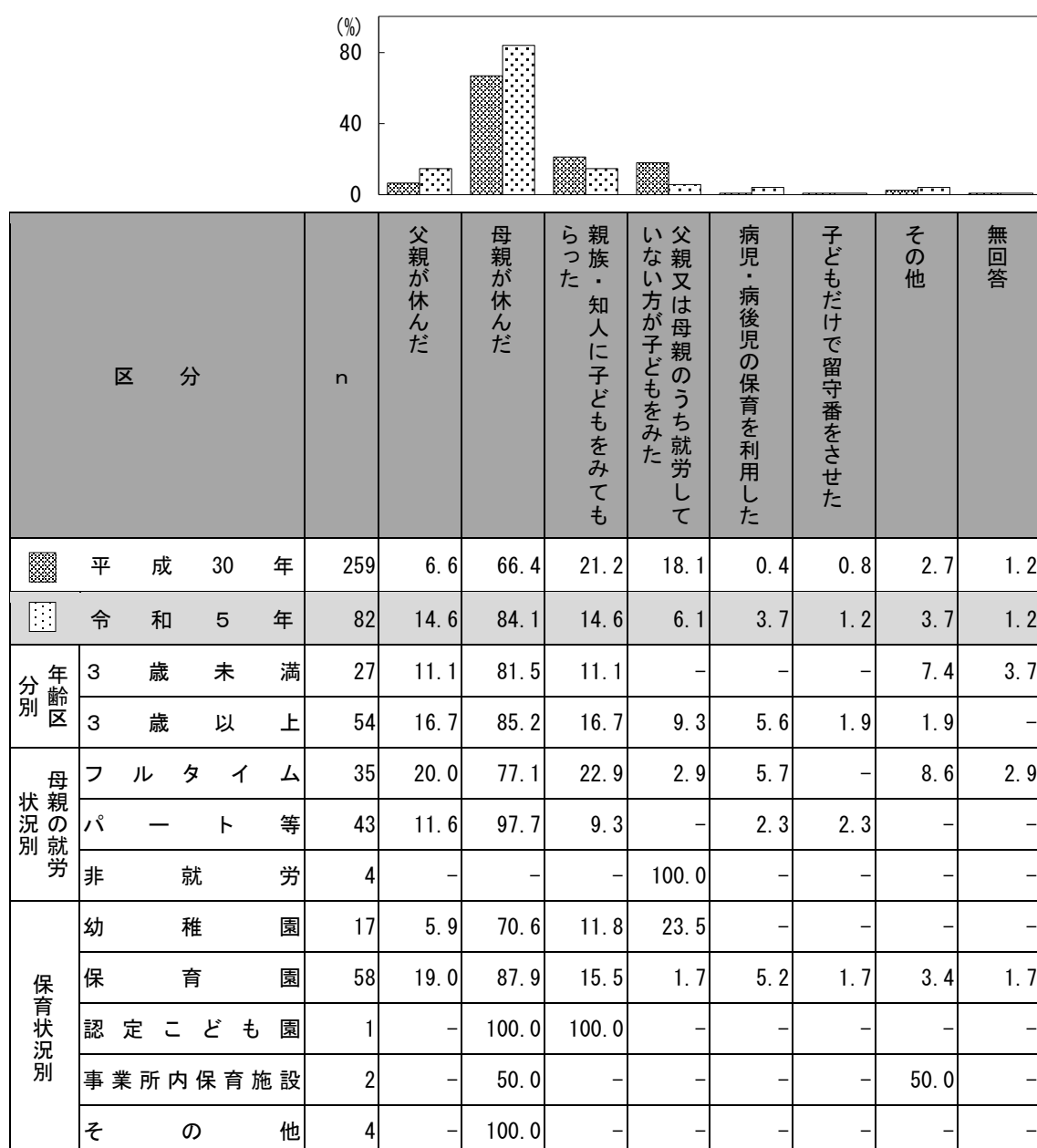
(2) 台風等で幼稚園・保育園が利用できなかった場合の対処法

子どもが台風接近などにより教育・保育事業を利用できなかった時の対処法については、「母親が休んだ」が84.1%と突出して高く、次いで「父親が休んだ」および「親族・知人に子どもをみてもらった」が14.6%などの順となっています。平成30年との比較では、「父親又は母親のうち就労していない方が子どもをみた」が12ポイント低下し、「父親が休んだ」および「母親が休んだ」が上昇しています。

「その他」として、「在宅勤務をした」（2件）などの記載がありました。

図表 1-84 台風等で幼稚園・保育園が利用できなかった場合の対処法（複数回答）

単位：nは人、他は%

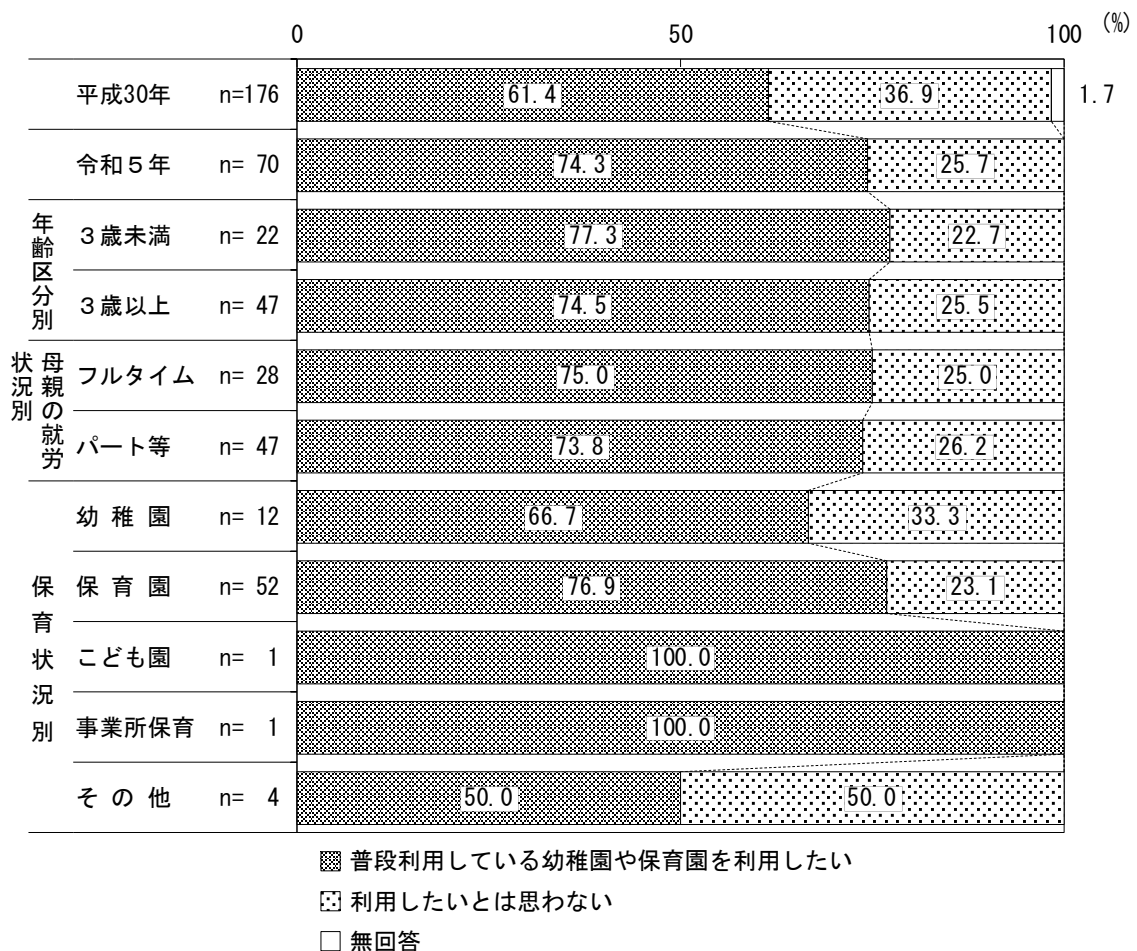


(注) 「ベビーシッターを利用した」「ファミリー・サポート・センターを利用した」という選択肢が用意されていましたが、回答はありませんでした。

(3) 台風等の休園時に幼稚園・保育園を利用したいか

(2)で「母親が休んだ」または「父親が休んだ」と回答した人に、その際、普段利用している幼稚園や保育園を利用したいと思ったかたずねたところ、「普段利用している幼稚園や保育園を利用したい」が74.3%、「利用したいとは思わない」が25.7%となっています。平成30年との比較では、「普段利用している幼稚園や保育園を利用したい」が12.9ポイント上昇しています。

図表 1-85 台風等の休園時に幼稚園・保育園を利用したいか



9 不定期の教育・保育事業や一時保育等

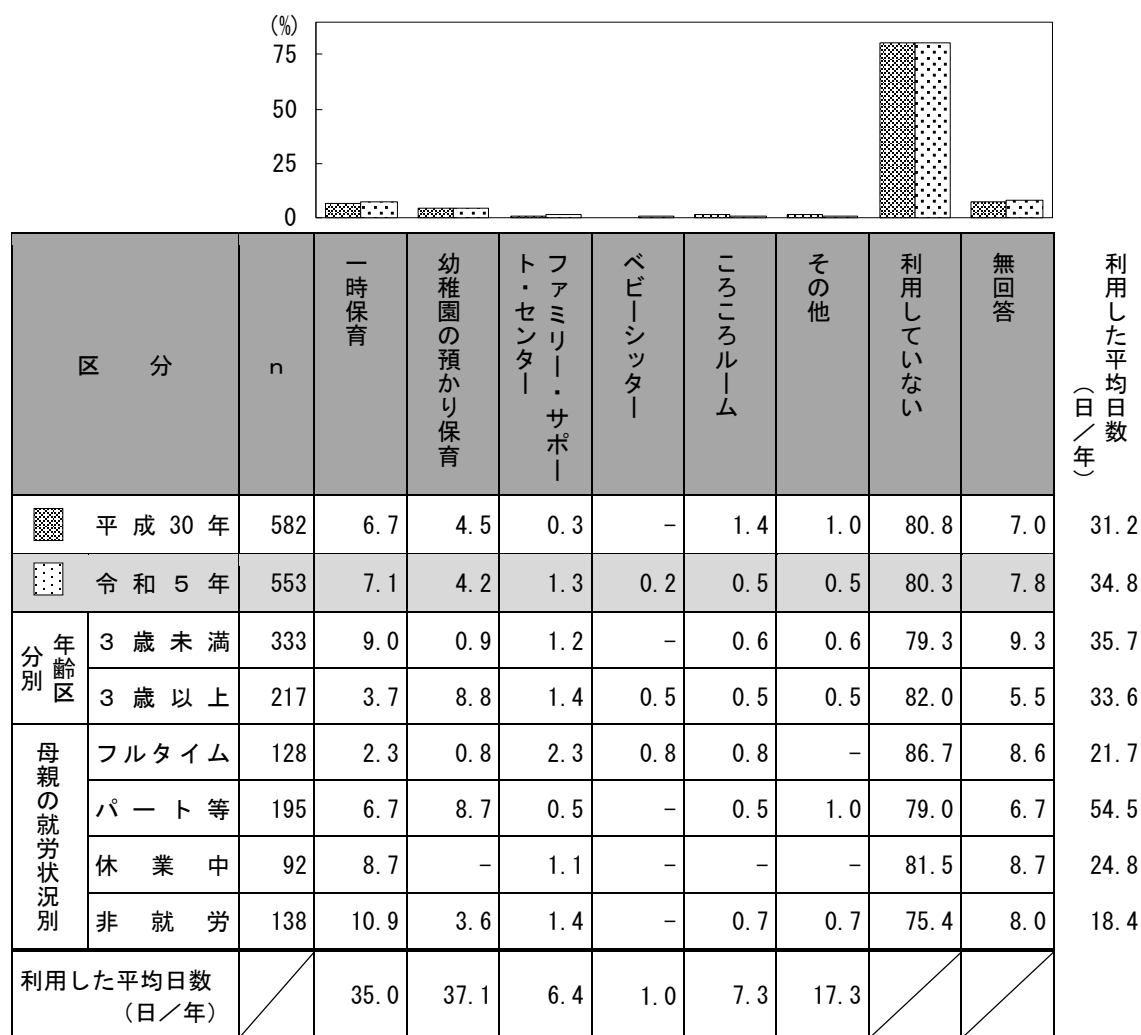
(1) 不定期の教育・保育事業等の利用経験の有無

私用、親の通院、不定期の就労等の目的で、一時的に子どもを預けられる事業の利用経験の有無をたずねたところ、「一時保育」が7.1%、「幼稚園の預かり保育」が4.2%などとなっていますが、「利用していない」が80.3%となっています。利用した平均日数は、全体では年間34.8日となっており、年齢別では3歳未満が35.7日、母親の就労状況別ではパート等が54.5日と多くなっています。平成30年との比較では、利用した平均日数は3.6日増加しています。

「その他」として、「町外の一時預かり専用の託児所」「療育施設」という記載がありました。

図表 1-86 不定期の教育・保育事業等の利用の有無（複数回答）

単位：nは人、他は%

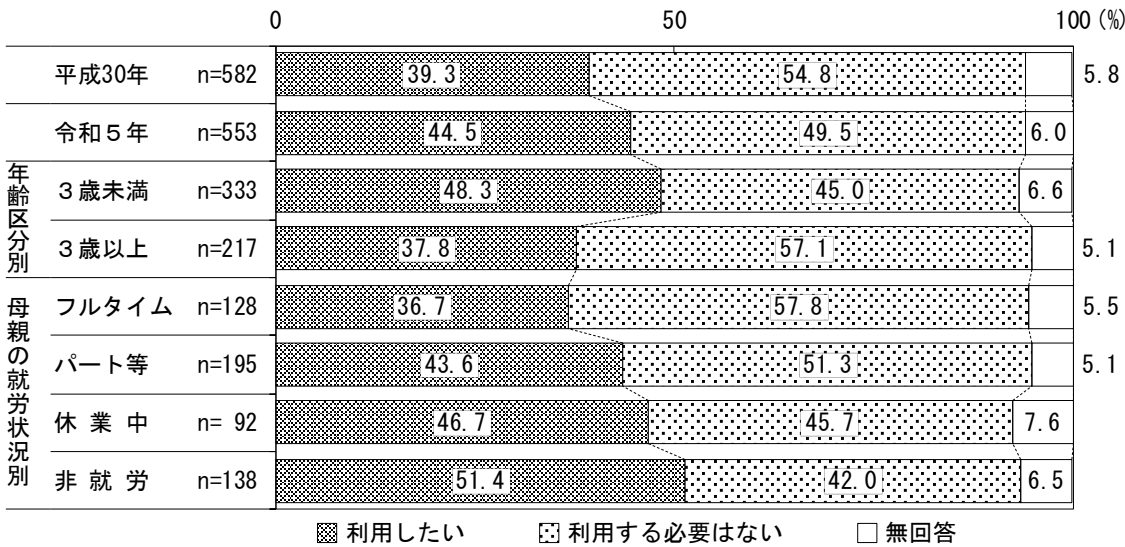


(2) 不定期の教育・保育事業等の利用意向

① 利用意向

私用、親の通院、不定期の就労等の目的で、一時的に子どもを預けられる事業の利用意向は44.5%です。母親の就労状況別の非就労が50%を超えています。

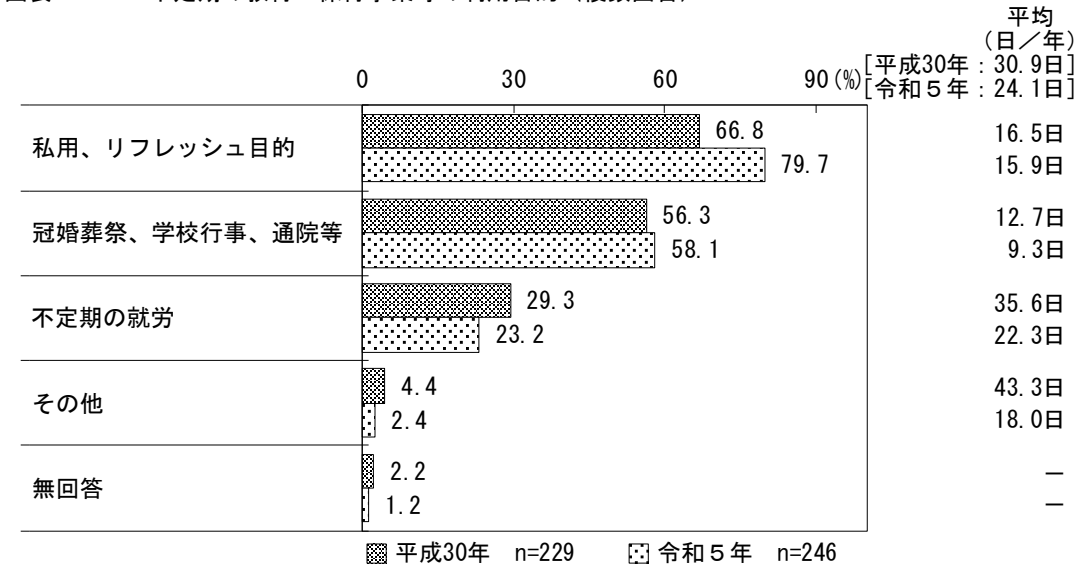
図表 1－87 不定期の教育・保育事業等の利用意向



② 利用目的

不定期の教育・保育事業等を利用したい目的は、「私用、リフレッシュ目的」が79.7%と最も高くなっています。利用したい平均日数は、「不定期の就労」が年間20日を超えています。平成30年との比較では、いずれの選択肢も平均日数が減少しています。「その他」として、「通院・出産」「出産時等の入院」「自身の体調不良」「親やきょうだいの病気等による看護のため」「緊急の場合」「精神疲労の休息」という記載がありました。

図表 1－88 不定期の教育・保育事業等の利用目的（複数回答）

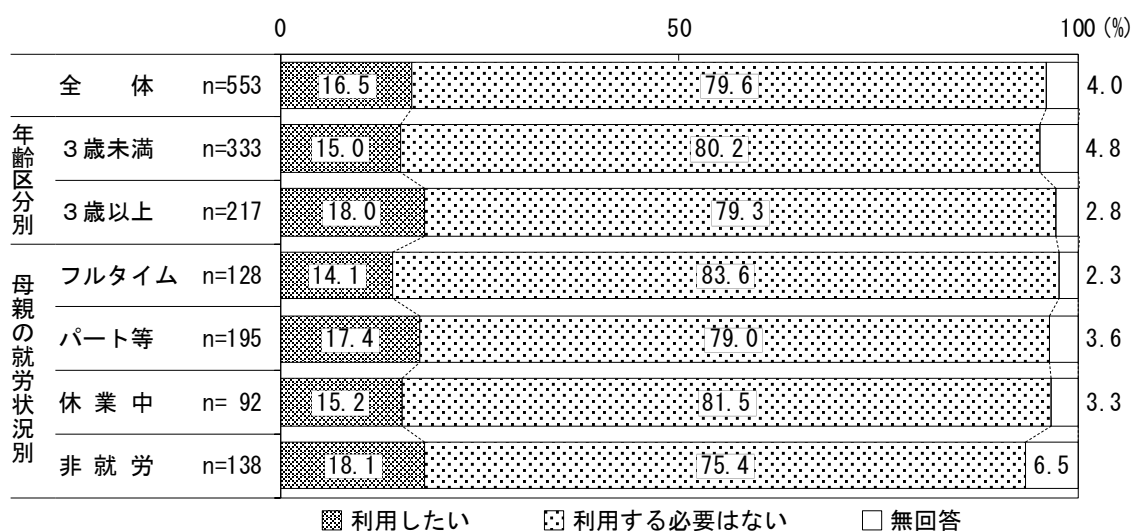


(3) 短期入所生活援助事業（ショートステイ）の利用意向

① 利用意向

保護者の用事（冠婚葬祭、保護者・家族(兄弟姉妹含む)の育児疲れや育児不安、病気など）を理由とする、児童養護施設等で一定期間子どもを保護する事業である短期入所生活援助事業の利用意向は16.5%です。年齢区分別にみると、3歳以上の利用意向が高くなっています。

図表 1－89 短期入所生活援助事業の利用意向

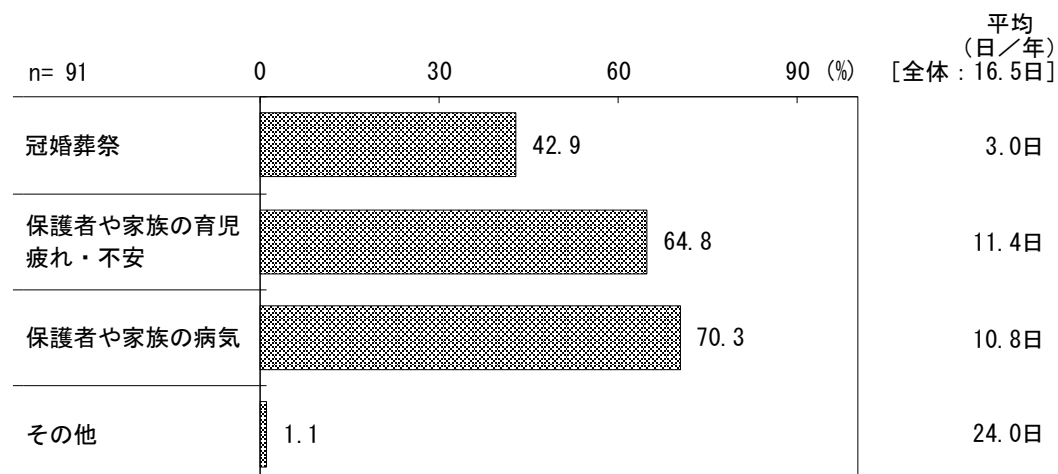


② 利用目的

短期入所生活援助事業の利用目的は、「保護者や家族の病気」が70.3%と最も高くなっています。利用したい平均日数は、「保護者や家族の育児疲れ・不安」が11.4日と多くなっています。

「その他」として、「夜勤」という記載がありました。

図表 1－90 短期入所生活援助事業の利用目的（複数回答）



10 小学校就学後の放課後の過ごし方

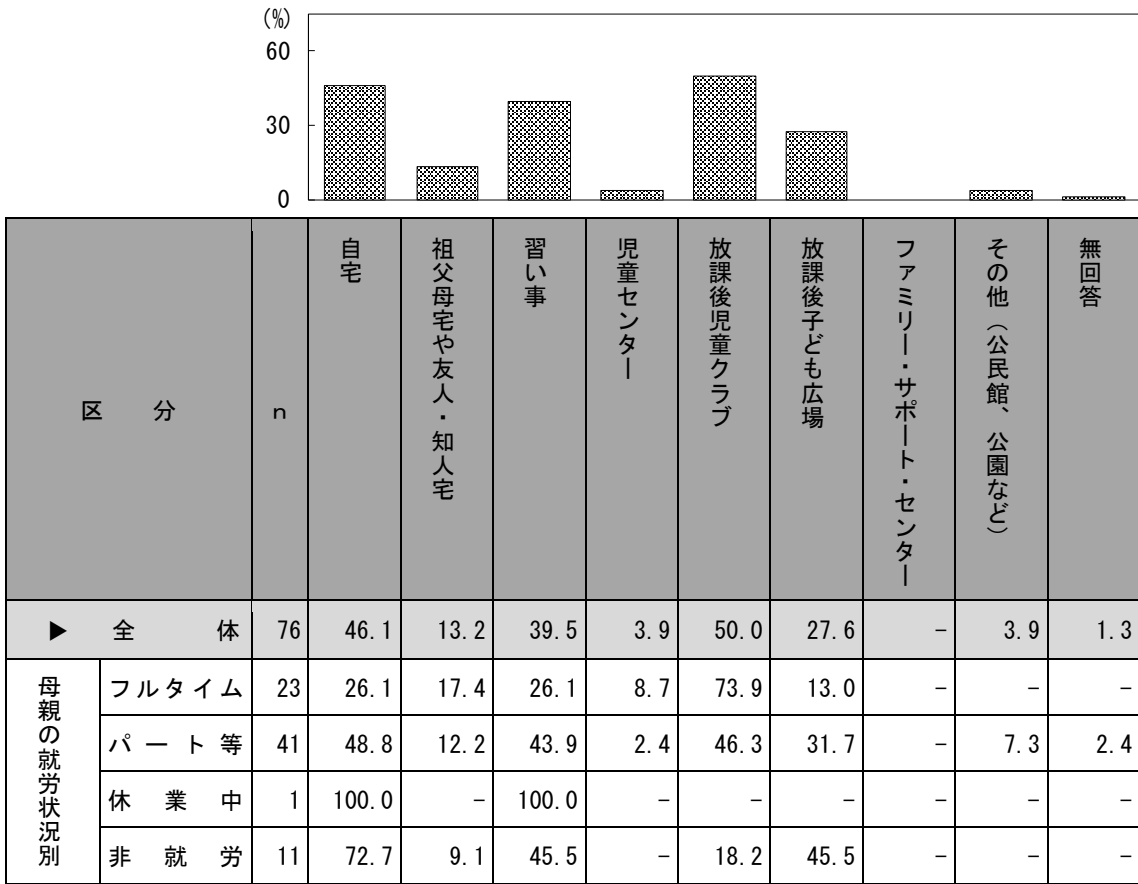
(1) 低学年のうちの放課後の過ごし方（5歳）

5歳の人に、子どもが小学校へ就学後、低学年（1～3年生）のうちは、放課後の時間をどこで過ごさせたいと考えているかをたずねたところ、「放課後児童クラブ」が50.0%と最も高く、次いで「自宅」が46.1%、「習い事」が39.5%などの順となっています。

母親の就労状況別にみると、フルタイムは「放課後児童クラブ」が73.9%と最も高く、「自宅」は26.1%にとどまっています。

図表1-91 低学年のうちの放課後の過ごし方（5歳、複数回答）

単位：nは人、他は%



過ごさせたい場所別にみた希望する週当たりの日数は図表１－92のとおりです。

なお、ファミリー・サポート・センターの希望する週当たりの日数に回答はありませんでした。

図表１－92 過ごさせたい日数（５歳、日／週）

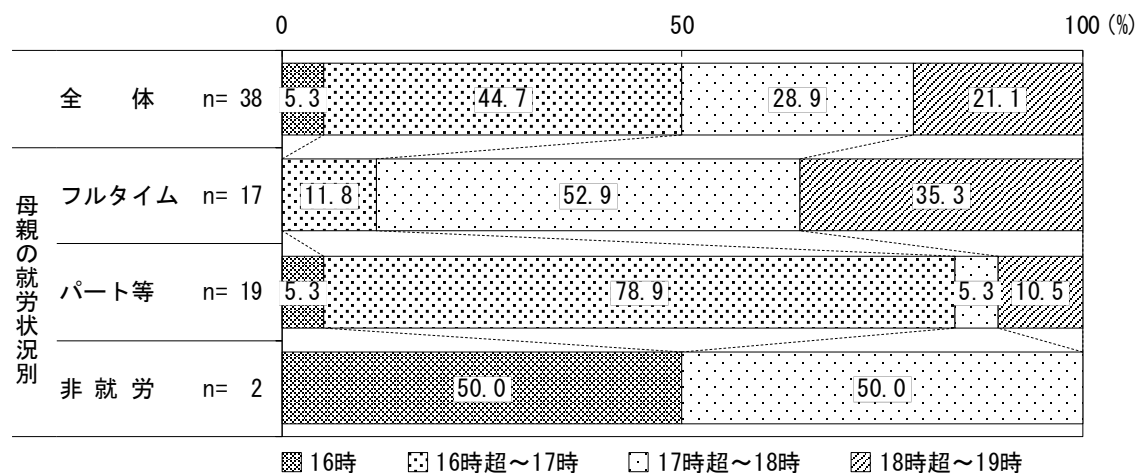
単位：nは人、他は%

区 分	n	週 １ 日	週 ２ 日	週 ３ 日	週 ４ 日	週 ５ 日	無 回 答	平均 日数 (日／ 週)
自 宅	35	17.1	34.3	14.3	8.6	22.9	2.9	2.9
祖父母や友人宅	10	60.0	－	10.0	－	30.0	－	2.4
習 い 事	30	40.0	43.3	6.7	－	3.3	6.7	1.8
児童センター	3	33.3	－	－	33.3	33.3	－	3.3
放課後児童クラブ	38	－	5.3	10.5	23.7	57.9	2.6	4.4
放課後子ども広場	21	4.8	33.3	23.8	4.8	28.6	4.8	3.2
そ の 他	3	－	66.7	－	33.3	－	－	2.7

(2) 低学年のうちは放課後児童クラブを何時まで利用したいか

(1)の「放課後児童クラブ」の利用希望者に、低学年のうちは下校時から何時まで利用したいかをたずねたところ、「16時超～17時」が44.7%と最も高く、次いで「17時超～18時」が28.9%、「18時超～19時」が21.1%などの順となっています。

図表１－93 低学年のうちは放課後児童クラブを何時まで利用したいか（５歳）

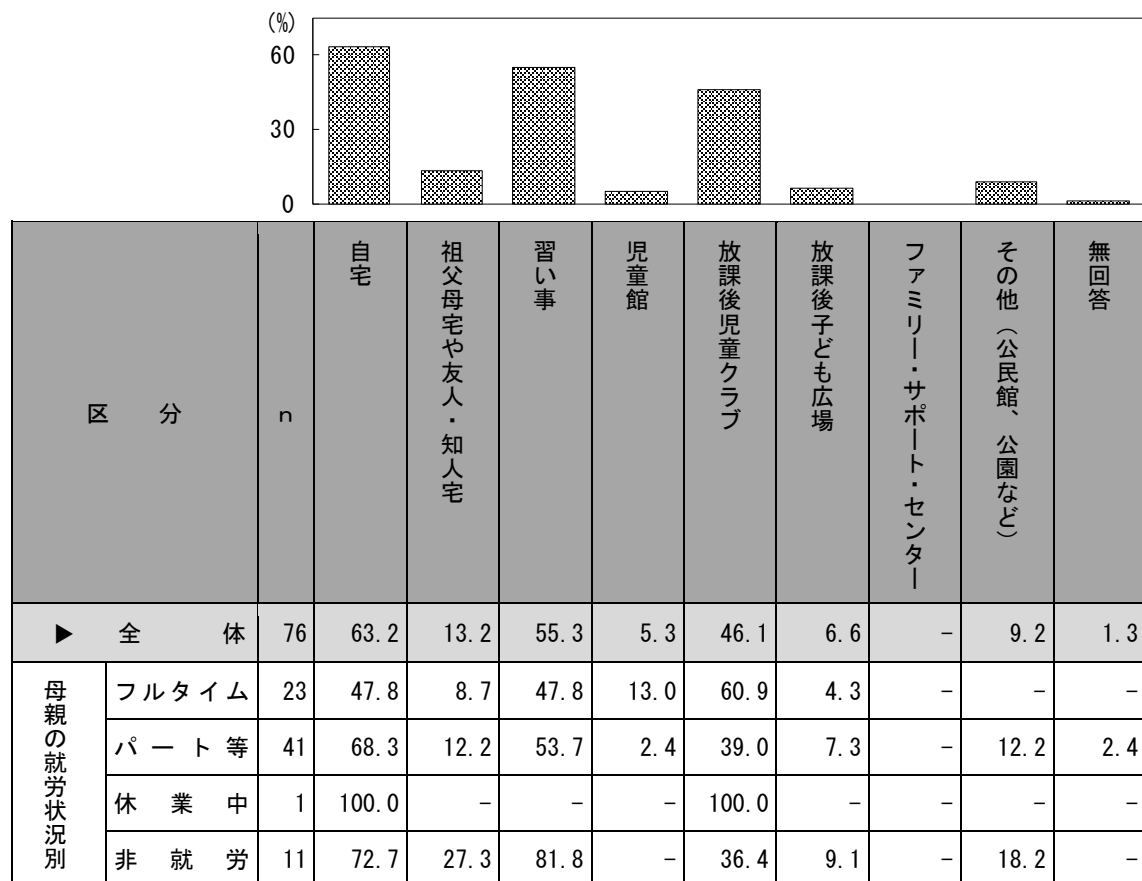


(3) 高学年になった時の放課後の過ごし方（５歳）

５歳の人に、子どもが小学校高学年（４～６年生）になったら、放課後の時間をどこで過ごさせたいと考えているかをたずねたところ、「自宅」が63.2%と最も高く、次いで「習い事」が55.3%、「放課後児童クラブ」が46.1%などの順となっています。（１）の低学年時と比べると、「自宅」および「習い事」が15ポイント以上上昇しています。

図表１－94 高学年になった時の放課後の過ごし方（５歳、複数回答）

単位：nは人、他は%



過ごさせたい場所別にみた希望する週当たりの日数は図表１－95のとおりです。

なお、ファミリー・サポート・センターの希望する週当たりの日数に回答はありませんでした。

図表１－95 過ごさせたい日数（５歳、日／週）

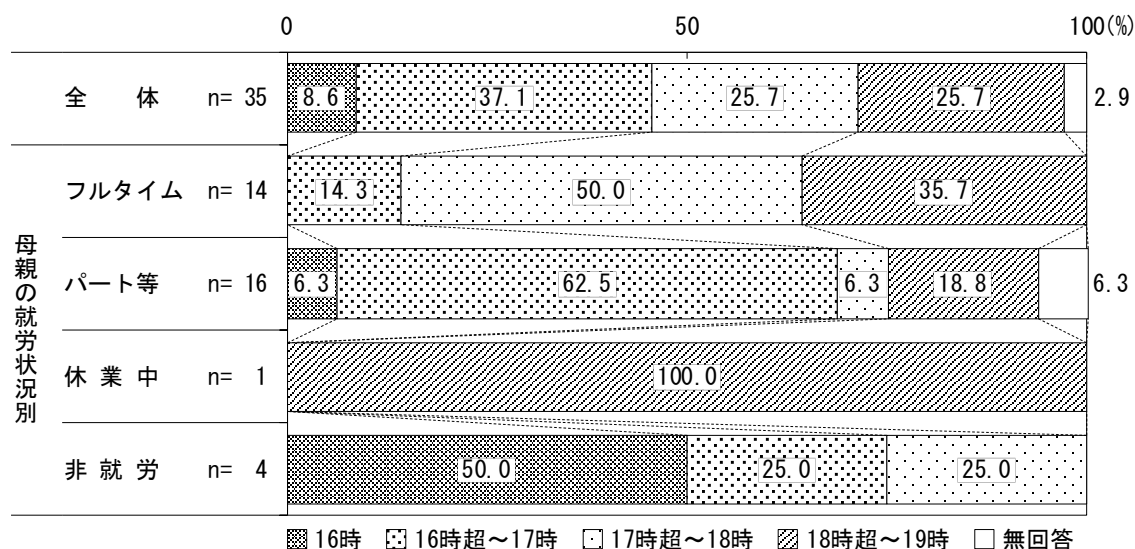
単位：nは人、他は%

区 分	n	週 １ 日	週 ２ 日	週 ３ 日	週 ４ 日	週 ５ 日	無 回 答	平均 日数 (日／ 週)
自 宅	48	18.8	27.1	18.8	2.1	29.2	4.2	3.0
祖父母や友人宅	10	70.0	10.0	－	－	10.0	10.0	1.6
習 い 事	42	11.9	54.8	19.0	7.1	2.4	4.8	2.3
児 童 館	4	25.0	25.0	－	25.0	25.0	－	3.0
放課後児童クラブ	35	8.6	20.0	17.1	5.7	48.6	－	3.7
放課後子ども広場	5	40.0	40.0	－	－	20.0	－	2.2
そ の 他	7	57.1	14.3	14.3	14.3	－	－	1.9

(4) 高学年になったら放課後児童クラブを何時まで利用したいか

(3)の「放課後児童クラブ」の利用希望者に、高学年になったら下校時から何時まで利用したいかをたずねたところ、「16時超～17時」が37.1%と最も高く、次いで「17時超～18時」および「18時超～19時」が25.7%などの順となっています。(2)の低学年時と比較して、「16時超～17時」が7.6ポイント低下し、「18時超～19時」が4.6ポイント高くなっています。

図表１－96 高学年になったら放課後児童クラブを何時まで利用したいか（５歳）

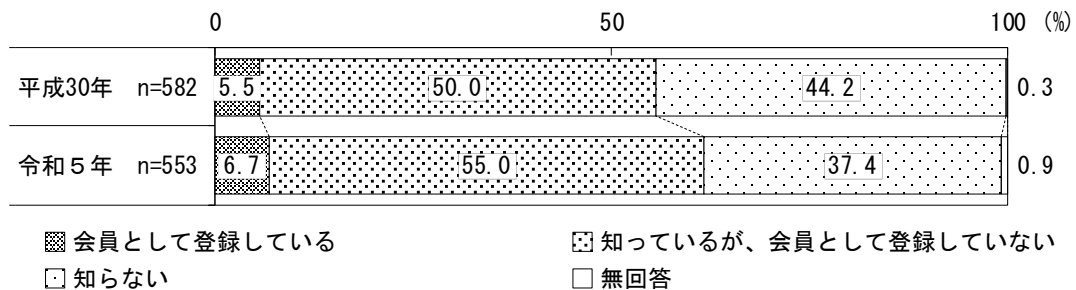


Ⅱ ファミリー・サポート・センター

(1) ファミリー・サポート・センターの認知度

ファミリー・サポート・センターについて知っているかをたずねたところ、「知っているが、会員として登録していない」が55.0%と最も高く、「会員として登録している」（6.7%）と合計した《認知度》は61.7%となります。平成30年との比較では、《認知度》が6.2ポイント上昇しています。

図表 1-97 ファミリー・サポート・センターの認知度

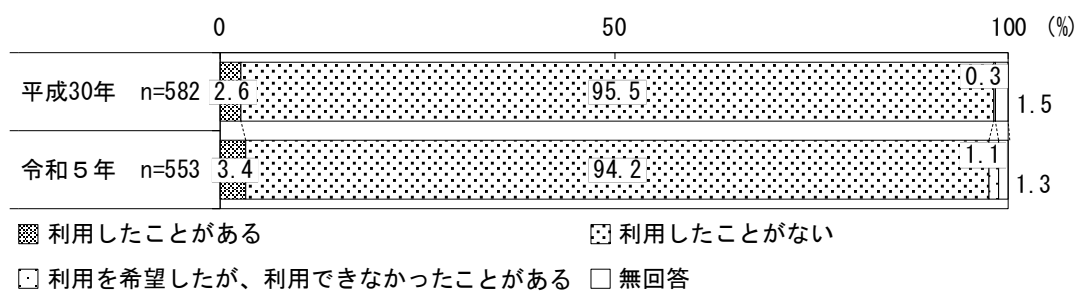


(2) ファミリー・サポート・センターの利用状況

① 利用経験

ファミリー・サポート・センターの利用経験をたずねたところ、「利用したことがある」は3.4%にとどまっており、「利用したことがない」が94.2%と圧倒的に高くなっています。平成30年から大きな変化はありません。

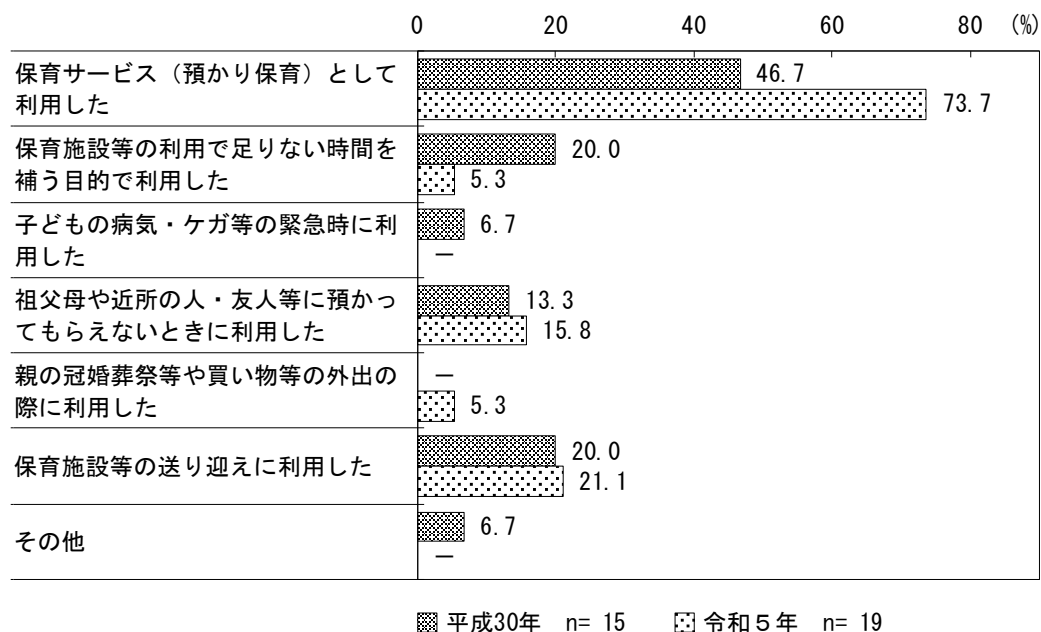
図表 1-98 利用経験



② 利用目的

①で「利用したことがある」と回答した人に利用目的をたずねたところ、「保育サービス（預かり保育）として利用した」が73.7%と突出して高くなっています。

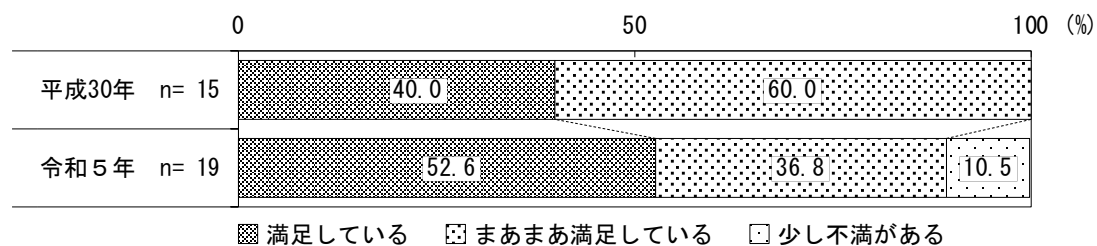
図表 1－99 利用目的（複数回答）



③ 満足度

①で「利用したことがある」と回答した人に、利用について満足しているかをたずねたところ、「満足している」が52.6%（10人）、「まあまあ満足している」が36.8%（7人）、「少し不満がある」が10.5%（2人）となっています。

図表 1－100 満足度

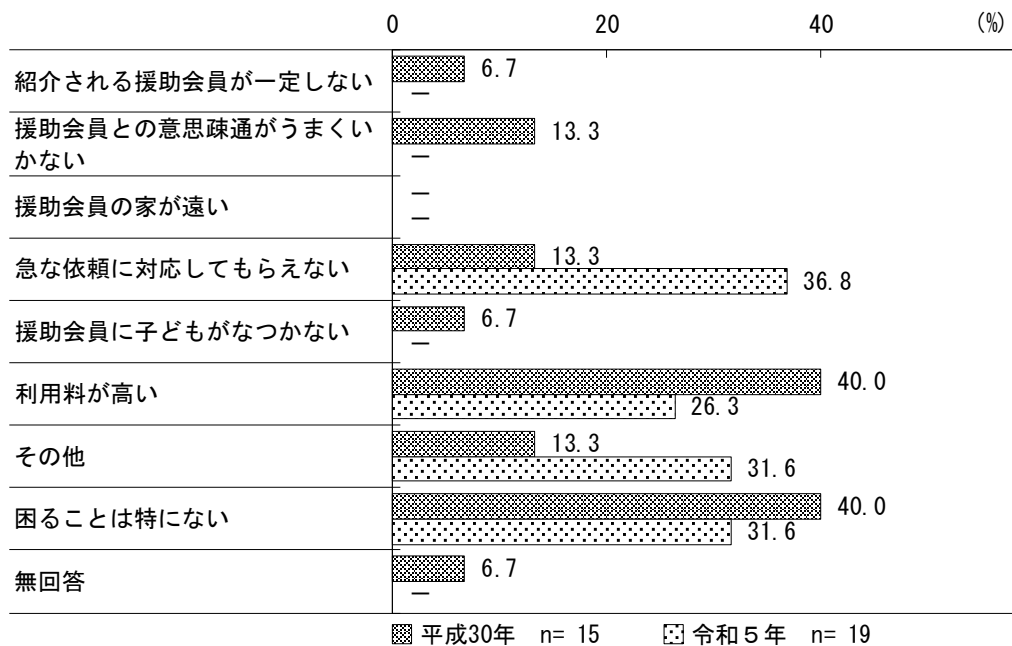


④ 利用して困ったこと

利用して困ったこととしては、「急な依頼に対応してもらえない」が36.8%（7人）と最も高くなっていますが、次いで「その他」および「困ることは特にない」が31.6%（6人）などの順となっています。

「その他」として、図表1-102の内容が記載されていました。

図表1-101 利用して困ったこと（複数回答）



図表1-102 利用して困ったこと（複数回答、その他）

- ・ 土日が難しいと言われる
- ・ 年末年始に頼みづらい。夜の時間の利用に不安がある（19時以降など）
- ・ 用事（仕事）が時間内に終わらないと、延長しづらい
- ・ 電話での予約になるため途中で困る。メールで予約や対応してほしい
- ・ 利用までのハードルが高い。利用登録、ファミリー・サポート・センターへ電話、援助会員へ電話
- ・ 自分でのやり取りが面倒

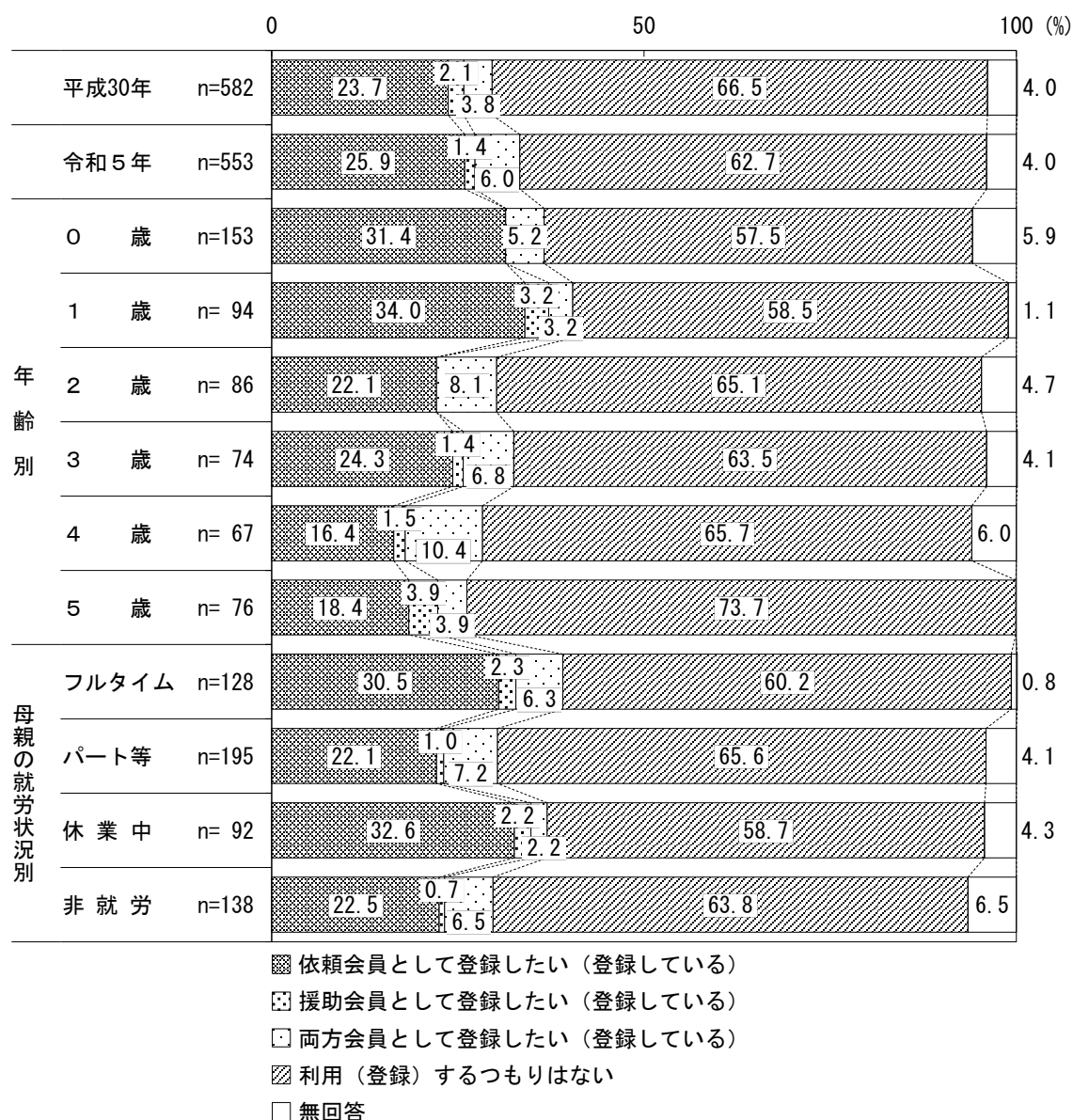
(3) ファミリー・サポート・センターの利用意向

ファミリー・サポート・センターを今後利用したいと思うかをたずねたところ、「利用（登録）するつもりはない」が62.7%を占めています。「依頼会員として登録したい（登録している）」は25.9%、「援助会員として登録したい（登録している）」は1.4%、「両方会員として登録したい（登録している）」は6.0%です。平成30年との比較では、「利用（登録）するつもりはない」は3.8ポイント低下しています。

年齢別にみると、「依頼会員として登録したい（登録している）」は年齢が低いほど高い傾向があり、0～1歳では30%を超えています。

母親の就労状況別にみると、「依頼会員として登録したい（登録している）」はフルタイムおよび休業中が高くなっています。

図表 1-103 ファミリー・サポート・センターの利用意向



12 育児休業制度

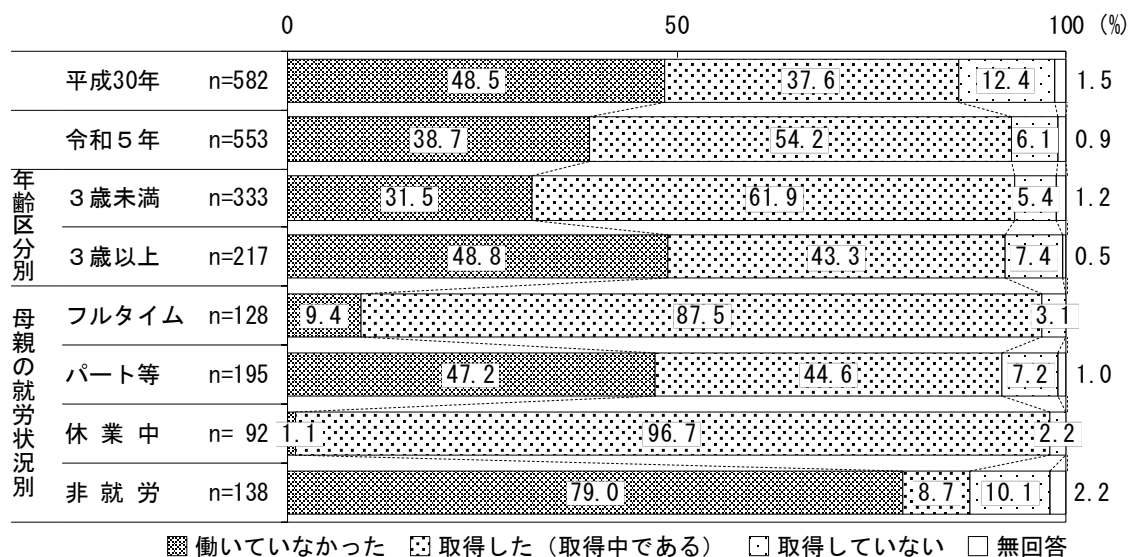
(1) 育児休業の取得の有無

「あて名のお子さんが生まれた時、父母のいずれかもしくは双方が育児休業を取得しましたか」とたずねたところ、母親は、「取得した（取得中である）」が54.2%と最も高く、次いで「働いていなかった」が38.7%、「取得していない」が6.1%となっています。平成30年との比較では、「取得した（取得中である）」が16.6ポイント高くなっています。

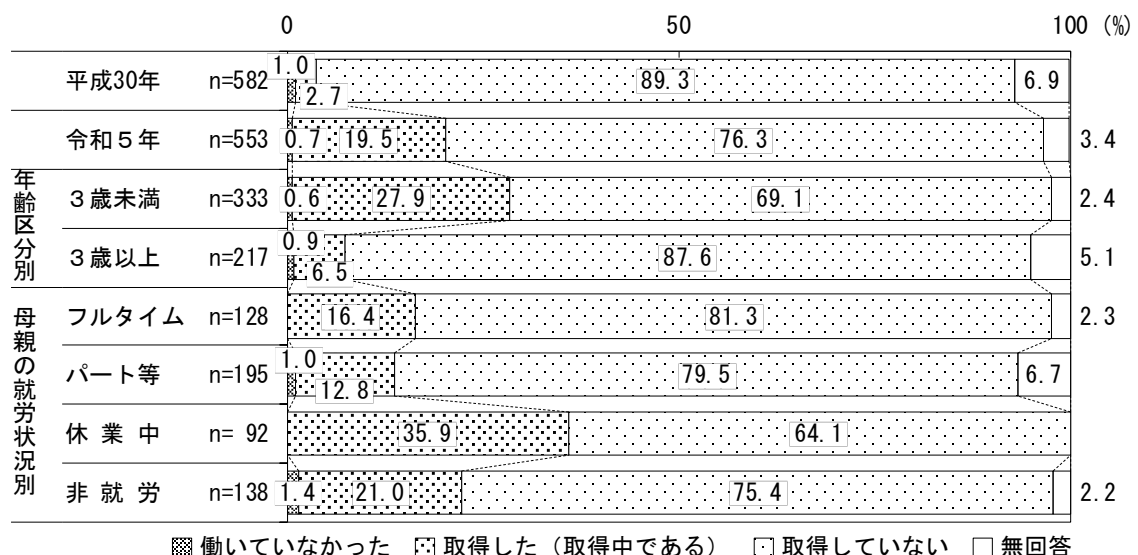
父親は、「取得していない」が76.3%を占めており、「取得した（取得中である）」は19.5%です。平成30年との比較では、「取得した（取得中である）」が16.8ポイント上昇しています。

図表 1-104 育児休業の取得の有無

■母 親



■父 親



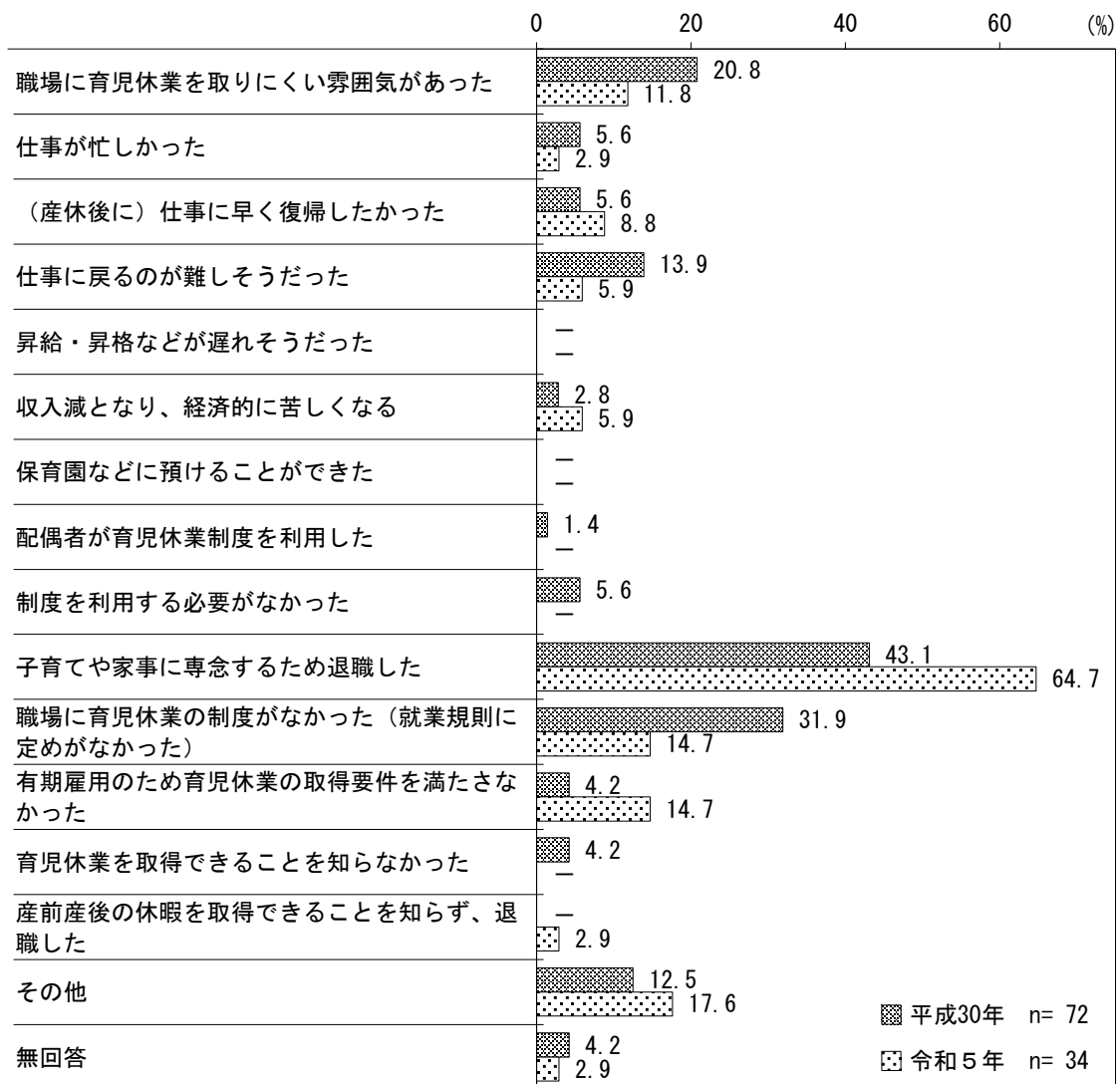
(2) 育児休業を取得していない理由

① 母 親

育児休業を「取得していない」と答えた母親にその理由をたずねたところ、「子育てや家事に専念するため退職した」が64.7%と突出して高く、次いで「職場に育児休業の制度がなかった（就業規則に定めがなかった）」および「有期雇用のため育児休業の取得要件を満たさなかった」が14.7%などの順となっています。平成30年との比較では、「職場に育児休業の制度がなかった（就業規則に定めがなかった）」は17.2ポイント低下し、「子育てや家事に専念するため退職した」が21.6ポイント高くなっています。

「その他」として、図表1－106の内容が記載されていました。

図表1－105 育児休業を取得していない理由（母親、複数回答）



図表1－106 育児休業を取得していない理由（母親、複数回答、その他）

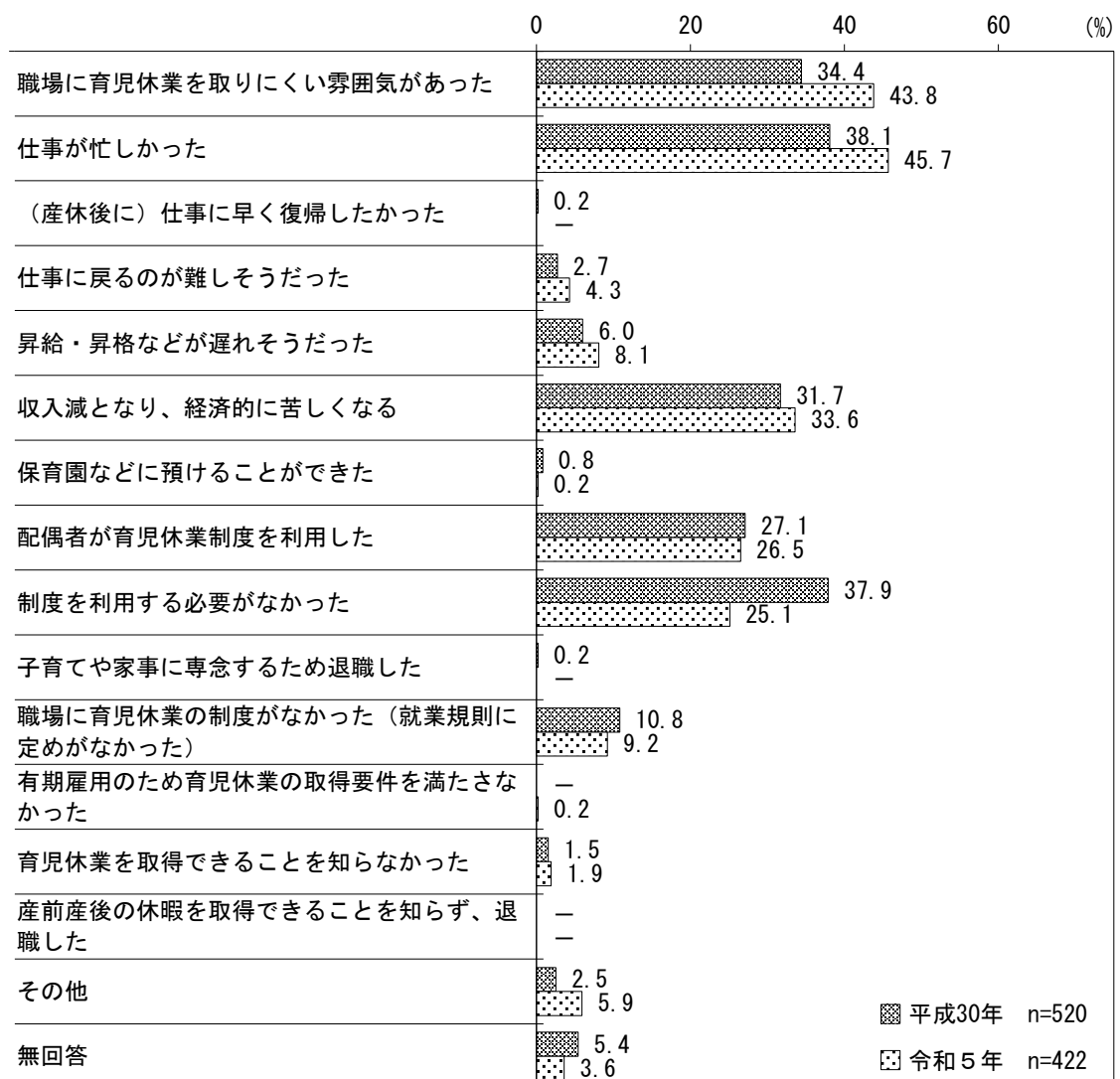
- | | |
|---------------------|------------------------|
| ・妊娠を上司に話したら、退職させられた | ・当時は自営で、子連れで仕事できた |
| ・「前例がない」と退職させられた | ・自宅で事務仕事のため |
| ・自営業のため休みが取りづらかった | ・妊娠中にドクターストップがあり仕事を辞めた |

② 父 親

育児休業を「取得していない」と答えた父親にその理由をたずねたところ、「仕事が忙しかった」が45.7%と最も高く、次いで「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」が43.8%、「収入源となり、経済的に苦しくなる」が33.6%などの順となっています。平成30年との比較では、「制度を利用する必要がなかった」が12.8ポイント低下し、「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」が9.4ポイント、「仕事が忙しかった」が7.6ポイント上昇しています。

「その他」として、図表1－108の内容が記載されていました。

図表1－107 育児休業を取得していない理由（父親、複数回答）



図表 1－108 育児休業を取得していない理由（父親、複数回答、その他）

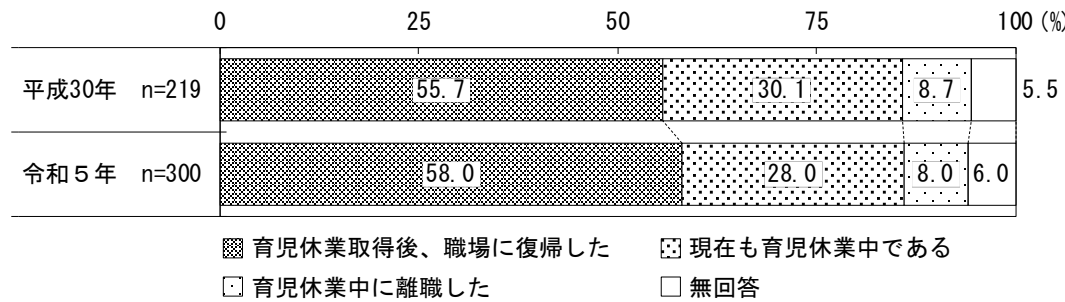
- ・ 自営業のため（7件）
- ・ 転職したばかりであったため（2件）
- ・ 会社代表のため
- ・ 当時は職場に育休を取る空気がなかった
- ・ 育休の制度があるのかわからないし、誰も取っていないため
- ・ 介護業界の人材不足のため休めない
- ・ 配偶者が育児休業を望んでいなかった。病院の付き添い、上の子を見てほしいなど特別な日に1、2日休んでほしいことはあったが、1、2ヶ月などの単位では休業は必要なかった
- ・ 育児休業を取得しても子育てをしてくれないため、取得する必要がなかったから
- ・ 里帰りしていたため、必要なかった
- ・ 母親が見ればよいと思っているから
- ・ 取得する必要があると父親自身が判断した
- ・ 父親本人が望んでいなかったため
- ・ 他の休暇を使用した
- ・ 5日間の休暇を取得できたのでそれで充分
- ・ 離婚後、再婚前であったため、父親不在の期間だった
- ・ これから取得する

(3) 母親の育児休業

① 育児休業取得後に職場に復帰したか（母親）

育児休業を取得した母親に職場復帰したかをたずねたところ、母親の58.0%が「育児休業取得後、職場に復帰した」と答えています。「現在も育児休業中である」は28.0%、「育児休業中に離職した」は8.0%です。

図表 1－109 育児休業取得後に職場に復帰したか（母親）

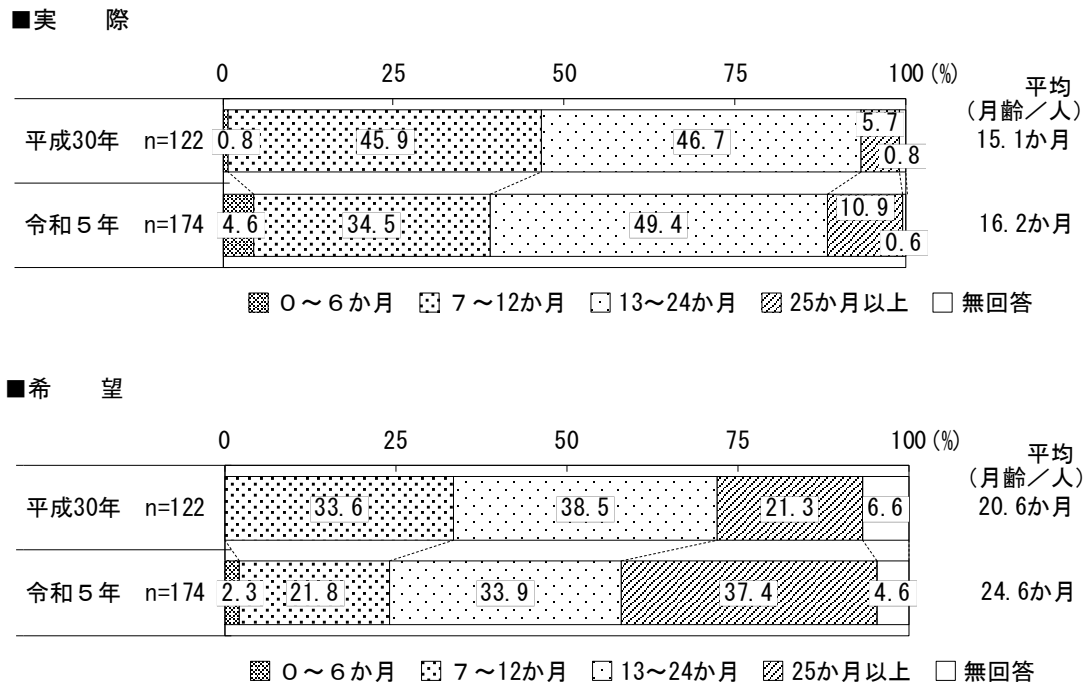


② 実際の取得期間と希望期間（母親）

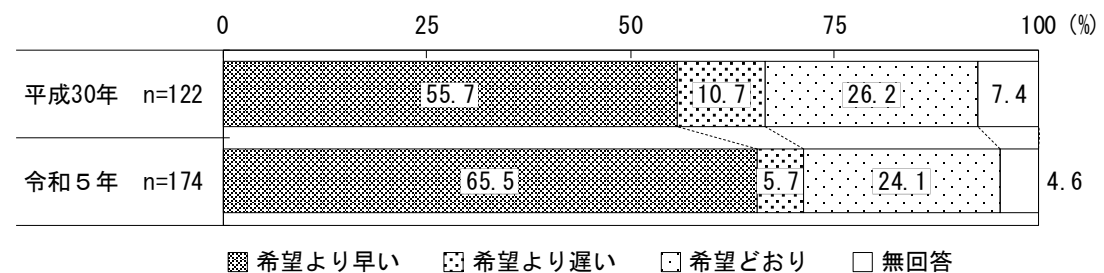
母親が実際に取得した育児休業の期間は、「13～24か月」が49.4%と最も高く、次いで「7～12か月」が34.5%となっており、平均は16.2か月です。勤務先の育児休業制度の期間内で取得したかった（希望）期間は、「25か月以上」が37.4%と大幅に上昇しており、平均は24.6か月となっています。平成30年との比較では、実際の期間と希望の期間のどちらも平均が増加しています（図表1－110）。

図表1－111は、母親の実際の取得期間と希望期間から、育児休業からの復帰時期が希望どおりだったかをみたものです。「希望より早い」が65.5%と最も高く、「希望どおり」は24.1%、「希望より遅い」は5.7%です。平成30年との比較では、「希望より早い」は9.8ポイント上昇し、「希望どおり」は2.1ポイント低下しています。

図表1－110 育児休業を実際に取得した期間と希望する期間（母親、実際・希望）



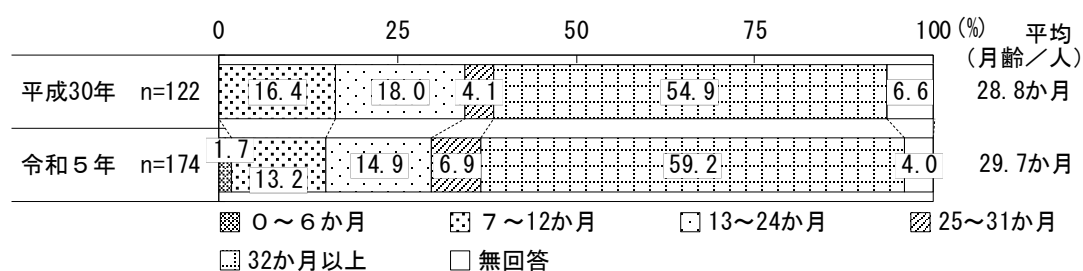
図表1－111 復帰時期は希望どおりだったか（母親）



③ 育児休業を3年間取得できる場合、どれだけ取得したいか（母親）

育児休業取得後に職場に復帰した母親に、子どもが3歳になるまで育児休業を取得できる制度があった場合、子どもがいくつになるまで取得したかったかをたずねたところ、「32か月以上」が59.2%と最も高く、次いで「13～24か月」が14.9%、「7～12か月」が13.2%となっており、平均は29.7か月です。平成30年との比較では、平均が0.9か月増加しています。

図表1-112 育児休業を3年間取得できる場合、どれだけ取得するか（母親）



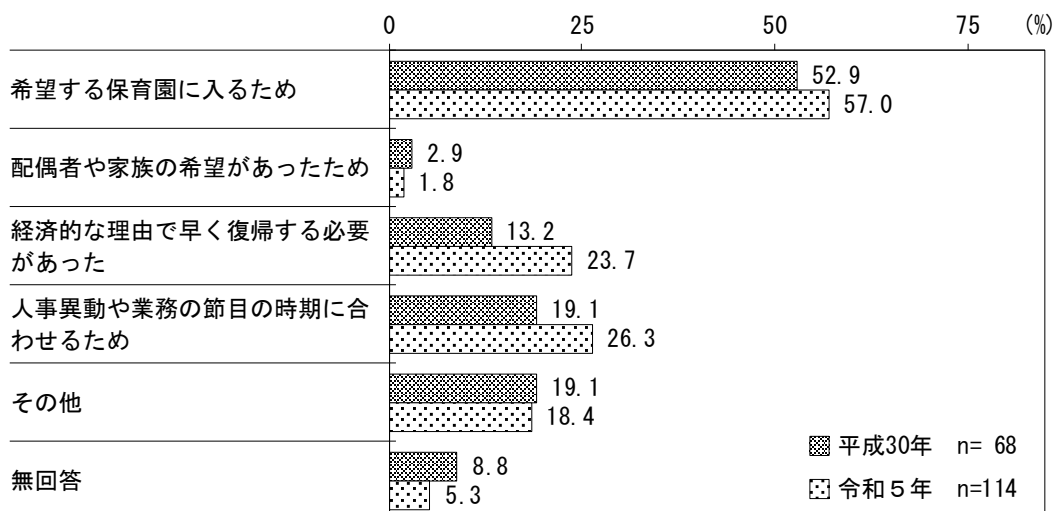
④ 希望の時期に職場復帰しなかった理由（母親）

■希望より早い理由

母親が希望より早く育児休業から復帰した理由として、「希望する保育園に入るため」が57.0%と突出して高く、次いで「人事異動や業務の節目の時期に合わせるため」が26.3%などの順となっています。平成30年との比較では、「経済的な理由で早く復帰する必要があった」が10.5ポイント上昇しています。

「その他」として、図表1-114の内容が記載されていました。

図表1-113 希望より早く育児休業から復帰した理由（母親、複数回答）



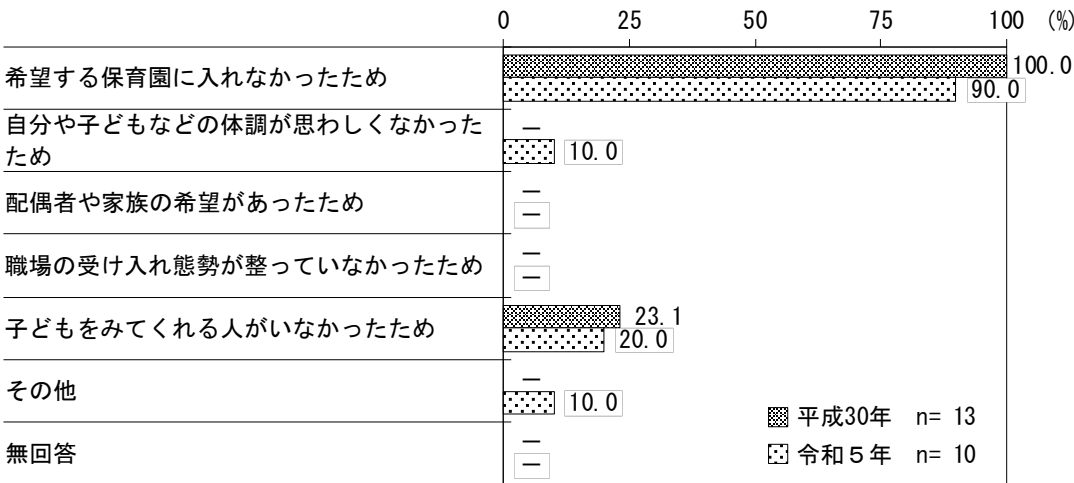
図表 1-114 希望より早く育児休業から復帰した理由（母親、複数回答、その他）

・職場の状況を考えて（４件） ・職場の育休制度が１年間のため（２件） ・会社の就業規則で、１歳半（２歳）までに復帰する必要があったため ・１歳で復帰と職場が決まっているため。９月入園できず、次の４月入園までは延ばすことができた ・職場のルール ・育休に１年までという風潮があった ・１歳で復帰する人が多く、３歳まで取った人がいないため ・２年まで取れるが、入れるならば１年で戻る人がほとんどだから ・言いにくかった	・入園可の保育園がある場合、１歳を超えて育児休業を取得することが認められていないから ・２人続けて取ったので、早く復帰の方がよいと思ったため ・上の子の育休中に２人目を妊娠したため、トータル４年は休んだため ・働きたい気持ちが大きかった ・早く社会復帰したかったから ・復帰時にブランクができてしまうため ・自営業のため ・きょうだいで一緒にの保育園に入れるため ・４月でないと保育園に入れなさそうだったから ・ほぼ希望通りでした
---	--

■希望より遅い理由

希望より遅く育児休業から復帰した理由として、「希望する保育園に入れなかったため」が90.0%（9人）と突出して高くなっています。「その他」として、「会社の規定のため」などの記載がありました。

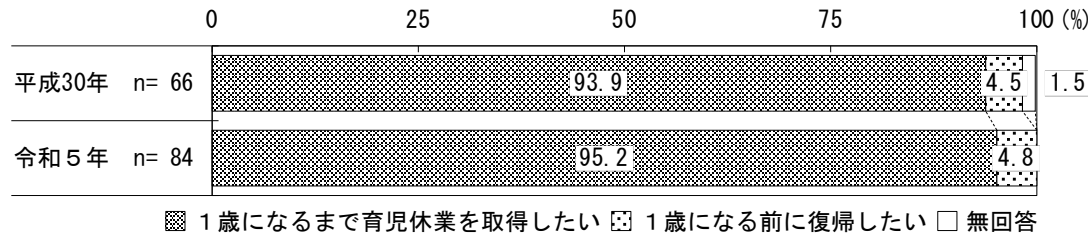
図表 1-115 希望より遅く育児休業から復帰した理由（母親、複数回答）



⑤ 必ず預けられる事業があった場合、１歳まで育児休業を取得するか（母親）

現在、育児休業中の母親に、「あて名のお子さんが１歳になったときに必ず預けられる事業があれば、１歳になるまで育児休業を取得しますか」とたずねたところ、「１歳になるまで育児休業を取得したい」が95.2%を占めています。平成30年との比較では、「１歳になるまで育児休業を取得したい」が1.3ポイント高くなっています。

図表 1-116 必ず預けられる事業があった場合、１歳まで育児休業を取得するか（母親）

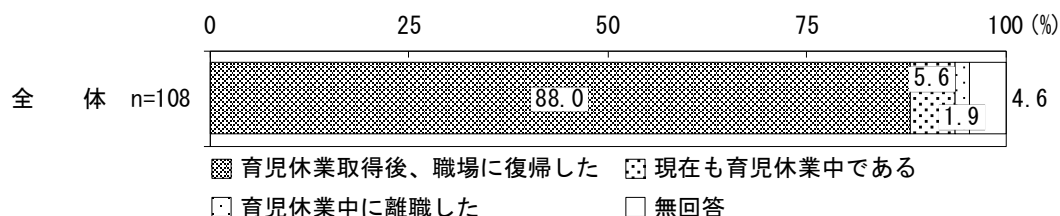


(4) 父親の育児休業

① 育児休業取得後に職場に復帰したか（父親）

育児休業を取得した父親に職場復帰したかをたずねたところ、「育児休業取得後、職場に復帰した」が88.0%となっています。

図表 1－117 育児休業取得後に職場に復帰したか（父親）

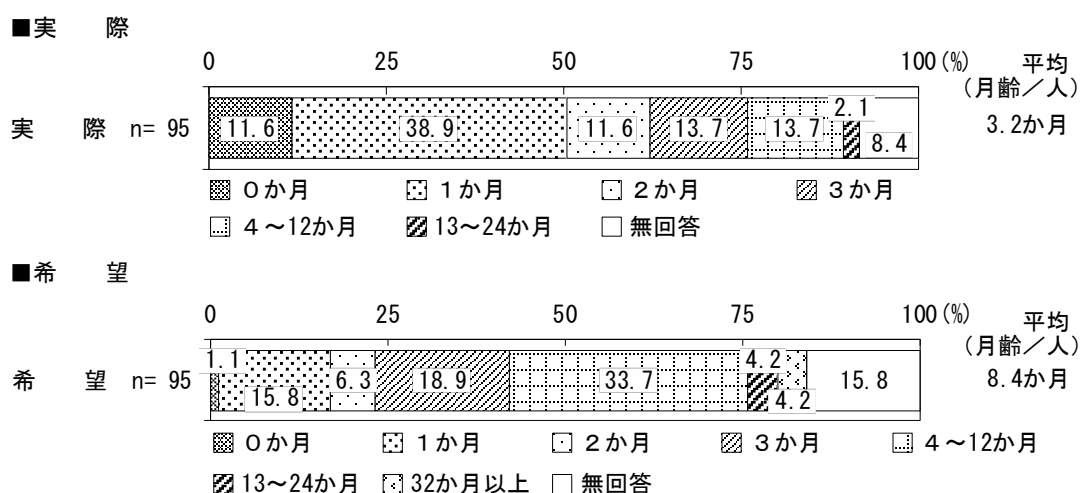


② 実際の取得期間と希望期間（父親）

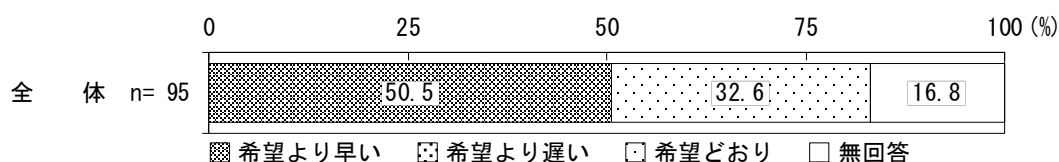
父親が実際に取得した育児休業の期間は、「1か月」が38.9%と最も高くなっており、平均は3.2か月です。勤務先の育児休業制度の期間内で取得したかった（希望）期間は、「4～12か月」が33.7%と最も高く、平均は8.4か月と、実際の平均取得期間に比べて5.2か月多くなっています（図表 1－118）。

図表 1－119は父親の実際の取得期間と希望期間から、育児休業からの復帰時期が希望どおりだったかをみたものです。「希望より早い」が50.5%、「希望どおり」が32.6%となっています。

図表 1－118 育児休業を実際に取得した期間と希望する期間（父親、実際・希望）



図表 1－119 復帰時期は希望どおりだったか（父親）



③ 育児休業を3年間取得できる場合、どれだけ取得したいか（父親）

育児休業取得後に職場に復帰した父親に、子どもが3歳になるまで育児休業を取得できる制度があった場合、子どもがいくつになるまで取得したかったかをたずねたところ、「4～12か月」が38.9%と最も高く、次いで「32か月以上」が20.0%などの順となっており、平均は15.3か月です。

図表 1-120 育児休業を3年間取得できる場合、どれだけ取得するか（父親）



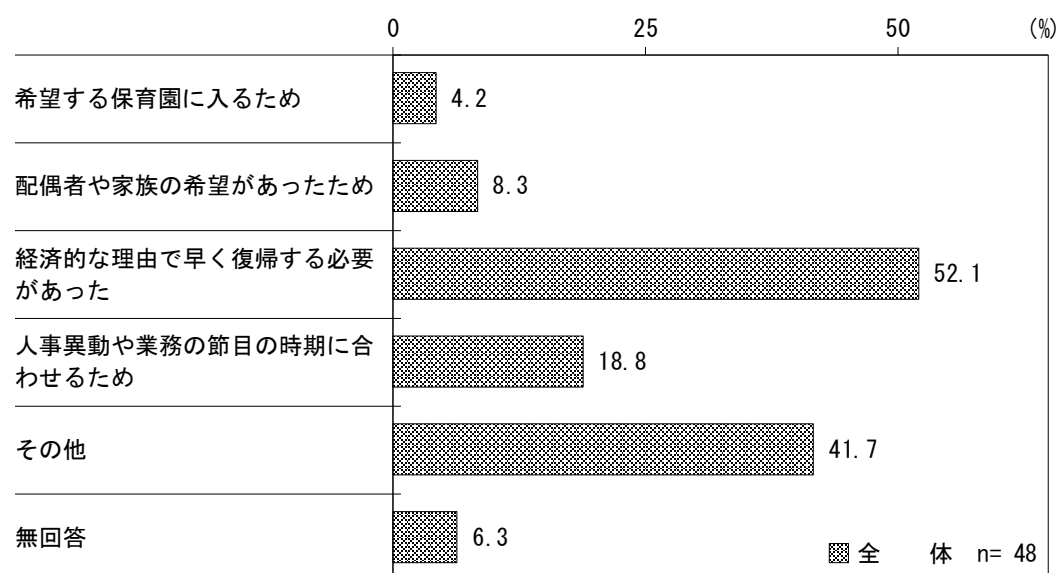
④ 希望の時期に職場復帰しなかった理由（父親）

■希望より早い理由

希望より遅く育児休業から復帰した理由として、「経済的な理由で早く復帰する必要があった」が52.1%と最も高く、次いで「人事異動や業務の節目の時期に合わせるため」が18.8%などの順となっています。

「その他」として、図表 1-122の内容が記載されていました。

図表 1-121 希望より早く育児休業から復帰した理由（父親、複数回答）



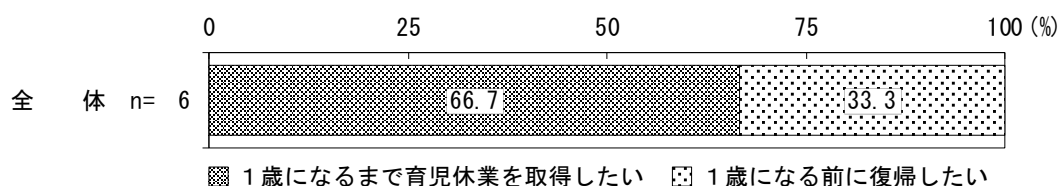
図表 1-122 希望より早く育児休業から復帰した理由（父親、複数回答、その他）

- ・ 会社の制度（2 件）
- ・ 仕事量の関係（2 件）
- ・ 職場の早期復帰の圧力（2 件）
- ・ 職場の人手不足のため（2 件）
- ・ 3 週間しか休みが取れなかったから
- ・ 会社で取れる日数が決まっていた
- ・ 会社都合
- ・ 1 日でも取得するのがルール。実際は 1 週間取る人が多い
- ・ 職場の雰囲気や仕事量が休みを取れる環境でなかった
- ・ 職場への負担が大きいため
- ・ 仕事が忙しく休めない
- ・ 周りに育休を取る人が多く、仕事の人手不足を心配して、2 週間のみの育休にした
- ・ 育休 1 年目までしか給料（少なくなっている）がもらえないため
- ・ 休みが長くなると昇給に影響するため
- ・ 部下の管理で長期間離れるのに不安があったため
- ・ 自営業で仕事が詰まっていたため
- ・ 時短勤務
- ・ 正直、0 歳 1 ヶ月の育休取得では妻の役に立てなかったもので、すぐに復帰した。生後半年以降の取得の方がよかったと今になって思う

⑤ 必ず預けられる事業があった場合、1 歳まで育児休業を取得するか（母親）

現在、育児休業中の父親に、「あて名のお子さんが 1 歳になったときに必ず預けられる事業があれば、1 歳になるまで育児休業を取得しますか」とたずねたところ、「1 歳になるまで育児休業を取得したい」が 66.7%（4 人）、「1 歳になる前に復帰したい」が 33.3%（2 人）となっています。

図表 1-123 必ず預けられる事業があった場合、1 歳まで育児休業を取得するか（母親）

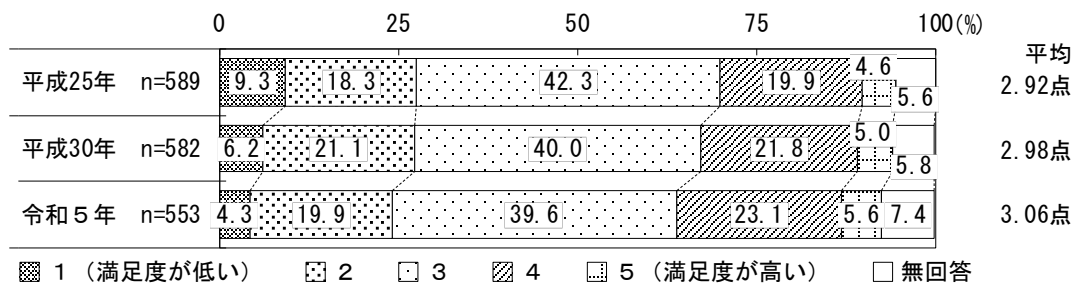


13 扶桑町の子育て支援

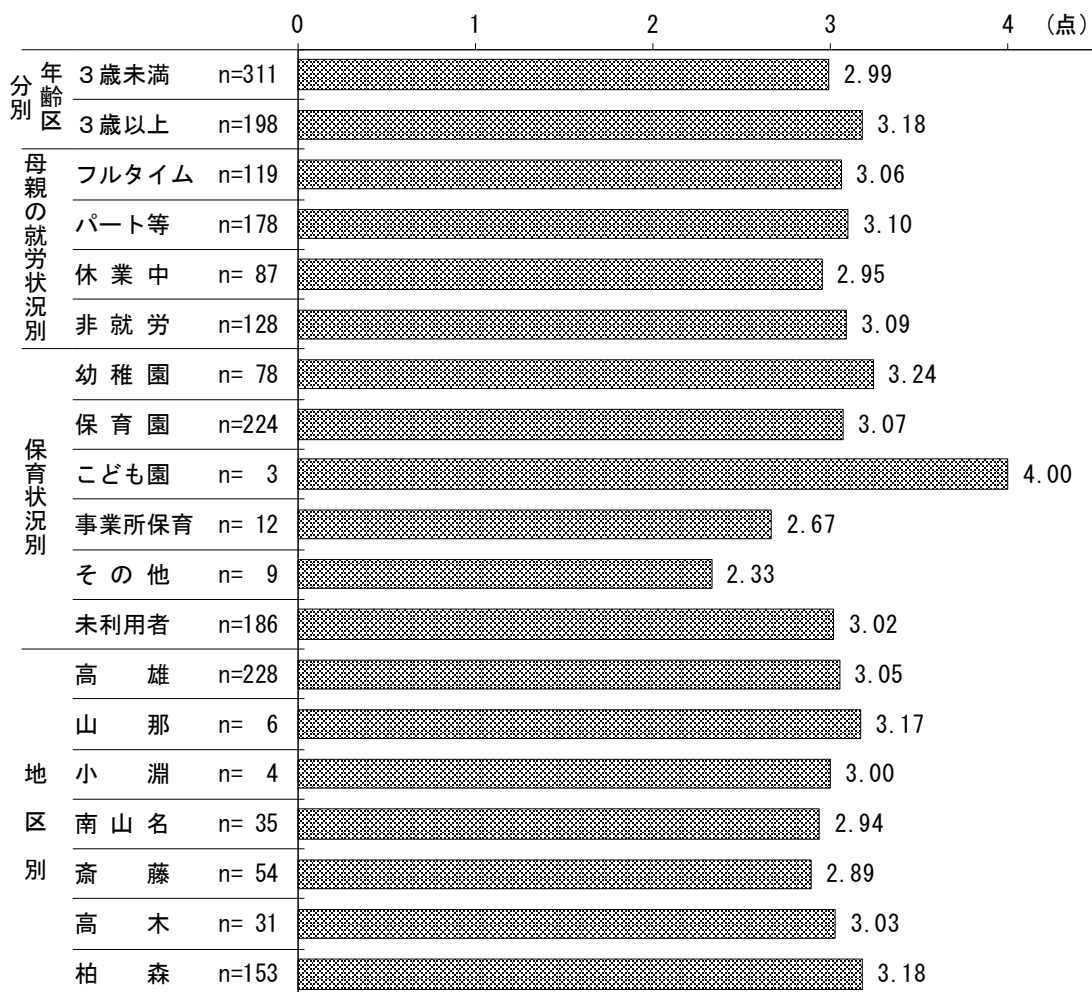
(1) 子育て環境や支援への満足度

本町における子育て環境や支援への満足度について、「満足度が高い」を5点、「満足度が低い」を1点として、何点になるかをたずねたところ、「3点」が39.6%と最も高く、平均は3.06点です。平成30年との比較では、「3点以下」が低下し、「4点以上」が上昇しており、平均は0.08点高くなっています（図表1-124）。

図表1-124 子育て環境や支援への満足度



図表1-125 子育て環境や支援への満足度（平均点）



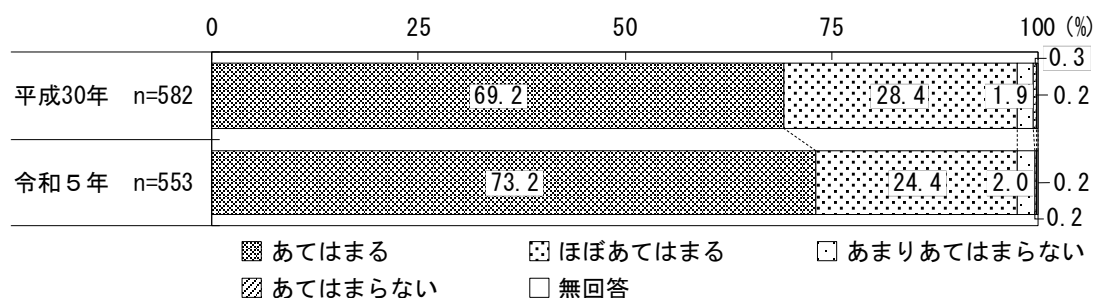
(2) 子育てに対して感じていること

子育てに関する下記①～⑧について、「あてはまる」「ほぼあてはまる」「あまりあてはまらない」「あてはまらない」の4つから、最もあてはまるものをたずねました。

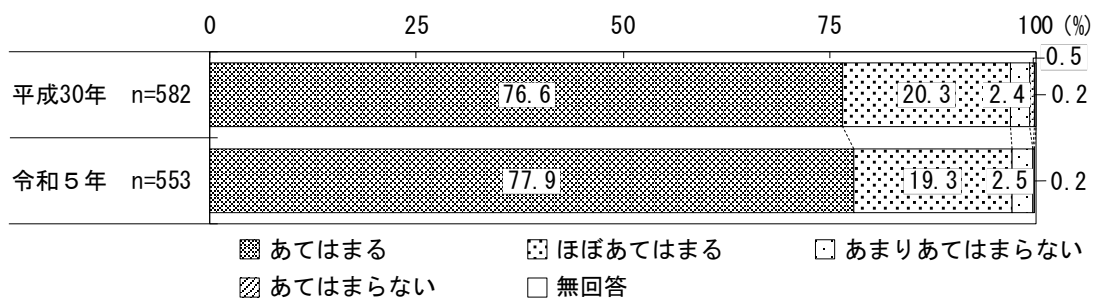
①～③の項目について、《あてはまる》（「あてはまる」+「ほぼあてはまる」）が90%以上を占めており、子どもの存在や子育てが人生に対してプラスに働いていると感じている人が多いことがわかります。しかし、④は①～③に比べ《あてはまる》が低く、平成30年から14.2ポイント低下しており、地域の同世代との交流が減少していることがわかります。⑤～⑧の項目では、平成30年と比べて《あてはまる》が上昇しており、特に⑥では《あてはまる》が約60%を占めています。

図表 1-126 子育てに対して感じていること

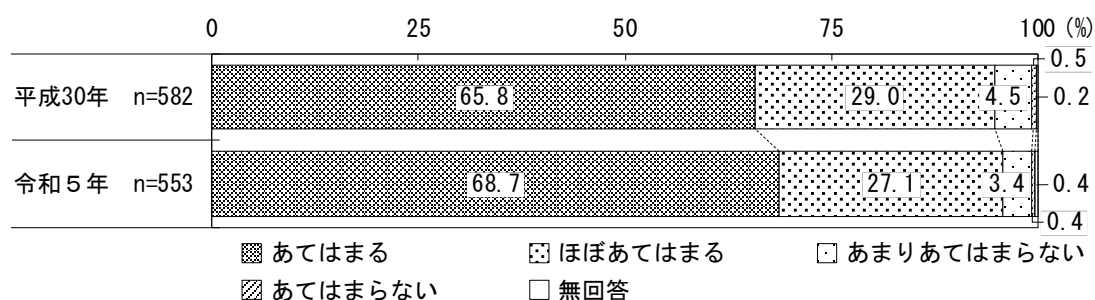
① 子どもがいると生活が楽しく豊かになる



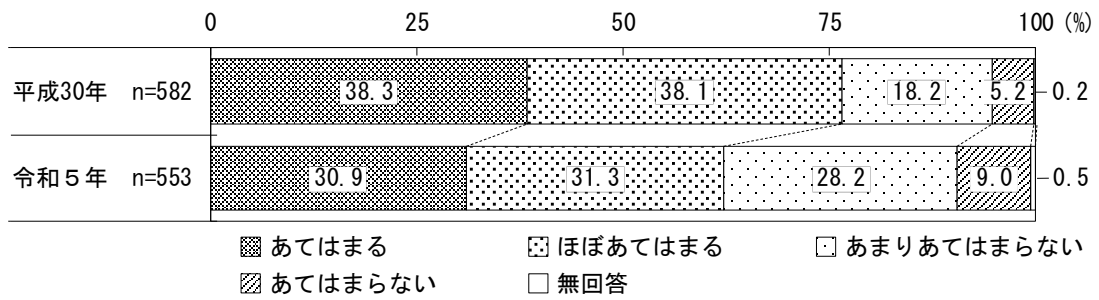
② 子育てを通じて自分も成長すると思う



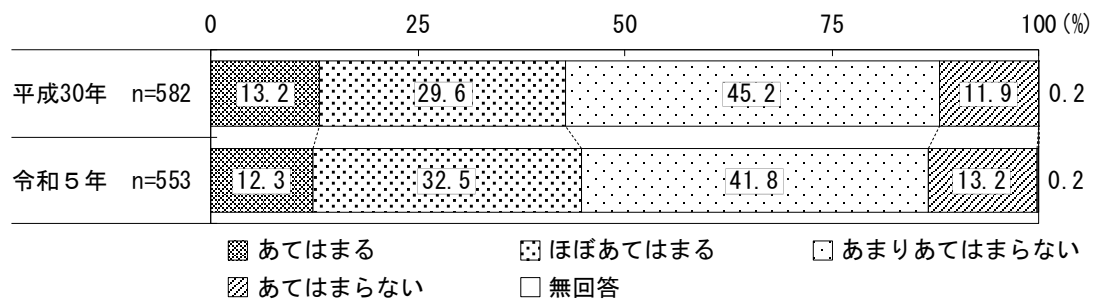
③ 子どもは心のやすらぎや生きがいを与えてくれると思う



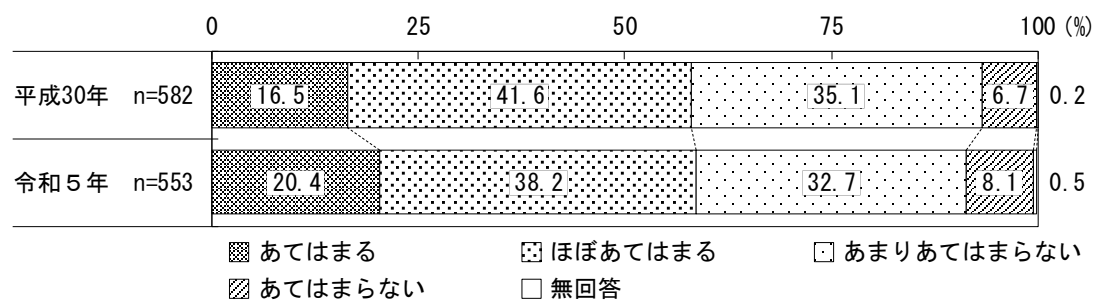
④ 同世代の友人や知人ができ、地域に溶け込むことができる



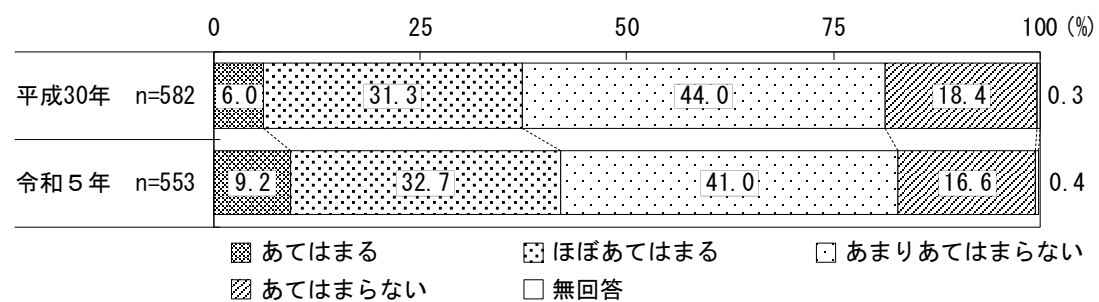
⑤ 子育てに対して不安を感じている



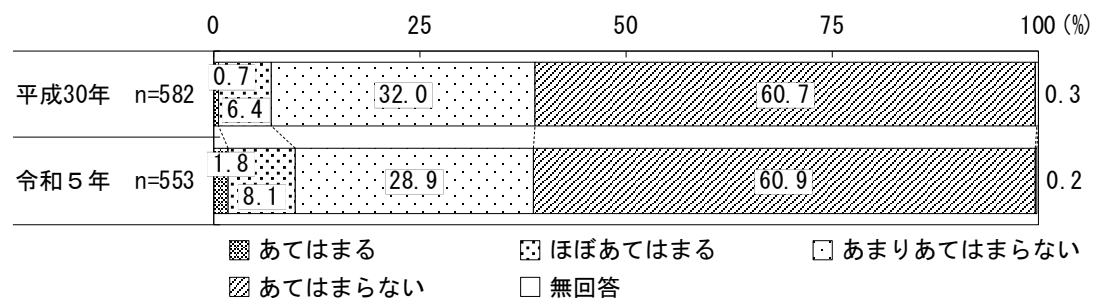
⑥ 仕事や自分のやりたいことができない



⑦ 子どもがいると生活や気持ちにゆとりがなくなる



⑧ 子どもを虐待しているのではないと思う



(3) 子育ての不安や悩み

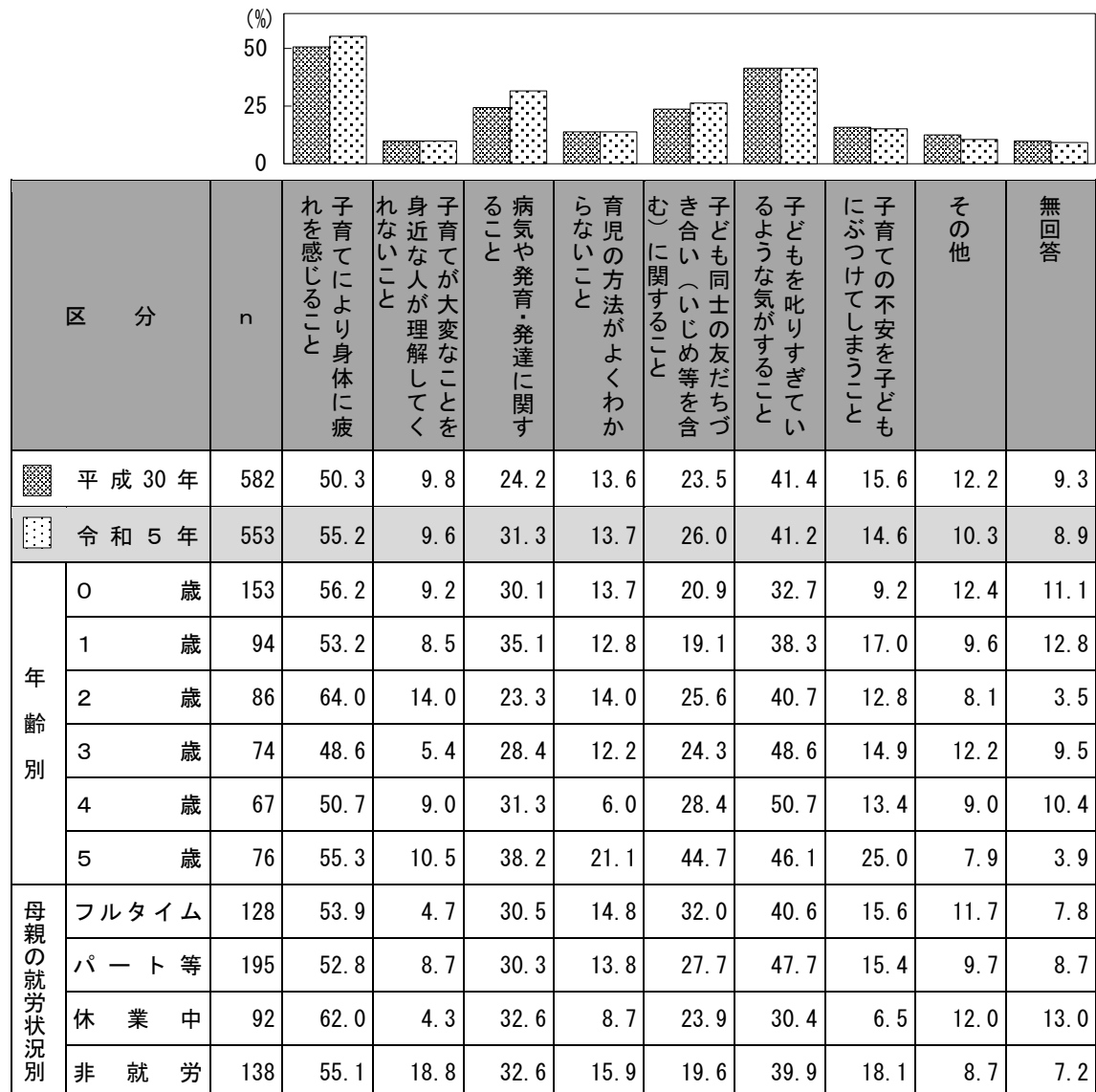
子育てをする上で、特に不安に思っていることや悩んでいることとしては、「子育てにより身体に疲れを感じる」とが55.2%と最も高く、次いで「子どもを叱りすぎているような気がする」とが41.2%、「病気や発育・発達に関する」とが31.3%などの順となっています。平成30年との比較では、「病気や発育・発達に関する」が7.1ポイント上昇しています。

年齢別にみると、3～4歳は「子どもを叱りすぎているような気がする」とが50%程度の高い率となっています。

「その他」として、図表1-128の内容が記載されていました。

図表1-127 子育ての不安や悩み（複数回答）

単位：nは人、他は%



図表 1-128 子育ての不安や悩み（複数回答、その他）

- ・お金のこと（11件）
- ・子育てと仕事の両立（2件）
- ・保育園の送り迎え（2件）
- ・児童手当が少ないこと
- ・子育て費用
- ・金銭的不安。きょうだいがほしいがお金の問題になる
- ・自立するまでにかかる費用をきちんと賄えるか
- ・将来の教育費等の経済的な不安
- ・大学費用等の学費が足りるのかという不安
- ・国の制度や住んでいる地域の子育て支援が充実していないと感じるため、経済的な不安が大きい
- ・自分の時間を取りたくても、サポートは色々あるが、結局お金がかかる。申込の手間がかかる
- ・子育てと家事、仕事（在宅ワーク）のバランスがうまく取れないこと
- ・仕事と家庭の両立、親同士の付き合い
- ・仕事との両立が難しく、職場からのプレッシャーを感じる
- ・仕事との両立がうまくいかず、子どもにあたってしまう
- ・仕事で子との時間が少ないこと
- ・第2子出産で上の子が保育園を退園になり、一人で2人の面倒をみられるか不安
- ・2人目がほしいが、幼児だと退園になり、復帰のタイミングで2人とも入園できるか不安
- ・すべてのことにおいて正解がわからないので、不安と共に試行錯誤しながら実施している。楽しいと大変は両立するし、生きがいや楽しさと不安も両立する
- ・周りと比較してうまくできているか
- ・さみしい思いをさせてしまっていること
- ・子どもが望むだけ十分に子どもと向き合えていない気がする
- ・不安ではないけど周りの子の成長と比べてしまう。自分のペースで育ってくれたらいいなと思う反面、少しあせってしまう
- ・3人子どもがいると、均等に接することができない
- ・自分の通院の際に子どもを預ける場所がなく困る
- ・気軽に子どもを預けることができる場所がほしいです
- ・安心して預けたいときに預けられる人がいないこと
- ・親に身寄りがいないと預かり先もなく、常に焦りと不安が隣り合わせ
- ・就学
- ・子どもの教育のこと
- ・ちゃんとした教育を与えてあげられているかということ
- ・親としての不安はないが、子の人生は親でもどうすることもできないことがあるから、それは不安
- ・子どもの将来について不安
- ・高齢出産なので将来が心配であること
- ・食べむら
- ・子どもと一緒にいるのがつらくて無視してしまうときがある
- ・子育てから逃げたいと思うことがよくある
- ・夫の育児参加、もっと意識を持ってしてほしい
- ・夫の休みがあまりなく、一人で子育てをしているという孤独感がある
- ・ワンオペ育児により、自分一人の時間がなくて、仕事で子どもと離れることが自分にとってのリフレッシュだと思込ませているのではと、ときどき思うことがある
- ・子どもが生まれてからの夫婦関係
- ・夫婦喧嘩
- ・子どもが歩きで（または自転車）、行動できる範囲内に祖父母がいない。頼れる人がいない
- ・子育てと親（子の祖母）の世話の両立が大変なこと
- ・義実家との付き合い方
- ・地域がよくわからないこと（この地域で育っていない、知人がいないゆえの不安）。あらゆる制度が共働き家庭を前提にされていないこと
- ・心の余裕がなくなること、公園にゴミが多くて汚い
- ・何とも言えない気持ち

(4) 子育てに関する情報の入手先

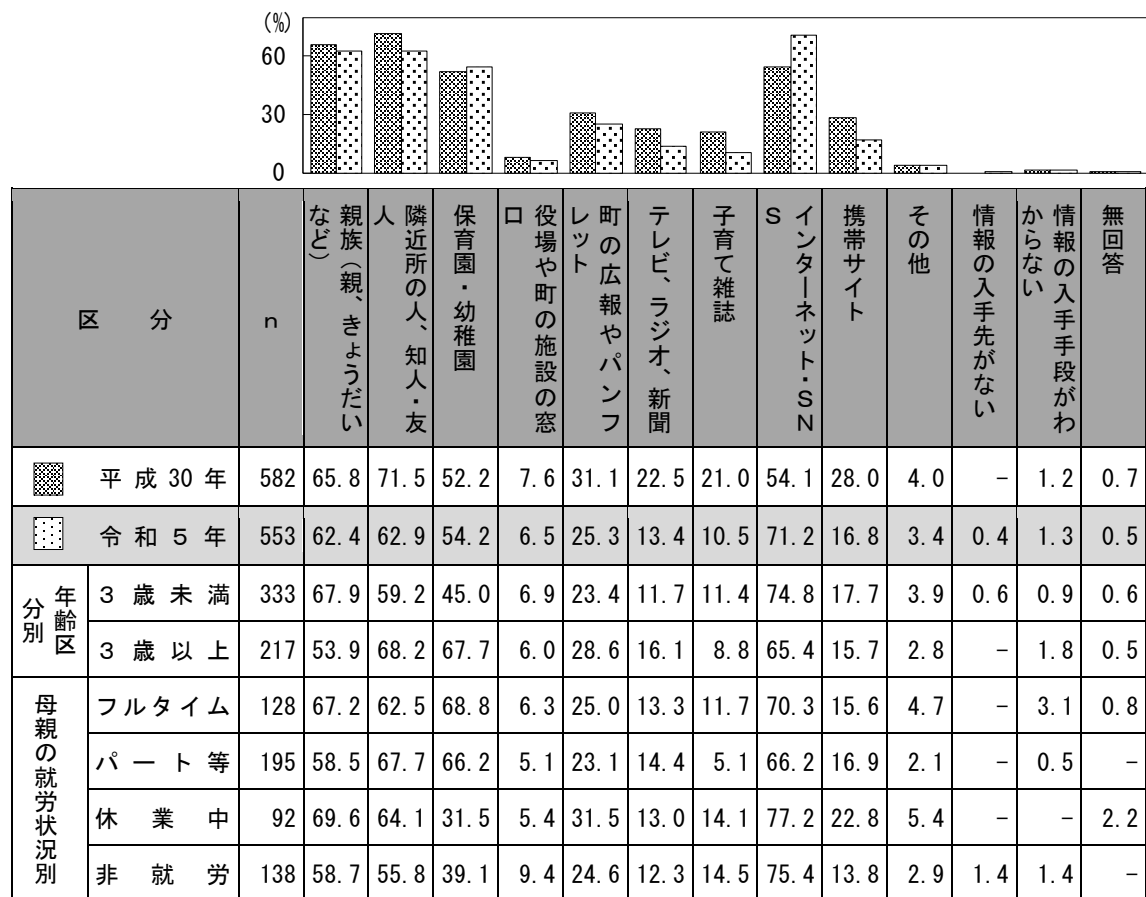
子育てに関する情報の入手先は、「インターネット」が71.2%と最も高く、次いで「隣近所の人、知人・友人」が62.9%、「親族（親、きょうだいなど）」が62.4%、「保育園・幼稚園」が54.2%などの順となっています。平成30年との比較では、ほとんどの項目が低下している一方、「インターネット・SNS」は17.1ポイント上昇しています。

年齢区分別にみると、3歳未満は3歳以上に比べて「親族（親、きょうだいなど）」および「インターネット・SNS」が、3歳以上は3歳未満に比べて「隣近所の人、知人・友人」、「保育園・幼稚園」および「町の広報やパンフレット」が5ポイント以上高くなっています。

「その他」として、図表1-130の内容が記載されていました。

図表1-129 子育てに関する情報の入手先（複数回答）

単位：nは人、他は%



図表1-130 子育てに関する情報の入手先（複数回答、その他）

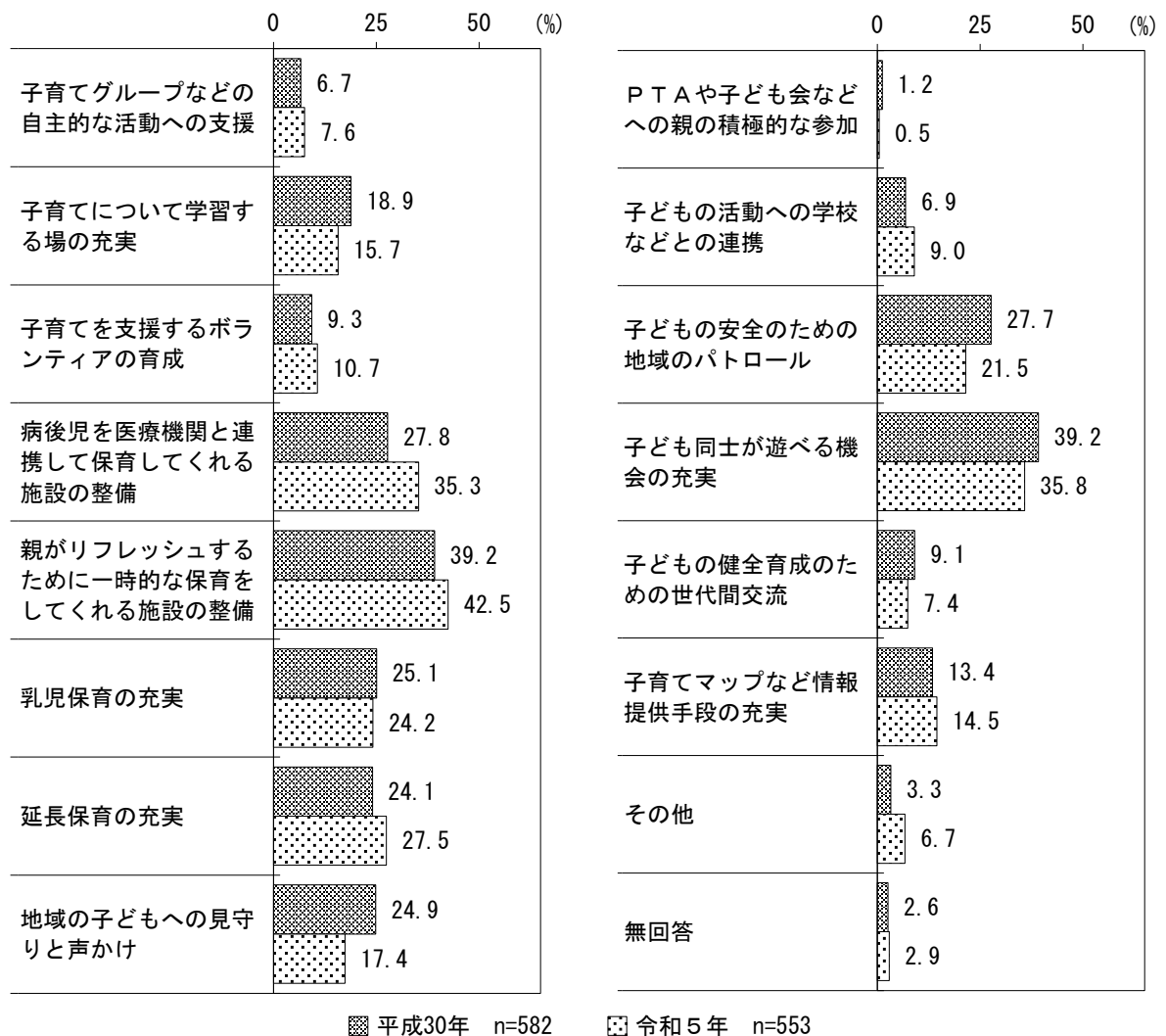
・子育て支援センター（5件）	・専門家
・職場の同僚（4件）	・病院、助産院
・習い事（2件）	・児童発達支援事業所、相談支援事業所
・本（2件）	・療育先
・職場（保育園）	・遠方に住んでいる友人

(5) 今後必要と思われる取組

子育てについて今後必要と思われる取組をたずねたところ、「親のリフレッシュのために一時的な保育をしてくれる施設の整備」が42.5%と高く、次いで「子ども同士が遊べる機会の充実」が35.8%、「病後児を医療機関と連携して保育してくれる施設の整備」が35.3%などの順となっています。平成30年との比較では、「病後児を医療機関と連携して保育してくれる施設の整備」が7.5ポイント高くなり、「地域の子どもへの見守りと声かけ」および「子どもの安全のための地域のパトロール」が5ポイント以上低下しています。

「その他」として、図表1-132の内容が記載されていました。

図表1-131 今後必要と思われる取組（3つまで）



図表 1－132 今後必要と思われる取組（3つまで、その他）

- ・経済的な支援（4件）
- ・児童手当などの充実（2件）
- ・子育て世帯への減税（2件）
- ・PTA、子ども会の負担軽減（2件）
- ・PTA、子ども会の活動見直し（活動に参加できない親も多く、一部外部委託したり、会議をリモートにする等、参加しやすい環境を）
- ・PTAや子ども会の役員はやりたい人がやるべき、もしくは民間にお願いする
- ・PTAや子ども会活動の充実と、それによる親、教師の負担軽減
- ・PTA、むしろいらない。時間の無駄。地区の親のいやがらせで迷惑した
- ・保育園、幼稚園の数
- ・2人目出産で育休中に上の子が保育園を退園しなくてよい制度づくり
- ・病児保育の充実
- ・療育を受けられる施設が扶桑にほぼない。町外には結構あるので増えるといいです
- ・療育だけでなく、障害児を受け入れるサポート要
- ・土日祝日でも、朝から晩まで預けられる場所をつくること
- ・一時保育が早朝8：30前から並ばないと預けられる日がない。主人が仕事だと、2人の子どもの準備をして朝早くから並ぶのがすごく大変。冬は特に寒いし、子どもにも負担かなと。月初めに子どもが体調不良でも並ばなくてはいけないのはすごく大変です
- ・ファミリー・サポート・センターなどのもっと開かれた情報開示の仕方など。誰がどんなふうにいるのか見えにくく、不安で頼みにくい
- ・楽しく安全に登校できる通学路
- ・学童保育の充実
- ・世代を超えた関わり
- ・親の負担を減らす
- ・親へのサポート。おむつやミルクなど必要品を届ける際に話を聞くなどの交流から、親の心を少しでも支えてもらえたら。出かけることもままならないので
- ・親が病気のときの支援
- ・子育て支援金の増額。親が仕事を休める、または仕事時間の短縮（収入がそれによって減らない、または困らない対策）
- ・会社の制度の充実
- ・仕事の調整がしやすい環境
- ・子育て中に休みを取りやすい環境と子育てが落ち着いてからの就職支援
- ・子どもが放課後、屋内で遊べる場所の充実
- ・子どもが安全に遊べる場所のさらなる整備
- ・公園の整備（トイレが汚い、雑草が多い）
- ・交通量の多い道路の歩道整備
- ・保育、子育てに関わる職業の待遇アップ

第2部

小学生保護者調査

I 子どもと家族の状況等

(1) 居住地区

回答のあった子どもの居住地区は、「高雄」が45.5%を占めており、次いで「柏森」が24.7%、「斎藤」が11.9%などの順となっています。

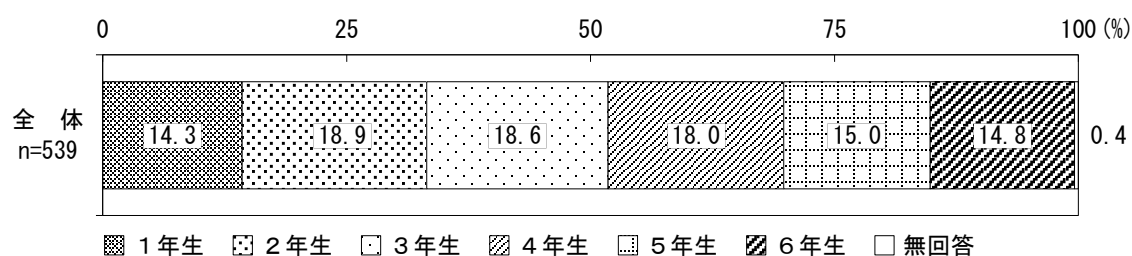
図表 2 - 1 居住地区

地区	高雄地区	山那地区	小淵地区	南山名地区	斎藤地区	高木地区	柏森地区	無回答	合計
人	245	14	13	49	64	19	133	2	539
%	45.5	2.6	2.4	9.1	11.9	3.5	24.7	0.4	100.0

(2) 子どもの学年

回答のあった子どもの学年は、図表 2 - 2 のとおりです。1 ～ 3 年生の低学年が51.8%、4 ～ 6 年生の高学年が47.8%を占めています。

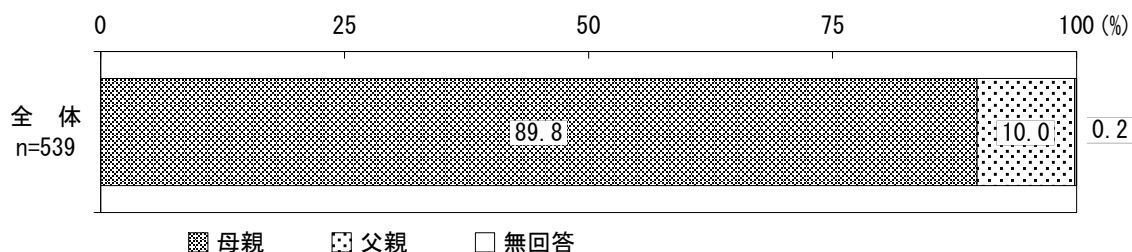
図表 2 - 2 子どもの学年



(3) 調査の回答者

本調査の回答者は、「母親」が89.8%を占め、「父親」が10.0%となっています。

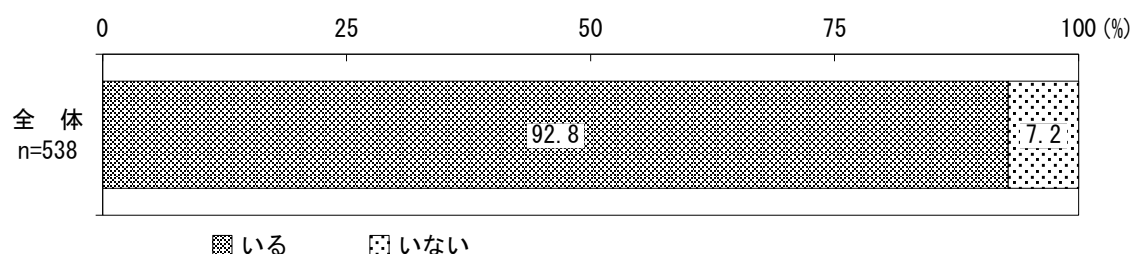
図表 2 - 3 調査の回答者



(4) 配偶関係

回答者の配偶関係をたずねたところ、配偶者が「いる」が92.8%、「いない」が7.2%となっています。

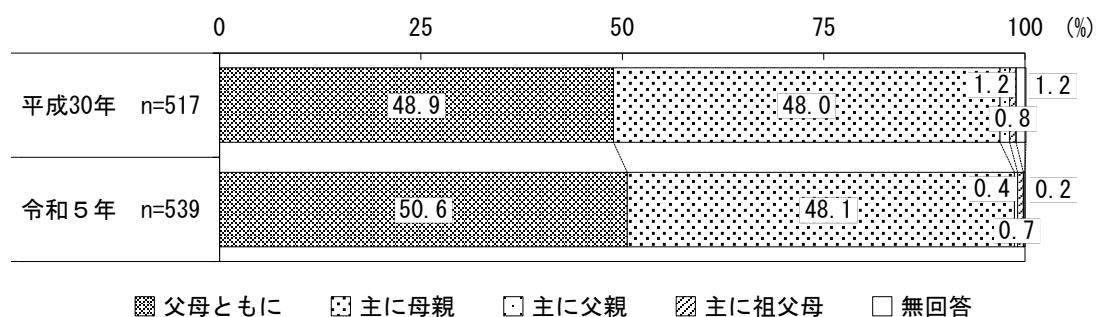
図表2-4 配偶関係



(5) 子育てを主に行っている人

子育てを主に行っているのは、「父母ともに」が50.6%と最も高く、次いで「主に母親」が48.1%、「主に祖父母」が0.7%、「主に父親」が0.4%となっています。平成30年との比較では、「父母ともに」が1.7ポイント上昇しています。

図表2-5 子育てを主に行っている人



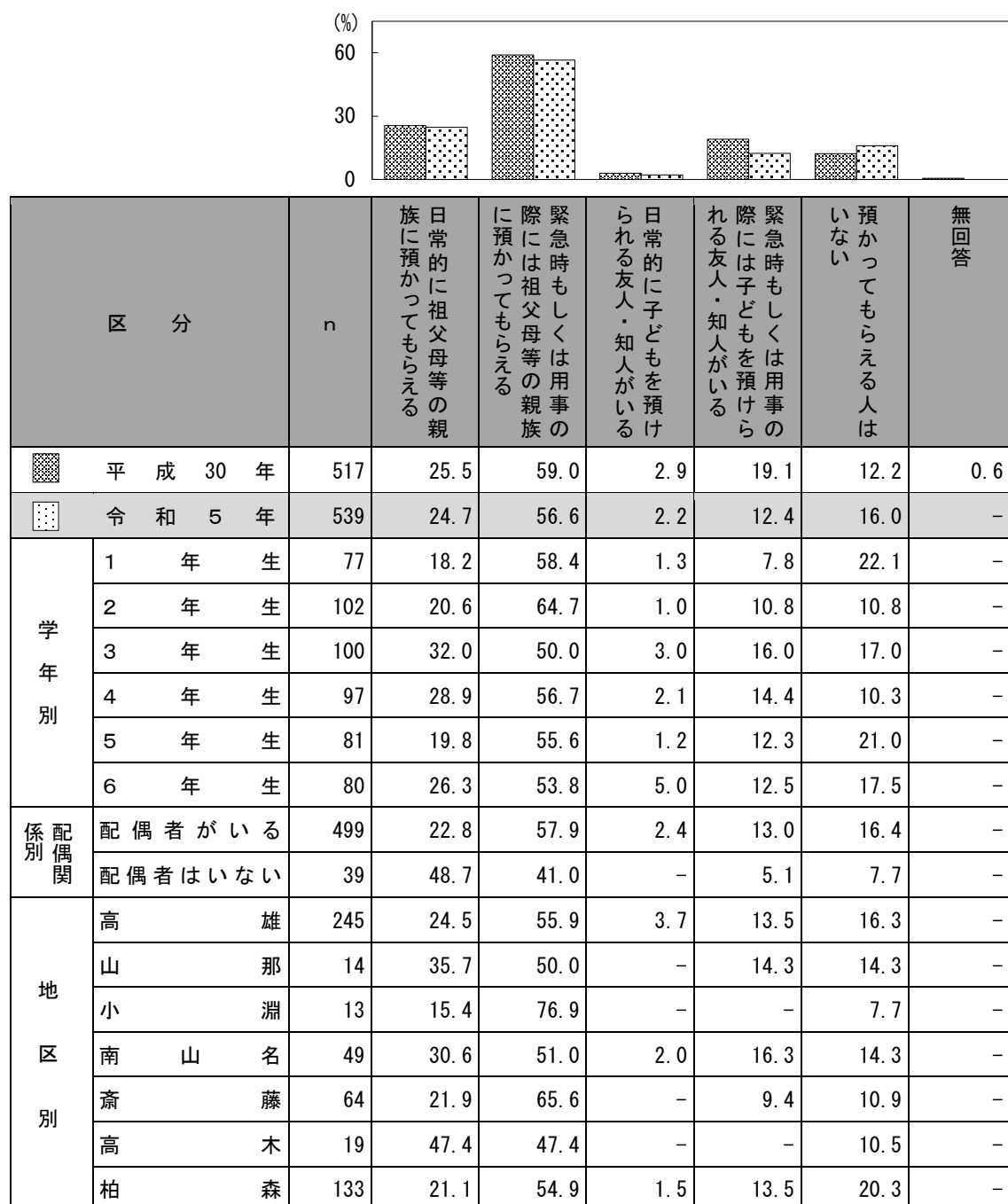
2 子どもの育ちをめぐる環境

(1) 子どもを預かってもらえる人の有無

子どもを預かってもらえる人の有無をたずねたところ、「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族に預かってもらえる」が56.6%と最も高く、次いで「日常的に祖父母等の親族に預かってもらえる」が24.7%などの順となっています。「預かってもらえる人はいない」は16.0%です。平成30年との比較では、「預かってもらえる人はいない」は3.8ポイント高くなっています。

図表2-6 子どもを預かってもらえる人の有無（複数回答）

単位：nは人、他は%

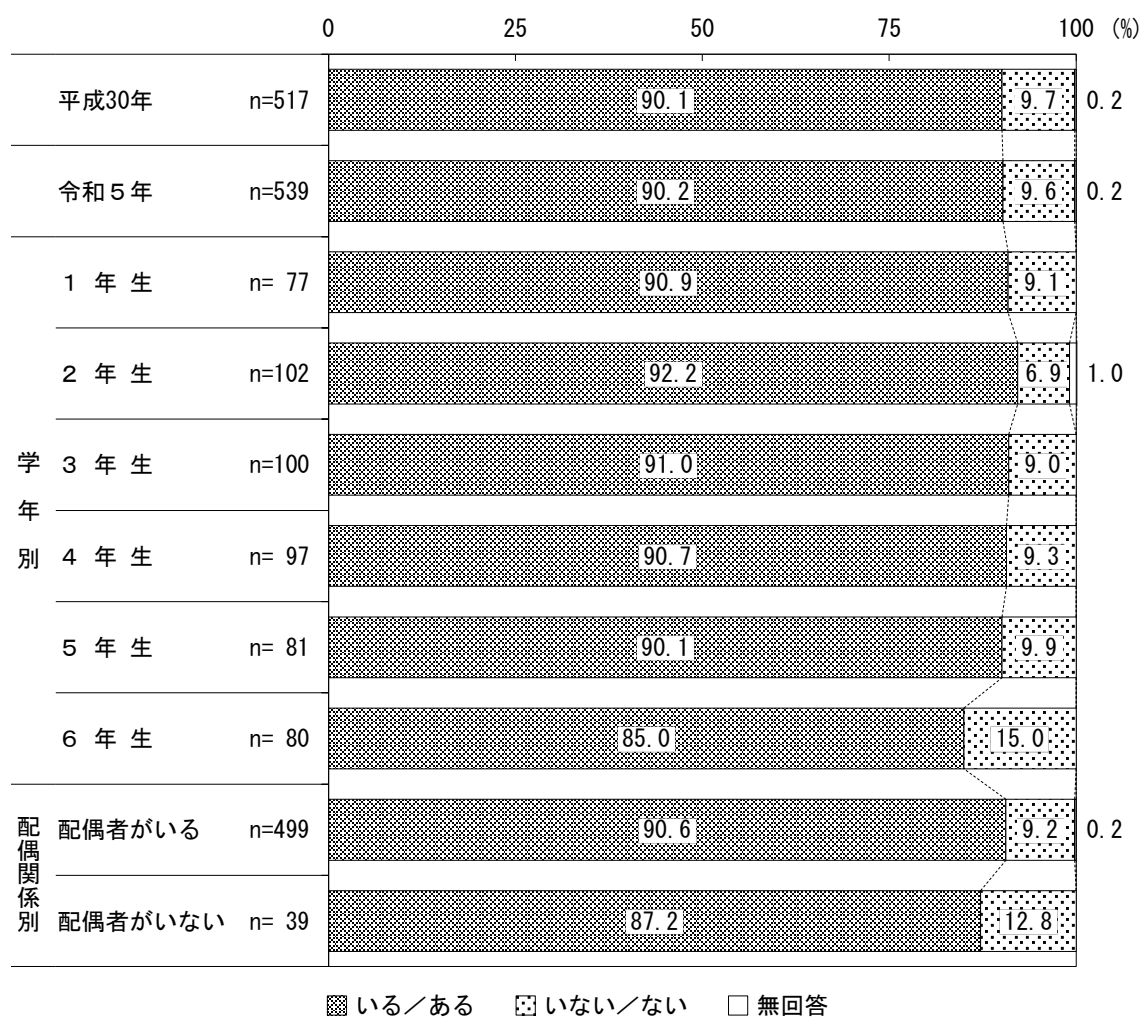


(2) 子育ての相談相手の有無

子育て（教育を含む）をする上で、気軽に相談できる人が「いる／ある」は90.2%を占めています。平成30年から大きな変化はありません。

学年別の6年生、配偶関係別の配偶者がいない人は「いない／ない」が10%以上と比較的高くなっています。

図表2-7 子育ての相談相手の有無



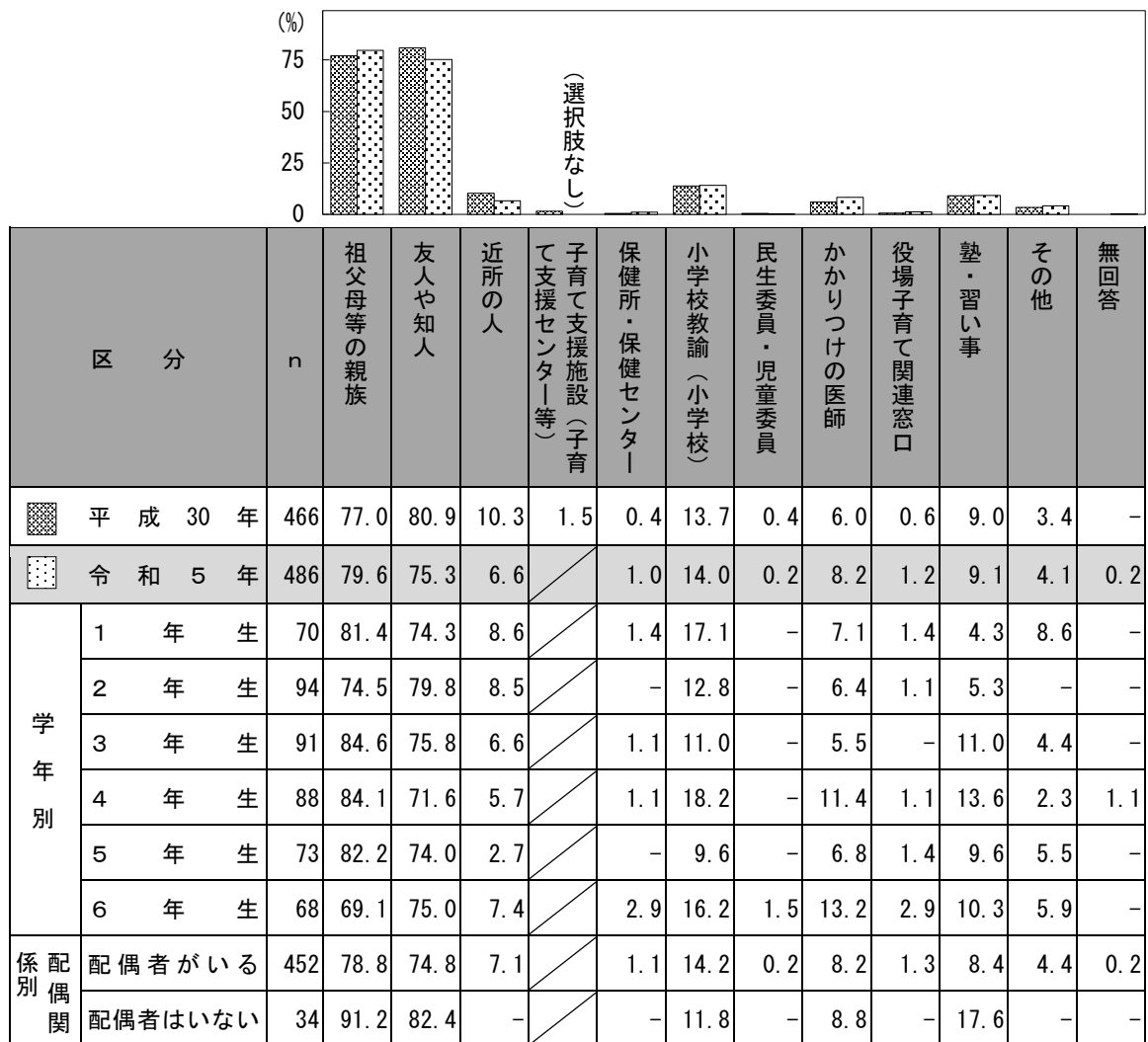
(3) 子育てに関する相談先

前項で、気軽に相談できる人が「いる／ある」と回答した人に相談先をたずねたところ、「祖父母等の親族」が79.6%と最も高く、次いで「友人や知人」が75.3%となっており、これらの2項目が突出して高くなっています。就学前児童の保護者と比較すると（参照8頁図表1－8）、上位2項目は同じですが、その差は小さくなっています。

「その他」として、図表2－9の内容が記載されていました。

図表2－8 子育てに関する相談先（複数回答）

単位：nは人、他は%



図表2－9 子育てに関する相談先（複数回答、その他）

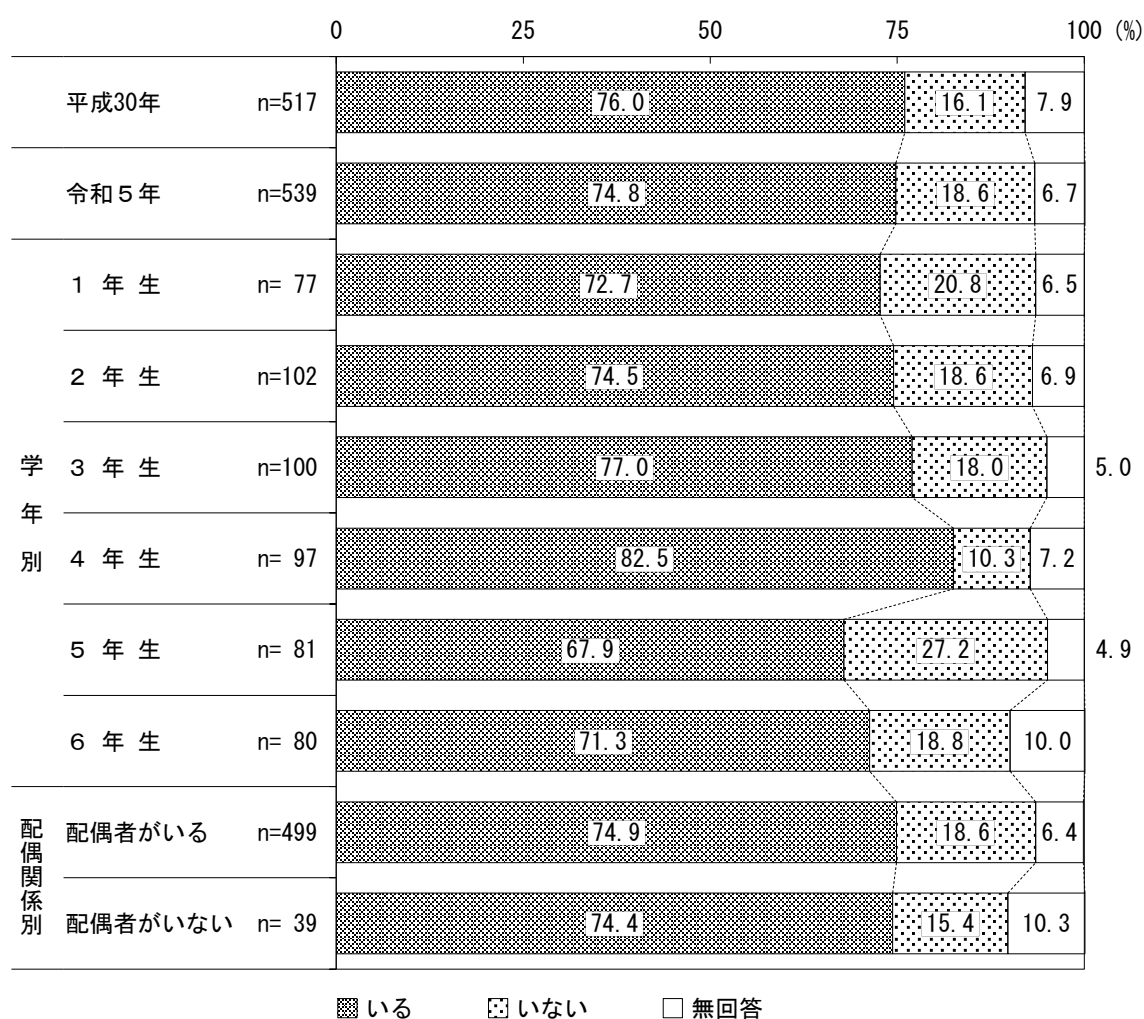
・職場の人（8件）	・児童発達支援（2件）
・放課後等デイサービス（3件）	・相談員
・配偶者（2件）	・親の会（持病の）
・児童発達相談員（2件）	・SNS

(4) 子育ての手助けをしてくれる人の有無

子育てをする上で、身近に手助けしてくれる人がいるかたずねたところ、「いる」が74.8%と「いない」を大きく上回っています。平成30年との比較では、「いない」が2.5ポイント上昇しています。

学年別にみると、「いる」は4年生が82.5%と最も高く、5年生が67.9%と最も低くなっており、その差は14.6ポイントとなっています。

図表2-10 子育ての手助けをしてくれる人の有無



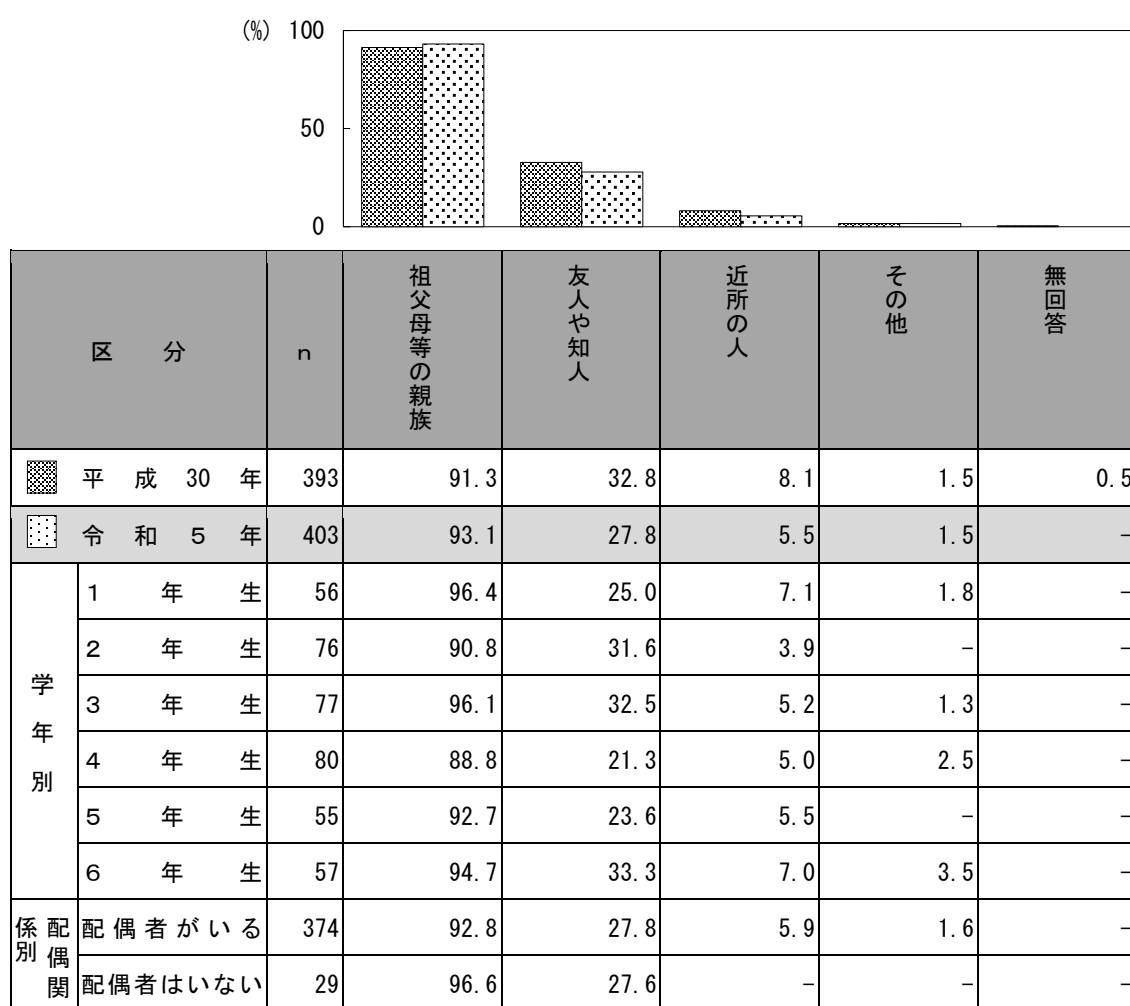
(5) 子育てを手助けしてくれる人

前項で、身近に子育ての手助けをしてくれる人が「いる」と回答した人にどのような人かたずねたところ、「祖父母等の親族」が93.1%と突出して高く、次いで「友人や知人」が27.8%、「近所の人」が5.5%となっています。平成30年との比較では、「祖父母等の親族」は1.8ポイント上昇したものの、「友人や知人」および「近所の人」は低下しています。

「その他」として、「放課後等デイサービス」（2件）、「配偶者」、「道場の先生」という記載がありました。

図表2-11 子育てを手助けしてくれる人

単位：nは人、他は%



3 保護者の就労状況

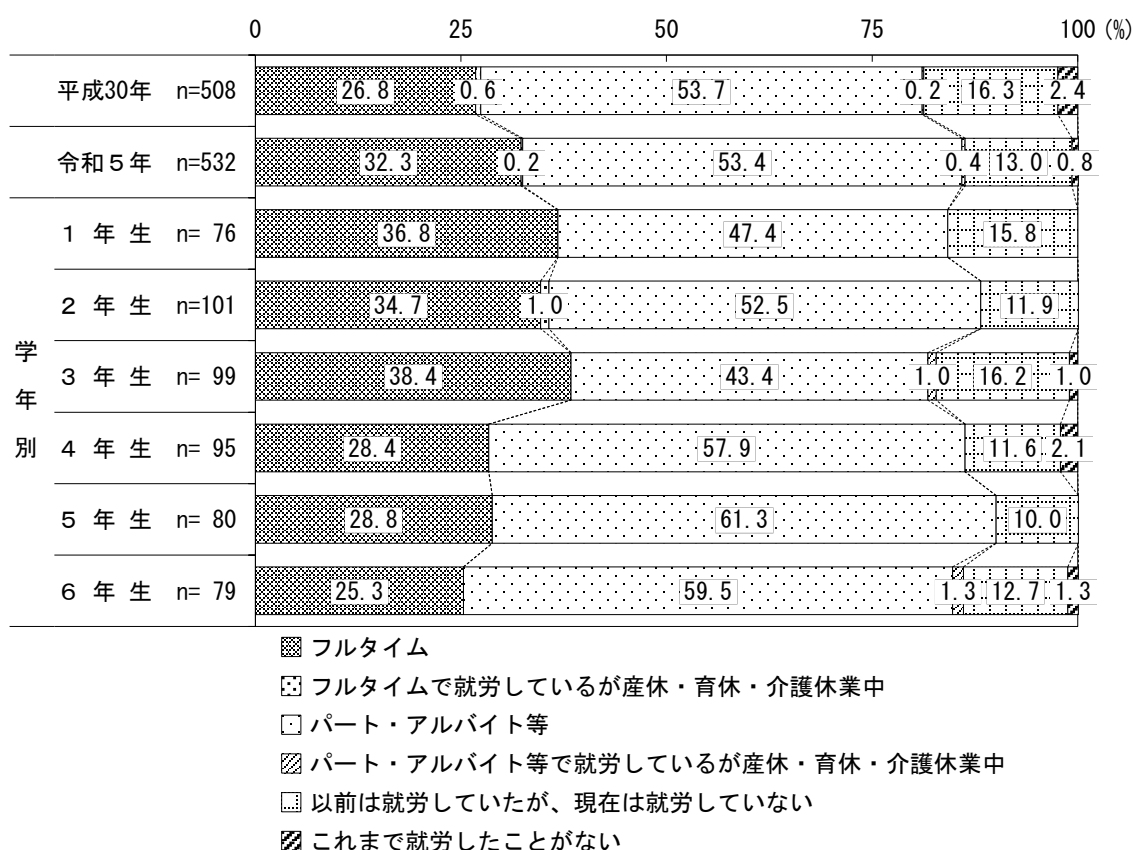
(1) 母親の就労状況

① 就労状況

母親の就労状況は、「パート・アルバイト等」が53.4%と最も高く、次いで「フルタイム」が32.3%、「以前は就労していたが、現在は就労していない」が13.0%などの順となっています。平成30年との比較では、「以前は就労していたが、現在は就労していない」および「これまで就労したことがない」が低下し、就労している人の率が上昇しています。

学年別にみると、「フルタイム」は1～3年生が、「パート・アルバイト等」は4～6年生が比較的高くなっています。

図表2-12 母親の就労状況



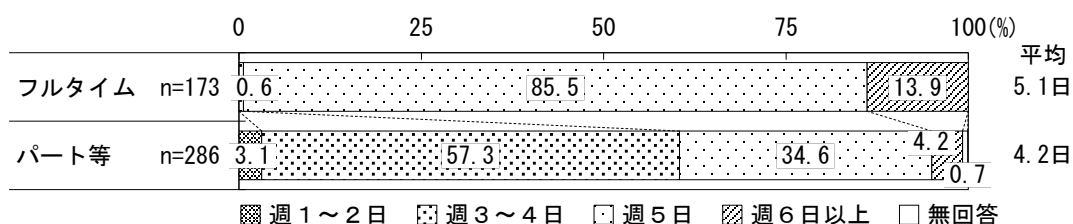
② 平均就労日数

フルタイムの母親の就労日数は、「週5日」が85.5%を占めています。1週当たりの平均は5.1日です。

パート・アルバイト等の母親の就労日数は、「週3～4日」が57.3%と最も高く、次いで「週5日」が34.6%などの順となっています。

平均就労日数を就学前児童の保護者と比較すると（参照12頁図表1－13）、フルタイムは同様に、パート等は0.1日減少しています。

図表2－13 母親の平均就労日数



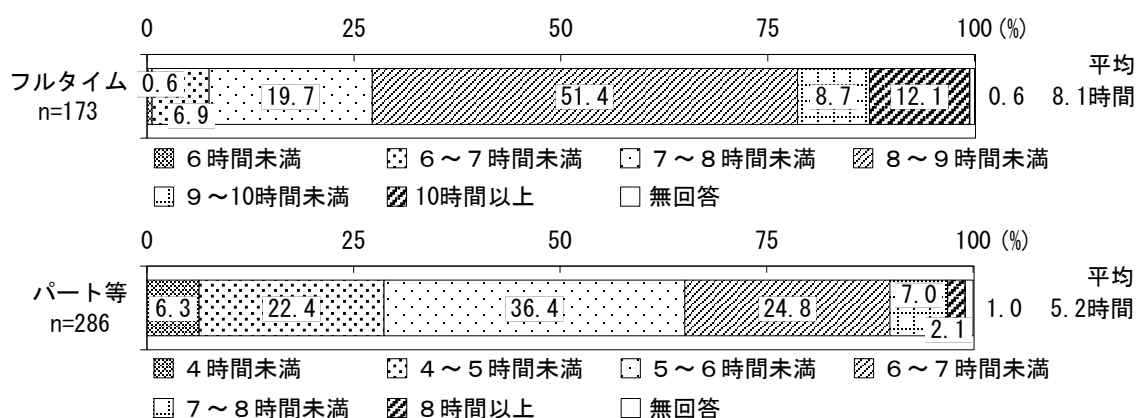
③ 平均就労時間

フルタイムの母親の1日当たりの平均就労時間は、「8～9時間未満」が51.4%を占めており、1日当たりの平均就労時間は8.1時間です。

パート・アルバイト等の母親の平均就労時間は、「5～6時間未満」が36.4%と最も高く、次いで「6～7時間未満」が24.8%などの順となっています。1日当たりの就労時間の平均は5.2時間です。

平均就労時間を就学前児童の保護者と比較すると（参照12頁図表1－14）、フルタイムは0.2時間増加し、パート等は0.1時間減少しています。

図表2－14 母親の平均就労時間



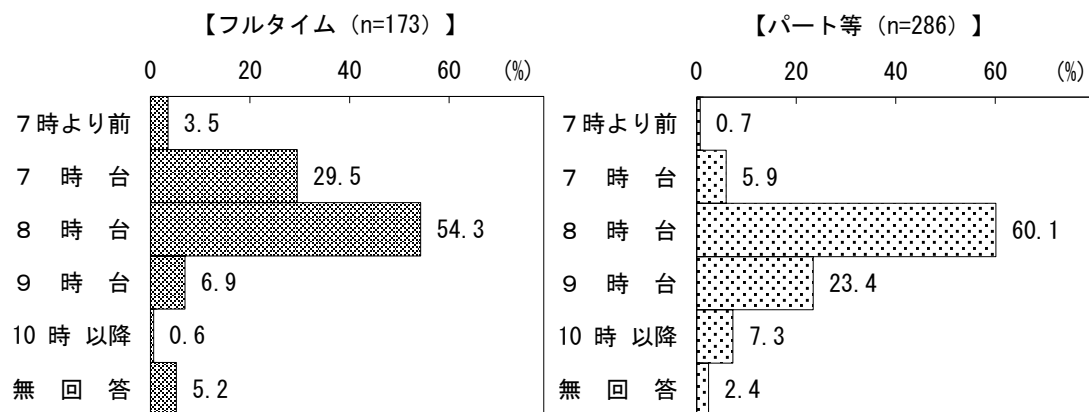
④ 家を出る時刻、帰宅時刻

母親が家を出る時刻をみると、フルタイムおよびパート等ともに「8時台」が最も高くなっています。2番目に高いのは、フルタイムは「7時台」（29.5%）、パート等は「9時台」（23.4%）となっています。フルタイムが9時までに家を出る率は87.3%です。

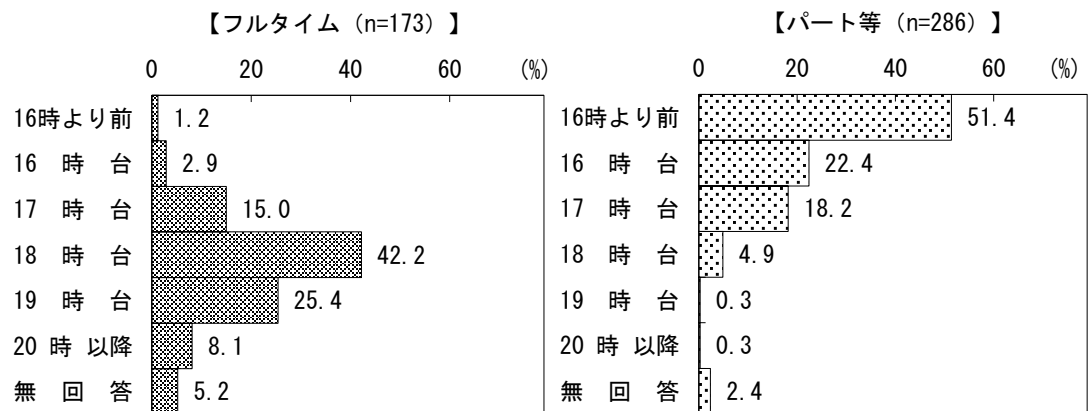
帰宅時刻をみると、フルタイムは「18時台」が42.2%と最も高く、18時以降に帰宅する人の合計は75.7%です。パート・アルバイト等は、「16時より前」が51.4%と最も高く、以降は徐々に低下しており、18時までに帰宅している人が92.0%を占めています。

図表2-15 母親の家を出る時刻、帰宅時刻

■家を出る時刻



■帰宅時刻

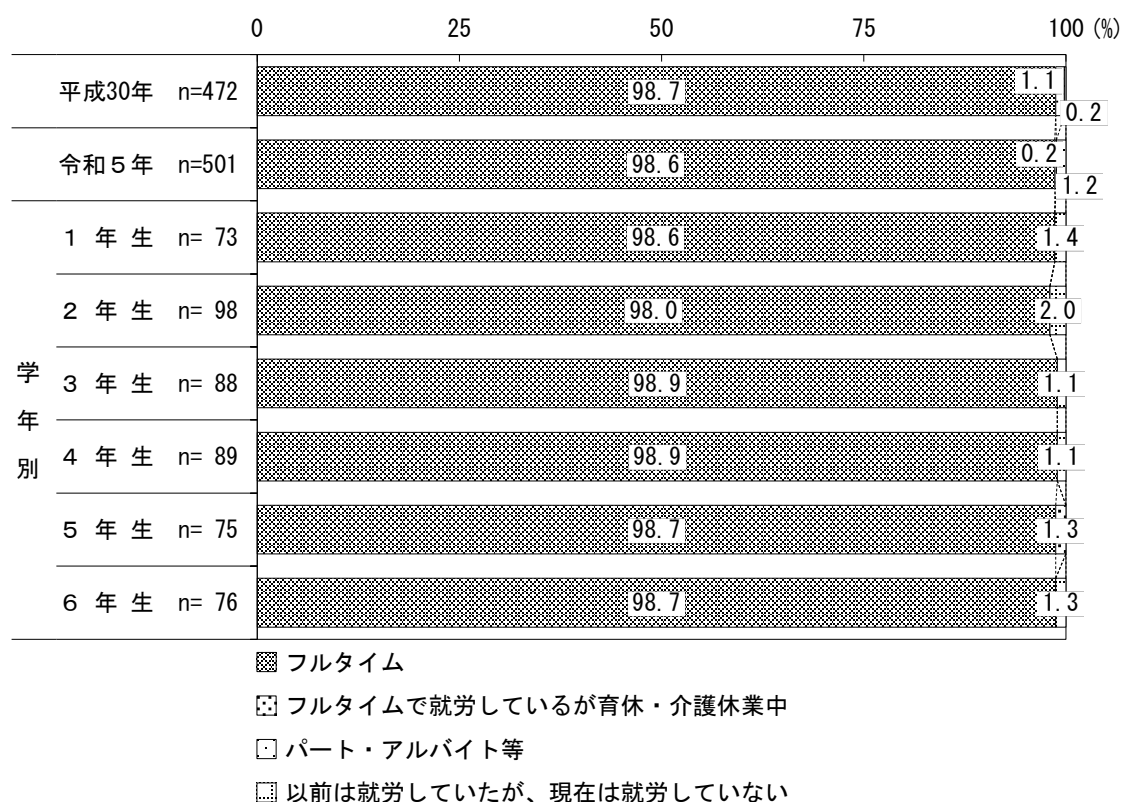


(2) 父親の就労状況

① 就労状況

父親の就労状況は、「フルタイム」が98.6%を占めています。そのほかは、「フルタイムで就労しているが育休・介護休業中」が0.2%（1人）、「以前は就労していたが、現在は就労していない」が1.2%（6人）です。平成30年から大きな変化はありません。

図表 2-16 父親の就労状況

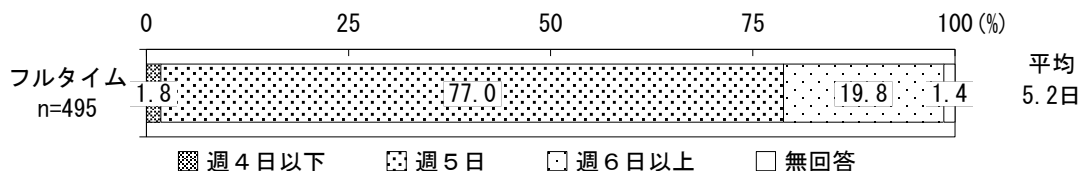


(注) 「パート・アルバイト等で就労しているが育休・介護休業中」「これまで就労したことがない」という選択肢が用意されていましたが、回答はありませんでした。

② 平均就労日数

フルタイムの父親の就労日数は、「週5日」が77.0%を占めており、次いで「週6日以上」が19.8%などの順となっています。1週当たりの就労日数の平均は5.2日です。

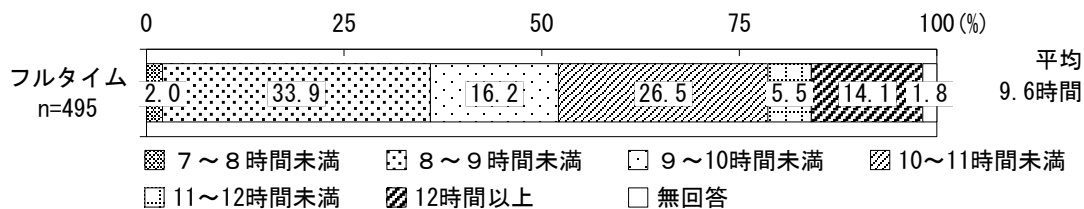
図表2-17 父親の平均就労日数



③ 平均就労時間

フルタイムの父親の1日当たりの平均就労時間は、「8～9時間未満」が33.9%と最も高く、次いで「10～11時間未満」が26.5%などとなっており、1日当たりの平均就労時間は9.6時間です。

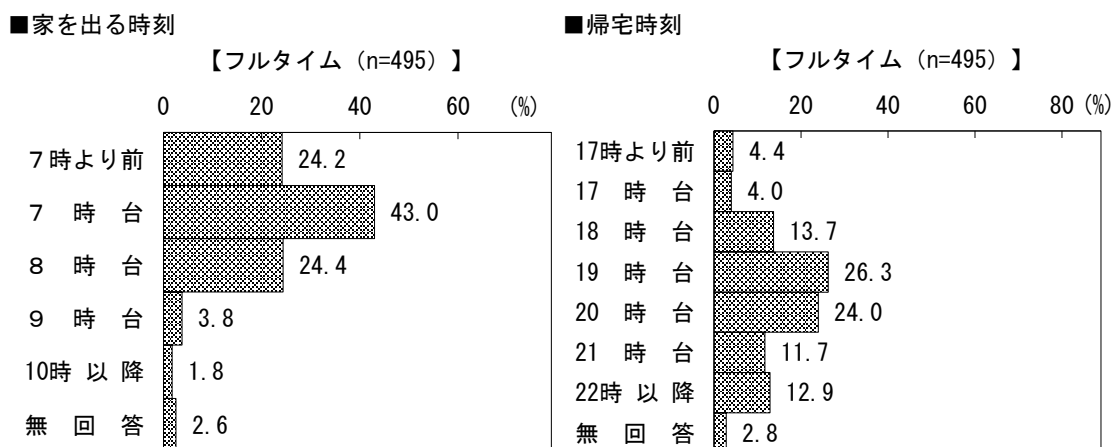
図表2-18 父親の平均就労時間



④ 家を出る時刻、帰宅時刻

フルタイムの父親が家を出る時刻をみると、「7時台」が43.0%と最も高く、次いで「8時台」が24.4%、「7時より前」が24.2%などの順となっています。9時までに家を出ている率は91.6%です。帰宅時刻は、「19時台」が26.3%と最も高く、次いで「20時台」が24.0%、「18時台」が13.7%などの順となっています。19時以降に帰宅する人の合計は74.9%です。

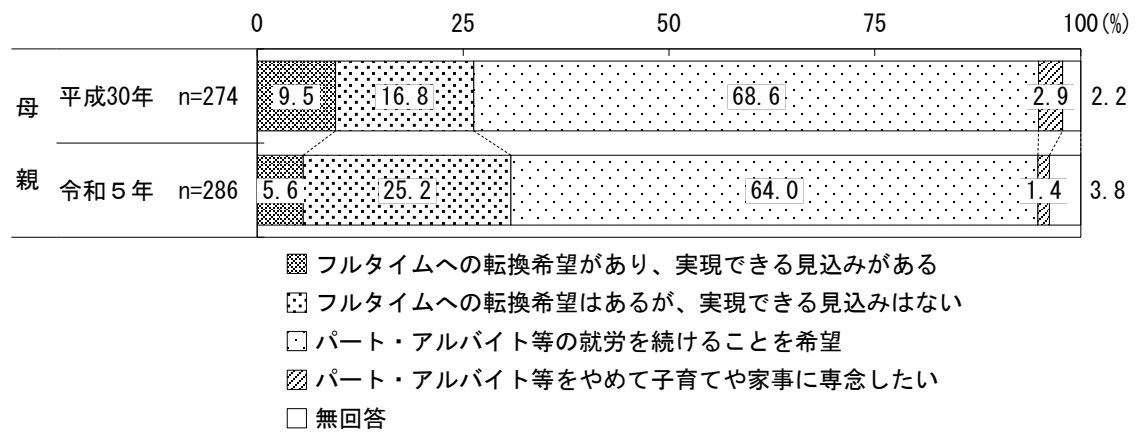
図表2-19 父親の家を出る時刻、帰宅時刻



(3) フルタイムへの転換希望

パート・アルバイト等と回答した母親にフルタイムへの転換希望をたずねたところ、「パート・アルバイト等の就労を続けることを希望」が64.0%と最も高く、次いで「フルタイムへの転換希望はあるが、実現できる見込みはない」が25.2%などとなっています。平成30年との比較では、「フルタイムへの転換希望はあるが、実現できる見込みはない」が8.4ポイント上昇しています。

図表 2-20 フルタイムへの転換希望（母親）



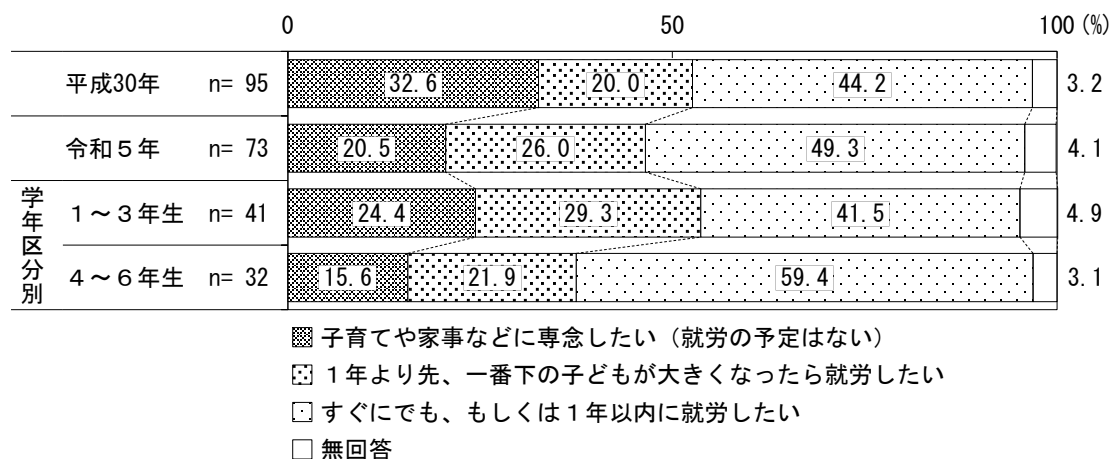
(4) 母親の就労意向

① 就労意向

現在、仕事をしていない母親の就労意向は、「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」が49.3%と最も高く、「1年より先、一番下の子どもが大きくなったら就労したい」（26.0%）と合計した《就労したい》は75.3%となります。平成30年との比較では、《就労したい》が11.1ポイント高くなっています。就学前児童の保護者に比べると（参照17頁図表1-21）、《就労したい》は6.6ポイント低くなっています。

学年区別にみると、《就労したい》は4～6年生が1～3年生に比べて10.5ポイント高くなっています。

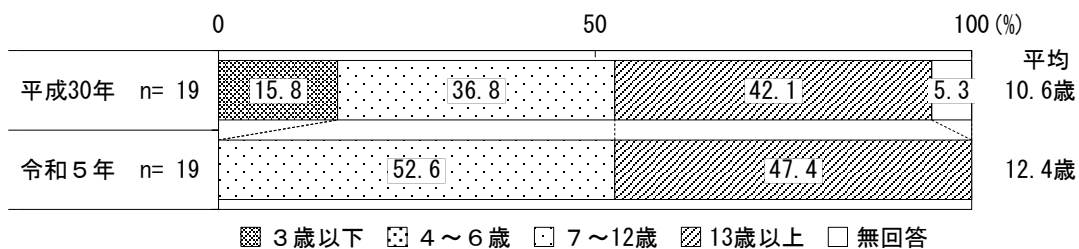
図表2-21 母親の就労意向



② 子どもが何歳になったら就労したいか

①で、「1年より先、一番下の子どもが大きくなったら就労したい」と回答した人に、子どもが何歳になったら就労したいかをたずねたところ、「4～6歳」が52.6%、「13歳以上」が47.4%となっており、平均は12.4歳です。平成30年との比較では、平均は1.8歳高くなっています。

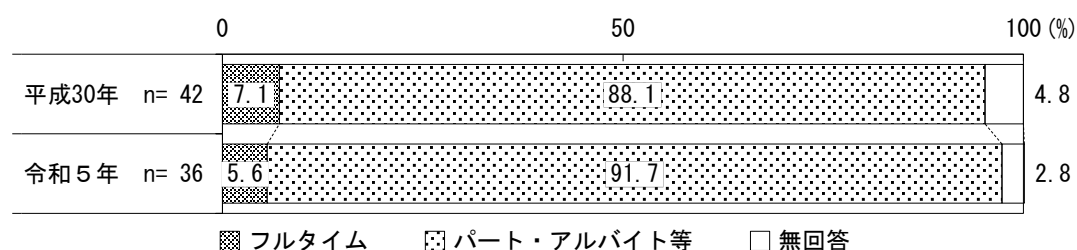
図表2-22 子どもが何歳になったら就労したいか



③ 希望する就労形態

①で、「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」と回答した人に希望する就労形態をたずねたところ、「パート・アルバイト等」が91.7%を占めています。

図表 2-23 希望する就労形態

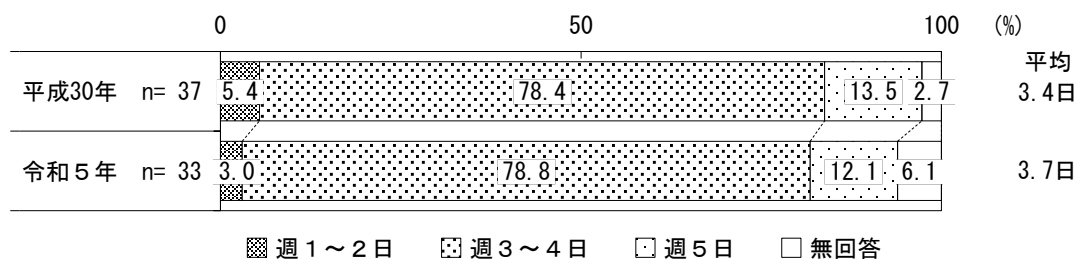


④ 希望する就労日数、就労時間

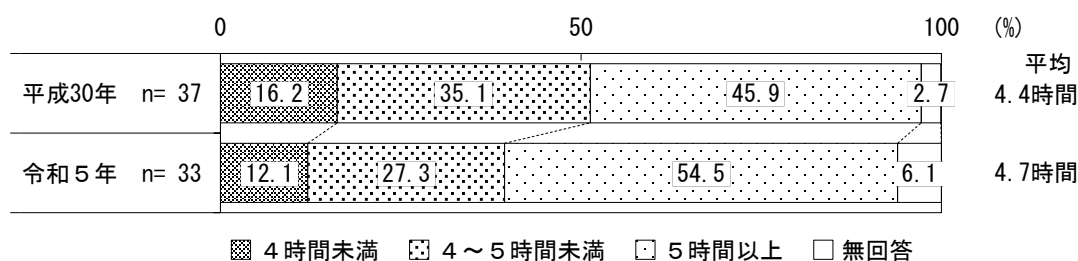
③で、「パート・アルバイト等」と回答した人に、希望する就労日数をたずねたところ、「週3～4日」が78.8%と最も高く、次いで「週5日」が12.1%などの順になっており、1週当たりの希望就労日数の平均は3.7日です。平成30年との比較では、平均は0.3日増加しています（図表 2-24）。

希望する1日当たりの就労時間は、「5時間以上」が54.5%と最も高く、次いで「4～5時間未満」が27.3%となっており、平均は4.7時間です。平成30年との比較では、平均は0.3時間増加しています。（図表 2-25）。

図表 2-24 希望する就労日数



図表 2-25 希望する就労時間



(5) 父親の就労意向

① 就労意向

現在、就労をしていない父親（6人）の就労意向は、「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」が66.7%（4人）、「子育てや家事などに専念したい（就労の予定はない）」が33.3%（2人）となっています。

② 希望する就労形態

①で、「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」と回答した4人に希望する就労形態をたずねたところ、「フルタイム」が75.0%（3人）、「パート・アルバイト等」が25.0%（1人）となっています。

③ 希望する就労日数、就労時間

②で「パート・アルバイト等」と回答した1人の希望する就労日数は「週5日」、希望する就労時間は「5時間以上」です。

4 放課後の過ごし方

(1) 放課後を過ごしている場所

現在、子どもが放課後（平日の小学校終了後）の時間をどのような場所で過ごしているかをたずねたところ、「自宅」が74.6%と最も高く、次いで「習い事」が55.1%、「放課後児童クラブ」が24.9%などの順となっています。平成30年との比較では、「放課後児童クラブ」が9.6ポイント上昇しています。

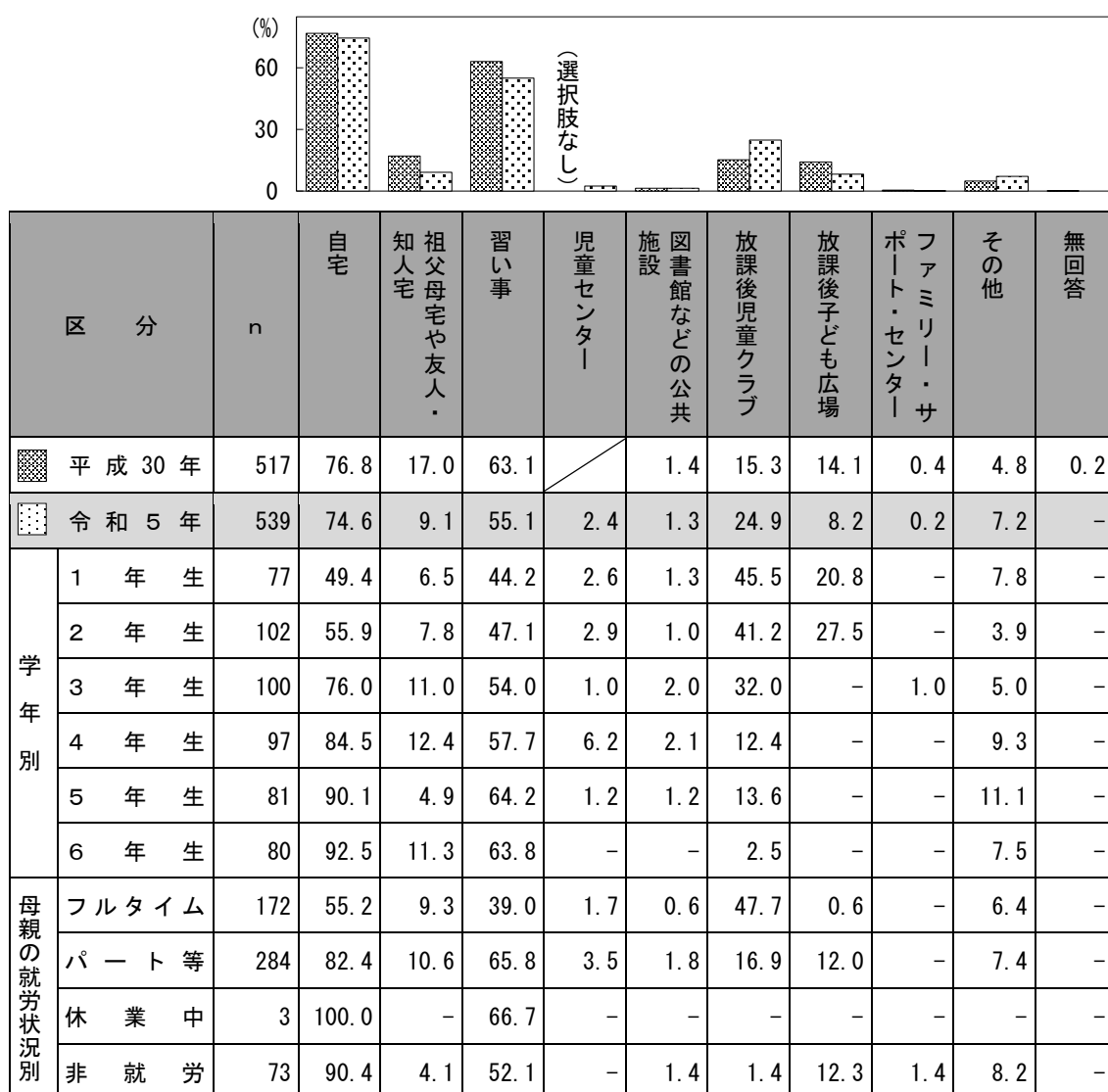
学年別にみると、いずれの学年も「自宅」が最も高くなっていますが、1～2年生では「放課後児童クラブ」が40%を超えています。また、学年が上がるにしたがい「自宅」および「習い事」は上昇傾向に、「放課後児童クラブ」は低下傾向にあります。

「図書館などの公共施設」の施設名として、「高雄公園」などの記載がありました。

「その他」として、「放課後等デイサービス」（16件）、「公園で遊ぶ」（9件）、「学校で遊ぶ」「友達と遊ぶ」（各5件）などの記載がありました。

図表 2-26 放課後を過ごしている場所（複数回答）

単位：nは人、他は%

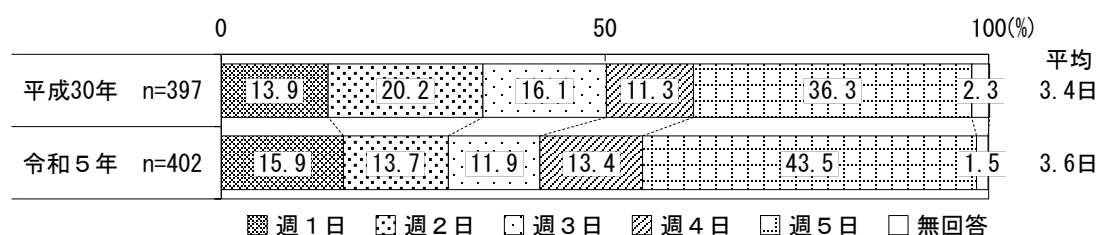


(2) 放課後を過ごしている平均日数

① 自宅（現在）

自宅で過ごしている日数は、「週5日」が43.5%と最も高く、平均日数は3.6日です。平成30年との比較では、「週5日」が7.2ポイント上昇しており、平均日数は0.2日増加しています。

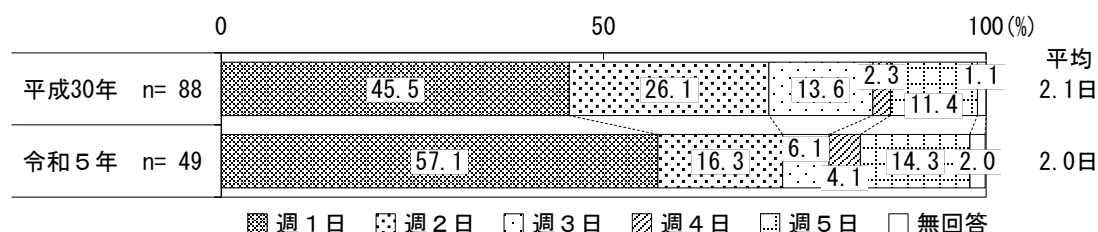
図表2-27 自宅（現在）



② 祖父母宅や友人・知人宅（現在）

祖父母宅や友人・知人宅で過ごしている日数は、「週1日」が57.1%と最も高く、平均日数は2.0日です。平成30年との比較では、「週1日」が11.6ポイント上昇しており、平均日数は0.1日減少しています。

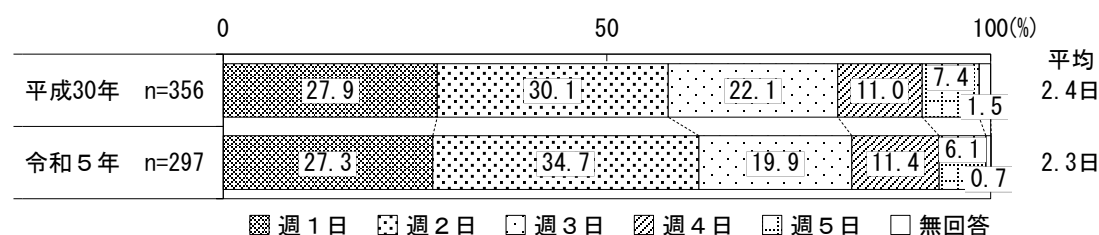
図表2-28 祖父母宅や友人・知人宅（現在）



③ 習い事（現在）

習い事の日数は、「週2日」が34.7%と最も高く、次いで「週1日」が27.3%、「週3日」が19.9%などの順となっています。平均日数は2.3日です。平成30年との比較では、「週2日」が4.6ポイント上昇しており、平均日数は0.1日減少しています。

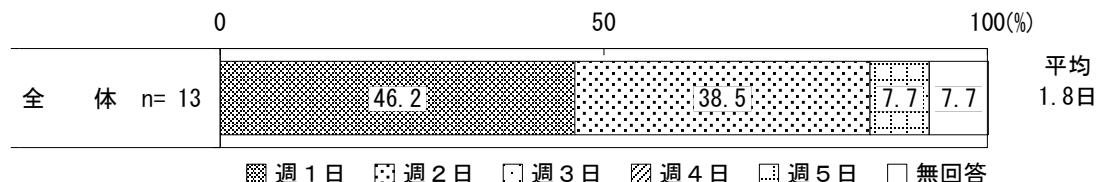
図表2-29 習い事（現在）



④ 児童センター（現在）

児童センターで過ごしている日数は、「週1日」が46.2%（6人）と最も高く、次いで「週2日」が38.5%（5人）などの順となっており、平均日数は1.8日です。

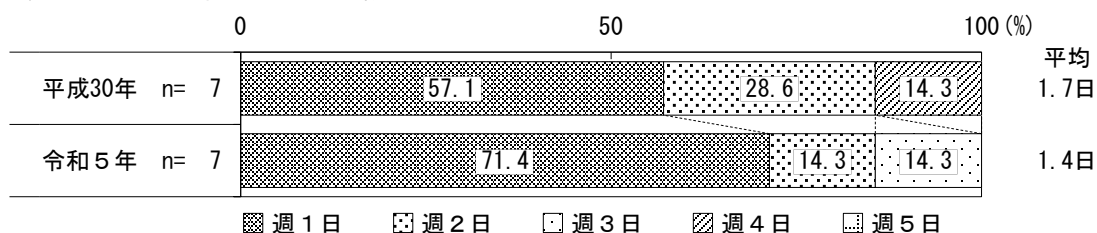
図表2-30 児童センター（現在）



⑤ 図書館などの公共施設（現在）

図書館などの公共施設で過ごしている日数は、「週1日」が71.4%（5人）と最も高く、次いで「週2日」および「週3日」が14.3%（1人）となっており、平均日数は1.4日です。平成30年との比較では、平均日数が0.3日減少しています。

図表2-31 図書館などの公共施設（現在）

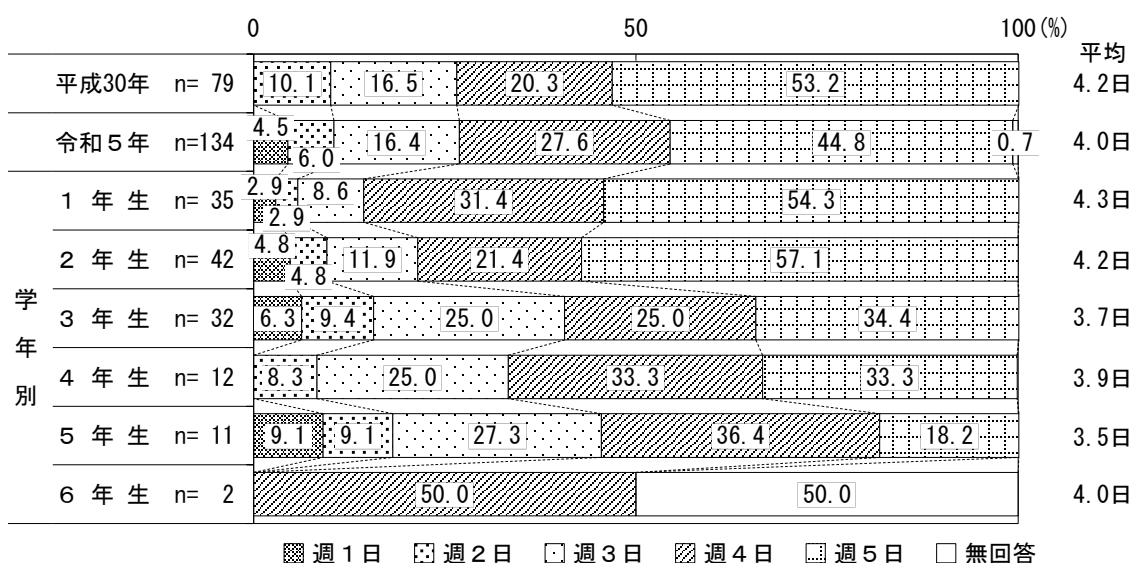


⑥ 放課後児童クラブ（現在）

放課後児童クラブで過ごしている日数は、「週5日」が44.8%と最も高く、平均日数は4.0日です。平成30年との比較では、平均日数が0.2日減少しています。

学年別にみると、1～5年生は学年が上がるにしたがい平均日数が減少しています。

図表2-32 放課後児童クラブ（現在）

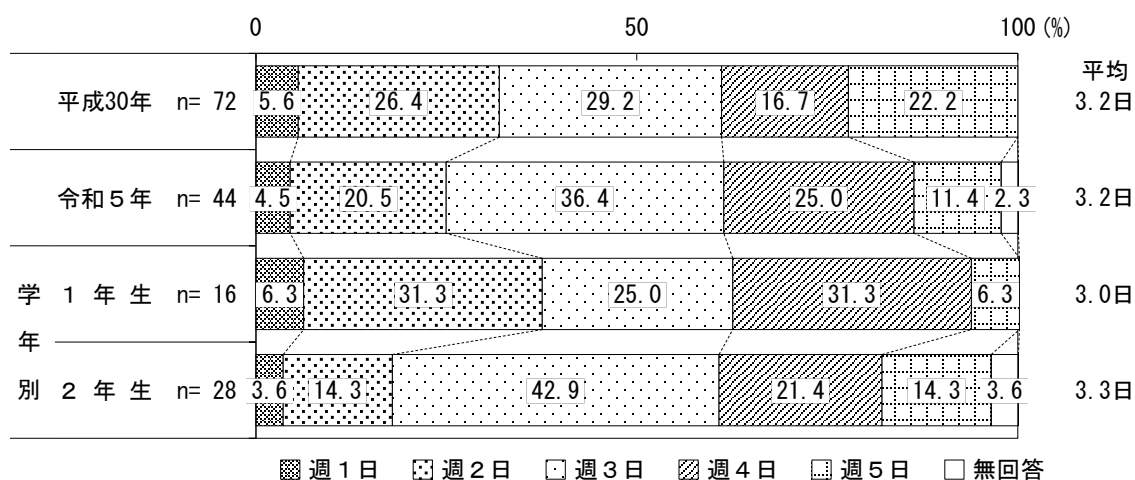


⑦ 放課後子ども広場（現在）

放課後子ども広場で過ごしている日数は、「週3日」が36.4%と最も高く、次いで「週4日」が25.0%、「週2日」が20.5%などの順となっています。平均日数は3.2日です。平成30年との比較では、「週3日」および「週4日」が上昇しているものの、平均日数は同様となっています。

学年別にみると、1年生は「週2日」および「週4日」、2年生は「週3日」が最も高くなっています。

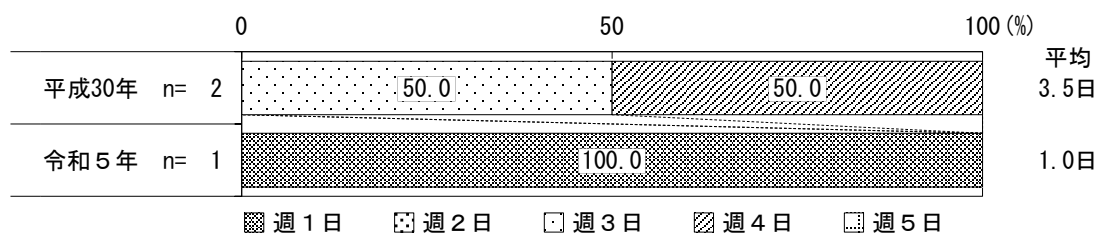
図表2-33 放課後子ども広場（現在）



⑧ ファミリー・サポート・センター（現在）

ファミリー・サポート・センターを利用していると回答した1人が過ごしている日数は、「週1日」です。

図表2-34 ファミリー・サポート・センター（現在）



(3) 放課後を過ごさせたい場所

子どもに放課後の時間をどのような場所で過ごさせたいかをたずねたところ、上位3項目は(1)と同様に「自宅」、「習い事」、「放課後児童クラブ」の順となっています。

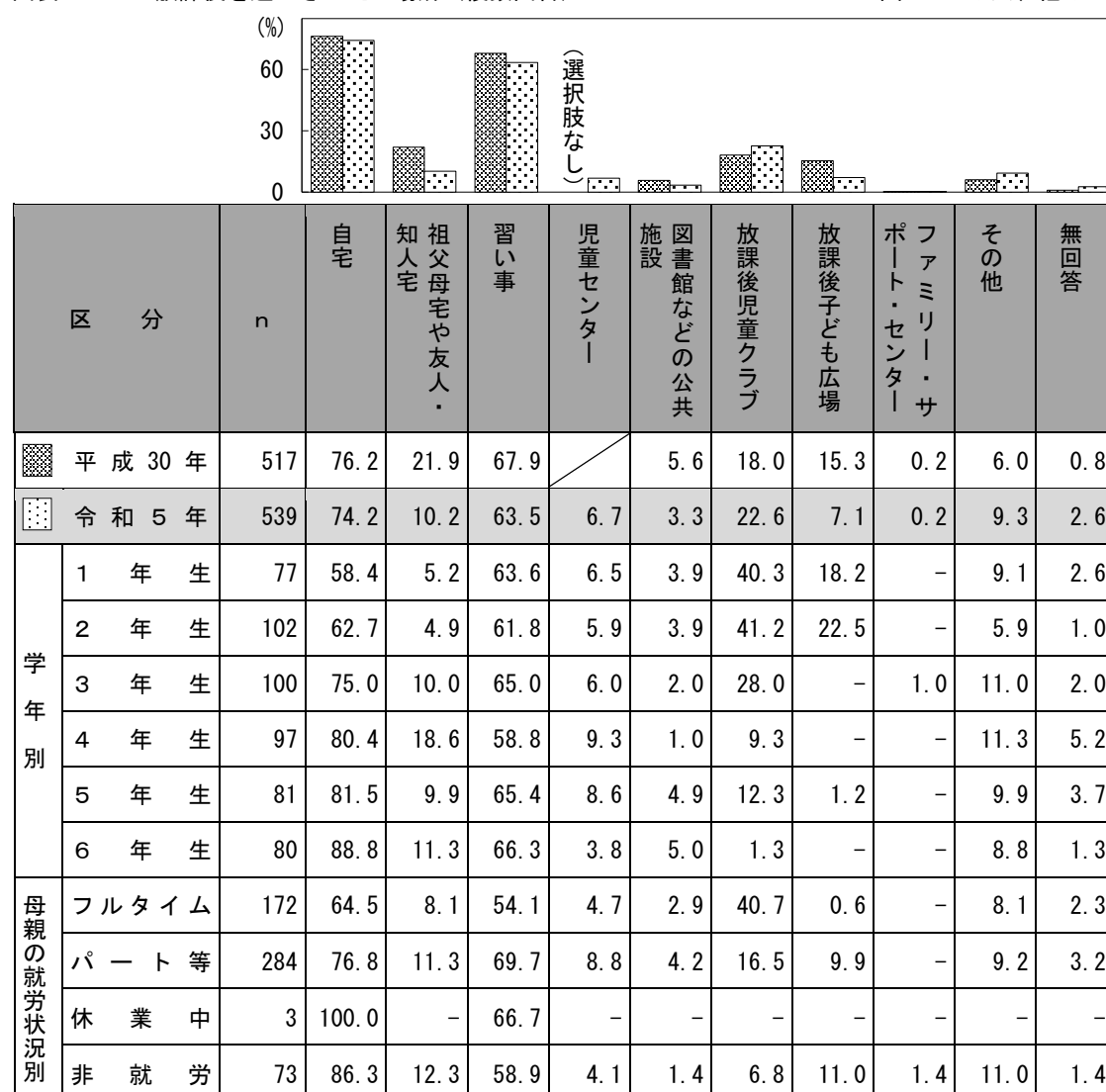
(1)と比べて上昇しているのは、「祖父母宅や友人・知人宅」「習い事」「児童センター」「図書館などの公共施設」です。平成30年との比較では、「放課後児童クラブ」が4.6ポイント上昇しています。

「図書館などの公共施設」の施設名として、「扶桑町図書館」などの記載がありました。

「その他」として、「放課後等デイサービス」（14件）、「公園」（12件）、「友達と遊ぶ」（8件）、「学校で遊ぶ」（4件）、「外遊び」「子ども本人に決めさせたい」（各2件）などの記載がありました。

図表 2-35 放課後を過ごさせたい場所（複数回答）

単位：nは人、他は%



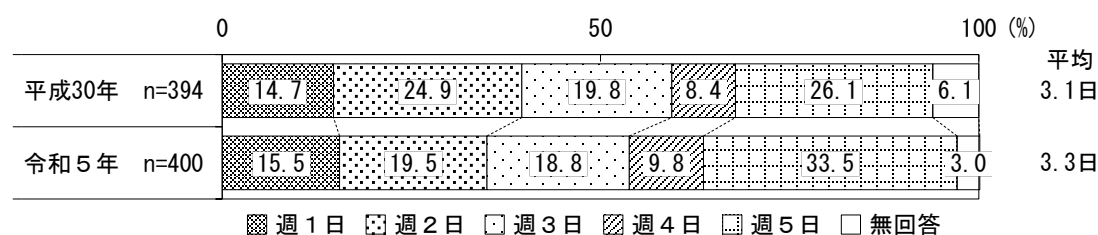
(4) 放課後を過ごさせたい平均日数

① 自宅（希望）

自宅で過ごさせたい日数は、「週5日」が33.5%と最も高く、平均日数は3.3日です。平成30年との比較では、「週5日」が7.4ポイント上昇し、平均日数は0.2日増加しています。

現在、過ごしている日数と比べると、0.3日減少しています。

図表2-36 自宅（希望）

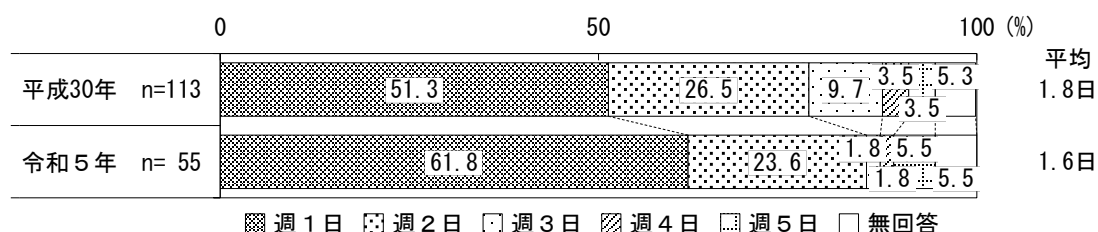


② 祖父母宅や友人・知人宅（希望）

祖父母宅や友人・知人宅で過ごさせたい日数は、「週1日」が61.8%を占めており、平均日数は1.6日となっています。平成30年との比較では、「週1日」が10.5ポイント上昇し、平均日数は0.2日減少しています。

現在、過ごしている日数と比べると、0.4日減少しています。

図表2-37 祖父母宅や友人・知人宅（希望）

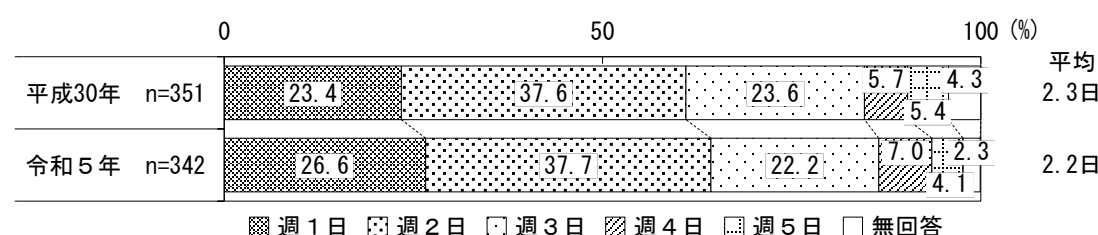


③ 習い事（希望）

習い事の希望日数は、「週2日」が37.7%と最も高く、次いで「週1日」が26.6%、「週3日」が22.2%などの順となっています。平均日数は2.2日です。平成30年との比較では、平均日数は0.1日減少しています。

現在、過ごしている日数と比べると、0.1日減少しています。

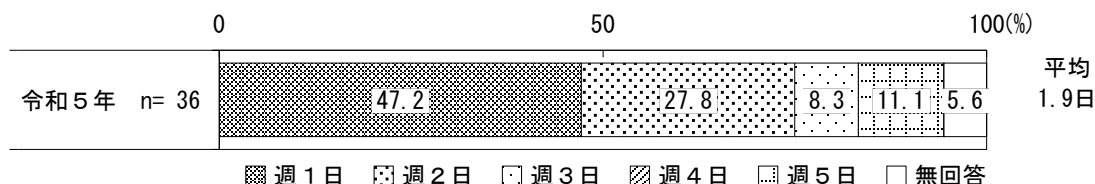
図表2-38 習い事（希望）



④ 児童センター（希望）

児童センターで過ごさせたい日数は、「週1日」が47.2%と最も高く、平均日数は1.9日です。現在、過ごしている日数と比べると、0.1日増加しています。

図表2-39 児童センター（希望）

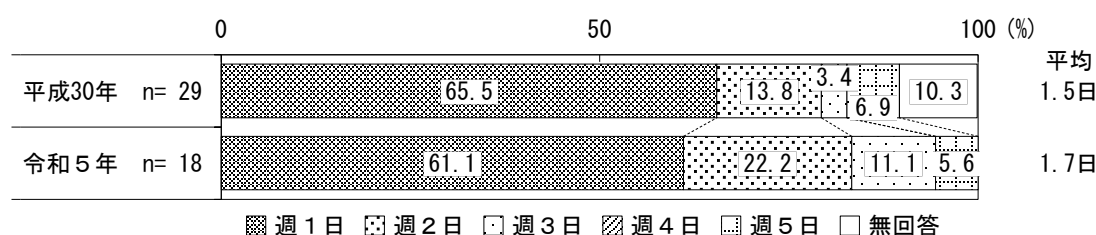


⑤ 図書館などの公共施設（希望）

図書館などの公共施設で過ごさせたい日数は、「週1日」が61.1%と最も高く、平均日数は1.7日です。平成30年との比較では、平均日数は0.2日増加しています。

現在、過ごしている日数と比べると、0.3日増加しています。

図表2-40 図書館などの公共施設（希望）

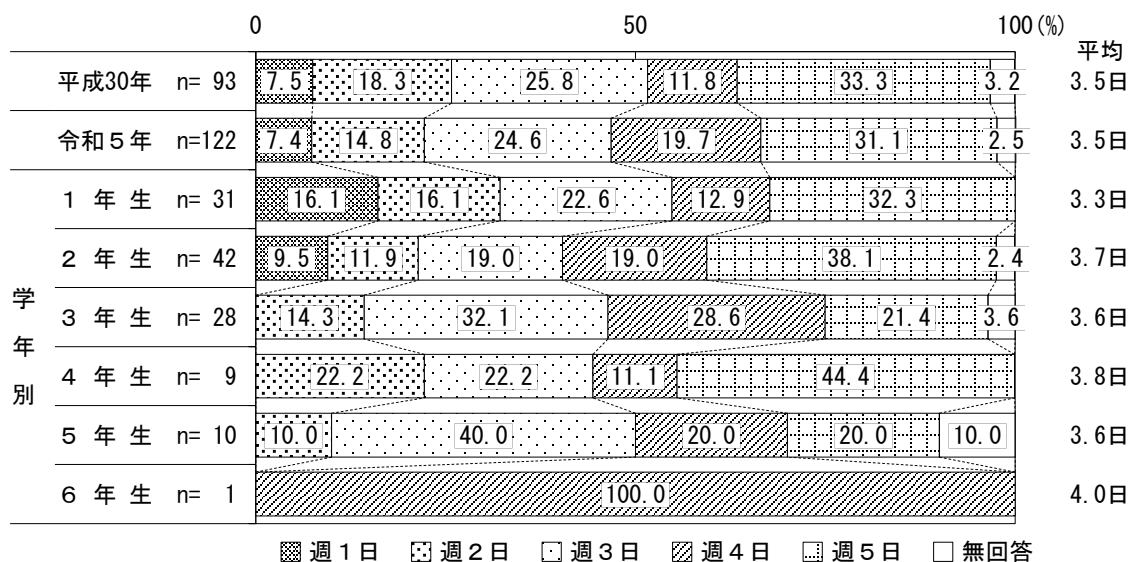


⑥ 放課後児童クラブ（希望）

放課後児童クラブで過ごさせたい日数は、「週5日」が31.1%と最も高く、平均日数は3.5日です。平成30年との比較では、「週2日」が3.5ポイント低下し、「週4日」が7.9ポイント上昇しています。

現在、過ごしている日数と比べると、0.5日減少しています。

図表2-41 放課後児童クラブ（希望）

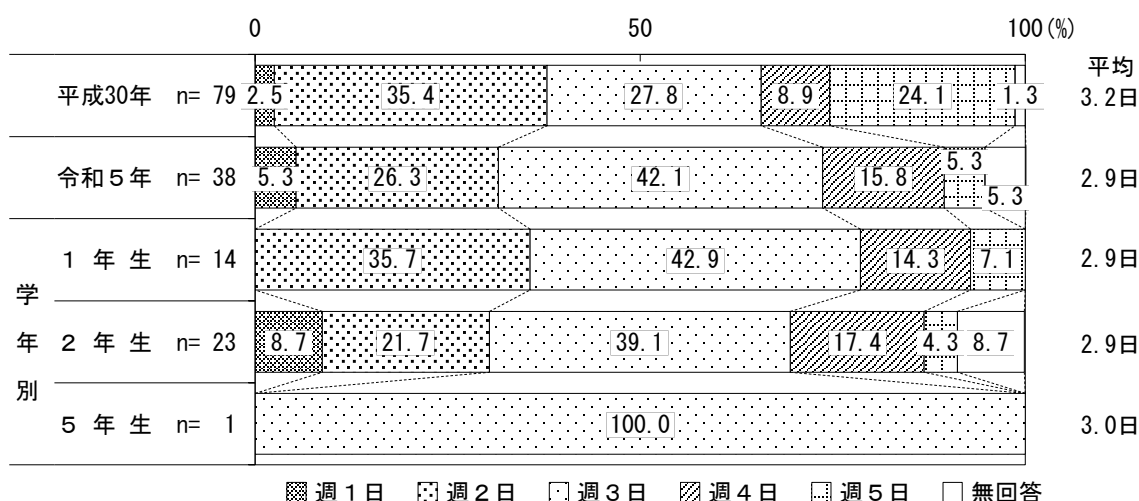


⑦ 放課後子ども広場（希望）

放課後子ども広場で過ごさせたい日数は、「週3日」が42.1%と最も高く、平均日数は2.9日です。また、対象外である5年生で「週3日」（1人）の利用希望があります。平成30年との比較では、「週2日」「週5日」が低下し、「週3日」「週4日」が上昇しており、平均日数は0.3日減少しています。

現在、過ごしている日数と比べると、0.3日減少しています。

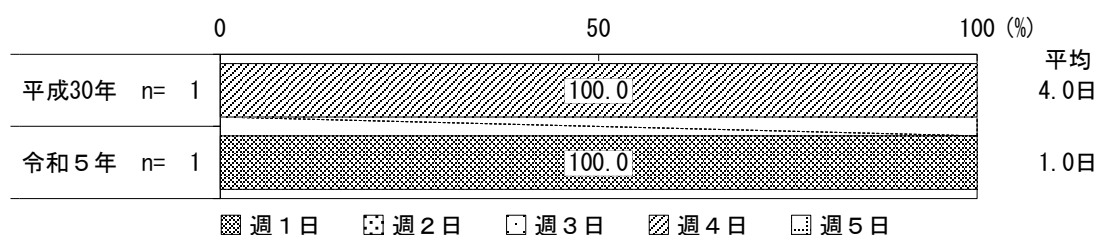
図表2-42 放課後子ども広場（希望）



⑧ ファミリー・サポート・センター（希望）

ファミリー・サポート・センターを利用したいと回答した1人は、「週1日」を希望しています。

図表2-43 ファミリー・サポート・センター（希望）

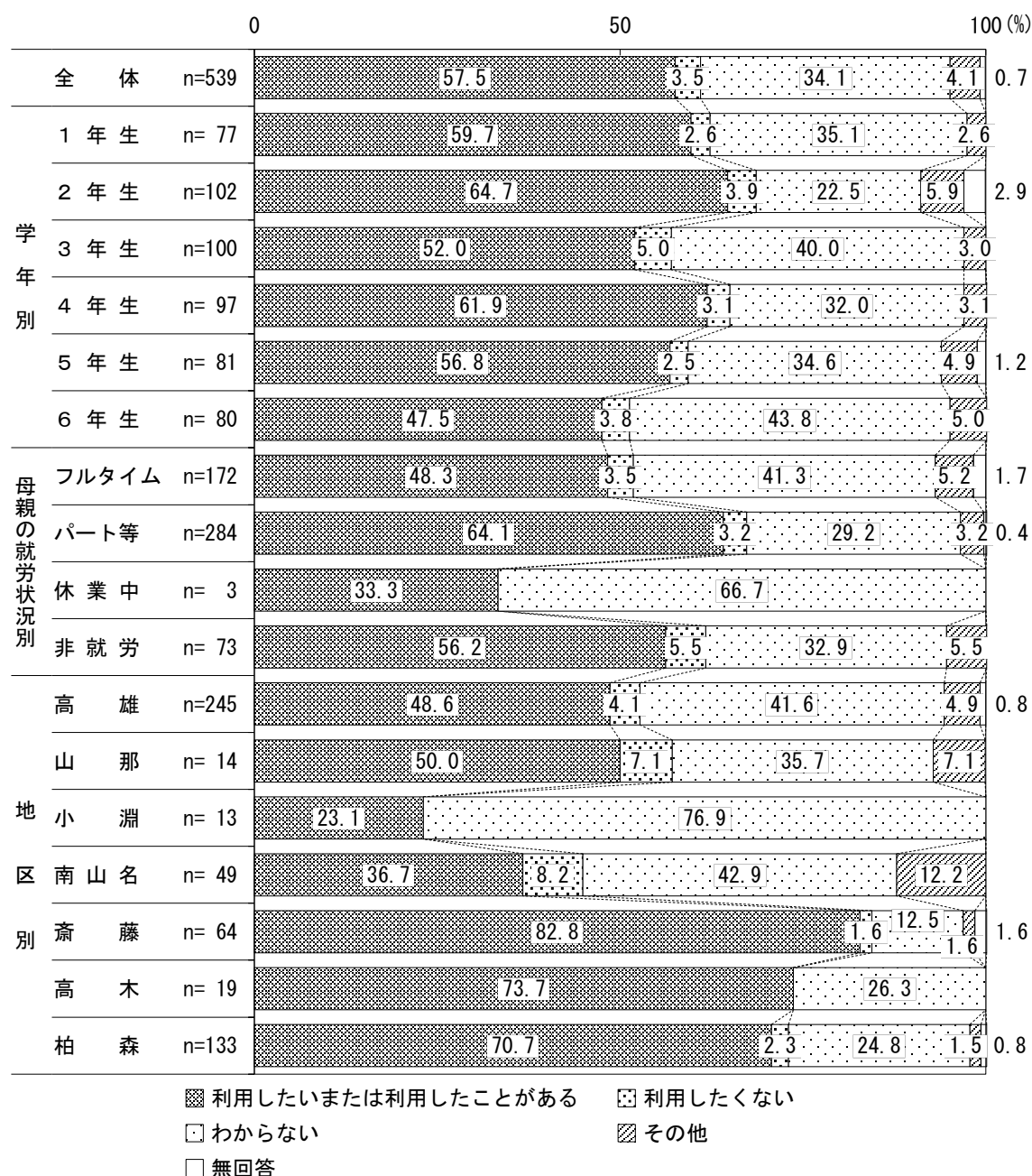


(5) 扶桑町児童センターひまわりの利用意向

令和5年4月に扶桑中学校の隣接地に開館した、遊び・学習の場と遊びの提供をして、児童が心身ともに健やかに成長するための施設である「扶桑町児童センターひまわり」の利用意向をたずねたところ、「利用したいまたは利用したことがある」が57.5%と最も高く、次いで「わからない」が34.1%、「利用したくない」が3.5%となっています。就学前児童の保護者と比較すると（参照51頁図表1-68）、「利用したいまたは利用したことがある」は26.6ポイント低く、「わからない」が20.9ポイント高くなっています。

「利用したいまたは利用したことがある」は、学年別では2年生、母親の就労状況別ではパート等、地区別では齋藤地区が高くなっています。

図表2-44 扶桑町児童センターひまわりの利用意向



「その他」として、図表2-45の内容が記載されていました。

図表2-45 扶桑町児童センターひまわりの利用意向（その他）

- ・利用したいが、遠い（7件）
- ・遠くて、平日は遊びに行けない
- ・自宅から遠く、施設近くの小学生が多いため、入りにくい。近くにあれば、利用したい
- ・近くにあれば
- ・一度行ってみたい
- ・子どもが行きたいなら、行かせる
- ・母としては行ってほしいが、子どもが行きたがらない
- ・子の年齢から親が利用できない
- ・利用したいが、年齢制限があり利用したくてもできない。小さい子の遊びをやりたがる
- ・何のための施設かわからないし、何をやっているのか情報がない
- ・利用する予定がない
- ・必要ない

5 放課後児童クラブ

(1) 放課後児童クラブの利用状況

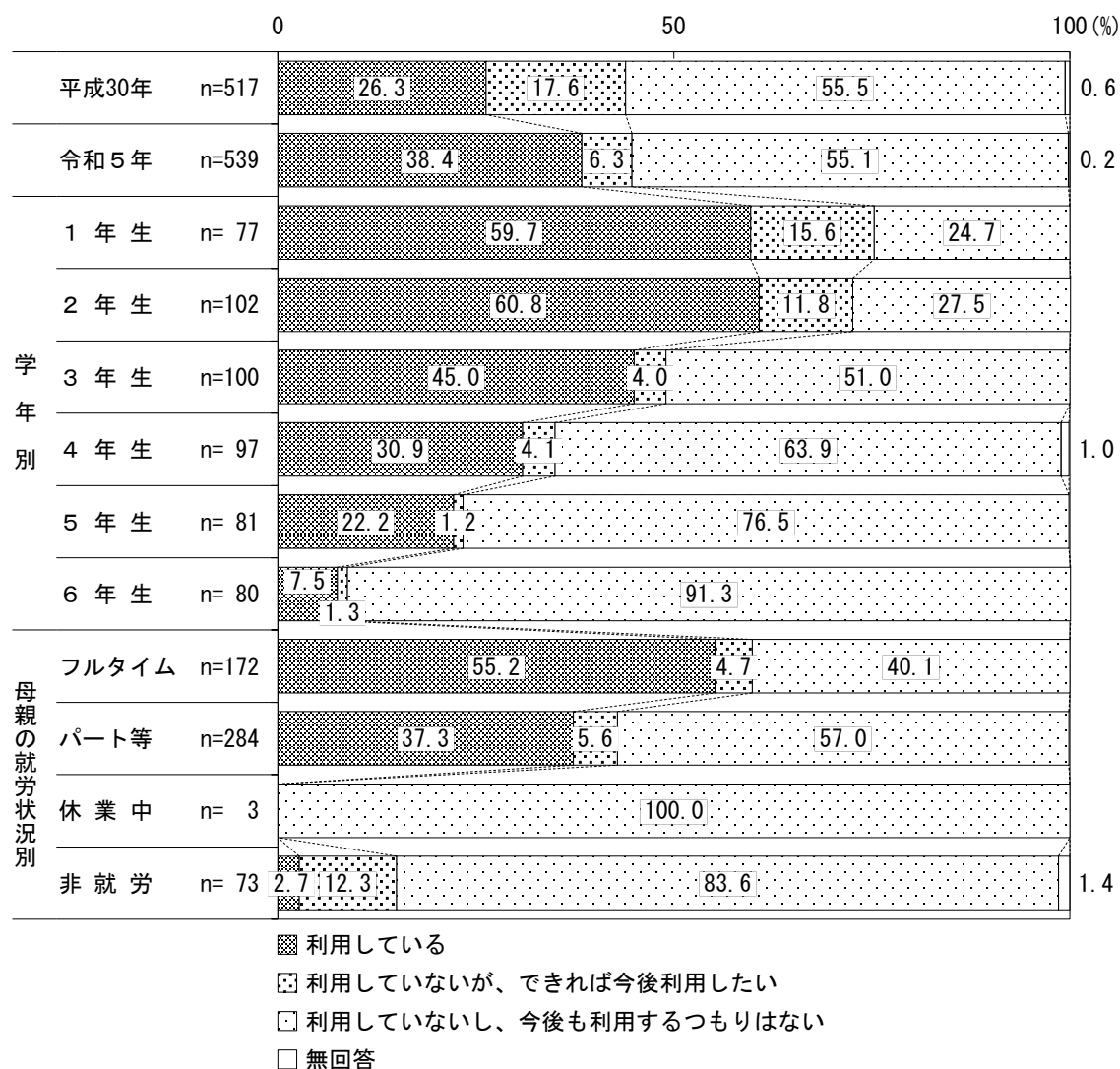
① 利用状況

放課後児童クラブの利用状況をみると、「利用している」が38.4%、「利用していないが、できれば今後利用したい」が6.3%となっています。平成30年との比較では、「利用している」が12.1ポイント上昇し、「利用していないが、できれば今後利用したい」が11.3ポイント低下していますが、これは平成31年度より対象を小学4年生までから6年生までに拡大したことが影響していると考えられます。

学年別にみると、1～2年生は「利用している」が60%前後を占めていますが、3年生以降は学年が上がるにしたがい低下しています。

母親の就労状況別にみると、フルタイムは「利用している」が55.2%の高い率を占めています。

図表2-46 放課後児童クラブの利用状況



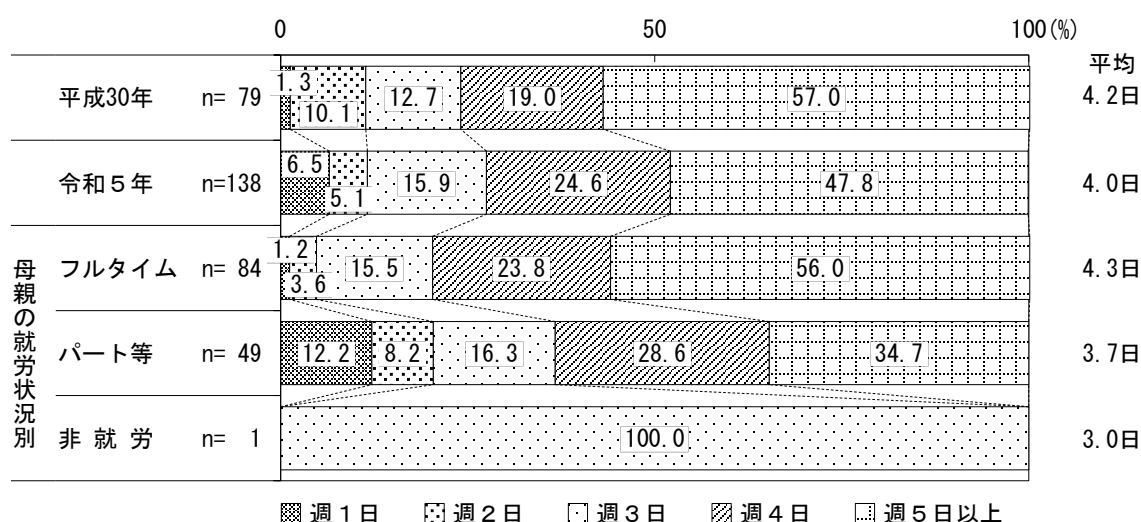
② 利用日数

①で「利用している」と回答した人に現在の利用日数をたずねたところ、通常（夏休み・冬休みなどの長期休業期間中を除く）は、「週5日」が47.8%と最も高く、次いで「週4日」が24.6%、「週3日」が15.9%などの順となっています。週当たりの利用日数の平均は4.0日です。平成30年との比較では、「週5日」が9.2ポイント低下し、週当たりの利用日数の平均は0.2日減少しています。

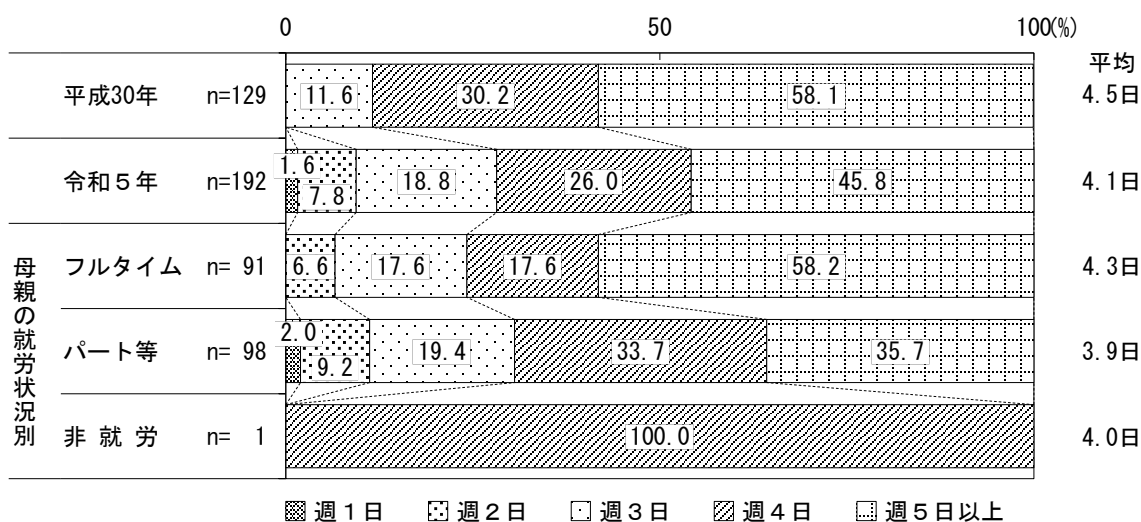
長期休業期間中は、通常と同様「週5日」が45.8%と最も高く、次いで「週4日」（26.0%）、「週3日」（18.8%）などの順となっています。また、週当たりの平均利用日数は4.1日に増加しています。平成30年との比較では、「週5日」が12.3ポイント低下し、週当たりの平均利用日数は0.4日減少しています。

図表2-47 利用日数（回／週）

■通常（夏休み・冬休みなどの長期休業期間中を除く）



■夏休み・冬休みなどの長期休業期間中

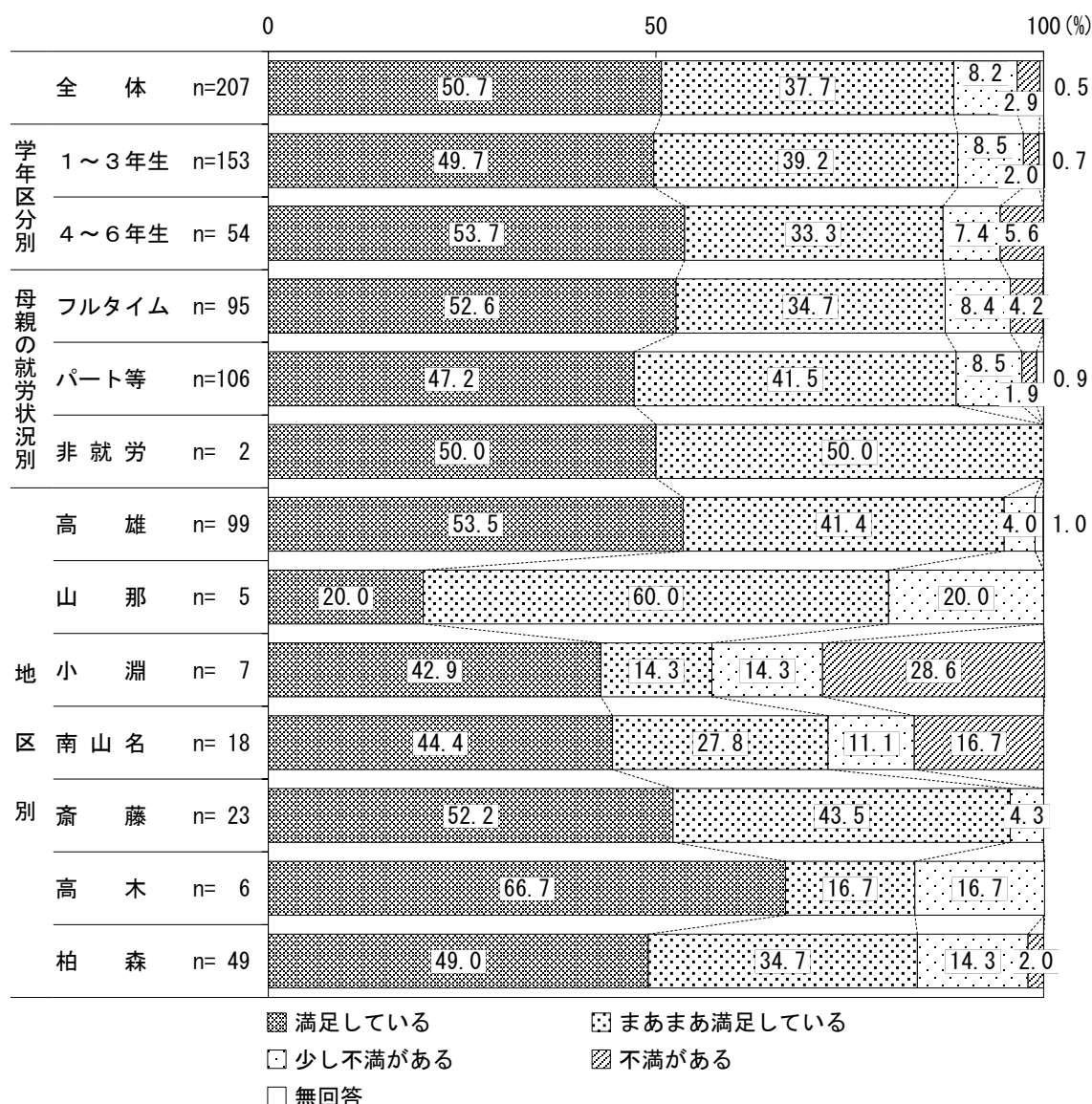


③ 放課後児童クラブに満足しているか

①で「利用している」と回答した人に放課後児童クラブに満足しているかたずねたところ、「満足している」が50.7%と最も高く、「まあまあ満足している」(37.7%)との合計《満足している》が88.4%を占めています。「少し不満がある」(8.2%)と「不満がある」(2.9%)の合計《不満がある》は11.1%です。

《不満がある》は、学年区分別では4～6年生、母親の就労状況別ではフルタイム、地区別では小淵地区が高くなっています。

図表2-48 放課後児童クラブに満足しているか



(2) 放課後児童クラブの利用意向

前項で放課後児童クラブを「利用している」または「利用していないが、できれば今後利用したい」と回答した人に、今後の利用意向や利用したい主な理由をたずねました。

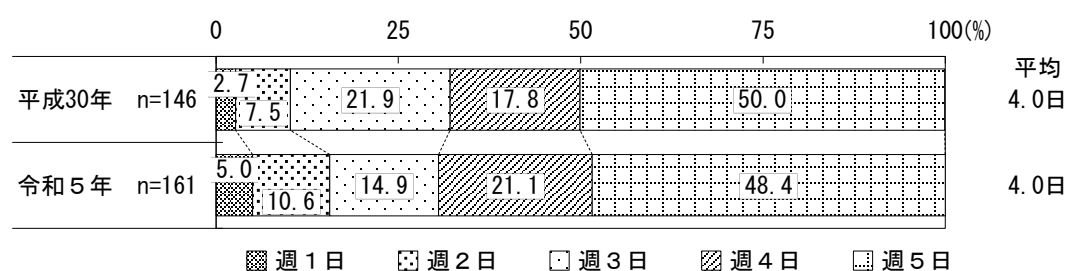
① 平日

平日の利用意向をみると、日数は「週5日」が48.4%を占めており、次いで「週4日」が21.1%、「週3日」が14.9%などの順となっています。利用希望日数の平均は4.0日となっており、現在の利用日数と同様です。平成30年との比較では、「週3日」が7ポイント低下し、「週4日」が3.3ポイント上昇しています。

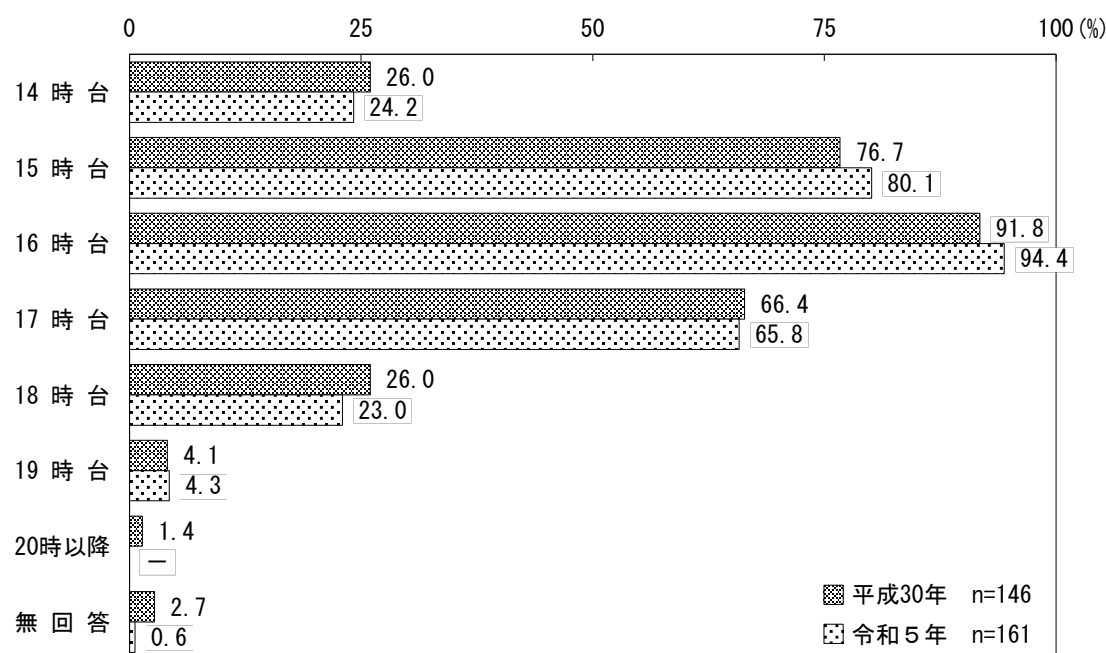
時間帯は、15時台に80%を上回り、16時台が94.4%と最も高くなっています。そこから、17時台には65.8%、18時台には23.0%と急激に低下します。平成30年との比較では、14時台および18時台が低く、15～16時台が高くなっています。

図表2-49 平日の利用意向

■日数（日／週）



■時間帯



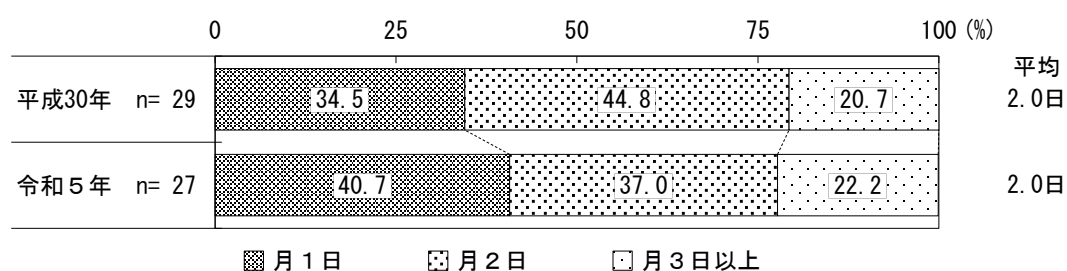
② 土曜日

土曜日の利用意向をみると、日数は「月 1 日」が40.7%と最も高く、次いで「月 2 日」が37.0%、「月 3 日以上」が22.2%となっています。利用希望日数の平均は2.0日です。平成30年との比較では、「週 2 日」が7.8ポイント低下しています。

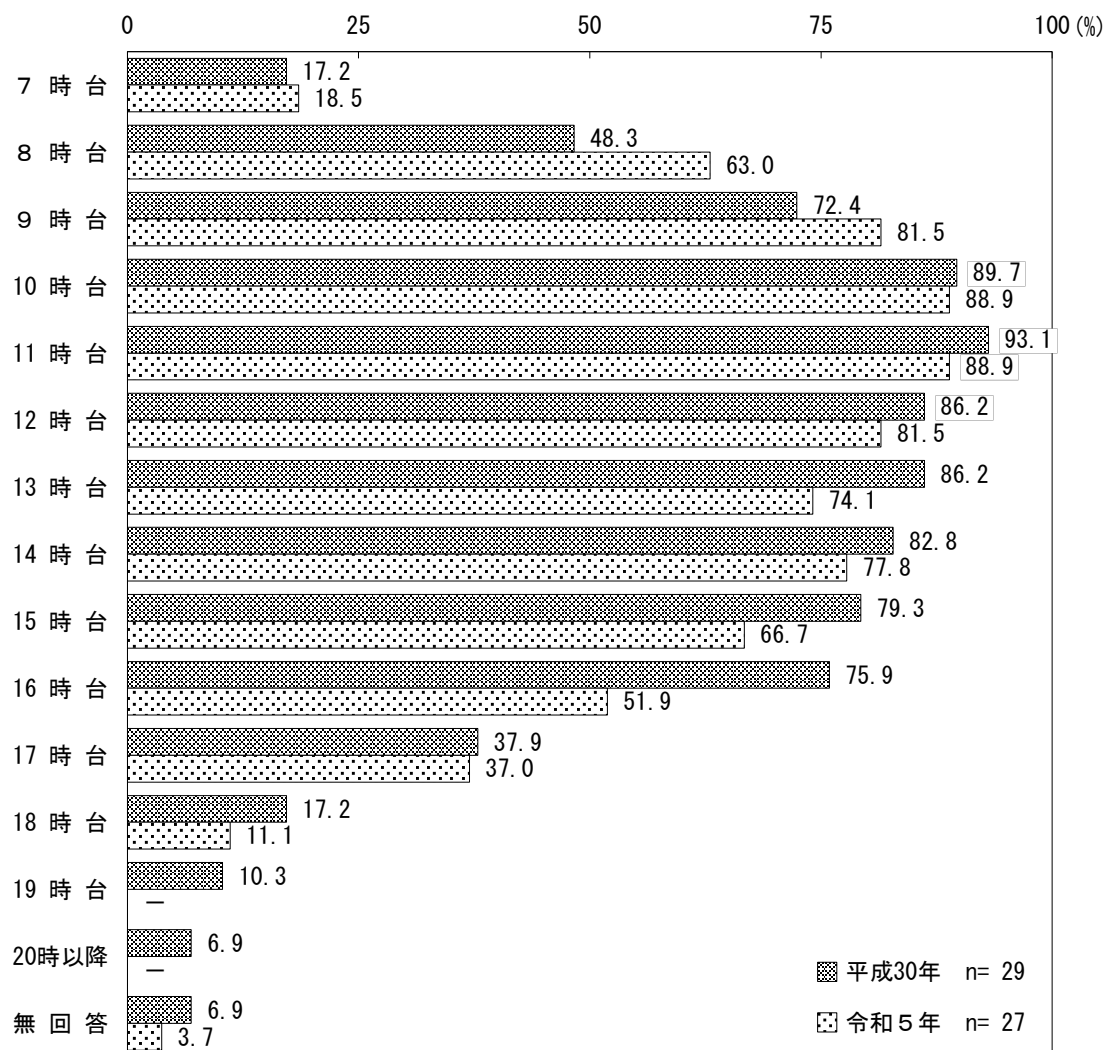
時間帯は、9 時台～12 時台は80%以上と高くなっています。そこから13～14 時台に70%台まで低下し、その後は徐々に低下しています。平成30年との比較では、7～9 時台が高くなっています。

図表 2-50 土曜日の利用意向

■日数（日／月）



■時間帯



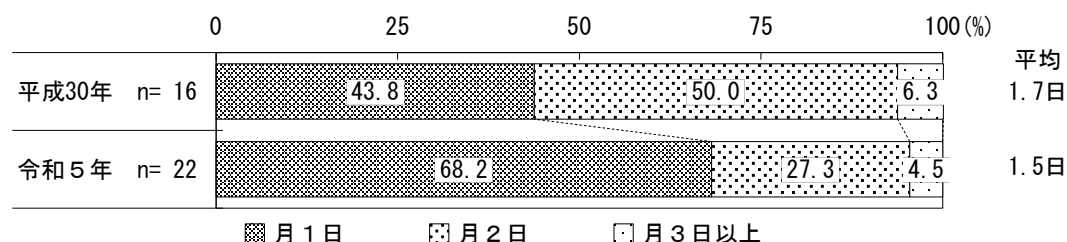
③ 日曜・祝日

日曜・祝日の利用意向をみると、日数は「月1日」が68.2%を占めており、次いで「月1日」が27.3%、「月3日以上」が4.5%となっています。利用希望日数の平均は1.5日です。平成30年との比較では、「月1日」が24.4ポイント高くなり、利用希望日数の平均は0.2日減少しています。

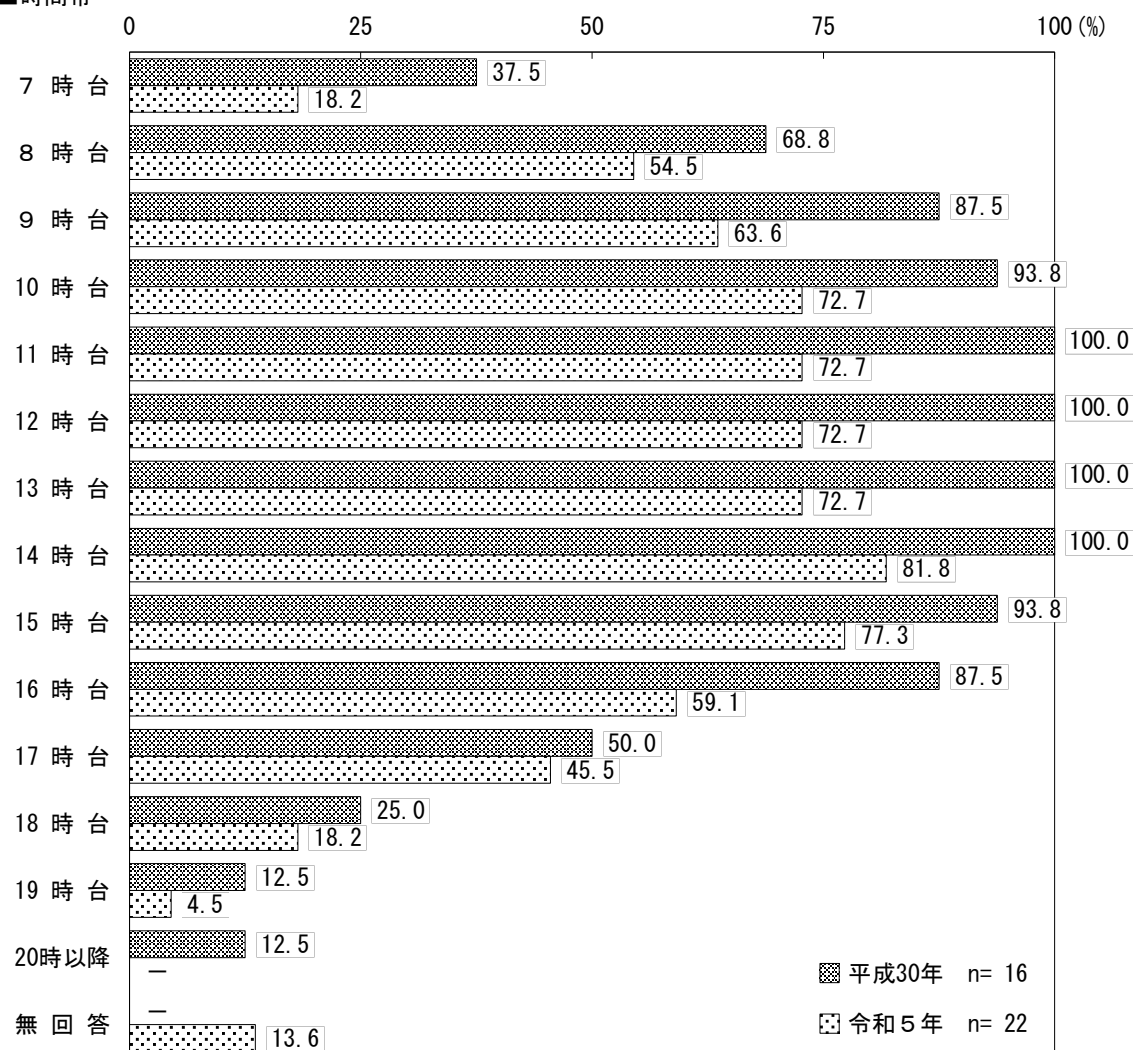
時間帯は、9時台には60%以上、10～13時台は70%以上となり、14時台が81.8%と最も高くなっています。15時台以降は徐々に低下しています。平成30年との比較では、いずれの時間帯においても低くなっています。

図表2-51 日曜・祝日の利用意向

■日数（日／月）



■時間帯

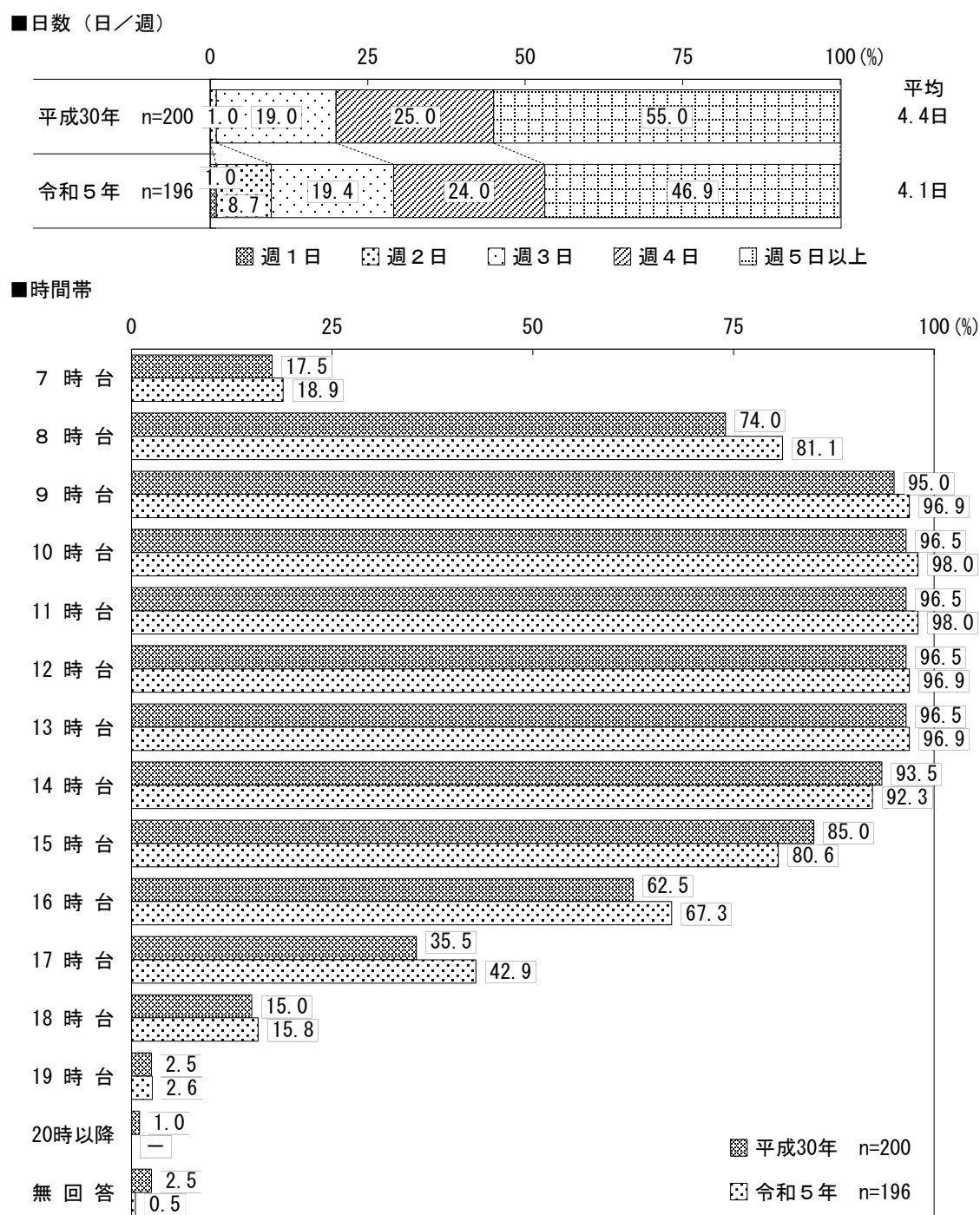


④ 長期休業期間中

夏休み・冬休みなどの長期休業期間中の利用意向をみると、日数は「週5日以上」が46.9%と最も高く、利用希望日数の平均は4.1日です。平成30年との比較では、「週5日以上」が8.1ポイント低下し、利用希望日数の平均は0.3日減少しています。

時間帯は、8時台には80%を上回り、9時台から14時台までは90%以上となっています。15時台以降は徐々に低下しています。平成30年との比較では、14～15時台および20時以降を除く時間帯で高くなっています。

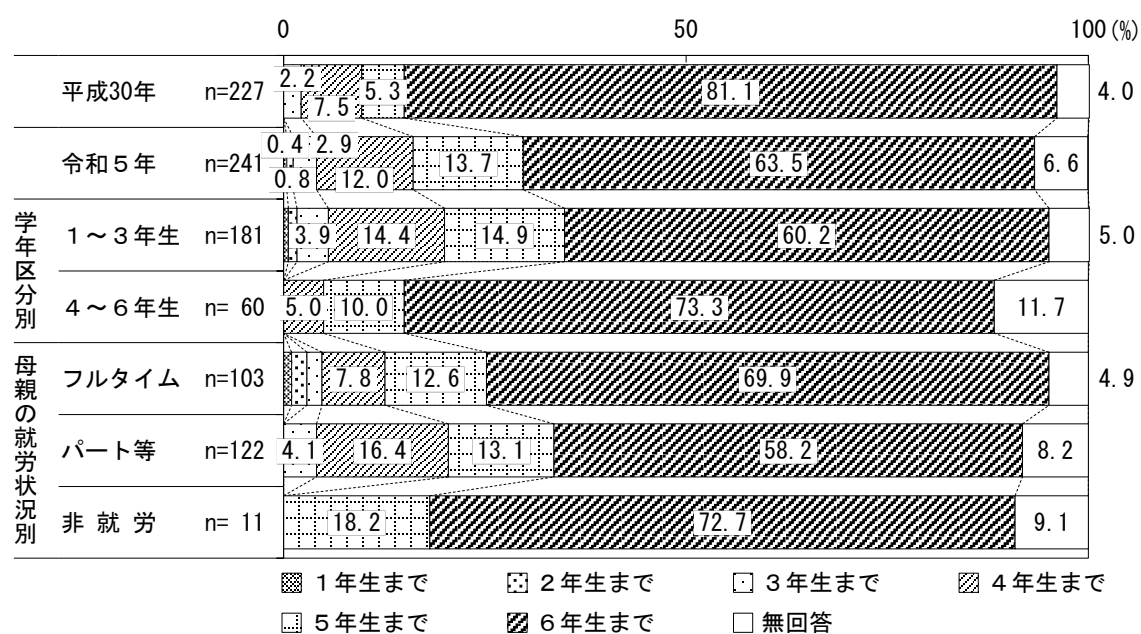
図表 2-52 長期休業期間中の利用意向



⑤ 何年生まで利用したいか

放課後児童クラブを何年生まで利用したいかたずねたところ、「6年生まで」が63.5%と最も高く、次いで「5年生まで」が13.7%、「4年生まで」が12.0%などの順となっています。平成30年との比較では、「6年生まで」が17.6ポイント低下し、「5年生まで」が8.4ポイント、「4年生まで」が4.5ポイント上昇しています。

図表2-53 何年生まで利用したいか



(注) 全体以外の2%未満の数字は表記を省略しています。

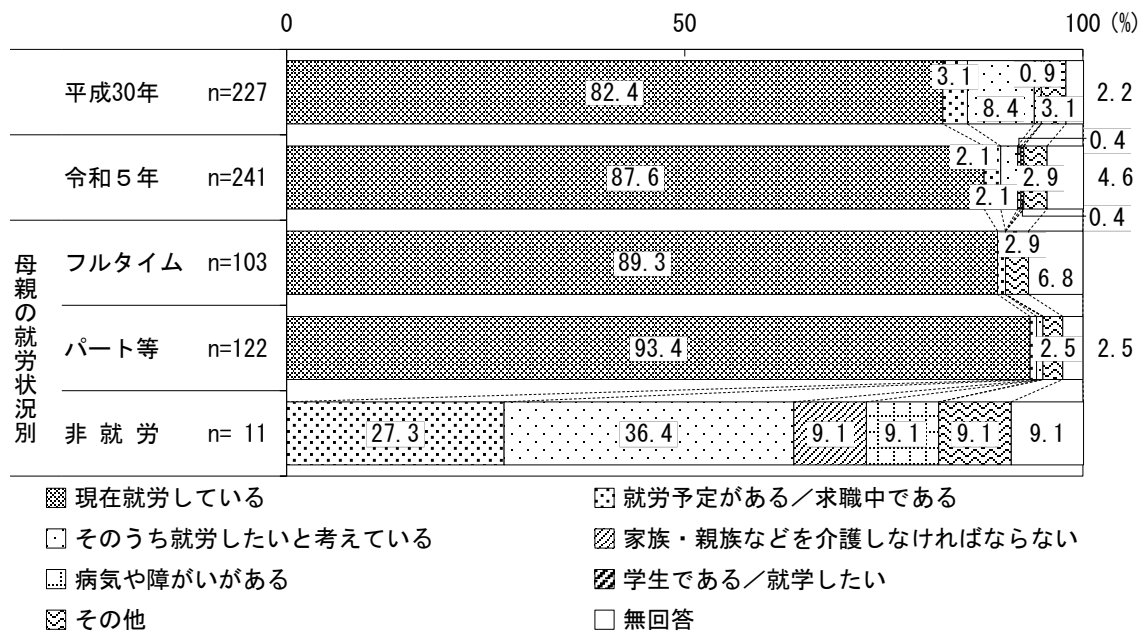
⑥ 利用の理由

放課後児童クラブを利用する理由は、「現在就労している」が87.6%を占めています。平成30年との比較では、「現在就労している」が5.2ポイント上昇しています。

母親の就労状況別にみると、非就労は「そのうち就労したいと考えている」が36.4%（4人）と最も高くなっています。

「その他」として、図表2-55の内容が記載されていました。

図表2-54 放課後児童クラブを利用している／利用したい理由



（注）全体以外の2%未満の数字は表記を省略しています。

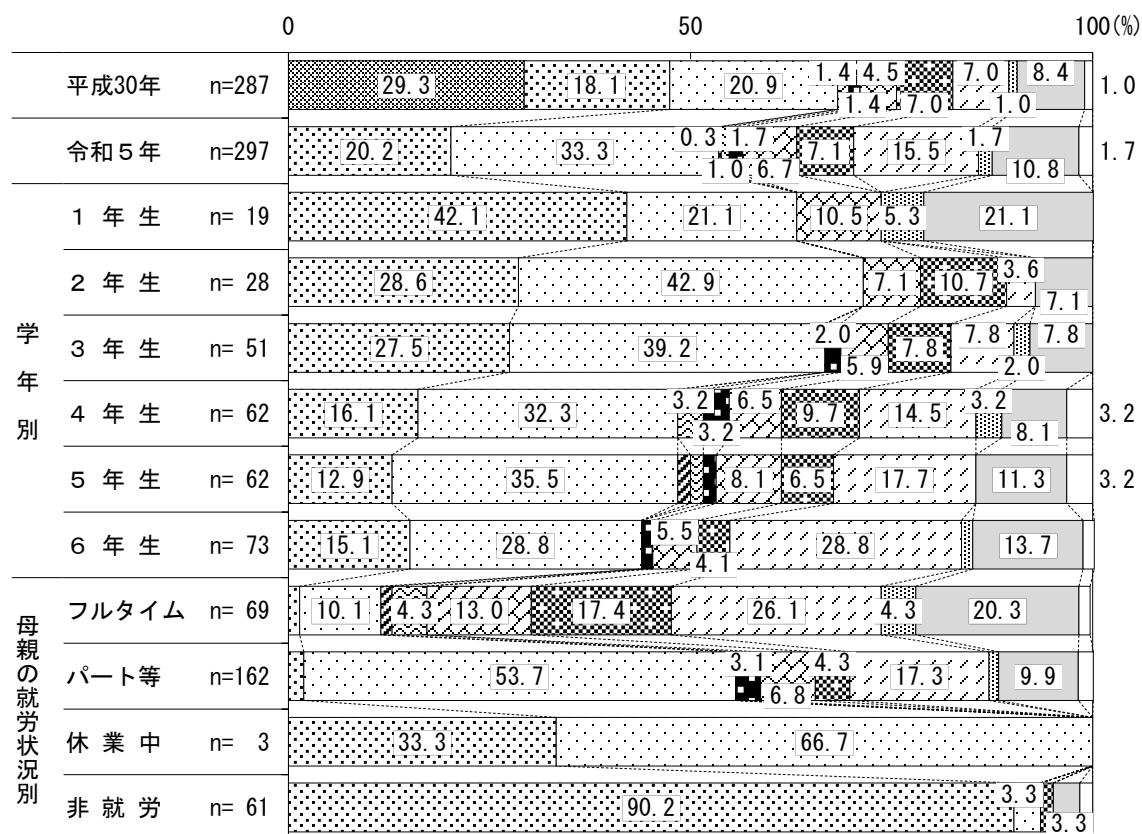
図表2-55 放課後児童クラブを利用している／利用したい理由（その他）

- ・子どもが友人と遊びたがる
- ・友達との関わりが薄いと感じるので、児童クラブでの関わりはとても助かっている
- ・自宅で友だちと遊ぶことが難しいため。おやつの負担やどちらの家に行くか等の問題がある
- ・子どもに運動をさせたい。集団でのコミュニケーション能力を養いたい
- ・多様な体験をさせてあげたい
- ・就労時間が変わる可能性があるから
- ・祖母が高齢なので、子どもをみるのが難しくなってきた

(3) 放課後児童クラブを利用しない理由

(1)で「利用していないし、今後も利用する必要はない」と回答した人にその理由をたずねたところ、「就労しているが、子どもの下校時刻には家にいるから」が33.3%と最も高くなっています。平成30年との比較では、「就労しているが、子どもの下校時刻には家にいるから」が12.4ポイント、「就労しているが、短時間なら子どもだけでも大丈夫だと思うから」が8.5ポイント上昇しています。

図表2-56 放課後児童クラブを利用しない理由



- 子どもが5・6年生で放課後児童クラブの対象ではないから
- 現在就労していないから
- 就労しているが、子どもの下校時刻には家にいるから
- 就労しているが、放課後児童クラブが近くにないから
- 就労しているが、放課後児童クラブに空きがないから
- 就労しているが、放課後児童クラブの開所時間と合わないから
- 就労しているが、利用料がかかるから
- 就労しているが、子どもは放課後の習い事をしているから
- 就労しているが、祖父母等の親族が預かってくれるから
- 就労しているが、短時間なら子どもだけでも大丈夫だと思うから
- 就労しているが、他の施設や事業所に預けているから
- その他
- 無回答

(注) 全体以外の2%未満の数字は表記を省略しています。令和5年度は「子どもが5・6年生で放課後児童クラブの対象ではないから」および「就労しているが、放課後児童クラブが近くにないから」という選択肢はありませんでした。また、「就労しているが、放課後児童クラブを知らなかったから」という選択肢について、回答はありませんでした。

学年別にみると、学年が上がるにしたがい「現在就労していないから」が低下傾向にあり、「就労しているが、短時間なら子どもだけでも大丈夫だと思うから」が上昇しています。

「その他」として、図表２－57の理由が記載されていました。

図表２－57 放課後児童クラブを利用しない理由（その他）

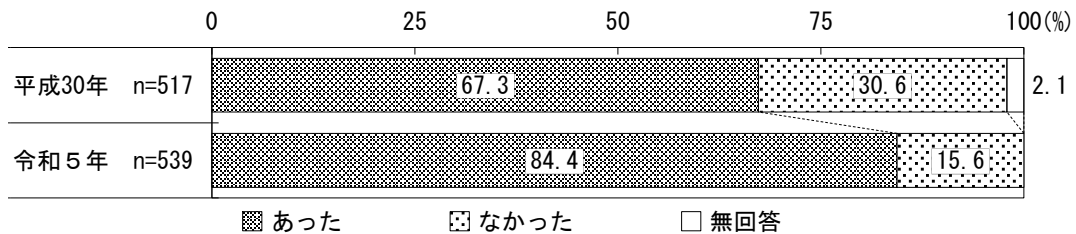
- ・子どもが嫌がるから（９件）
- ・迎えに行くのが大変だから（２件）
- ・就労しているが、利用条件に満たないから（２件）
- ・利用していたが、子どもが行きたがらないため
- ・４～５年生まで利用していたが、６年生になり行きたがらなくなった
- ・放課後児童クラブより家にいたいと言っているため
- ・同居の父が自宅にいるため、本人が行きたくないと言う
- ・子どもが大人数は苦手だから
- ・迎えに行けないから
- ・就労しているが、迎えに行けないから、祖父母にみてもらっている
- ・帰りの時間が間に合わない
- ・迎えに行く手間と時間がかかるから
- ・宿題を終わらせてくれることはありがたいが、迎えに行かなくてはいけないから
- ・夏休みだけ利用したいが、就労日が少ないため、利用できない
- ・就労しているが、在宅勤務をしているため
- ・もともと利用していたが、コロナ禍でクラブにいづらくなった。私（母親）が医療従事者であり、クラブの先生にいやな顔をされ、利用をやめた
- ・一部の指導員の質やクラブの運営に問題がある。怒鳴って子どもを従わせようとする。不要と思われるルールが数えきれないくらい存在する。役場の視察の日は態度が一変するらしく、問題が表面化しない。長期休暇だけでも利用を考えたいが、子どもにとって過ごすのがつらい空間のため控えている
- ・夜遅くてもおやつがない
- ・子どもが一人で行くには遠い
- ・留守番できるため
- ・長期休暇期間中のみ利用していたが、自宅で留守番できるようになったため退所した
- ・もうすぐ中学生になるため
- ・以前は利用した。今は子どもだけで、留守番できるから
- ・自宅で友達と遊びたいから
- ・転職中であるが、祖父母が預かってくれるため
- ・勤め先が祖父母の会社で、そこに帰ってくるため
- ・子ども広場を利用しているため
- ・放課後等デイサービスに通っているから
- ・特別支援学校に通っていて、放課後は放課後等デイサービスを利用しているため
- ・行かせようと思ったことがない
- ・子どもと一度行ったが、つまらないと言っていた。これまで小牧市や犬山市、各務原市、大口町等親子で入館して遊んでいたが、扶桑町は小学生以上の親の入館について、とてもいやな顔をされる。オープンを楽しみしていたが、がっかりした

6 子どもが病気の際の対応

(1) 子どもが病気等で学校を休んだことの有無

この1年間に病気やけがで学校を休んだ子どもは、回答者の84.4%です。平成30年との比較では、17.1ポイント上昇しています。

図表2-58 子どもが病気等で学校を休んだことの有無



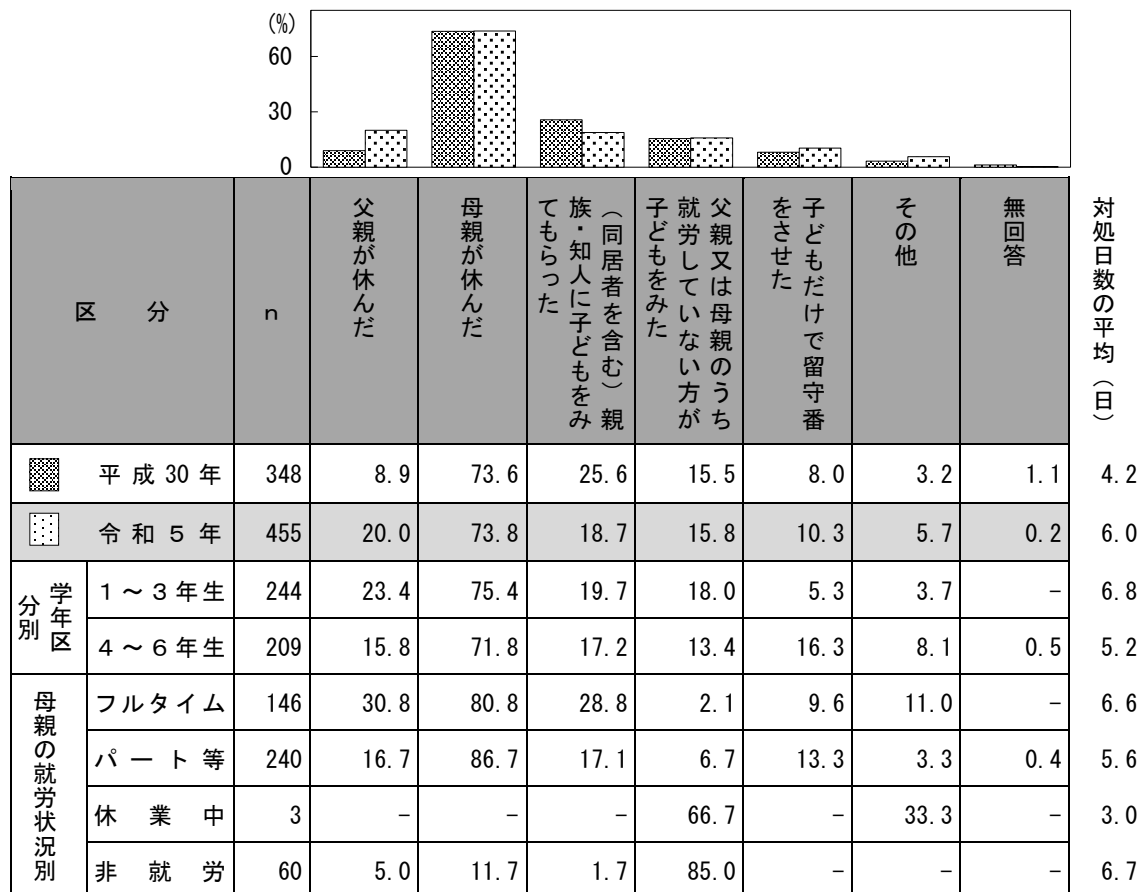
(2) 子どもが学校を休んだ時の対処法

子どもが病気等で学校を休んだ時の対処法としては、「母親が休んだ」が73.8%と突出して高くなっています。対処が必要だった日数の平均は6.0日です。平成30年との比較では、「父親が休んだ」が11.1ポイント上昇しています。

「その他」として、「在宅勤務で対応した」（14件）などの記載がありました。

図表2-59 子どもが学校を休んだ時の対処法（複数回答）

単位：nは人、他は%



(注) 「病児・病後児の保育を利用した」「ベビーシッターを利用した」「ファミリー・サポート・センターを利用した」という選択肢については、回答がありませんでした。

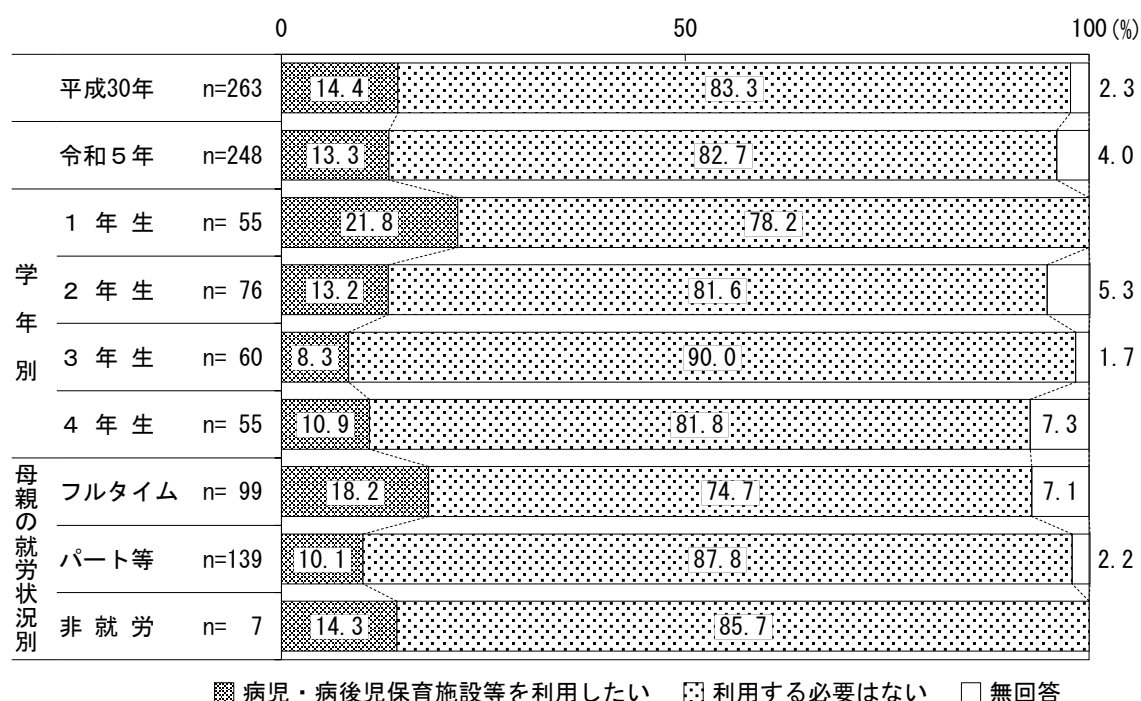
(3) 病児・病後児保育施設等の利用意向（１～４年生）

前項で、「父親が休んだ」または「母親が休んだ」と回答した人の病児・病後児保育施設等の利用意向は13.3%です。平成30年との比較では、利用意向は1.1ポイント低下しています。

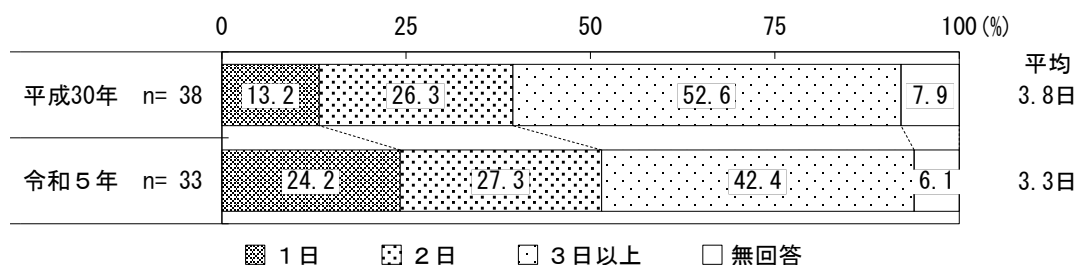
利用意向は、学年別の１年生、母親の就労状況別のフルタイムで高くなっています。

図表２－61で病児・病後児保育施設等の年間の利用希望日数をみると、「３日以上」が42.4%と最も高く、平均は3.3日となっています。平成30年との比較では、「３日以上」が10.2ポイント低下し、利用希望日数の平均は0.5日減少しています。

図表２－60 病児・病後児保育施設等の利用意向（１～４年生）



図表２－61 病児・病後児保育施設等の年間の利用希望日数（１～４年生）



7 台風など災害時の対応

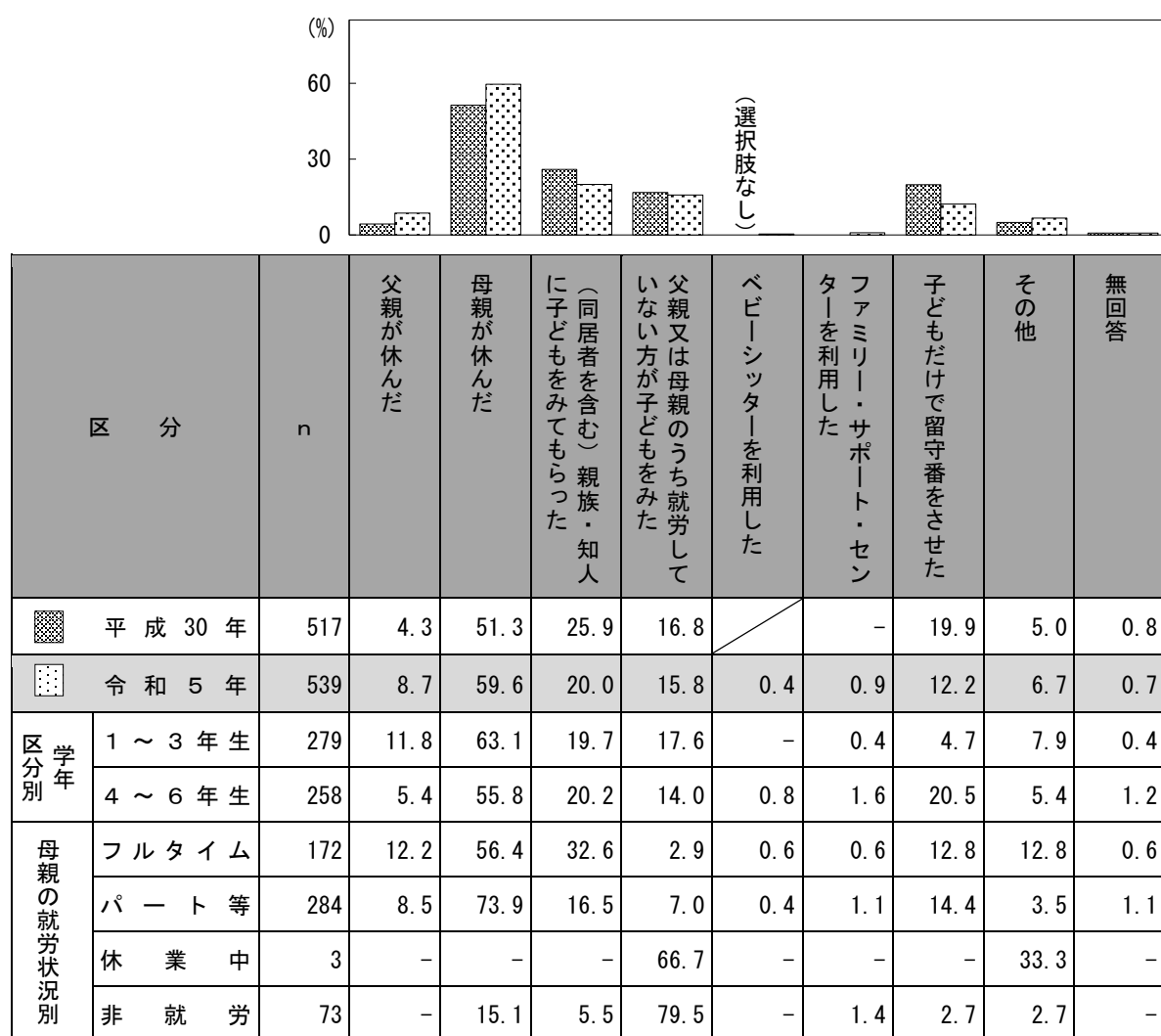
子どもが、台風接近に伴う休校などで学校を休まなければならなかった場合に行った対処方法をたずねたところ、「母親が休んだ」が59.6%と最も高く、次いで「（同居者を含む）親族・知人に子どもをみてもらった」が20.0%、「父親又は母親のうち就労していない方が子どもをみた」が15.8%などの順となっています。平成30年との比較では、「子どもだけで留守番をさせた」が7.7ポイント低下し、「母親が休んだ」が8.3ポイント上昇しています。

学年区分別にみると、4～6年生は1～3年生に比べて「子どもだけで留守番をさせた」が15.8ポイント高くなっています。

「その他」として、「在宅勤務で対応した」（17件）、「そのようなことが今年なかった」（7件）、「職場に連れて行った」（2件）などの記載がありました。

図表2-62 子どもが学校を休んだ時の対処法（複数回答）

単位：nは人、他は%



8 不定期の一時預かり等

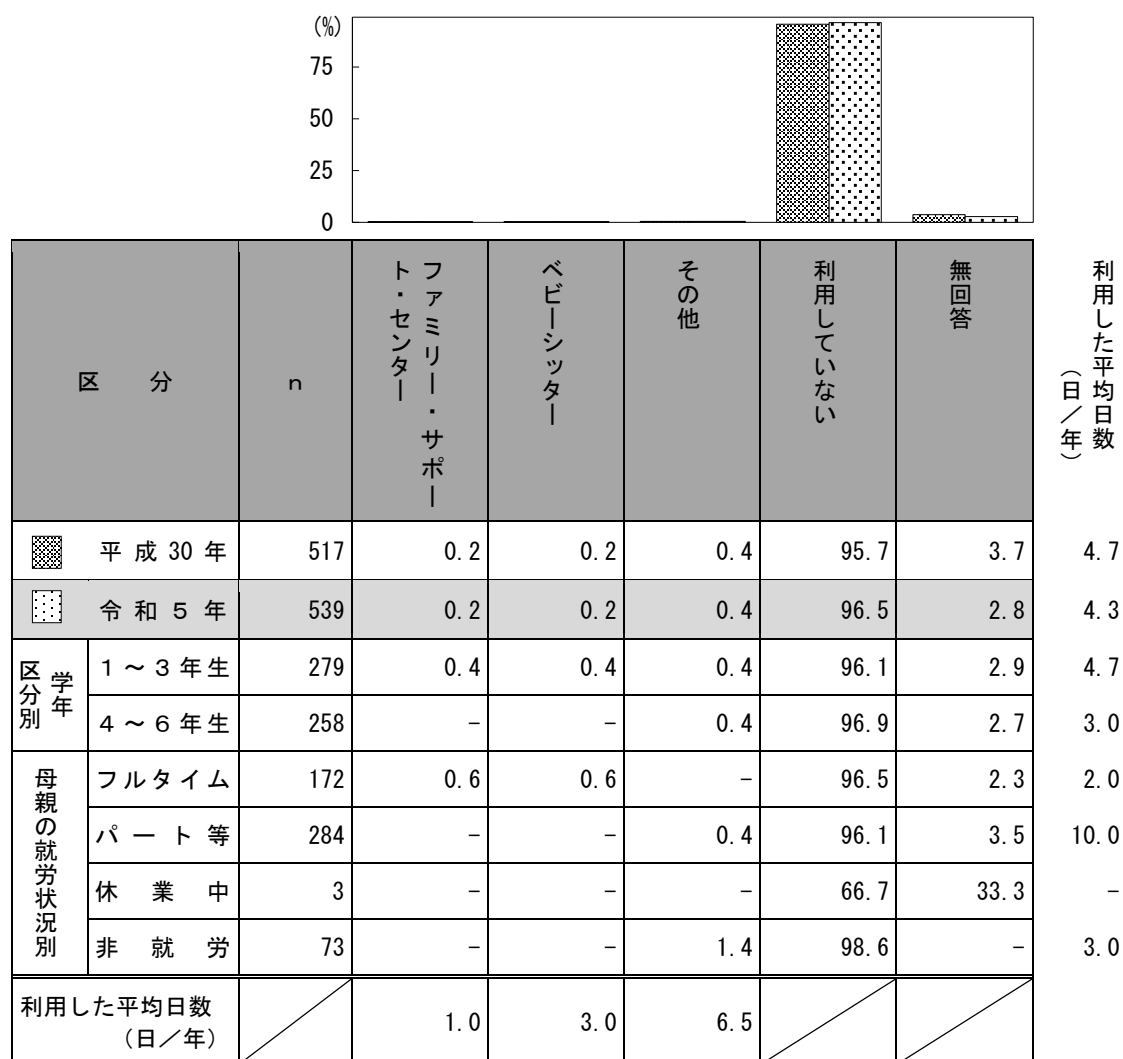
(1) 不定期の一時預かり等の利用経験の有無

私用、親の通院、不定期の就労等の目的で、一時的に子どもを預けられる事業の利用経験の有無をたずねたところ、「ファミリー・サポート・センター」および「ベビーシッター」が0.2%（1人）ずつ、「その他」が0.4%（2人）にとどまっており、「利用していない」が96.5%となっています。平成30年から大きな変化はありません。

「その他」として、「放課後等デイサービス」という記載がありました。

図表2-63 不定期の一時預かり等の利用の有無（複数回答）

単位：nは人、他は%

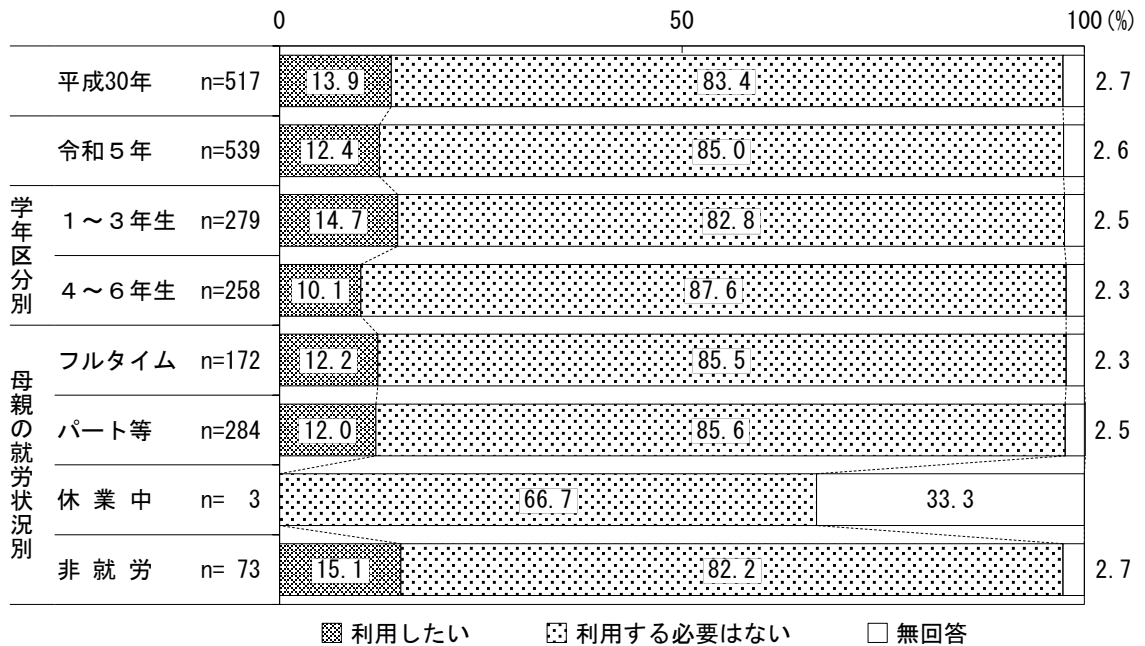


(2) 不定期の一時預かり等の利用意向

① 利用意向

不定期の一時預かり等の利用意向は12.4%です。平成30年との比較では、利用意向は1.5ポイント低下しています。学年区分別の1～3年生、母親の就労状況別の非就労が比較的高くなっています。

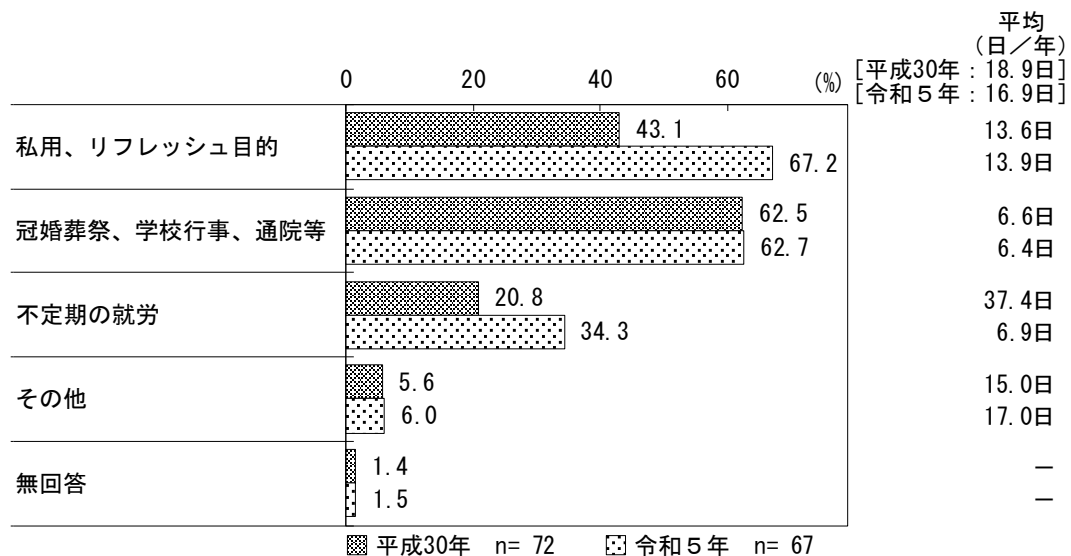
図表2-64 不定期の一時預かり等の利用意向



② 利用目的

不定期の一時預かり等を利用したい目的は、「私用、リフレッシュ目的」および「冠婚葬祭、学校行事、通院等」が60%以上の高い率となっています。平成30年との比較では、「私用、リフレッシュ目的」が24.1ポイント上昇しています。「その他」として、「父母どちらもみられない緊急事態の時」「病気」という記載がありました。

図表2-65 不定期の一時預かり等の利用目的（複数回答）

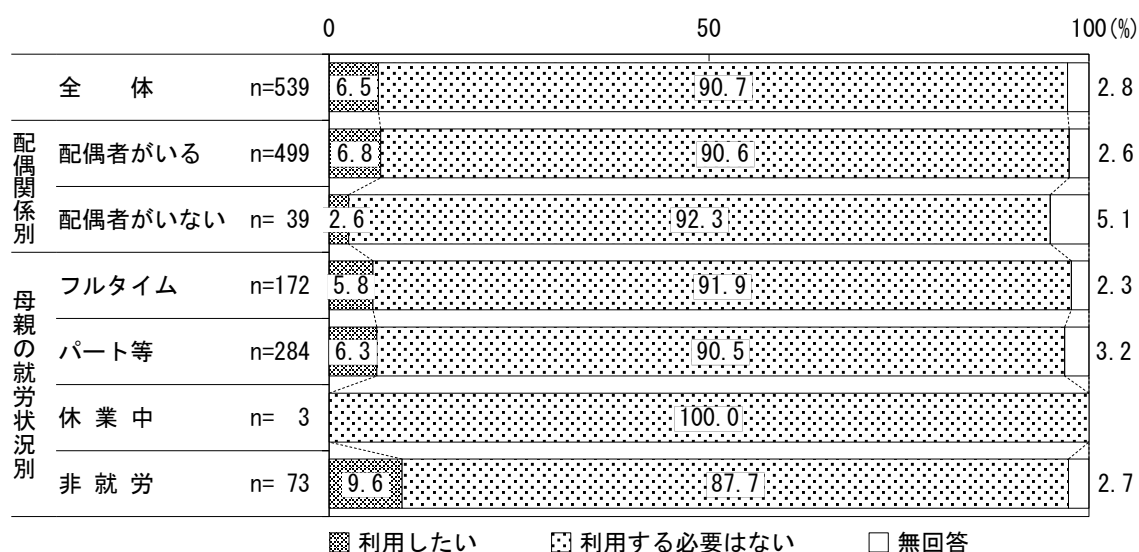


(3) 短期入所生活援助事業（ショートステイ）の利用意向

① 利用意向

保護者の用事（冠婚葬祭、保護者・家族(兄弟姉妹含む)の育児疲れや育児不安、病気など）を理由とする、児童養護施設等で一定期間子どもを保護する事業である短期入所生活援助事業の利用意向は6.5%です。配偶関係別の配偶者がいる人、母親の就労状況別の非就労が比較的高くなっています。

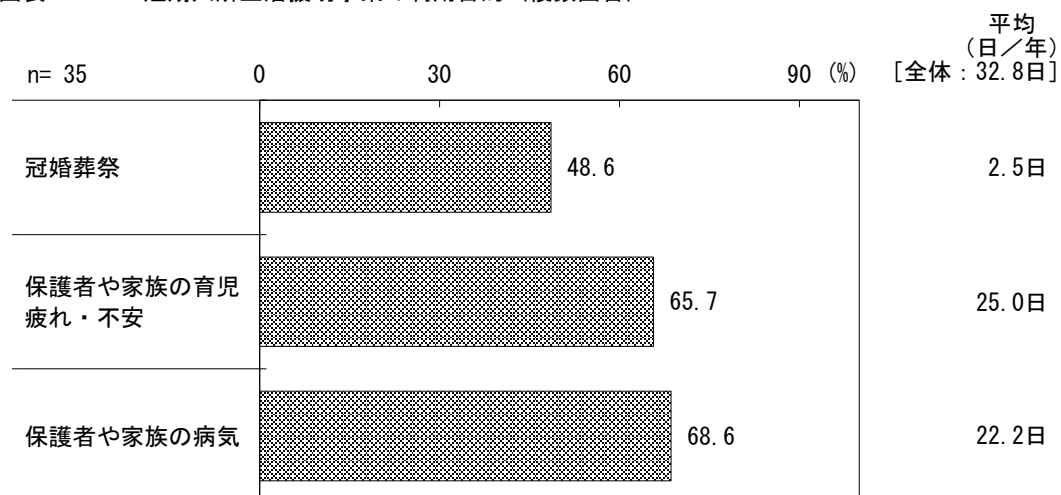
図表 2－66 短期入所生活援助事業の利用意向



② 利用目的

短期入所生活援助事業の利用目的は、「保護者や家族の病気」が68.6%と最も高く、次いで「保護者や家族の育児疲れ・不安」が65.7%などの順となっています。利用したい平均日数は、「保護者や家族の育児疲れ・不安」が25.0日と多くなっています。

図表 2－67 短期入所生活援助事業の利用目的（複数回答）

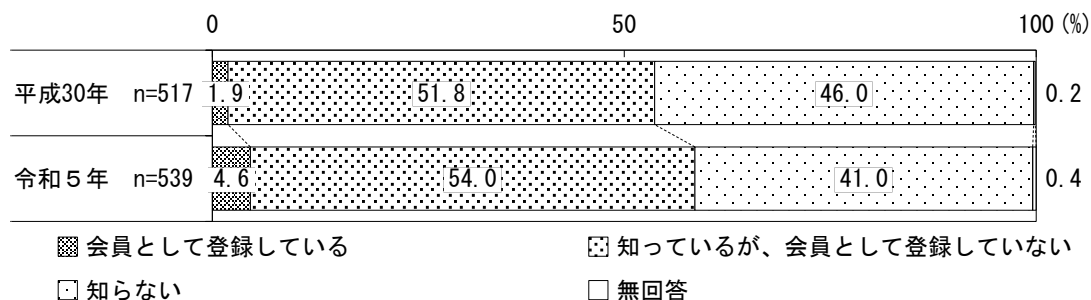


9 ファミリー・サポート・センター

(1) ファミリー・サポート・センターの認知度

ファミリー・サポート・センターについては、「知っているが、会員として登録していない」が54.0%と最も高く、「会員として登録している」（4.6%）と合計した《認知度》は58.6%で、平成30年との比較では4.9ポイント上昇しています。

図表2-68 ファミリー・サポート・センターの認知度

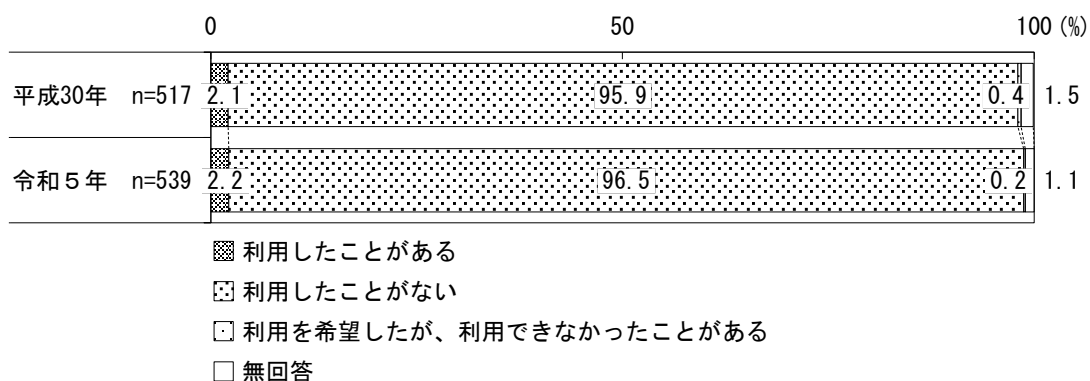


(2) ファミリー・サポート・センターの利用状況

① 利用経験

ファミリー・サポート・センターの利用経験をたずねたところ、「利用したことがある」は2.2%（12人）にとどまっており、「利用したことがない」が96.5%と非常に高くなっています。「利用を希望したが、利用できなかったことがある」は0.2%（1人）です。平成30年から大きな変化はありません。

図表2-69 利用経験

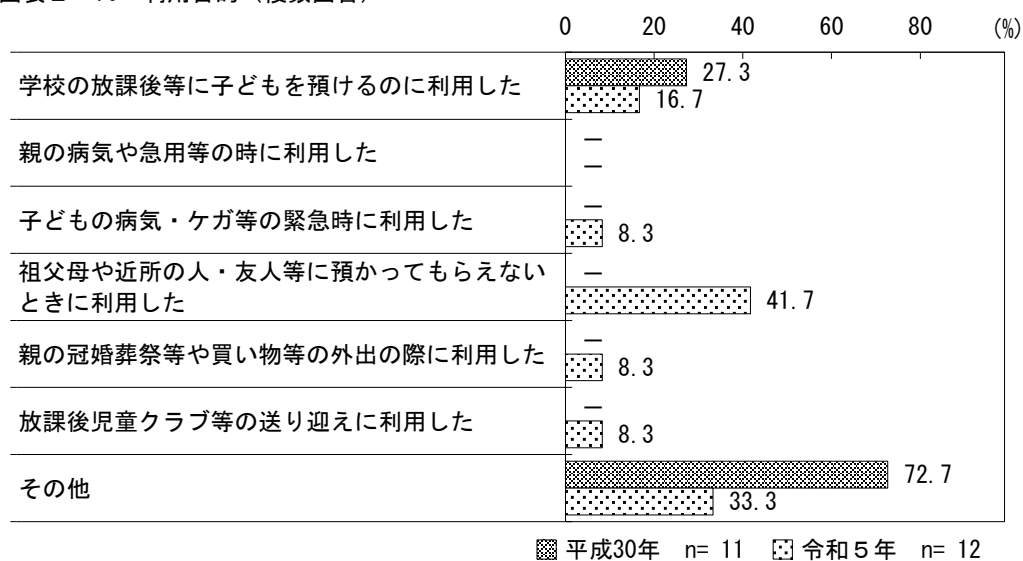


② 利用目的

①で「利用したことがある」と回答した人に利用目的をたずねた結果は、図表 2－70のとおりです。

「その他」として、「習い事の送迎」、「幼稚園児だった時、夏休み中に利用した」「就労していたとき、朝が早かったので、家を出てから集合時間までの10分をサポートの方の車の中で過ごした」という記載がありました。

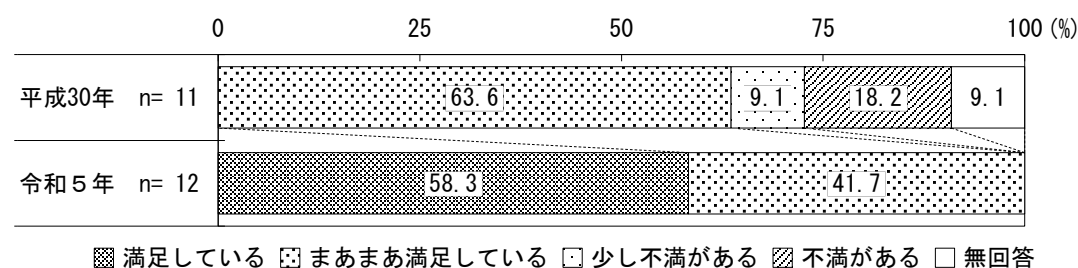
図表 2－70 利用目的（複数回答）



③ 満足度

①で「利用したことがある」と回答した人に利用について満足しているかをたずねたところ、「満足している」が58.3%（7人）、「まあまあ満足している」が41.7%（5人）となっています。平成30年には「少し不満がある」および「不満がある」という回答がありましたが、今回の調査ではありませんでした。

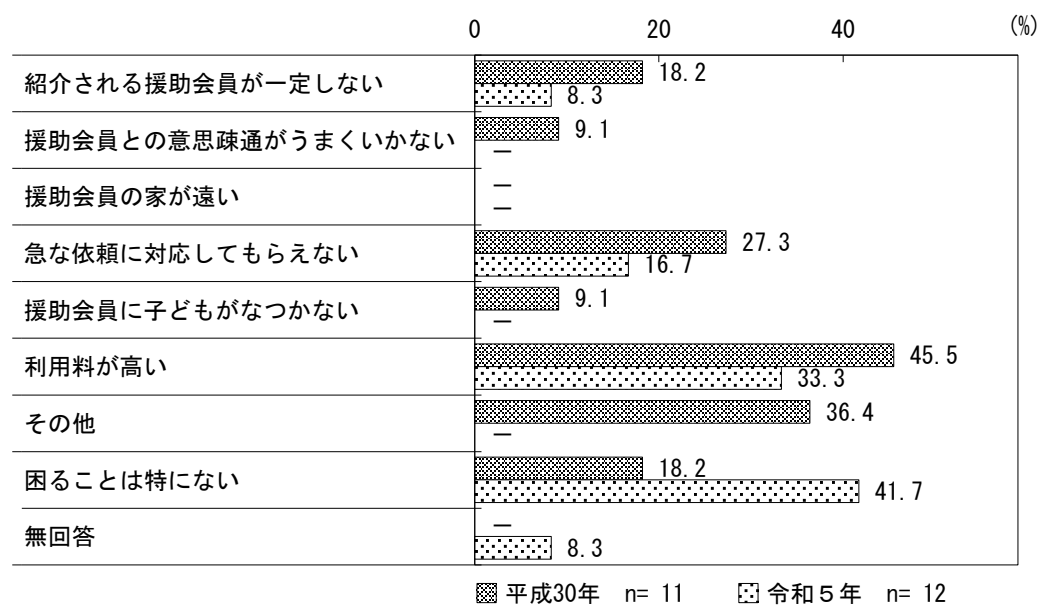
図表 2－71 満足度



④ 利用して困ったこと

①で「利用したことがある」と回答した人に、利用して困ったことをたずねた結果は図表2-72のとおりです。平成30年との比較では、「困ることは特にない」が上昇しています。

図表2-72 利用して困ったこと



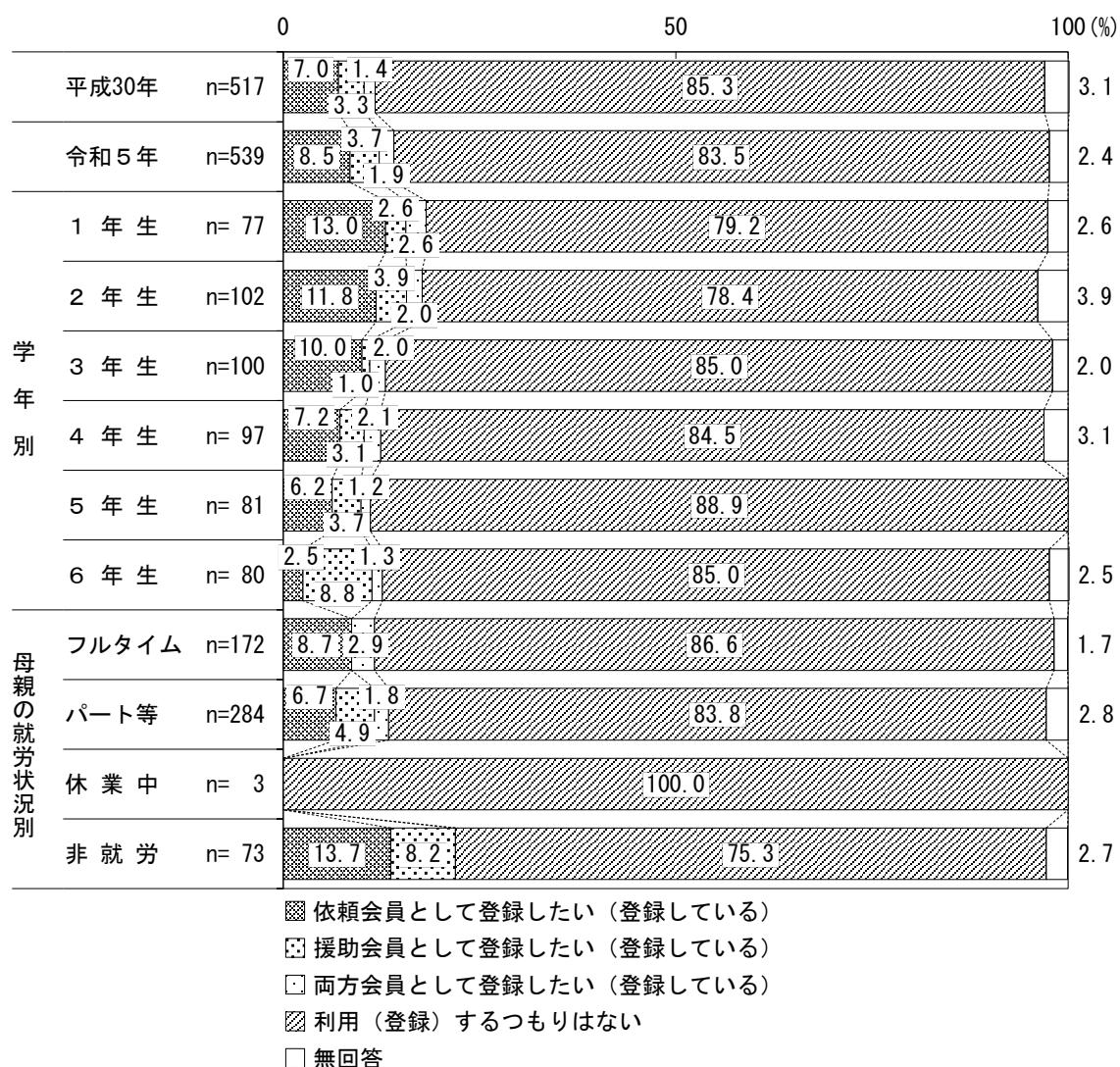
(3) ファミリー・サポート・センターの利用意向

ファミリー・サポート・センターを今後利用したいと思うかをたずねたところ、「利用（登録）するつもりはない」が83.5%を占めています。「依頼会員として登録したい（登録している）」は8.5%、「援助会員として登録したい（登録している）」は3.7%、「両方会員として登録したい（登録している）」は1.9%です。平成30年との比較では、「依頼会員として登録したい（登録している）」が1.5ポイント高くなっています。

学年別にみると、学年が上がるにしたがい「依頼会員として登録したい（登録している）」が低下しています。

母親の就労状況別にみると、非就労は「依頼会員として登録したい」および「援助会員として登録したい」が比較的高くなっています。

図表 2-73 ファミリー・サポート・センターの利用意向



10 育児休業制度

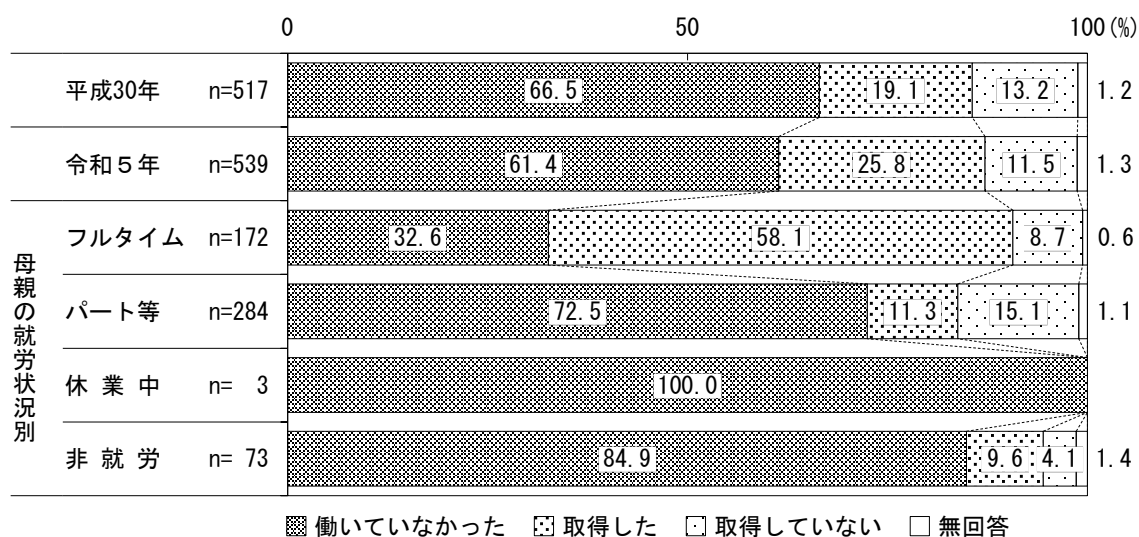
(1) 育児休業の取得の有無

「あて名のお子さんが生まれた時、父母のいずれかもしくは双方が育児休業を取得しましたか」とたずねたところ、母親は、「働いていなかった」が61.4%と最も高く、次いで「取得した」が25.8%、「取得していない」が11.5%となっています。平成30年との比較では、「取得した」は6.7ポイント高くなっています。

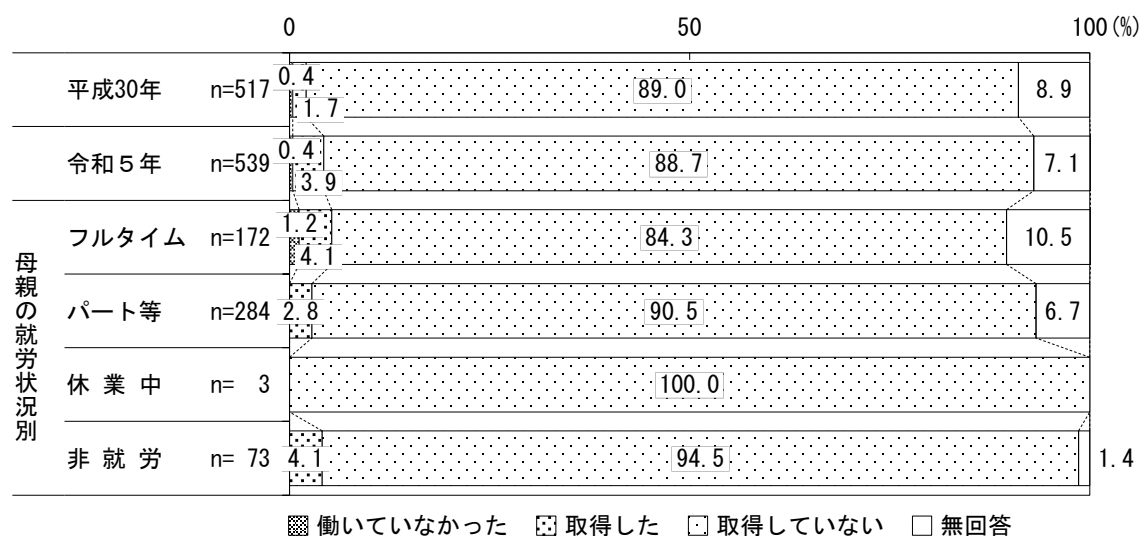
父親は、「取得していない」が88.7%を占めています。「取得した」はわずか3.9%となっているものの、平成30年との比較では2.2ポイント上昇しています。

図表2-74 育児休業の取得の有無

■ 母 親



■ 父 親



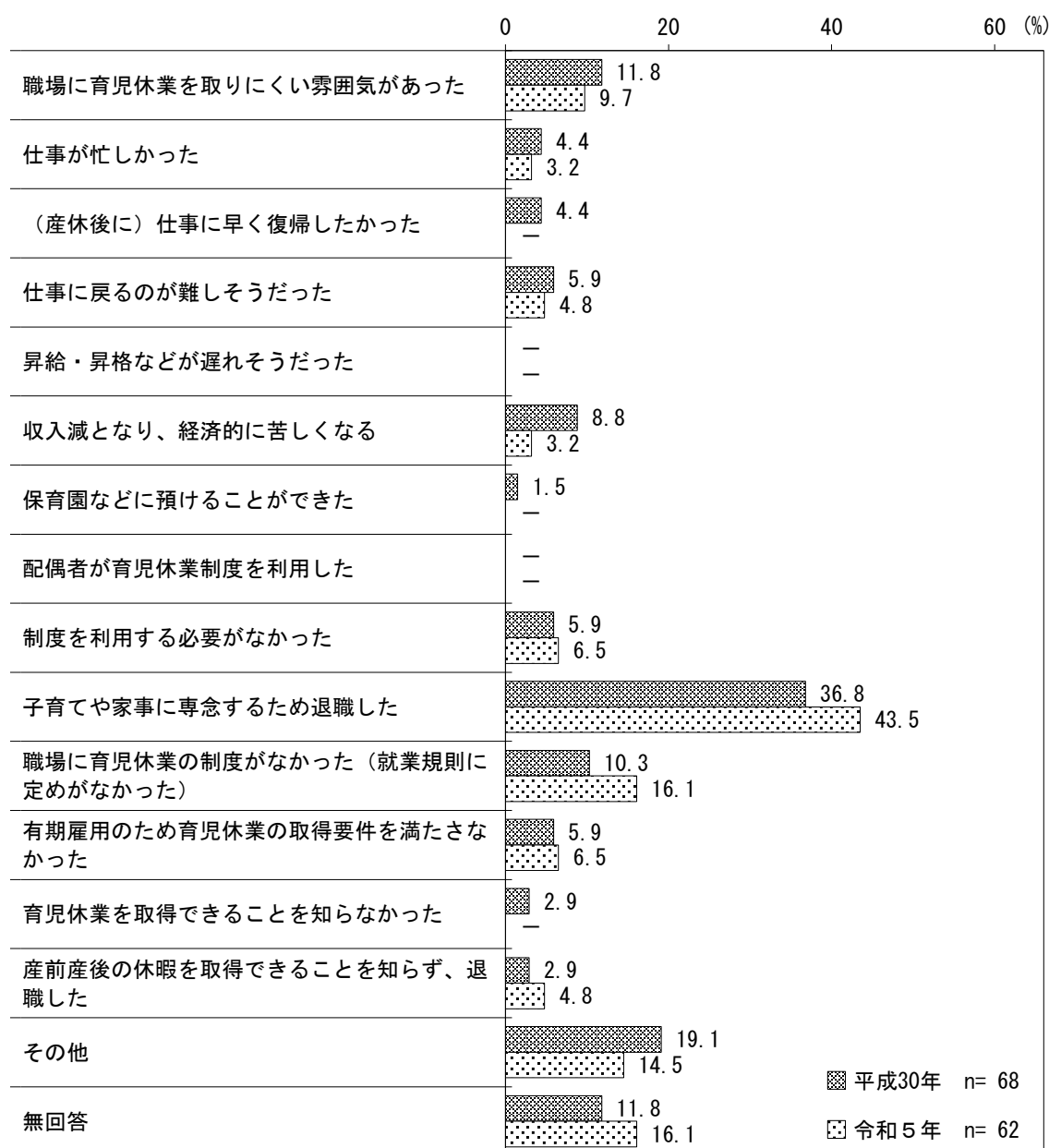
(2) 育児休業を取得していない理由

① 母 親

育児休業を「取得していない」と答えた母親にその理由をたずねたところ、「子育てや家事に専念するため退職した」が43.5%と最も高く、次いで「職場に育児休業の制度がなかった（就業規則に定めがなかった）」が16.1%などの順となっています。平成30年との比較では、「子育てや家事に専念するため退職した」および「職場に育児休業の制度がなかった（就業規則に定めがなかった）」が5ポイント以上上昇しています。

「その他」として、「自営業、フリーランスのため」（3件）などの記載がありました。

図表 2-75 育児休業を取得していない理由（母親、複数回答）

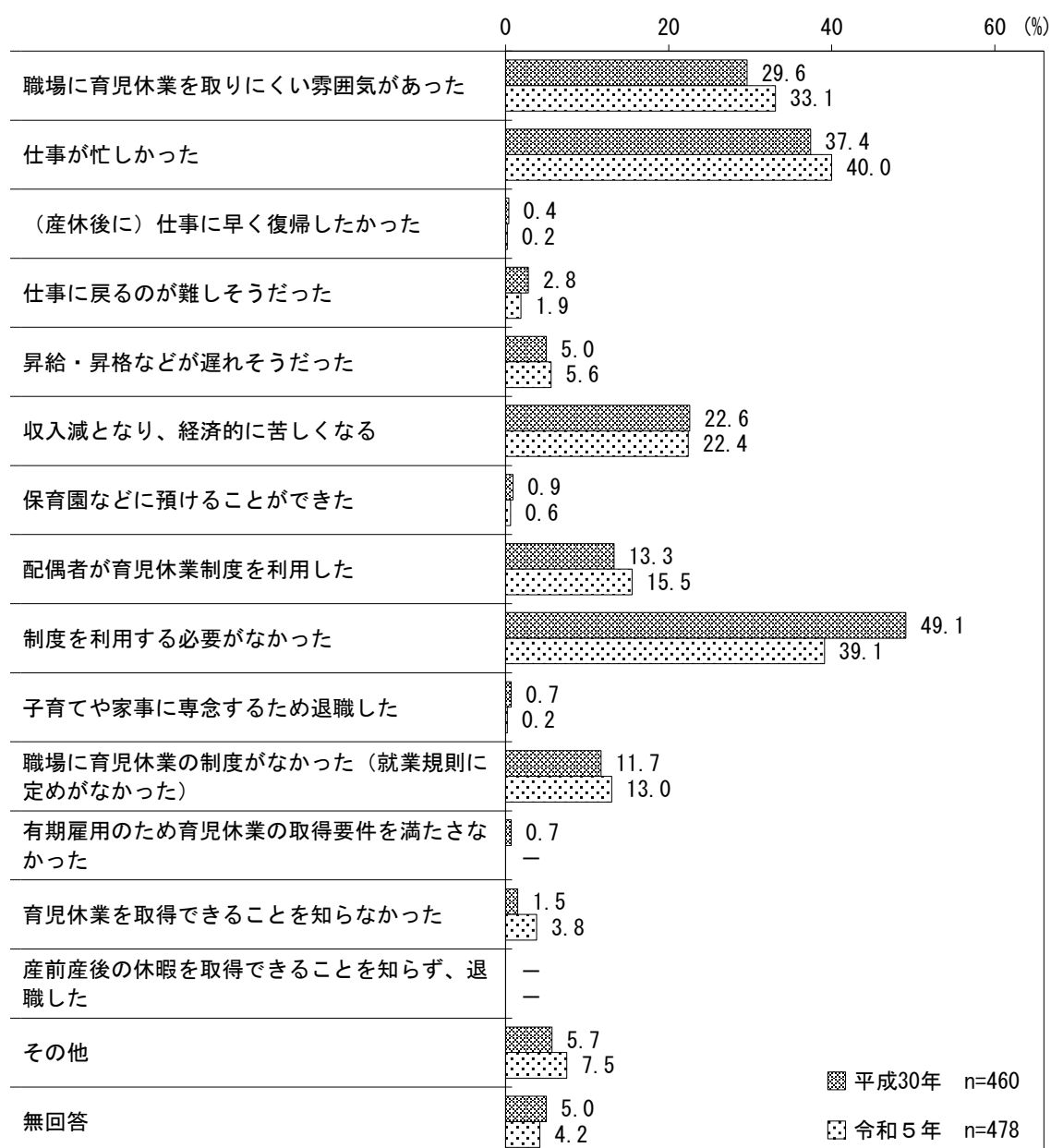


② 父 親

育児休業を「取得していない」と答えた父親にその理由をたずねたところ、「仕事が忙しかった」が40.0%と最も高く、次いで「制度を利用する必要がなかった」が39.1%、「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」が33.1%などの順となっています。平成30年との比較では、「制度を利用する必要がなかった」が10ポイント低下しています。

「その他」として、図表2-77の内容が記載されていました。

図表2-76 育児休業を取得していない理由（父親、複数回答）



図表 2-77 育児休業を取得していない理由（父親、複数回答、その他）

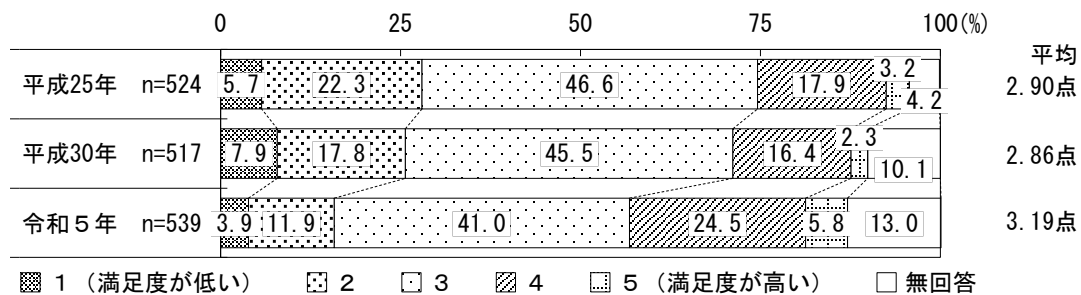
- ・ 取得するつもりがなかった（6件）
- ・ 自営業のため（4件）
- ・ 自営業なので休めない（2件）
- ・ 経営者のため（2件）
- ・ あまり必要性を感じなかった（2件）
- ・ お互い育休を取りたい、取って欲しい等、特に希望していなかった
- ・ そもそもそのような気を遣える人ではない。休んだところで寝ているだけで、とても邪魔
- ・ 取得されたら負担でしかない。取得が強制なら子どもはあきらめる
- ・ 育児休業させてもらえなかった
- ・ 公務員なのに、取得できないと言われた
- ・ 当時は育休制度が充分ではなかった。中小では難しい現実がある
- ・ 自営業のため、仕事をしながら、家事・育児に参加していた
- ・ 自宅が仕事場なので、育児と仕事を両立することができる
- ・ 当時は育休を取る人がいなかったし、母親のみで充分だと思っていた。取れるのであれば、自分の休息にもなるのでありがたい
- ・ 今ほど男性の育児休業取得が周知されておらず、取ろうと思わなかった
- ・ 取る感覚がなかった
- ・ 生まれた時が夏季長期休暇の時期で、それを利用した
- ・ 有給休暇を使いつつ、シフト制なので、働ける時に仕事に行った
- ・ 通常の有給休暇を取得
- ・ 母親が有期雇用のため、取得する必要がなかった
- ・ 配偶者が子育てのため、退職した
- ・ 一人目で母がいるから
- ・ 亡くなった母親が取得した
- ・ 母親が育児をするため
- ・ 外国での就業だったため

11 扶桑町の子育て支援

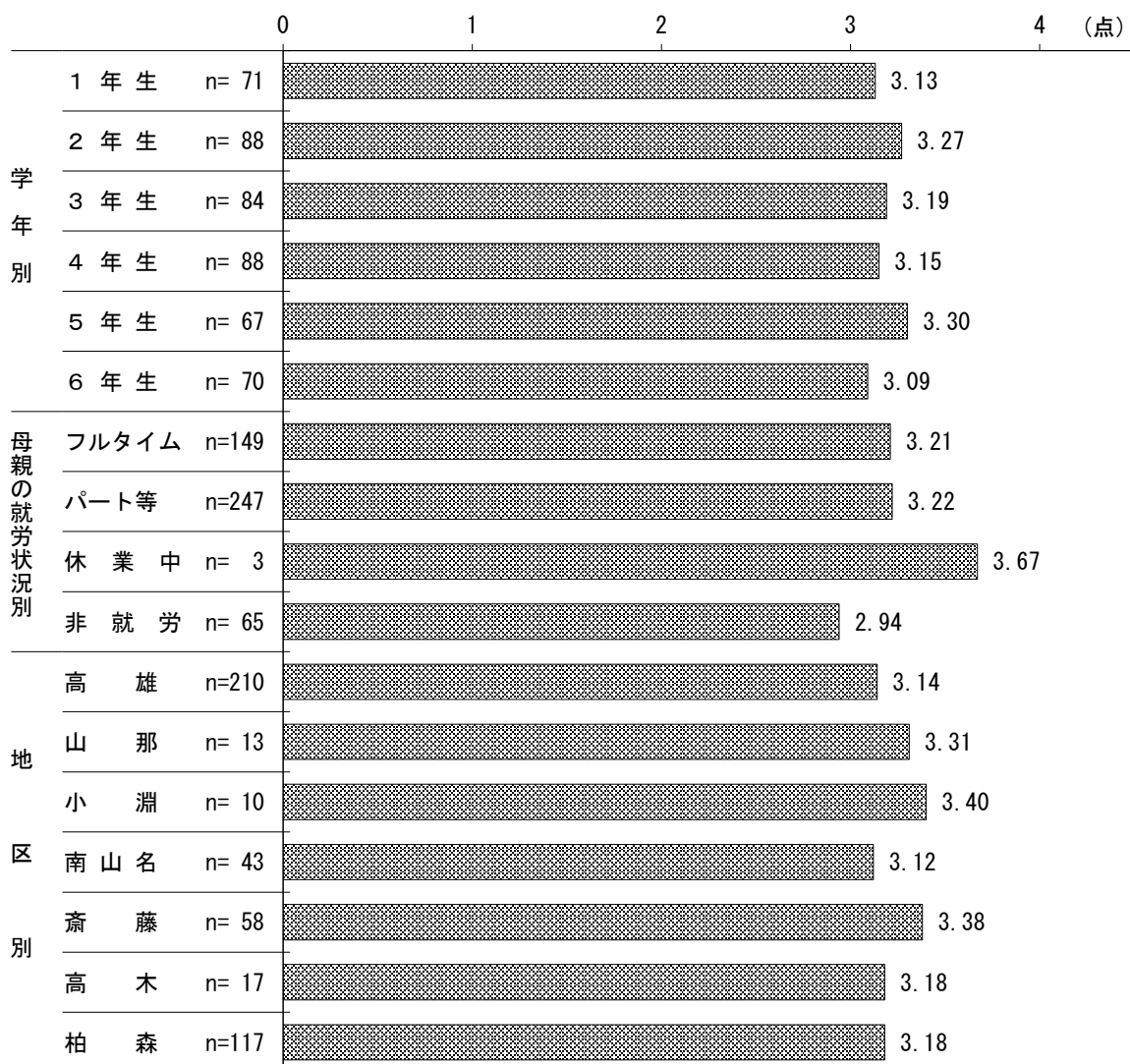
(1) 子育て環境や支援への満足度

本町における子育て環境や支援への満足度について、「満足度が高い」を5点、「満足度が低い」を1点として、何点になるかをたずねたところ、「3点」が41.0%と最も高く、平均は3.19点です。平成30年との比較では、「1～3点」が低下し、「4点以上」が上昇しており、平均は0.33点上昇しています。

図表2-78 子育て環境や支援への満足度



図表2-79 子育て環境や支援への満足度（平均点）



(2) 子育てに対して感じていること

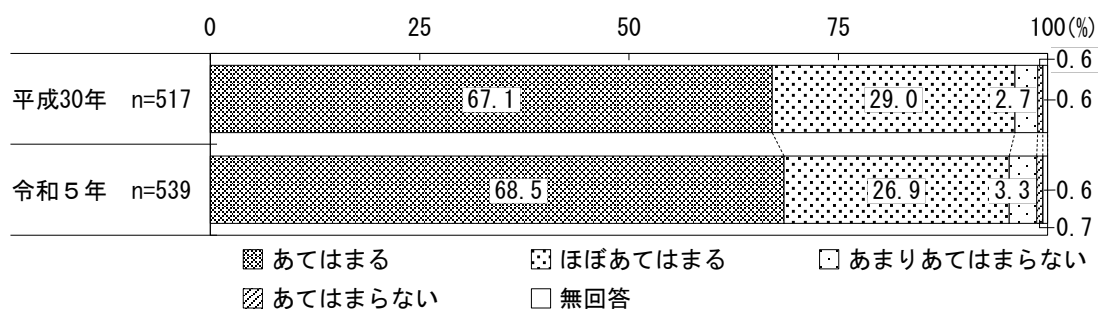
子育てに関する下記の①～⑧について、「あてはまる」「ほぼあてはまる」「あまりあてはまらない」「あてはまらない」の4つから、最もあてはまるものをたずねました。

①～③の項目について、《あてはまる》（「あてはまる」＋「ほぼあてはまる」）が90%以上を占めており、子どもの存在や子育てが人生に対してプラスに働いていると感じている人が多いことがわかります。しかし、④は①～③に比べ《あてはまる》が低く、平成30年から12.1ポイント低下しており、地域の同世代との交流が減少していることがわかります。

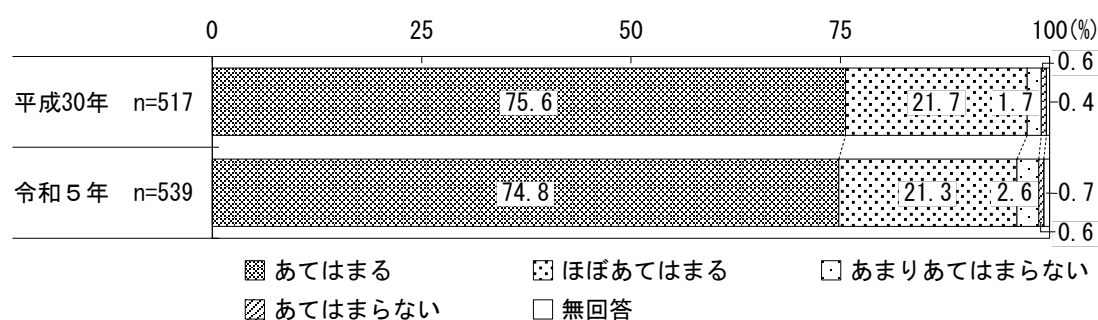
⑤～⑧のマイナス面について、就学前児童の保護者と比較すると（参照88～89頁図表1－126）、4項目とも《あてはまる》が低くなっています。平成30年との比較では、⑦は《あてはまる》が3.6ポイント上昇しています。

図表2－80 子育てに対して感じていること

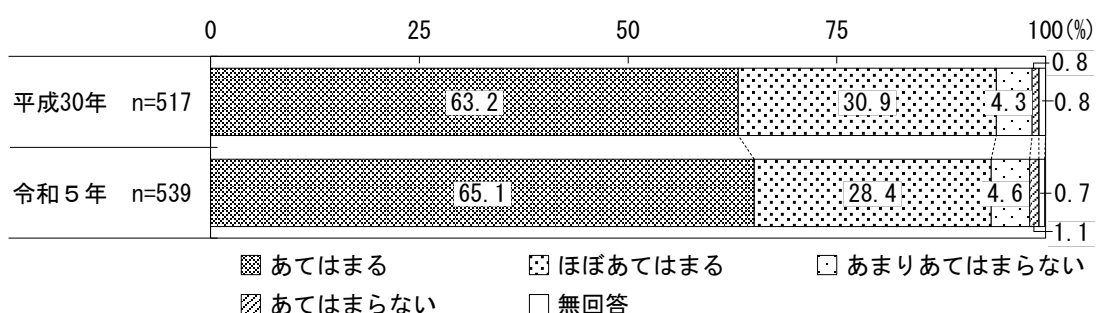
① 子どもがいると生活が楽しく豊かになる



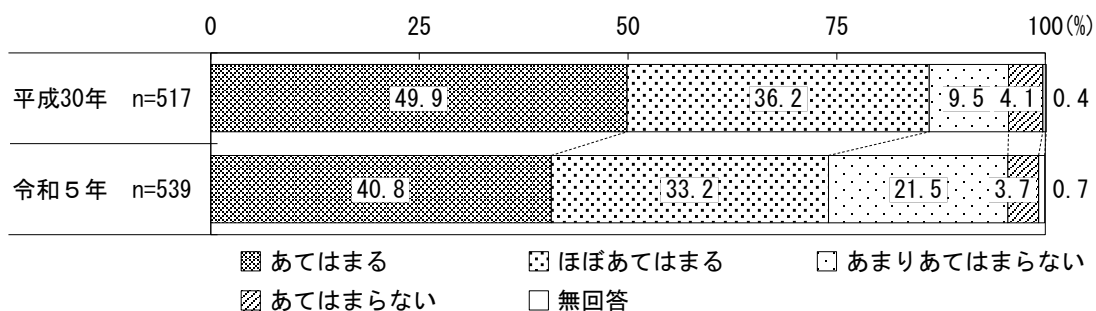
② 子育てを通じて自分も成長すると思う



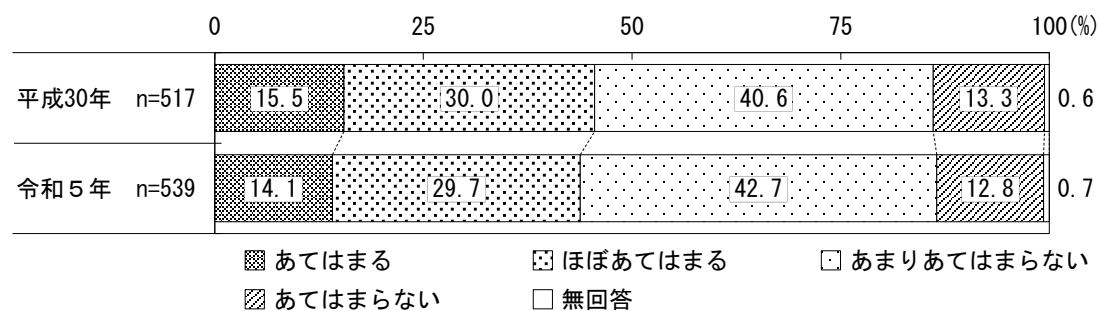
③ 子どもは心の安らぎや生きがいを与えてくれると思う



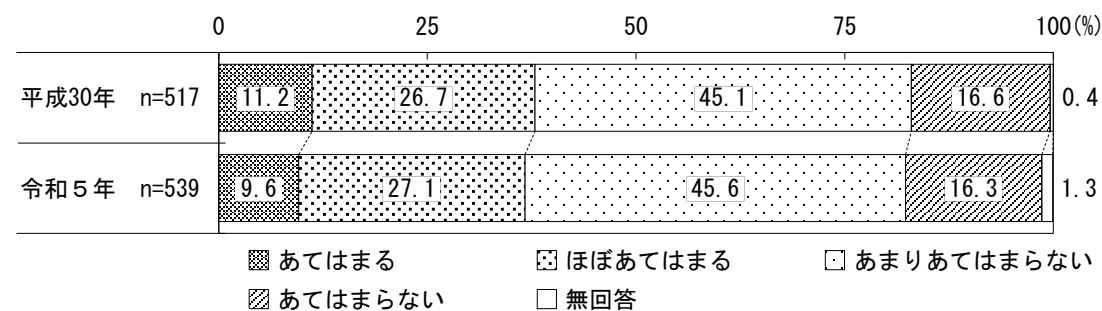
④ 同世代の友人や知人ができ、地域に溶け込むことができる



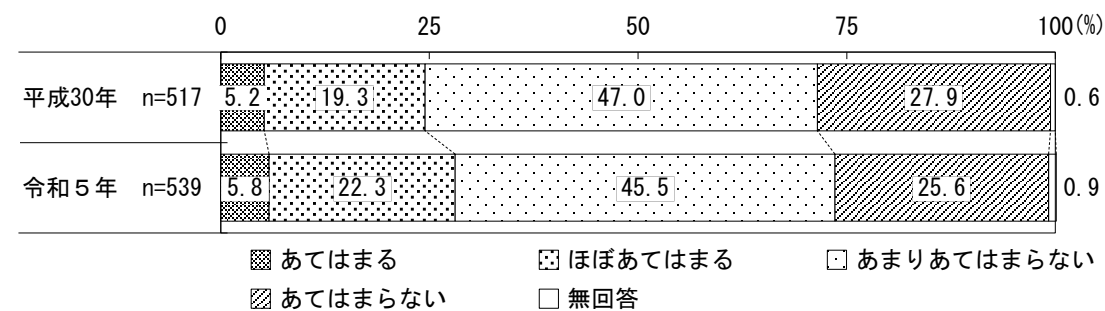
⑤ 子育てに対して不安を感じている



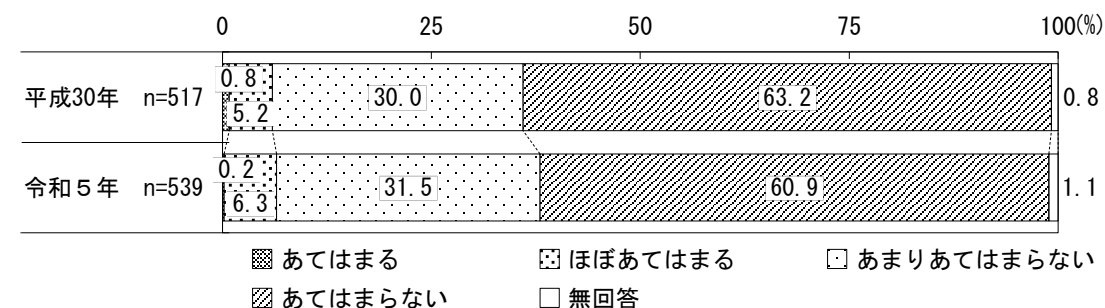
⑥ 仕事や自分のやりたいことができない



⑦ 子どもがいると生活や気持ちにゆとりがなくなる



⑧ 子どもを虐待しているのではないと思う



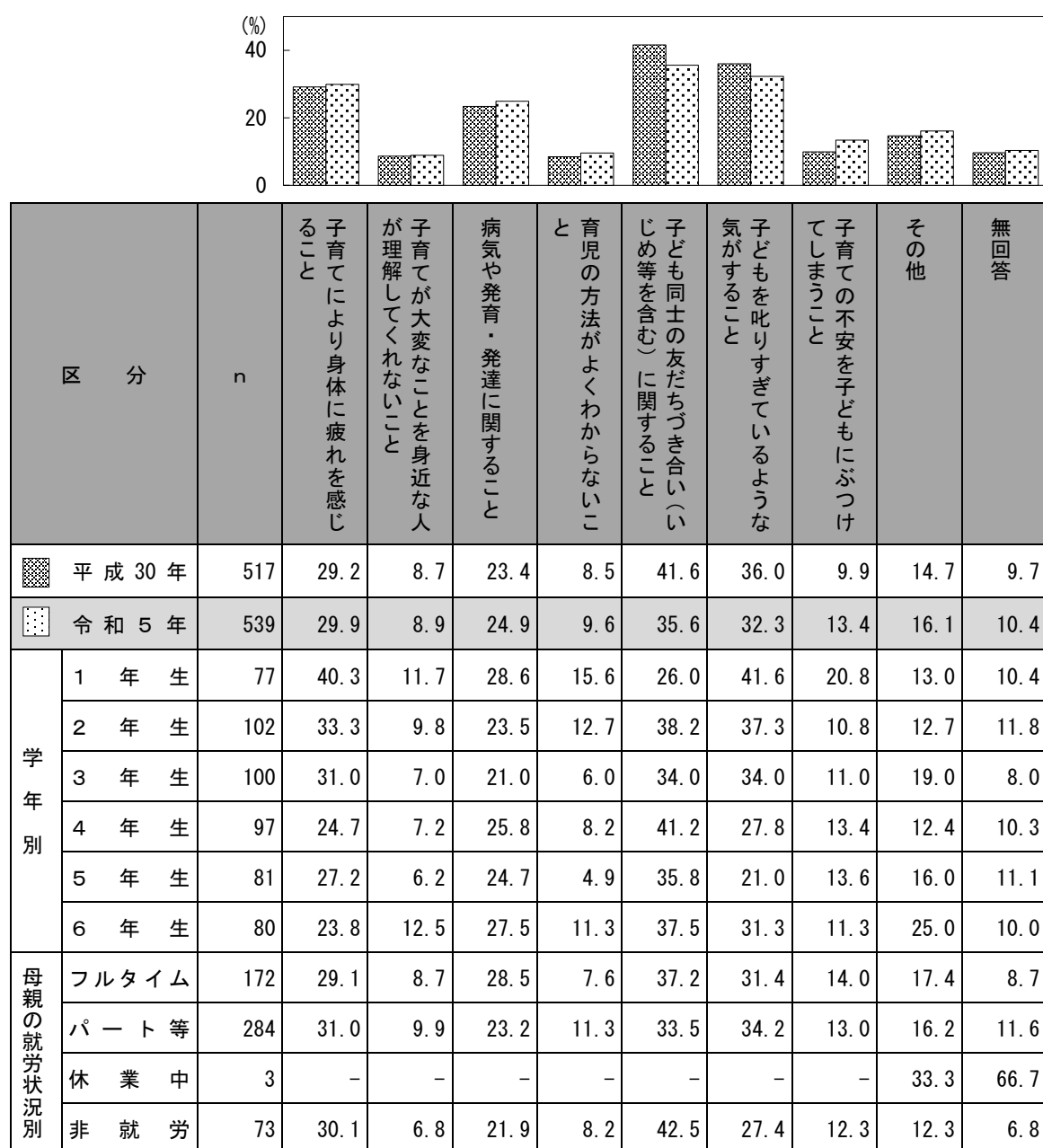
(3) 子育ての不安や悩み

子育てをする上で、特に不安に思っていることや悩んでいることとしては、「子ども同士の友だちづき合い（いじめ等を含む）に関すること」が35.6%と最も高く、次いで「子どもを叱りすぎているような気がすること」が32.3%、「子育てにより身体に疲れを感じること」が29.9%などの順となっています。平成30年との比較では、「子ども同士の友だちづき合い（いじめ等を含む）に関すること」および「子どもを叱りすぎているような気がすること」が低下しています。

「その他」として、図表2-82の内容が記載されていました。

図表2-81 子育ての不安や悩み（複数回答）

単位：nは人、他は%



図表2-82 子育ての不安や悩み（複数回答、その他）

- ・教育費（6件）
- ・教育や勉強について（3件）
- ・子育てにお金がかかること（2件）
- ・経済的な不安（2件）
- ・進路や将来のこと（2件）
- ・子育てが間違っていないか常に考えている
- ・子どもを甘やかし過ぎているのではないかと感じる
- ・子どもの性格に寄り添うこと
- ・子どもを預けすぎて、子どもと関わりが持てているか不安、心配
- ・子どもに対する助言が正しくできているか
- ・時間がない。学校の様子がよくわからない
- ・子どもがいると金銭的に生活は豊かにならないと思う。お金を今より稼ごうとすると税金を取られるので、現状維持になってしまう。この先育てていく上で、金銭的不安が大きい。子育て世代の税金や負担が軽くなれないかと思う
- ・金銭的なことも含め、進学について
- ・進学にかかる費用
- ・高校の学費を無料にしてほしい
- ・物価が高くなり、教育費が足りるか心配
- ・学費の貯蓄ができるか
- ・金銭的、経済的に非常に厳しい
- ・生活費
- ・物価高
- ・低賃金
- ・フリーランス。経済的なこと
- ・収入。貯蓄ができない
- ・親の愛情を満足に受けていなそうな子が多いこと
- ・小学校への不信感
- ・小学校の先生の教え方
- ・学校の防犯対策と通学路の交通安全がまったく確保されていない点
- ・天候が悪い時、仕事で迎えに行けないと伝えても迎えに来るように学校の先生から言われたこと。生活のために仕事をしているのに無理を言わないでほしい。本当に危険だと判断すれば話は別だが、天候が落ち着いたら子どもだけで帰宅させる等、こちらがお願いしても聞いてもらえない。生活が安定している学校の先生には理解してもらえないのかもわからないが、一人で2人の子どもを育てている私の気持ちも理解してもらいたい。収入が減ると生活できない
- ・学習の進め方（塾等に通わせるべきか）
- ・学習面や進学、習い事等、まだ経験していないことへの漠然とした不安
- ・漠然とした将来への心配
- ・子どもの将来のために、どのような勉強をさせて進路を考えればよいのか
- ・SNSの利用について
- ・スマホ・ゲーム依存、将来ちゃんと社会に出て働けるか心配
- ・子どものゲームの付き合い方、使用時間等
- ・友達を家に呼んだり家に行ったりすることがまったくなく、一人で遊んだり、ゲームをしたり、親といることばかりなので、このままでよいのか
- ・不登校
- ・母親が子育ての全てを担っている。仕事と家事・子育ての両立が難しい時があり負担を感じる
- ・仕事と家事・子育ての両立。優先順位付けは常に難しい
- ・仕事で疲れて、子どもと遊んであげる時間が少ない
- ・母親が倒れたら、子どもをみてくれるという人がいない。いざとなればみてくれる人もいないかもしれないが、普段は祖父母も父親も育児に関わっていない
- ・父親と母親で、教育方針の違い
- ・急病の時、預け先もなく、仕事を休みにくい
- ・ママ友がいなくても平気だが、いないといろいろな情報が入ってこない
- ・親の介護が必要になったときに、仕事、育児、介護が両立できるのか
- ・自分が若くないこと
- ・特にないが、自分たち親が死んだ後のこと
- ・漠然とした不安があるが、周りに相談できる人が何人かいるので、あまり心配していない
- ・小学5年生になり、大きくなってきたので、不安は減りました

(4) 子育てに関する情報の入手先

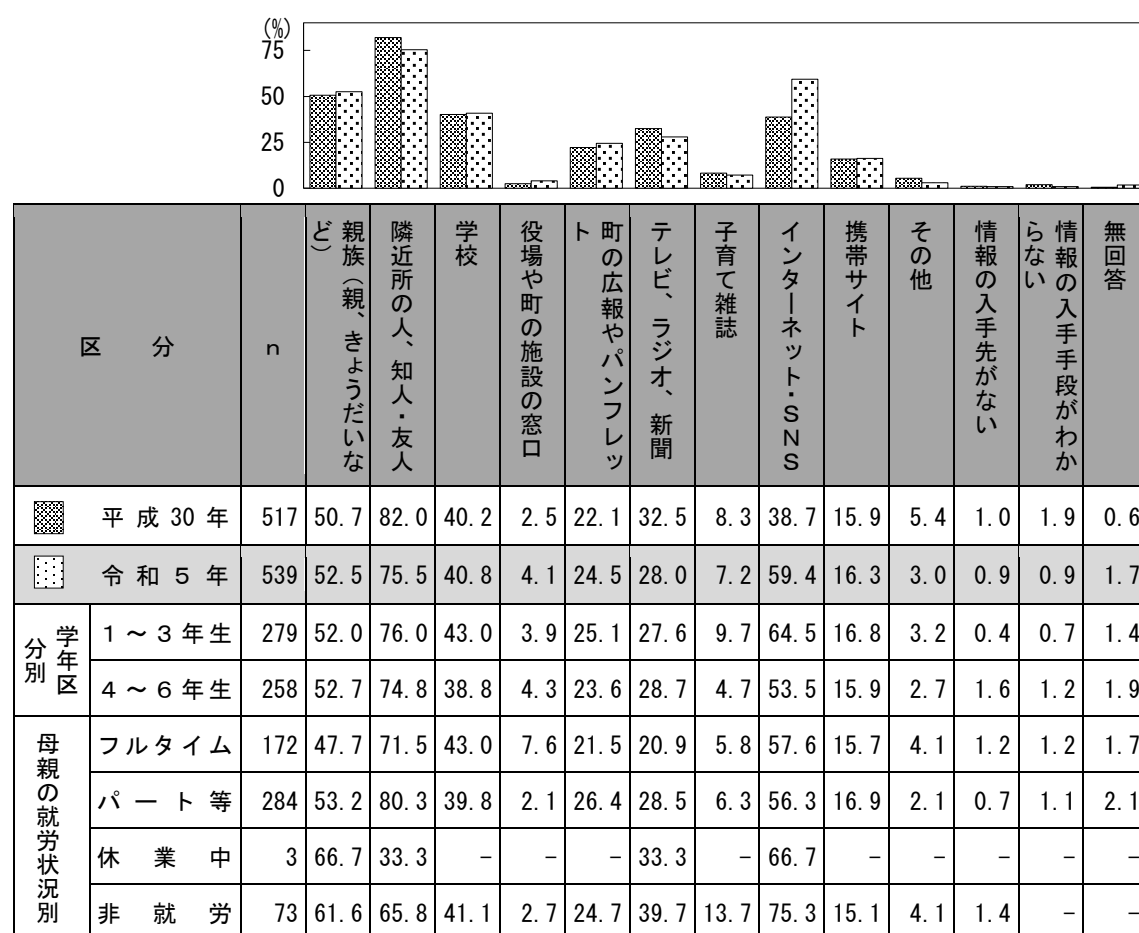
子育てに関する情報の入手先は、「隣近所の人、知人・友人」が75.5%と最も高く、次いで「インターネット・SNS」が59.4%、「親族（親、きょうだいなど）」が52.5%などの順となっています。平成30年との比較では、「インターネット・SNS」が20.7ポイント上昇しています。

学年区分別にみると、1～3年生は4～6年生に比べて「インターネット・SNS」が11ポイント高くなっています。

「その他」として、図表2-84の内容が記載されていました。

図表2-83 子育てに関する情報の入手先（複数回答）

単位：nは人、他は%



図表2-84 子育てに関する情報の入手先（複数回答、その他）

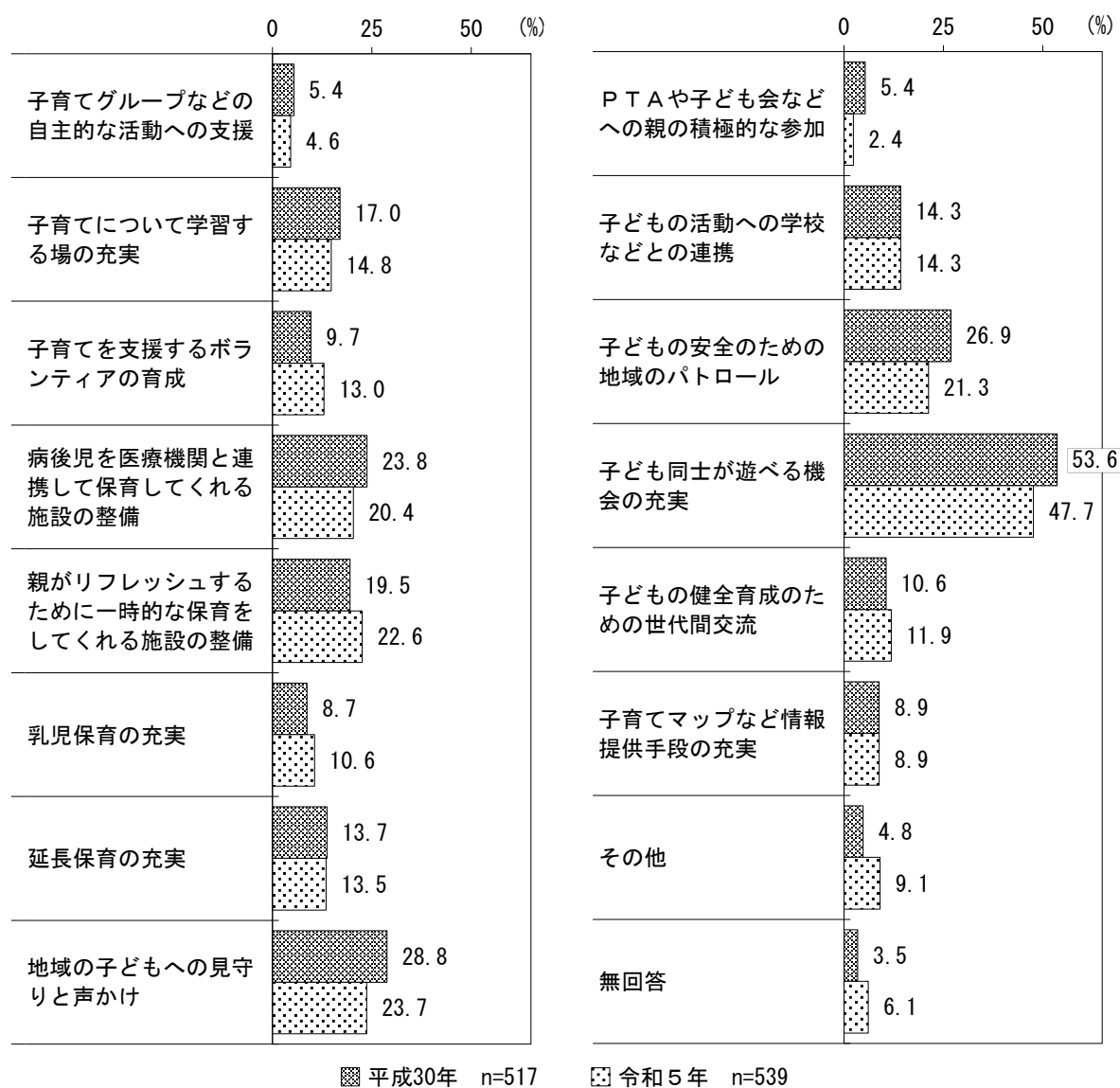
・職場（5件）	・病院
・放課後等デイサービス（3件）	・You Tube
・本（2件）	

(5) 今後必要と思われる取組

子育てについて今後必要と思われる取組をたずねたところ、「子ども同士が遊べる機会の充実」が47.7%と最も高く、次いで「地域の子どもへの見守りと声かけ」が23.7%、「親がリフレッシュするために一時的な保育をしてくれる施設の整備」が22.6%などの順となっています。平成30年との比較では、「地域の子どもへの見守りと声かけ」、「子どもの安全のための地域のパトロール」および「子ども同士が遊べる機会の充実」が5ポイント以上低下しています。

「その他」として、図表2-86の内容が記載されていました。

図表2-85 今後必要と思われる取組（3つまで）



図表 2-86 今後必要と思われる取組（3つまで、その他）

- ・PTAや子ども会等、不必要なものの廃止（3件）
- ・金銭的な支援（2件）
- ・学費や教育費の無償化（2件）
- ・わからない（2件）
- ・子育て世帯への支援
- ・子育て費用全般への不安の解消。ゆとりある生活のための支援
- ・機会格差の是正
- ・小学校への安心感
- ・学校行事の簡素化
- ・不登校の児童の居場所を充実させてほしい。校内のフリースクール希望。あいあいのみでは不足。様々な理由で通学を断念した
- ・発達障害、学習障害の教育充実、見直し
- ・放課後児童クラブの充実。祝日の預かりや、お昼ご飯の提供。利用者が多く、施設が手狭なので増やしてほしい
- ・乳児保育枠の拡大。保育園、学童の土・日曜日の受け入れ
- ・共働き家庭の中学生の子どもが安全に過ごせる場所があると助かります
- ・親族以外で、できれば行政で、安心して子どもを預けられて、仕事を辞めずに続けられる仕組みをつくってほしい
- ・夏休み、冬休み等、都度払い式の子どもの一時預かりを学校でしてほしい
- ・夏休み中の小学生の一時預かりの場の充実（単発的な仕事の際、預ける先がない）
- ・わっとさんみたいな格安の習い事（主にスポーツ）を増やしてほしい
- ・子どもが家庭以外で、安心して過ごせる環境（遊べる場所や居場所）
- ・子どもが外遊びしやすい環境の整備
- ・公園等子どもが安心して遊べる場の充実。以前住んでいた名古屋市は徒歩圏内に幅広い年齢の子がそれぞれ遊べる公園がたくさんありました
- ・明石市のような手厚い子育て世帯への金銭的支援。大学無償化
- ・教育費の支援
- ・給食費等の無償化
- ・補助金
- ・子育て世代への金銭的手当。国の話ですが、税や社会保障で給与が取られ過ぎて子育てに余裕がない
- ・もう充分だと思いますよ。ただ、違う角度からのアプローチをしないと出生率は上がらないと思いますが。一番お金がかかる中・高校生の子を持つ世代のことを考えてほしいです。私たちの世代は子育ての時一人でフォローもほぼなく、今、中学・高校でも抜け落ちている世代です。一番働き盛りの世代をおろそかにしてほしいです
- ・職場の問題。急な休み等が取りやすい環境
- ・子育てしやすい職場環境の整備。仕事の負担が増えることによる周りの人のフォロー
- ・PTAや子ども会等の役員廃止。外部委託
- ・PTA・子ども会等、地域の半強制的な仕事を減らすこと
- ・PTA等、実質強制される団体の解散
- ・体を動かすイベント。体験的なイベント。他市町村に比べてほとんどない。ゲストを招いた、将来に夢が持てるようなイベント
- ・茶話会の場
- ・児童センターへの移動手段（山名・高雄地区）
- ・保育士の人手不足解消。待遇改善
- ・子どもに関する全ての情報の入手手段を知らせる。助けを求める方法を知らせる
- ・この選択肢が的外れ

子ども・子育て支援に関するニーズ調査報告書

令和6（2024）年3月

発行◆◇扶桑町

編集◇◆扶桑町 教育部 子ども課

〒480-0102

愛知県丹羽郡扶桑町大字高雄字天道330番地

TEL 0587-92-4128

FAX 0587-93-2034